
市民アンケート調査結果報告書

平成30年8月



宮崎県串間市

目次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法	1
	(3) 配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
	(1) 数値の基本的な取り扱いについて	1
3	回答者の属性	2
	(1) 性別	2
	(2) 年齢	2
	(3) 職業	2
	(4) 就学先・勤務先	3
	(5) 居住年数	3
	(6) 居住地区	3
II	調査結果	4
1	まちへの定住意向について	4
	(1) 今後の定住意向について	4
	(2) 住みたくない主な理由について	13
2	市政に対する現状評価と今後の期待について	17
	(1) まちの各環境に関する満足度	17
	(2) まちの各環境に関する重要度	32
	(3) 満足度と重要度の相関（優先度）	46
3	あなたの日頃の行動などについて	51
	(1) 週1回以上のスポーツ活動	51
	(2) 健康増進への取り組み	55
	(3) 地域福祉活動への参加	59
	(4) 避難路・避難場所	63
	(5) 防火・防災訓練への参加	67
	(6) 地域の防犯活動等	71
	(7) 環境に配慮した生活	75
	(8) 地元の公園の維持管理	79
	(9) 市内での買物	83
4	障がい者の施策について	87
5	ICT/IoT 分野について	97
	(1) 市に望む行政サービス	97
	(2) インターネットの利用状況	98

(3) 情報関連費について.....	102
(4) テレビ視聴時間.....	112
(5) テレビ以外の情報関連機器の使用について.....	114
6 コミュニティ活動、参画・協働について	116
7 育児・介護休暇制度などについて	120
8 スポーツの振興について	122
9 串間市の景観について	126
(1) 景観に関する意識.....	126
(2) 串間市の景観形成.....	138
(3) 景観に関する取り組み.....	161
10 コミュニティバスについて	167
Ⅲ 自由意見	177
Ⅳ アンケート票	179

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、これまでの市の取り組みに対する評価や市民の日頃の行動や考えを把握することで、市の取り組みの達成度を図る指標とし、今後の市政運営の基礎資料とするために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	18歳以上の市民
配布数	2,000
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
調査時期	平成30年6月
調査地域	市内全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	2,000
全回収数	769
有効回収数	769
有効回収率	38.5%

2 本調査報告書の基本的な事項

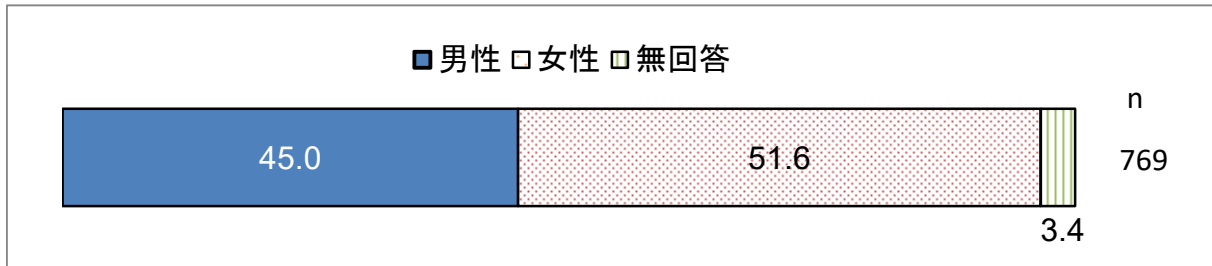
(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、従って、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④文中、グラフ中の選択肢の文言は、一部簡略化してあります。

3 回答者の属性

(1) 性別

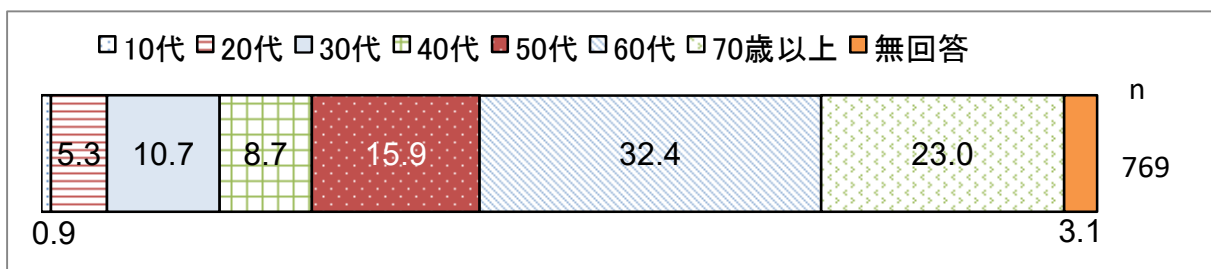
回答者の性別構成については、「男性」が45.0%「女性」が51.6%となっています。
(単位：%)



(2) 年齢

回答者の年齢構成については、「60代」が32.4%で最も多く、次いで「70歳以上」(23.0%)、「50代」(15.9%)、「30代」(10.7%)、「40代」(8.7%)、「10-20代」(6.2%)の順となっています。

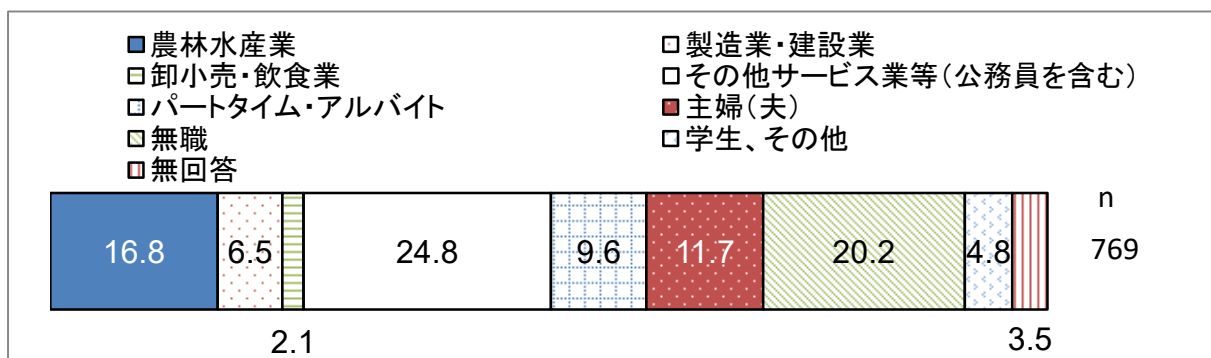
(単位：%)



(3) 職業

回答者の職業については、「その他サービス業等（公務員を含む）」が24.8%で最も多く、次いで「無職」(20.2%)、「農林水産業」(16.8%)、「主婦（夫）」(11.7%)、「パートタイム・アルバイト」(9.6%)、「製造業・建設業」(6.5%)「学生、その他」(4.8%)、「卸小売業・飲食業」(2.1%)の順となっています。

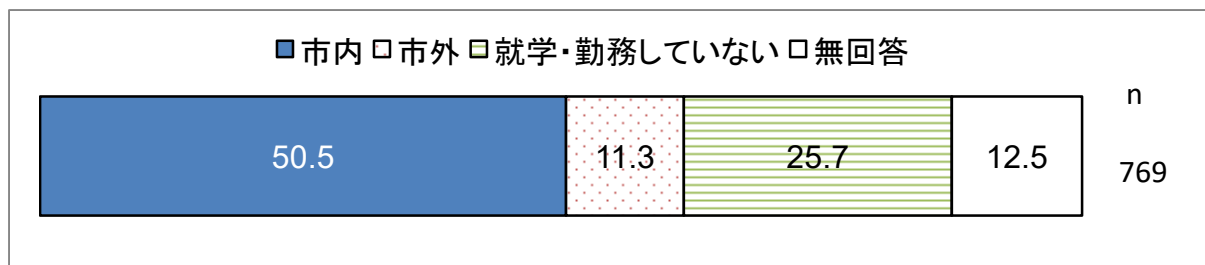
(単位：%)



(4) 就学先・勤務先

回答者の就学先・勤務先については、「市内」が50.5%で最も多く、次いで「就学・勤務していない」(25.7%)、「市外」(11.3%)の順となっています。

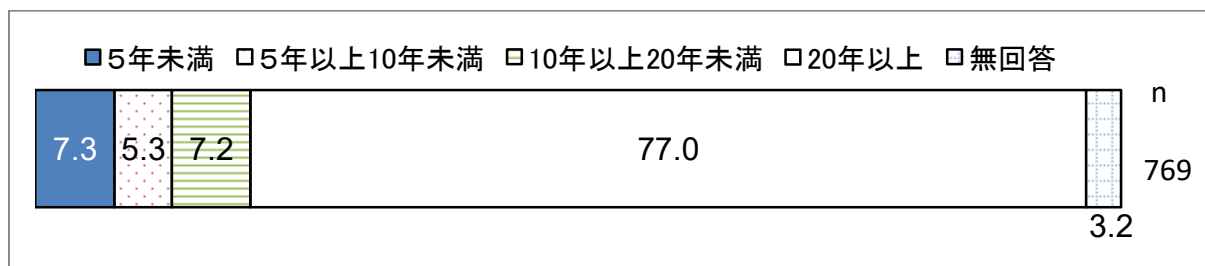
(単位：%)



(5) 居住年数

回答者の居住年数については、「20年以上」が77.0%で最も多く、次いで「5年未満」(7.3%)、「10年以上20年未満」(7.2%)、「5年以上10年未満」(5.3%)の順となっています。

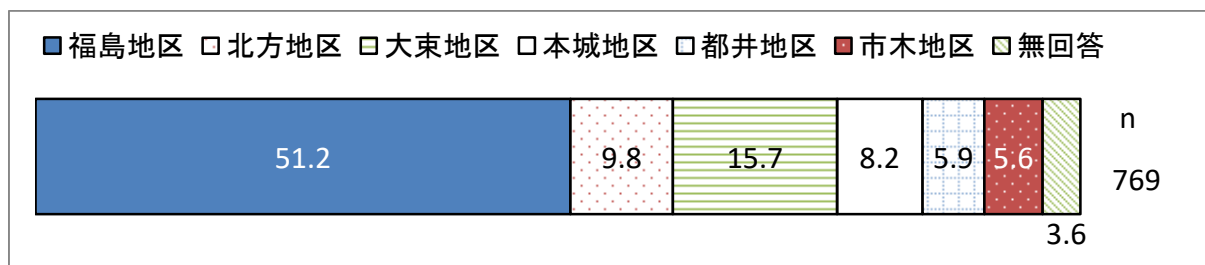
(単位：%)



(6) 居住地区

回答者の居住地区については、「福島地区」が51.2%で最も多く、「大東地区」(15.7%)、「北方地区」(9.8%)、「本城地区」(8.2%)、「都井地区」(5.9%)、「市木地区」(5.6%)の順となっています。

(単位：%)



Ⅱ 調査結果

1 まちへの定住意向について

(1) 今後の定住意向について

問2 あなたは、これからも串間市に住みたいと思いますか。

- “住みたい”が65.0%、一方、“住みたくない”が15.9%。

今後の定住意向を探るため、「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」の中から1つを選んでもらったところ、「住みたい」と答えた人が51.1%と最も多く、これに「どちらかといえば住みたい」(13.9%)をあわせた65.0%の人が“住みたい”という意向を示しています。一方、「どちらかといえば住みたくない」(10.3%)及び「住みたくない」(5.6%)と答えた“住みたくない”という人の合計は15.9%にとどまっています。なお、「どちらともいえない」は18.1%でした。

これを属性別で見ると、性別では、男女に大きな違いはありませんが、男性の「どちらともいえない」が15.6%でした。

年齢では、“住みたい”率は加齢とともに上昇する傾向がみられ、70歳以上では76.8%にのびます。なお、10-20代の“住みたい”率は45.8%と最も低くなっています。

職業では、農林水産業の“住みたい”率は72.1%と最も高くなっています。最も低くなっているのが、卸小売・飲食業の43.8%でした。

就学先・勤務先では、市内の“住みたい”率は65.7%であるのに対し、市外の“住みたい”率は54.0%でした。

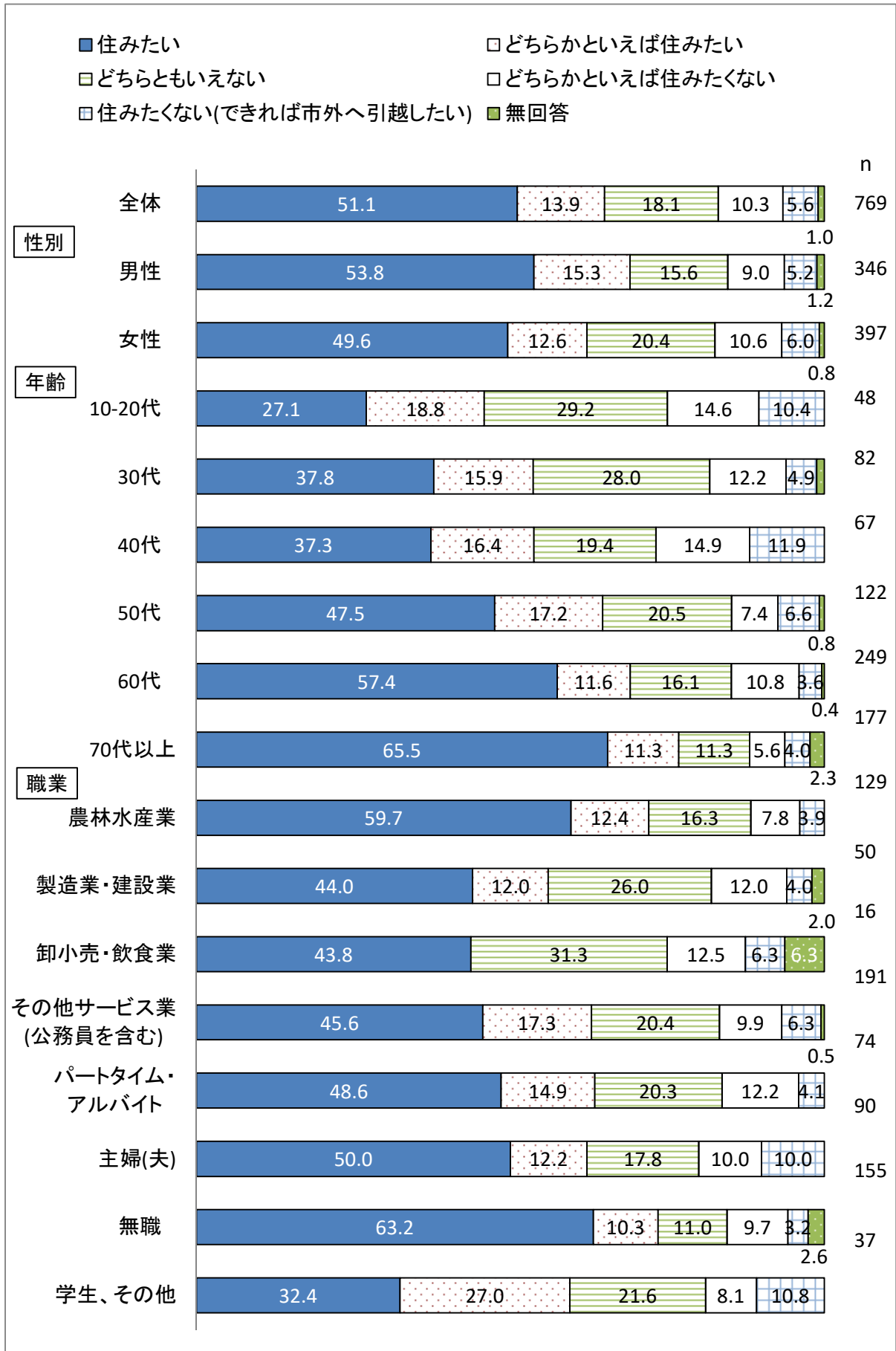
居住年数では、“住みたい”率は、20年以上(69.8%)で最も高く、5年未満(35.7%)で最も低くなっています。

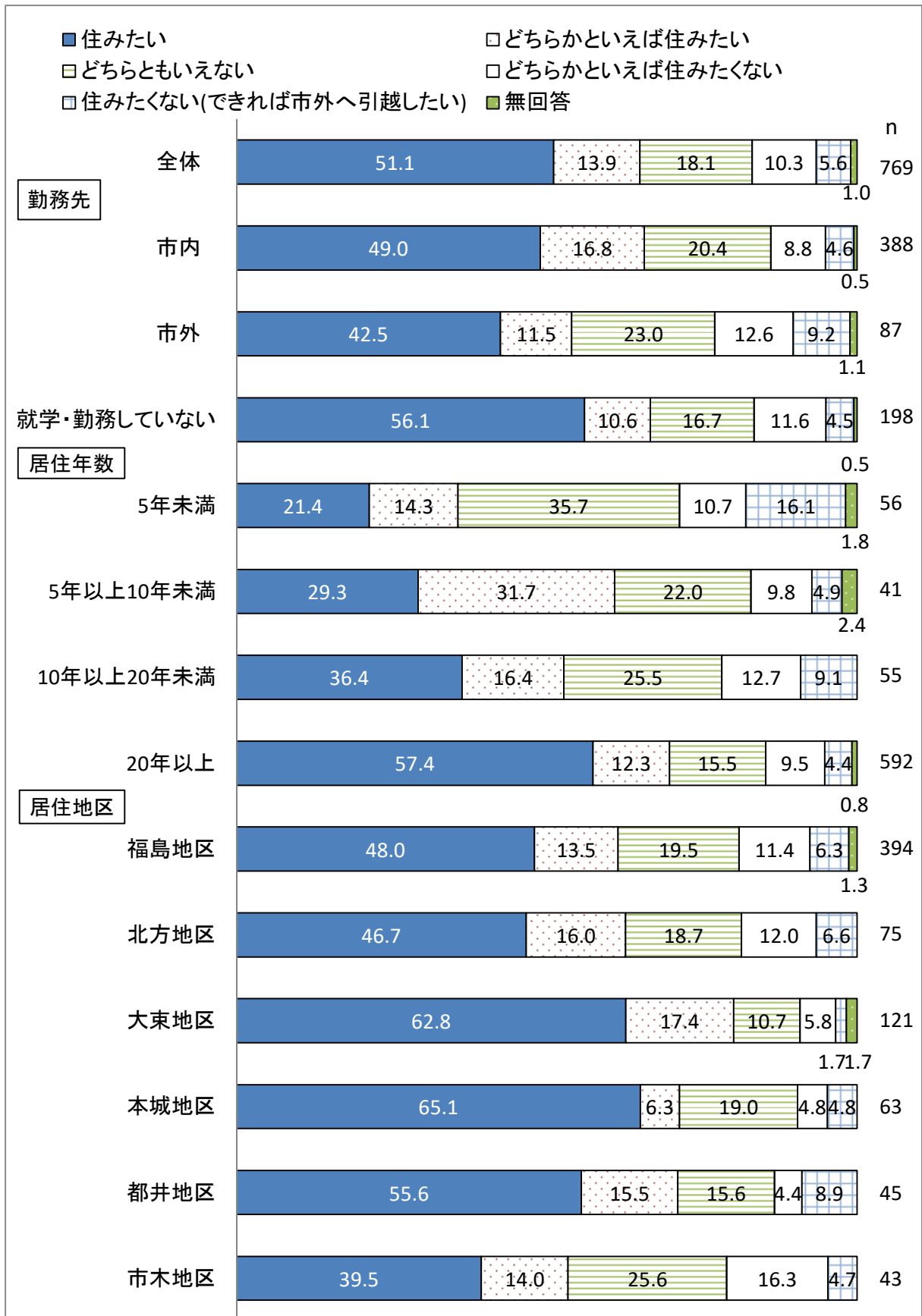
居住地区では、“住みたい”率は、大東地区(80.2%)が最も高く、市木地区(53.5%)が最も低くなっています。

[図表1参照]

図表1 今後の定住意向について

(全体・性別・年齢・職業・就学先・勤務先・居住年数・居住地区)(単位: %)





■過去の調査との比較

定住意向を「住みたい」と「どちらかといえば住みたい」をあわせた“住み続けたい”率で平成22年、24年、26年、28年と比較してみると、全体では22年から24年で0.4ポイント増加、24年から26年で4.5ポイント減少、26年から28年で5.1ポイント増加、28年から30年で4.9ポイント減少しています。

年齢では、28年から30年にかけて、全年齢で減少しています。特に10-20代は25.0ポイント減少しています。

職業では、学生・その他が28年から30年で0.3ポイント増加しましたが、他の職業は減少しています。

就学先・勤務先では、28年から30年の市内で6.4ポイント減少、市外で5.1ポイント増加しています。

居住年数では、28年から30年の5年未満で6.0ポイント増加、10年以上20年未満で11.4ポイント減少しています。

居住地区では、大東地区(9.9ポイント)、本城地区(4.8ポイント)で増加しました。一方、福島地区(10.0ポイント)、北方地区(5.2ポイント)、都井地区(15.5ポイント)、市木地区(11.6ポイント)で減少しました。[図表1-1参照]

図表1-1 今後の定住意向（平成22年、24年、26年、28年、30年）

（全体・性別・年齢・職業・就学先・勤務先・居住年数・居住地区）

（単位：％）

<全体>

	“住み続けたい”	どちらともいえない	“住み続けたくない”	無回答
H30年	65.0	18.1	15.9	1.0
H28年	69.9	13.3	14.6	2.2
H26年	64.8	17.1	16.6	1.5
H24年	69.3	15.4	12.8	2.6
H22年	68.9	14.6	13.0	3.5

<男性>

H30年	69.1	15.6	14.2	1.2
H28年	72.6	15.0	11.7	0.7
H26年	66.9	13.3	19.5	0.3
H24年	71.6	13.9	12.9	1.5
H22年	70.6	14.8	13.1	1.4

<女性>

H30年	62.2	20.4	16.6	0.8
H28年	69.6	12.1	17.7	0.7
H26年	64.8	20.7	14.0	0.5
H24年	69.5	17.4	13.1	0.0
H22年	70.1	15.1	13.6	1.2

<10-20代>

H30年	45.8	29.2	25.0	0.0
H28年	71.0	7.9	18.4	2.6
H26年	59.5	19.0	21.5	0.0
H24年	46.7	22.2	31.1	0.0
H22年	50.0	18.0	32.0	0.0

<30代>

H30年	53.7	28.0	17.1	1.2
H28年	56.9	20.7	22.4	0.0
H26年	47.0	24.7	28.2	0.0
H24年	57.8	21.9	20.4	0.0
H22年	58.5	20.8	20.8	0.0

<40代>

H30年	53.7	19.4	26.8	0.0
H28年	60.5	17.1	22.3	0.0
H26年	56.5	21.7	21.7	0.0
H24年	61.2	22.4	16.5	0.0
H22年	62.8	17.9	17.9	1.3

<50代>

H30年	64.7	20.5	14.0	0.8
H28年	67.3	16.4	16.4	0.0
H26年	68.5	16.8	14.1	0.7
H24年	72.5	16.0	11.5	0.0
H22年	67.8	20.5	10.9	0.7

<60代>

H30年	69.0	16.1	14.4	0.4
H28年	75.4	12.6	11.0	1.0
H26年	62.0	19.3	17.6	1.1
H24年	71.5	14.5	12.9	1.1
H22年	80.5	9.0	9.7	0.7

<70歳以上>

H30年	76.8	11.3	9.6	2.3
H28年	80.0	8.5	10.0	1.5
H26年	79.9	10.8	9.3	0.0
H24年	83.6	9.1	5.4	1.8
H22年	78.6	10.4	7.8	3.2

<農林水産業>

H30年	72.1	16.3	11.7	0.0
H28年	82.6	10.9	6.5	0.0
H26年	79.6	11.5	7.1	1.8
H24年	74.8	15.3	9.0	0.9
H22年	77.0	13.0	9.0	1.0

<製造業・建設業>

H30年	56.0	26.0	16.0	2.0
H28年	68.4	15.8	13.1	2.6
H26年	66.1	15.3	18.7	0.0
H24年	65.2	25.6	9.3	0.0
H22年	60.8	23.2	16.0	0.0

<卸小売・飲食業>

H30年	43.8	31.3	18.8	6.3
H28年	83.3	16.7	0.0	0.0
H26年	77.8	11.1	11.1	0.0
H24年	81.5	11.1	7.4	0.0
H22年	60.0	24.0	16.0	0.0

<その他サービス業等（公務員を含む）>

H30年	62.9	20.4	16.2	0.5
H28年	65.1	14.6	19.7	0.6
H26年	58.6	23.9	17.6	0.0
H24年	65.5	14.9	18.9	0.7
H22年	65.3	14.6	20.2	0.0

<パートタイム・アルバイト>

H30年	63.5	20.3	16.3	0.0
H28年	68.3	12.7	19.0	0.0
H26年	53.9	23.1	23.1	0.0
H24年	67.8	20.3	11.9	0.0
H22年	68.5	20.4	11.2	0.0

<主婦（夫）>

H30年	62.2	17.8	20.0	0.0
H28年	67.1	11.9	20.9	0.0
H26年	67.1	19.7	11.9	1.3
H24年	65.3	20.0	14.7	0.0
H22年	70.9	16.5	12.7	0.0

<無職>

H30年	73.5	11.0	12.9	2.6
H28年	74.2	12.9	10.6	2.3
H26年	68.0	11.8	20.2	0.0
H24年	82.7	7.7	8.3	1.3
H22年	80.1	8.1	8.8	2.9

<学生、その他>

H30年	59.4	21.6	18.9	0.0
H28年	59.1	18.2	22.7	0.0
H26年	53.8	26.9	19.2	0.0
H24年	30.4	39.1	30.4	0.0
H22年	50.0	25.0	25.0	0.0

<市内>

H30年	65.8	20.4	13.4	0.5
H28年	72.2	13.0	14.1	0.6
H26年	63.5	19.4	16.9	0.3
H24年	69.3	18.8	11.9	0.0
H22年	69.1	16.9	13.4	0.6

<市外>

H30年	54.0	23.0	21.8	1.1
H28年	48.9	26.7	24.4	0.0
H26年	62.3	20.0	17.7	0.0
H24年	56.8	12.2	28.4	2.7
H22年	56.6	20.0	23.4	0.0

<就学・勤務していない>

H30年	66.7	16.7	16.1	0.5
H28年	74.1	11.4	13.2	1.2
H26年	70.2	13.9	14.9	1.0
H24年	75.6	14.2	9.6	0.5
H22年	77.2	12.2	9.4	1.1

< 5年未満 >

H30年	35.7	35.7	26.8	1.8
H28年	29.7	24.3	43.2	2.7
H26年	36.5	28.8	34.6	0.0
H24年	43.5	27.4	29.0	0.0
H22年	37.0	32.6	30.4	0.0

< 5年以上 10年未満 >

H30年	61.0	22.0	14.7	2.4
H28年	61.5	15.4	20.6	2.6
H26年	51.3	16.2	29.7	2.7
H24年	67.9	14.3	14.3	3.6
H22年	66.7	21.4	11.9	0.0

< 10年以上 20年未満 >

H30年	52.8	25.5	21.8	0.0
H28年	64.2	14.3	21.4	0.0
H26年	50.7	21.1	28.2	0.0
H24年	50.0	31.5	18.4	0.0
H22年	61.3	16.1	22.6	0.0

< 20年以上 >

H30年	69.7	15.5	13.9	0.8
H28年	75.8	12.2	11.4	0.6
H26年	71.2	15.9	12.5	0.4
H24年	78.6	11.0	9.5	0.9
H22年	75.6	12.4	10.7	1.3

< 福島地区 >

H30年	61.5	19.5	17.7	1.3
H28年	71.5	13.8	14.4	0.3
H26年	66.3	17.5	15.6	0.5
H24年	69.8	15.0	14.7	0.5
H22年	71.8	14.1	13.5	0.6

< 北方地区 >

H30年	62.7	18.7	18.6	0.0
H28年	67.9	13.2	16.9	1.9
H26年	76.5	12.3	11.1	0.0
H24年	75.5	12.2	12.2	0.0
H22年	69.0	16.9	14.1	0.0

<大東地区>

H30年	80.2	10.7	7.5	1.7
H28年	70.3	13.9	15.8	0.0
H26年	69.7	16.5	13.8	0.0
H24年	75.8	16.5	7.8	0.0
H22年	64.7	17.0	14.8	3.4

<本城地区>

H30年	71.4	19.0	9.6	0.0
H28年	66.6	15.4	12.9	5.1
H26年	57.9	18.4	22.4	1.3
H24年	70.3	17.2	9.4	3.1
H22年	82.7	12.1	3.4	1.7

<都井地区>

H30年	71.2	15.5	13.3	0.0
H28年	86.7	6.7	3.3	3.3
H26年	65.9	18.2	15.9	0.0
H24年	77.5	6.5	16.1	0.0
H22年	75.0	13.9	11.2	0.0

<市木地区>

H30年	53.5	25.6	21.0	0.0
H28年	65.1	14.0	20.9	0.0
H26年	44.4	25.0	30.6	0.0
H24年	57.6	30.3	12.1	0.0
H22年	58.3	16.7	22.3	2.8

(2) 住みたくない主な理由について

※問2で「4.」または「5.」に○をつけた方にうかがいます。
問2付問 その主な理由はなんですか。【複数回答：3つまで】



- 「道路・交通の便が悪い」(44.3%)が第1位、次いで「税・公共料金(上下水道料、施設使用料など)の負担が大きい」(40.2%)の順。

問2で“住み続けたくない”と回答した15.9%(122人)の人にその理由をたずねたところ、「道路・交通の便が悪い」(44.3%)が第1位、次いで「税・公共料金(上下水道料、施設使用料など)の負担が大きい」(40.2%)、「働く場が不十分」(32.8%)、「買物の便が悪い」(31.1%)、「保健・医療環境が不十分」(29.5%)、「産業の活力が不十分」(16.4%)などの順となっています。前回と比較すると、前回4位の「保健・医療環境が不十分」が第5位になり、前回第5位の「買物の便が悪い」が第4位に入れ替わっています。

性別でみると、男性は第1位が「税・公共料金(上下水道料、施設使用料など)の負担が大きい」、第2位が「働く場が不十分」、第3位が同率で「道路・交通の便が悪い」「保健・医療環境が不十分」となっています。女性は「道路・交通の便が悪い」、「税・公共料金(上下水道料、施設使用料など)の負担が大きい」、「買物の便が悪い」の順となっています。

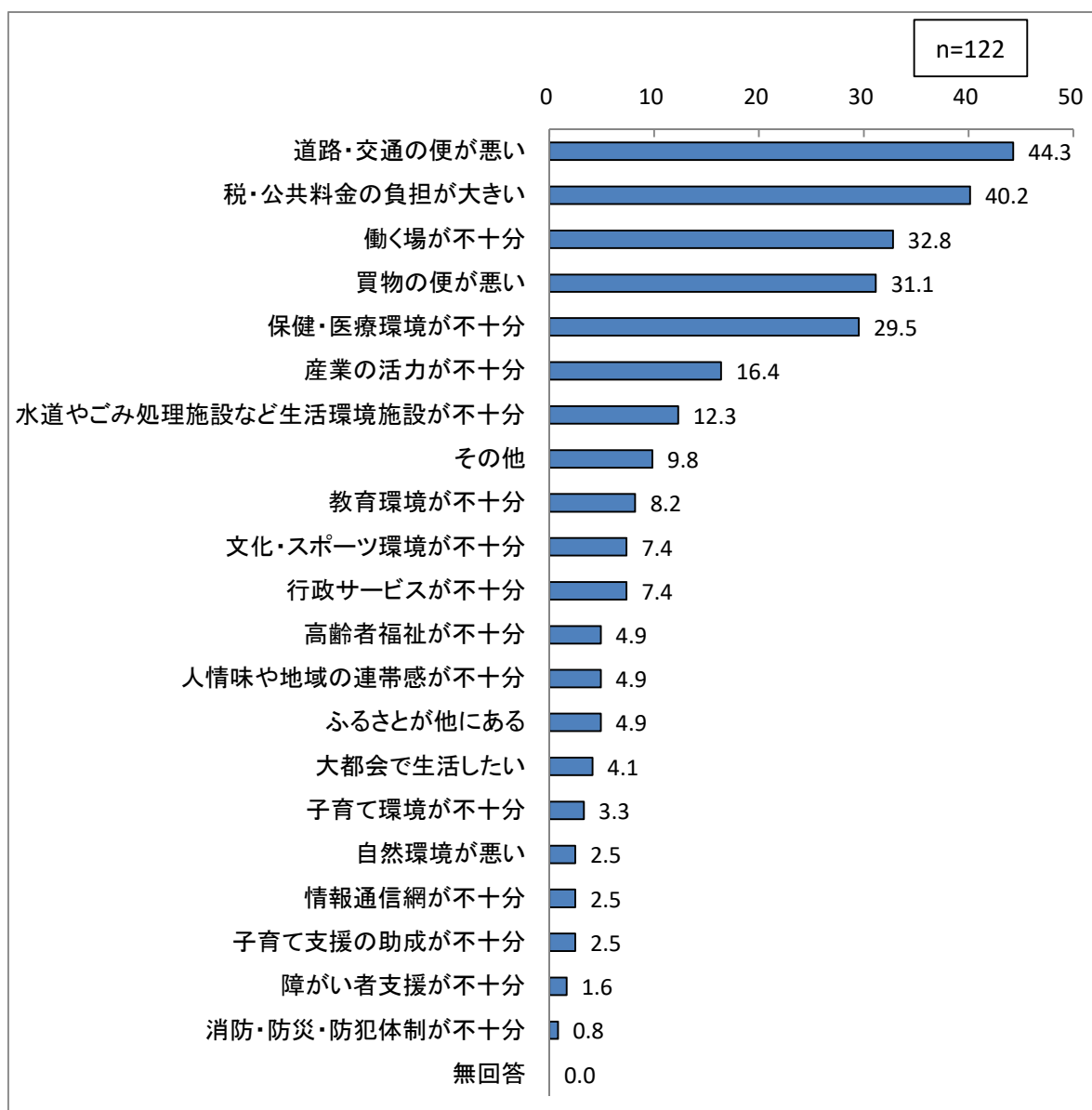
年齢でみると、10-20代、30代では「働く場が不十分」が第1位でした。30代は「買物の便が悪い」も同率で第1位でした。40代以上では60代の「税・公共料金(上下水道料、施設使用料など)の負担が大きい」以外は、「道路・交通の便が悪い」が第1位になっています。

平成28年と比較すると、10-20代と30代では、「働く場が不十分」の順位が上がっています。40代以上では、「道路・交通の便が悪い」が前回と同様、上位に入っています。[図表2～2-1参照]

図表2 住みたくない主な理由について

(全体／複数回答：3つまで)

(単位：%)



図表2-1 住みたくない主な理由について（全体・性別・年齢／複数回答：3つまで）
（上位3位、単位：％）

		第1位	第2位	第3位	
全体	H30	道路・交通の便が悪い	税・公共料金の負担大	働く場が不十分	
		44.3	40.2	32.8	
	H28	道路・交通の便が悪い	税・公共料金の負担大	働く場が不十分	
		46.2	33	28.6	
	H26	税・公共料金の負担大	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い	
47.1		38	30.6		
H24	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い	保健・医療環境が不十分		
H22	道路・交通の便が悪い	働く場が不十分	買物の便が悪い		
性別	男性	H30	税・公共料金の負担大	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い/保健・医療環境が不十分
			40.8	38.8	36.7
		H28	道路・交通の便が悪い	働く場が不十分/税・公共料金の負担大	
			41.7		33.3
		H26	税・公共料金の負担大	働く場が不十分	産業の活力が不十分/保健・医療環境が不十分
	46.2		43.1	29.2	
	H24	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い	産業の活力が不十分	
	H22	働く場が不十分/道路・交通の便が悪い		産業の活力が不十分	
	女性	H30	道路・交通の便が悪い	税・公共料金の負担大	買物の便が悪い
			48.5	39.4	33.3
H28		道路・交通の便が悪い	税・公共料金の負担大	保健・医療環境が不十分/買物の便が悪い	
		48.1	33.3	27.8	
H26		税・公共料金の負担大	道路・交通の便が悪い	買物の便が悪い	
	46.3	38.9	33.3		
H24	道路・交通の便が悪い	保健・医療環境が不十分	買物の便が悪い		
H22	道路・交通の便が悪い	働く場が不十分	買物の便が悪い		
年齢	10-20代	H30	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い	買物の便が悪い
			66.7	50.0	25.0
		H28	買物の便が悪い	道路・交通の便が悪い/産業の活力が不十分	
			85.7		42.9
		H26	道路・交通の便が悪い/買物の便が悪い		働く場が不十分
			66.6	55.5	
	H24	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い	買物の便が悪い	
	H22	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い/子育て・教育環境が不十分		
	30代	H30	買物の便が悪い/働く場が不十分		保健・医療環境が不十分
				50	42.9
H28		道路・交通の便が悪い	買物の便が悪い	保健・医療環境が不十分/子育て環境が不十分/働く場が不十分/大都会で生活したい	
		46.2	30.8	23.1	
H26		税・公共料金の負担大/働く場が不十分		保健・医療環境が不十分	
		41.7	37.5		
H24	保健・医療環境が不十分	子育て・教育環境が不十分	道路・交通の便が悪い		
H22	道路・交通の便が悪い	買物の便が悪い	働く場が不十分		
		72.7	45.5	36.4	

年齢	40代	H30	道路・交通の便が悪い	保健・医療環境が不十分/買物の便が悪い/働く場が不十分/税・公共料金の負担大		
			38.9	33.3		
		H28	道路・交通の便が悪い	働く場が不十分	情報通信網が不十分/教育環境が不十分	
			52.9	29.4	23.5	
		H26	税・公共料金の負担大/働く場が不十分/買物の便が悪い			50
	H24	働く場が不十分	保健・医療環境が不十分	道路・交通の便が悪い		
		63.6	36.4	27.3		
	H22	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い	情報通信網が不十分/保健・医療環境が不十分		
		64.3	42.9	28.6		
	50代	H30	道路・交通の便が悪い	働く場が不十分	保健・医療環境が不十分/税・公共料金の負担大	
			52.9	47.1	41.2	
		H28	税・公共料金の負担大	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い/産業の活力が不十分	
			50	40	25	
		H26	税・公共料金の負担大	働く場が不十分	保健・医療環境が不十分	
		52.4	38.1	33.3		
	H24	道路・交通の便が悪い	働く場が不十分	産業の活力が不十分		
		46.7	40	33.3		
	H22	働く場が不十分	道路・交通の便が悪い	保健・医療環境が不十分/産業の活力が不十分/買物の便が悪い/ふるさとは他にある		
		50	37.5	25		
	60代	H30	税・公共料金の負担大	道路・交通の便が悪い	産業の活力が不十分	
			55.6	47.2	27.8	
H28		道路・交通の便が悪い	税・公共料金の負担大	保健・医療環境が不十分/働く場が不十分		
		57.1	42.9	28.6		
H26		税・公共料金の負担大	働く場が不十分	産業の活力が不十分		
	48.5	36.4	33.3			
H24	働く場が不十分	産業の活力が不十分/道路・交通の便が悪い				
	39.1	30.4				
H22	働く場が不十分/道路・交通の便が悪い		保健・医療環境が不十分/産業の活力が不十分			
	46.2		30.8			
70歳以上	H30	道路・交通の便が悪い	買物の便が悪い/税・公共料金の負担大			
		52.9	41.2			
	H28	道路・交通の便が悪い	税・公共料金の負担大	保健・医療環境が不十分		
		53.8	46.2	38.5		
	H26	税・公共料金の負担大	道路・交通の便が悪い	保健・医療環境が不十分		
	50	44.4	38.9			
H24	道路・交通の便が悪い	買物の便が悪い/保健・医療環境が不十分				
	55.6	44.4				
H22	道路・交通の便が悪い	買物の便が悪い	保健・医療環境が不十分/産業の活力が不十分			
	58.3	50	33.3			

2 市政に対する現状評価と今後の期待について

(1) まちの各環境に関する満足度

問3 市では下記にあげる様々な施策に取り組んでいますが、あなたは、(1)現状についてどの程度満足していますか。



- 満足度が最も高い項目は「上水道の状況」。次いで「保健サービス提供体制」、「ごみ処理・リサイクル等の状況」の順。
- 満足度が最も低い項目は「観光振興の状況」。次いで「道路の整備状況」、「医療体制」の順。

本市の各環境に関する市民の評価について、満足度をたずねた54の設問項目の傾向を、“満足”（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の合計）、“不満”（「どちらかといえば不満である」及び「不満である」の合計）にまとめ、その比率でみていくと、“満足”と回答した率は、「上水道の状況」（46.9%）が最も高く、次いで「保健サービス提供体制」（45.6%）、「ごみ処理・リサイクル等の状況」（41.0%）、「消防・救急体制」（40.8%）、「し尿処理の状況」（35.2%）などの順となっています。一方、“不満”と回答した率は、「観光振興の状況」（43.0%）が最も高く、「道路の整備状況」（40.2%）、「医療体制」（37.1%）、「商業振興の状況」（36.8%）、「工業振興の状況」（35.8%）などの順となっています。

平成28年と比較すると、“満足”では「スポーツ環境」が約4ポイント上がり第7位へ、「公園・緑地の整備状況」が約5ポイント上がり第8位へと順位を上げました。“不満”は前回第2位の「商業振興の状況」が第4位に、前回第4位の「道路整備の状況」が第2位になっています。また、平成24年で“不満”の第10位だった「新エネルギー導入の状況」は平成26年、28年、30年で不満度を大きく下げています。[図表3～3-1参照]

さらに、加重平均値[後述参照]による評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）による分析を行いました。

この結果、評価点の最も高い項目は「上水道の状況」（2.75点）となっており、次いで第2位が「保健サービス提供体制」（2.12点）、第3位が「消防・救急体制」（2.03点）と続き、以下、「し尿処理の状況」（1.77点）、「墓地・火葬場の状況」（1.70点）などの順となっています。一方、評価点の低い方からみると、「観光振興の状況」（-2.74点）が最も低く、次いで第2位が「工業振興の状況」（-2.40点）、第3位が「商業振興の状況」（-2.39点）と続き、以下、「雇用対策の状況」（-2.01点）、「公共交通機関の状況」（-1.81点）などとなっており、評価がプラスの項目は30（26→30）項目、マイナスの項目は24（28→24）項目となっており、満足を示す項目が増加しています。

平成28年と比較すると、H28年はマイナス評価であった「学校教育環境」、「文化芸術環境」「公園・緑地の整備状況」「コミュニティ活動の状況」がプラス評価へと改善しています。[図表4参照]

※加重平均値の算出方法※

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかとい} \\ \text{えば満足している」、「どちら} \\ \text{ともいえない」、「どちらかとい} \\ \text{えば不満である」、「不満であ} \\ \text{る」の回答者数} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表3 まちの各環境に関する満足度（全体）

（単位：％）

区分	項目	平成22年調査		平成24年調査		平成26年調査		平成28年調査		平成30年調査	
		満足	不満	満足	不満	満足	不満	満足	不満	満足	不満
1 人権・ 文化 分野	①人権尊重のまちづくり状況	14.6	13.0	18.8	13.1	22.1	13.1	21.5	11.2	19.0	11.3
	②男女共同参画の状況	17.3	16.0	20.8	12.7	21.2	16.7	23.1	13.1	21.5	12.4
	③学校教育環境	22.9	21.3	23.8	23.6	21.9	25.2	21.5	23.9	25.9	23.8
	④青少年の健全育成環境	19.1	14.1	20.9	17.6	21.4	16.9	22.4	12.2	21.6	13.3
	⑤生涯学習環境	25.1	13.8	27.3	13.3	29.2	15.3	26.4	14.3	29.3	12.1
	⑥スポーツ環境	⑧ 30.3	17.9	⑦ 33.4	18.8	⑦ 32.1	19.3	29.2	18.9	⑦ 33.4	16.9
	⑦文化芸術環境	20.5	17.0	22.0	18.8	21.9	18.5	15.2	17.3	20.3	15.1
	⑧文化遺産の保存・活用の状況	21.7	12.5	22.0	12.8	21.3	16.2	19.7	14.9	19.1	14.0
	⑨国内外との交流活動	14.8	12.2	17.2	12.3	14.2	16.4	12.7	16.0	12.9	14.8
2 保健・ 福祉 医療 分野	①保健サービス提供体制	② 45.3	14.8	② 46.4	17.8	② 47.4	15.5	① 50.0	13.1	② 45.6	13.3
	②医療体制	25.4	⑥ 33.4	29.4	⑥ 34.3	26.3	⑤ 40.4	27.9	④ 37.2	25.7	③ 37.1
	③子育て支援体制	19.2	17.3	23.5	15.2	21.3	18.9	⑧ 30.4	14.7	26.3	15.7
	④障害者支援体制	19.6	14.9	25.0	14.6	21.6	17.1	22.0	11.7	20.9	12.7
	⑤高齢者支援体制	29.1	17.4	⑩ 31.6	17.8	⑧ 30.2	19.7	⑥ 31.7	15.1	27.8	16.8
	⑥地域福祉体制	16.1	13.1	19.7	15.8	19.5	16.4	21.2	13.1	18.1	12.1
	⑦バリアフリー化の状況	14.9	19.8	18.2	24.2	18.3	25.8	20.2	23.7	18.1	21.7
3 生活 環境 分野	①防災体制	23.2	18.7	18.8	30.1	20.6	28.4	21.6	25.5	23.9	22.6
	②消防・救急体制	⑤ 39.8	10.2	⑥ 40.4	15.1	⑥ 38.6	13.6	③ 41.7	12.0	④ 40.8	10.1
	③交通安全体制	⑦ 31.0	10.8	⑨ 31.9	14.8	27.9	13.9	30.1	11.7	⑨ 30.9	10.7
	④防犯体制	28.1	12.2	27.0	16.6	25.1	17.2	⑨ 30.3	11.7	24.4	13.3
	⑤消費者対策の状況	12.2	13.2	14.8	16.7	13.9	15.2	16.3	10.7	14.7	10.8
	⑥環境保全の状況	18.7	15.9	22.3	16.0	22.3	15.0	20.5	14.4	21.3	13.4
	⑦新エネルギー導入の状況	9.0	23.7	9.3	⑩ 30.6	17.4	18.5	17.5	12.2	20.2	10.9
	⑧景観の状況	17.8	22.5	22.3	28.8	21.3	29.0	19.9	⑧ 28.0	16.5	⑧ 28.1
	⑨公園・緑地の整備状況	24.9	26.5	27.6	⑨ 30.7	28.7	⑨ 30.7	26.1	⑦ 28.4	⑧ 31.3	⑩ 24.3
	⑩親水空間の整備状況	16.8	⑧ 27.8	19.0	27.1	19.0	⑦ 31.2	20.4	26.4	20.4	⑨ 25.0
	⑪緑化の推進状況	⑨ 29.7	13.7	28.9	17.5	26.9	15.6	28.7	14.4	27.0	15.3
	⑫ごみ処理・リサイクル等の状況	① 50.8	10.3	① 55.0	12.2	① 51.7	13.8	④ 39.1	23.4	③ 41.0	22.1
	⑬し尿処理の状況	⑥ 37.4	7.5	④ 41.6	7.5	④ 40.7	8.8	⑦ 31.6	10.7	⑤ 35.2	9.4
	⑭生活排水処理の状況	23.1	19.8	28.9	19.4	⑨ 30.0	17.5	26.1	16.3	27.4	15.2
⑮上水道の状況	③ 42.7	10.0	③ 45.3	10.1	③ 46.2	10.5	② 44.1	7.9	① 46.9	7.8	
⑯墓地・火葬場の整備状況	④ 41.4	5.7	⑤ 41.1	7.1	⑤ 39.4	8.0	⑤ 34.3	7.5	⑥ 35.0	9.5	
4 生活 基盤 ・ 産業 分野	①土地利用の状況	9.2	16.1	10.7	20.3	11.8	19.8	10.6	18.3	10.4	19.5
	②道路の整備状況	19.1	⑤ 34.6	20.8	⑤ 40.2	22.8	⑥ 37.9	17.5	④ 37.2	17.7	② 40.2
	③住宅施設の状況	10.8	14.0	16.4	16.4	16.3	17.7	13.8	15.1	14.3	14.6
	④公共交通機関の状況	19.6	25.9	21.8	⑧ 30.9	20.7	⑩ 29.1	18.3	⑧ 28.0	13.7	⑥ 35.4
	⑤情報環境	10.9	15.5	13.3	18.7	10.0	18.9	11.7	21.8	16.0	17.9
	⑥雇用対策の状況	2.9	① 46.8	4.4	① 46.4	5.2	④ 40.5	7.1	③ 37.5	6.4	⑦ 34.1
	⑦農業振興の状況	7.3	⑦ 28.1	9.2	⑦ 31.8	10.3	⑧ 31.1	10.7	⑩ 27.2	10.8	22.5
	⑧林業振興の状況	6.7	21.6	7.2	21.5	7.6	21.9	10.3	15.9	9.8	20.3
	⑨水産業振興の状況	5.5	21.4	8.4	19.1	8.1	21.3	10.3	19.4	9.1	18.1
	⑩工業振興の状況	1.6	③ 43.0	3.5	③ 44.0	2.7	① 41.7	5.9	⑥ 35.7	4.9	⑤ 35.8
	⑪商業振興の状況	3.5	④ 37.4	3.6	④ 43.4	5.0	② 41.5	6.9	② 38.1	5.6	④ 36.8
⑫観光振興の状況	5.1	② 43.5	9.9	② 44.3	9.1	③ 41.1	8.3	① 43.1	8.1	① 43.0	
5 市民 参画 分野	①NPO、市民活動の育成等の状況	8.4	10.2	14.0	12.8	9.4	14.1	9.8	10.9	10.3	9.9
	②コミュニティ活動の状況	12.9	8.7	16.0	11.1	13.0	14.4	13.0	14.4	13.3	9.4
	③行財政改革に関する取り組みの状況	5.2	⑩ 26.7	7.7	27.7	7.2	28.1	7.9	24.5	8.7	22.0
	④広域的な連携によるまちづくりの状況	6.1	27.5	9.5	27.3	9.4	27.7	8.3	26.8	8.1	23.5
	⑤広報・公聴の状況	⑩ 29.2	11.3	⑧ 32.2	14.0	⑩ 29.8	13.5	⑨ 30.3	12.0	⑩ 30.8	12.7
	⑥行政情報の提供の状況	16.8	17.5	19.7	20.5	17.4	20.4	19.6	17.3	19.1	15.0
6 男女 共同 分野	①男女共同参画の意識の浸透状況	—	—	12.8	14.3	10.7	13.9	12.0	15.4	10.0	11.8
	②男女共同参画に関する教育の推進状況	—	—	11.9	12.7	9.4	13.6	9.9	15.1	9.1	11.7
	③配偶者暴力等に関する相談体制の状況	—	—	7.4	11.0	8.1	12.1	8.8	10.3	7.9	7.8
	④地域活動における男女共同参画の促進状況	—	—	15.1	10.7	15.5	11.7	13.5	13.0	12.6	9.5

※丸数字は全体の中での順位を示す

図表3-1 まちの各環境に関する満足度（全体）

（上位10項目）

	H30	H28		H26	H24	H22
第1位	上水道の状況	保健サービス提供体制		ごみ処理・リサイクル等の状況	ごみ処理・リサイクル等の状況	ごみ処理・リサイクル等の状況
第2位	保健サービス提供体制	上水道の状況		保健サービス提供体制	保健サービス提供体制	保健サービス提供体制
第3位	ごみ処理・リサイクル等の状況	消防・救急体制		上水道の状況	上水道の状況	上水道の状況
第4位	消防・救急体制	ごみ処理・リサイクル等の状況		し尿処理の状況	し尿処理の状況	墓地・火葬場の整備状況
第5位	し尿処理の状況	墓地・火葬場の整備状況		墓地・火葬場の整備状況	墓地・火葬場の整備状況	消防・救急体制
第6位	墓地・火葬場の整備状況	高齢者支援体制		消防・救急体制	消防・救急体制	し尿処理の状況
第7位	スポーツ環境	し尿処理の状況		スポーツ環境	スポーツ環境	交通安全体制
第8位	公園・緑地の整備状況	子育て支援体制		高齢者支援体制	広報・広聴の状況	スポーツ環境
第9位	交通安全体制	防犯体制	広報・広聴の状況	生活排水処理の状況	交通安全体制	緑化の推進状況
第10位	広報・広聴の状況			広報・広聴の状況	高齢者支援体制	広報・広聴の状況

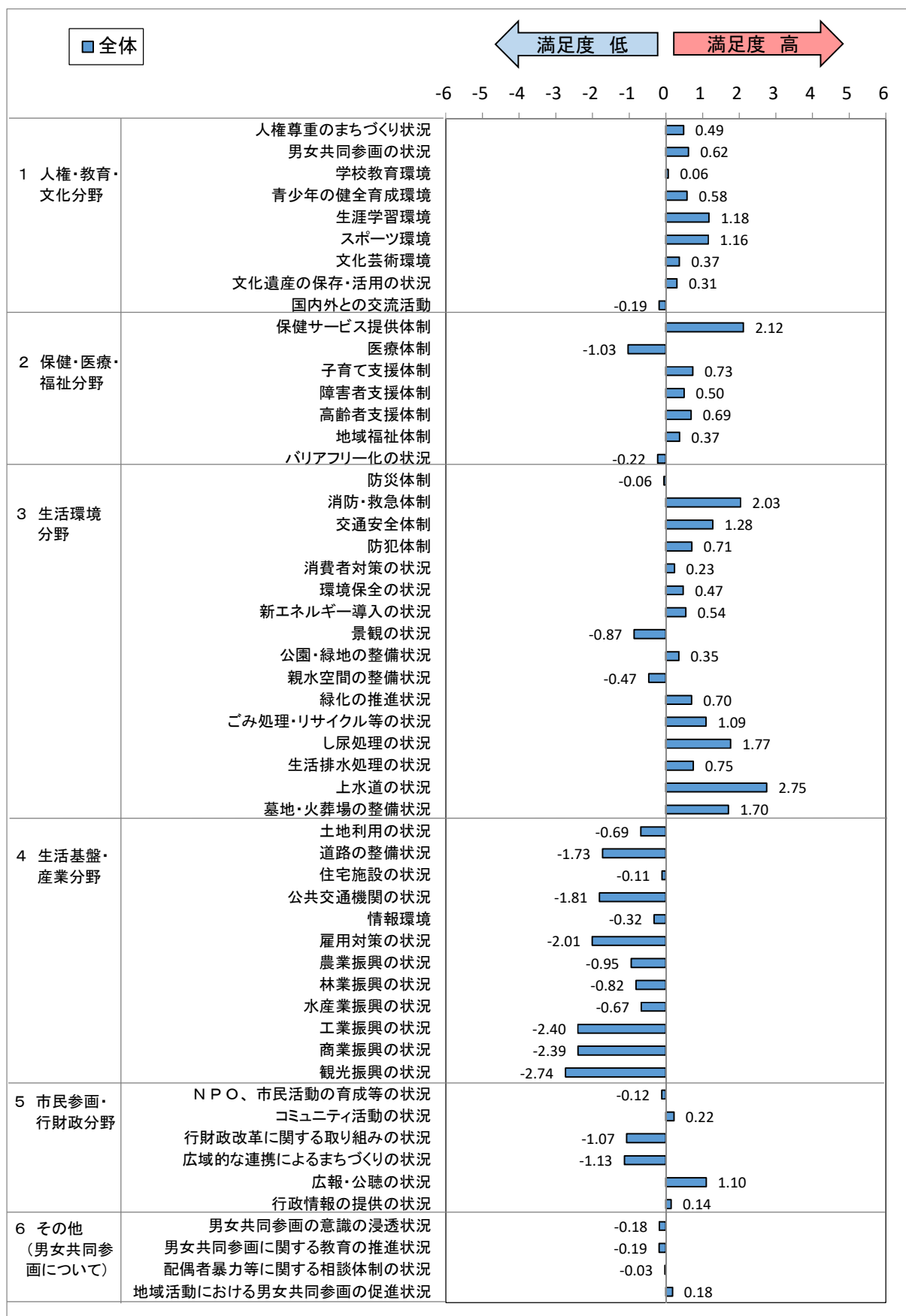
（下位10項目）

	H30	H28		H26	H24	H22
第1位	観光振興の状況	観光振興の状況		工業振興の状況	雇用対策の状況	雇用対策の状況
第2位	道路の整備状況	商業振興の状況		商業振興の状況	観光振興の状況	観光振興の状況
第3位	医療体制	雇用対策の状況		観光振興の状況	工業振興の状況	工業振興の状況
第4位	商業振興の状況	医療体制	道路の整備状況	雇用対策の状況	商業振興の状況	商業振興の状況
第5位	工業振興の状況			医療体制	道路の整備状況	道路の整備状況
第6位	公共交通機関の状況	工業振興の状況		道路の整備状況	医療体制	医療体制
第7位	雇用対策の状況	公園・緑地の整備状況		親水空間の整備状況	農業振興の状況	農業振興の状況
第8位	景観の状況	景観の状況		農業振興の状況	公共交通機関の状況	親水空間の整備状況
第9位	親水空間の整備状況	公共交通機関の状況		公園・緑地の整備状況	公園・緑地の整備状況	広域的な連携によるまちづくりの状況
第10位	公園・緑地の整備状況	農業振興の状況		公共交通機関の状況	新エネルギー導入の状況	行財政改革に関する取り組みの状況

図表4 まちの各環境に関する満足度（全体）

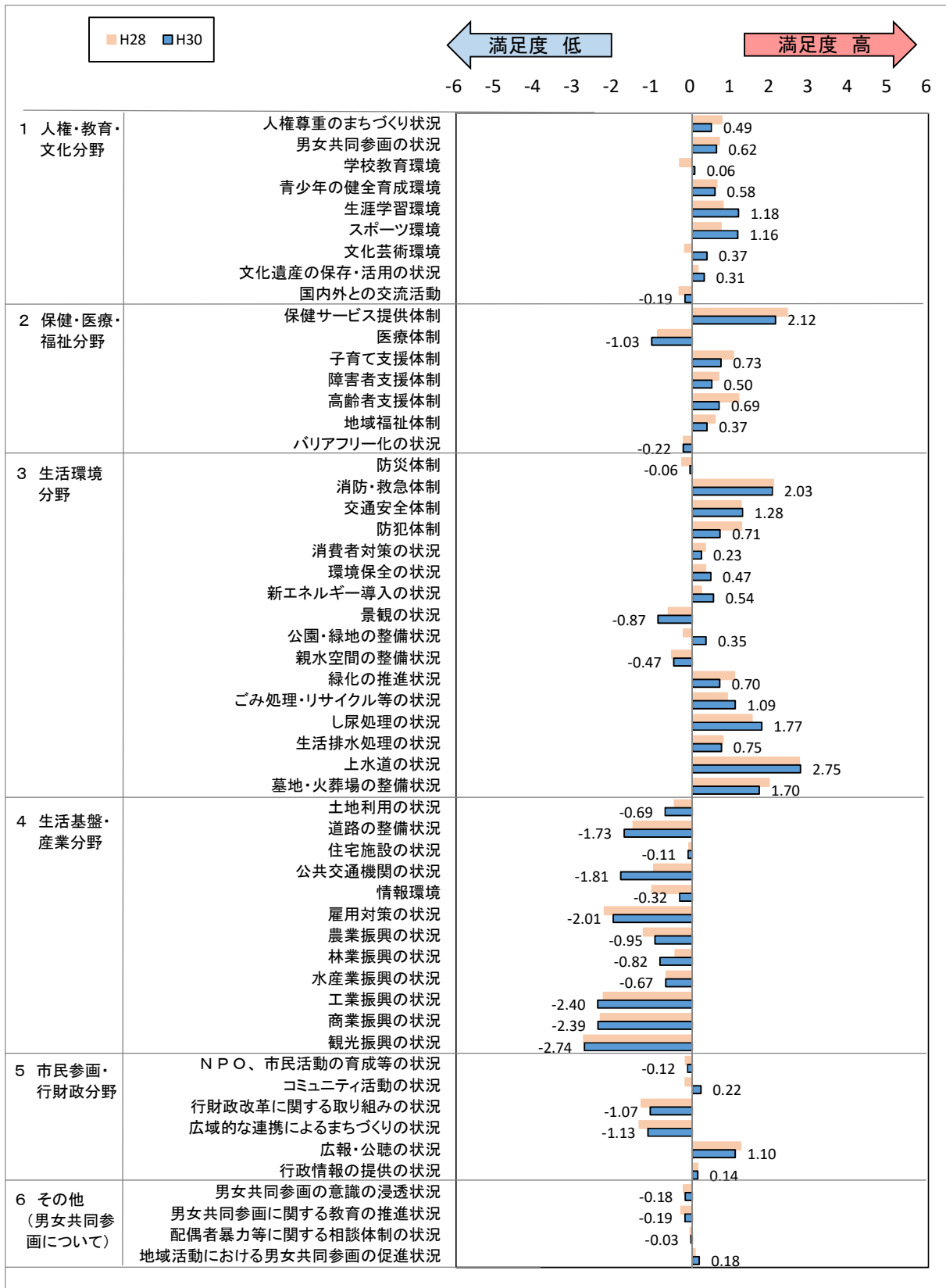
（平成30年）

（単位：評価点）



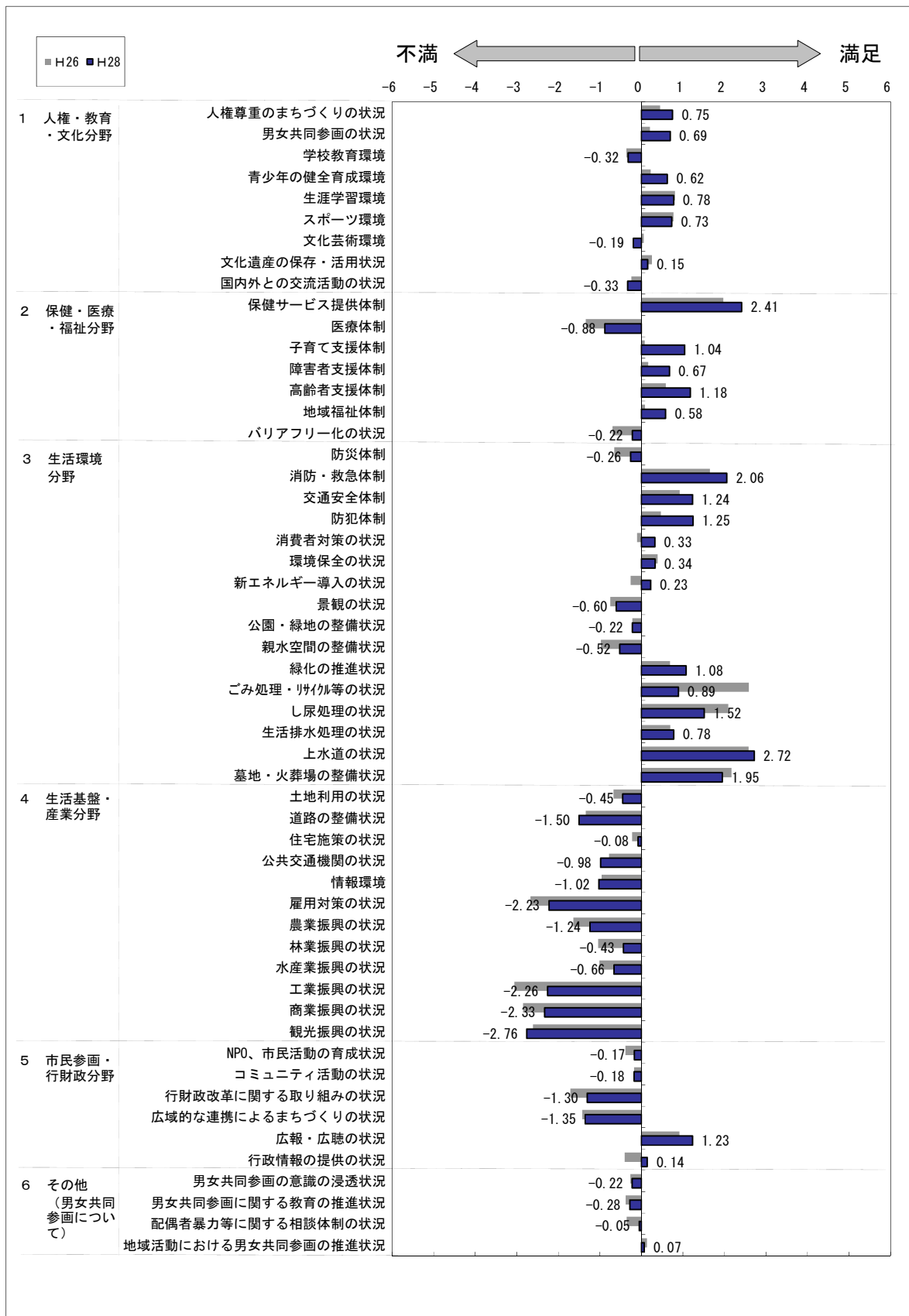
(平成 28-30 年)

(単位：評価点)



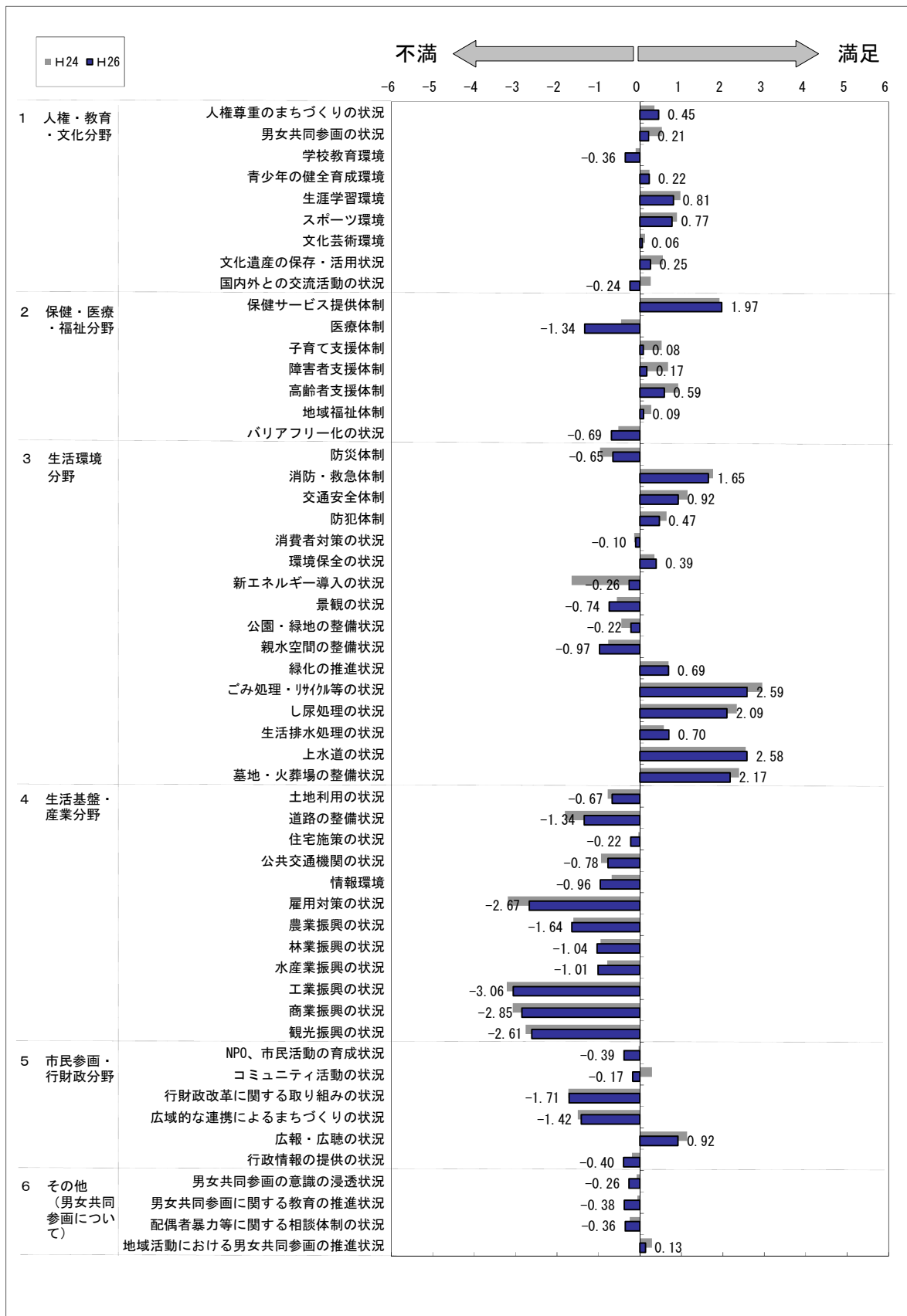
(平成 26-28 年)

(単位：評価点)



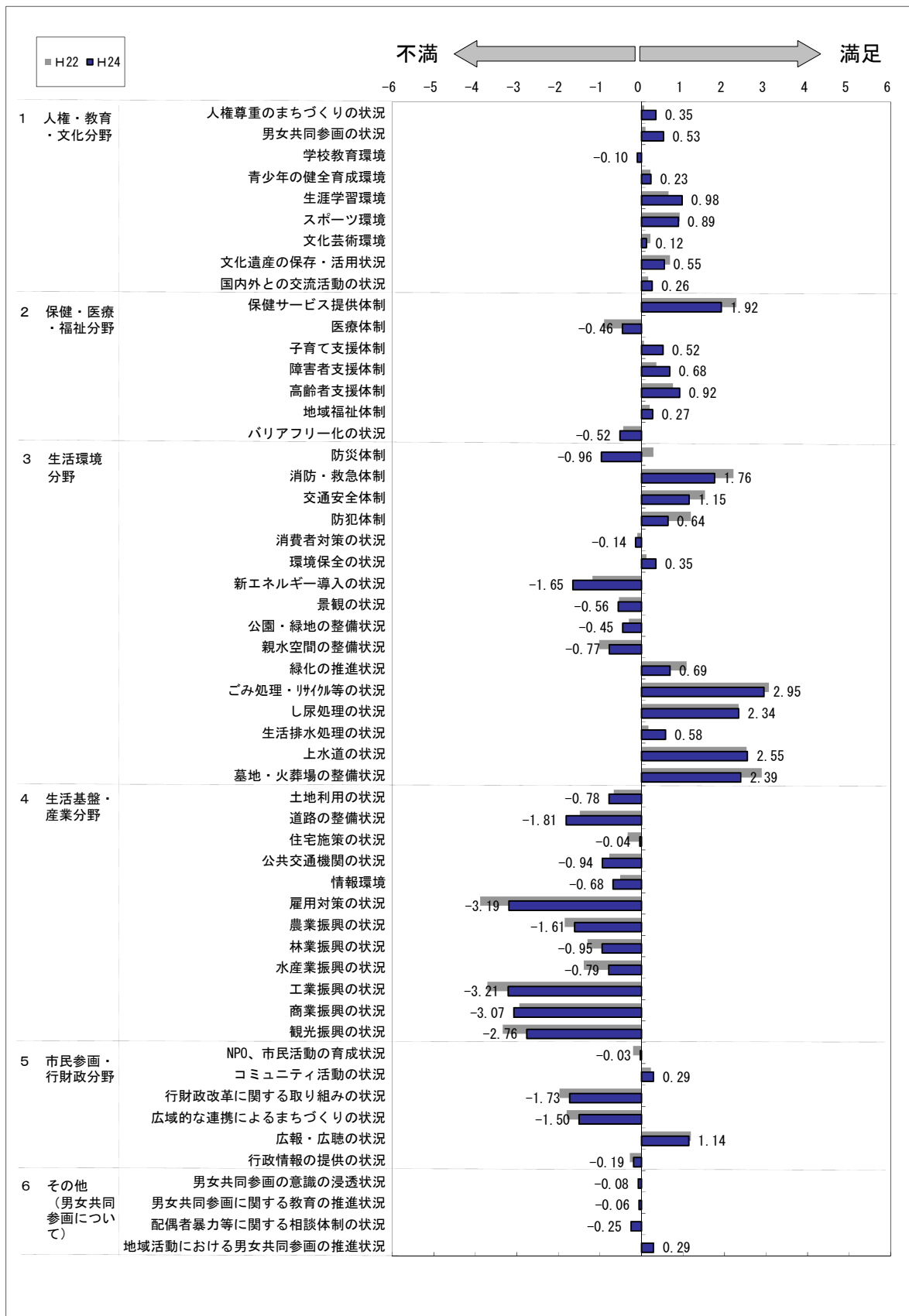
(平成 24-26 年)

(単位：評価点)



(平成 22-24 年)

(単位：評価点)



■また、地区別の満足度の項目をまとめると、以下のとおりとなります。

<福島地区>

満足度の上位3項目は第1位が「上水道の状況」(2.74点)、第2位が「消防・救急体制」(2.00点)、第3位が「保健サービス提供体制」(1.79点)の順でした。一方、下位3項目は第1位が「観光振興の状況」(-2.40点)、第2位が「商業振興の状況」(-2.27点)、第3位が「工業振興の状況」(-2.24点)の順でした。

設定した54項目のうちプラス評価の項目は34(25→34)項目、マイナス評価の項目は20(29→20)項目となっており、満足を示す項目が増加しています。

平成28年と比較すると、上位3位では多少の上下はありますが前回とほぼ同じでした。下位では「観光振興の状況」が引き続き第1位でした。

[図表5の①参照]

図表5の① まちの各環境に関する満足度
(全体・福島地区)

【上位3項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	上水道の状況 2.75	保健サービス提供体制 2.12	消防・救急体制 2.03
地区 H30	上水道の状況 2.74	消防・救急体制 2.00	保健サービス提供体制 1.79
H28	上水道の状況 2.77	保健サービス提供体制 2.35	消防・救急体制 2.14
H26	上水道の状況 2.63	墓地・火葬場の整備状況 1.97	ごみ処理・リサイクル等の状況 1.93
H24	ごみ処理・リサイクル等の状況 2.42	上水道の状況 2.37	墓地・火葬場の整備状況 2.10
H22	上水道の状況 3.10	墓地・火葬場の整備状況 2.75	ごみ処理・リサイクル等の状況 2.68

【下位3項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	観光振興の状況 -2.74	工業振興の状況 -2.40	商業振興の状況 -2.39
地区 H30	観光振興の状況 -2.40	商業振興の状況 -2.27	工業振興の状況 -2.24
H28	観光振興の状況 -2.79	雇用対策の状況 -2.46	商業振興の状況 -2.33
H26	工業振興の状況 -3.24	商業振興の状況 -3.22	雇用対策の状況 -2.87
H24	工業振興の状況 -3.52	雇用対策の状況 -3.46	商業振興の状況 -3.41
H22	雇用対策の状況 -4.17	工業振興の状況 -3.83	観光振興の状況 -3.24

<北方地区>

満足度の上位3項目は第1位が「上水道の状況」(3.33点)、第2位が「消防・救急体制」(2.11点)、第3位が「墓地・火葬場の整備状況」(1.83点)の順でした。一方、下位3項目は第1位が「観光振興の状況」(-3.38点)、第2位が「商業振興の状況」(-2.93点)、第3位が「工業振興の状況」(-2.68点)の順でした。

設定した54項目のうちプラス評価の項目は25(44→25)項目、マイナス評価の項目は29(10→29)項目となっており、満足を示す項目が大きく減少しています。

平成28年と比較すると、上位では「墓地・火葬場の整備状況」が第1位から第3位へ、下位では「商業振興の状況」が第2位へと浮上しています。[図表5の②参照]

図表5の② まちの各環境に関する満足度
(全体・北方地区)

【上位3項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	上水道の状況 2.75	保健サービス提供体制 2.12	消防・救急体制 2.03
地区 H30	上水道の状況 3.33	消防・救急体制 2.11	墓地・火葬場の整備状況 1.83
H28	墓地・火葬場の整備状況 3.27	消防・救急体制 3.10	保健サービス提供体制 3.08
H26	上水道の状況 3.24	消防・救急体制 2.60	墓地・火葬場の整備状況 2.57
H24	上水道の状況 3.52	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.30	墓地・火葬場の整備状況 3.18
H22	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.08	墓地・火葬場の整備状況 2.84	消防・救急体制 2.72

【下位3項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	観光振興の状況 -2.74	工業振興の状況 -2.40	商業振興の状況 -2.39
地区 H30	観光振興の状況 -3.38	商業振興の状況 -2.93	工業振興の状況 -2.68
H28	観光振興の状況 -2.86	工業振興の状況 -2.70	雇用対策の状況 -2.00
H26	雇用対策の状況 -2.91	工業振興の状況 -2.67	商業振興の状況 -2.40
H24	雇用対策の状況 -3.07	観光振興の状況 -2.50	工業振興の状況 -2.39
H22	工業振興の状況 -4.30	観光振興の状況 -3.84	雇用対策の状況 -3.77

＜大東地区＞

満足度の上位3項目は第1位が「上水道の状況」（2.74点）、第2位が「保健サービス提供体制」（2.52点）、第3位が「し尿処理の状況」（2.30点）の順でした。一方、下位3項目は第1位が「観光振興の状況」（-2.74点）、第2位が「工業振興の状況」（-2.48点）、第3位が「公共交通機関の状況」（-2.30点）の順でした。

設定した54項目のうちプラス評価の項目は29（25→29）項目、マイナス評価の項目は25（29→25）項目となっており、満足を示す項目が増加しています。

平成28年と比較すると、上位2項目では評価点は下がったものの同じ順位となっています。下位では第1位だった「商業振興の状況」にかわり「公共交通機関の状況」が新たに加わり第3位となっています。〔図表5の③参照〕

図表5の③ まちの各環境に関する満足度
（全体・大東地区）

【上位3項目】

（単位：評価点）

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	上水道の状況 2.75	保健サービス提供体制 2.12	消防・救急体制 2.03
地区 H30	上水道の状況 2.74	保健サービス提供体制 2.52	し尿処理の状況 2.30
H28	上水道の状況 2.90	保健サービス提供体制 2.83	墓地・火葬場の整備状況 2.63
H26	上水道の状況 3.93	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.68	墓地・火葬場の整備状況 2.77
H24	上水道の状況 3.54	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.14	墓地・火葬場の整備状況 2.94
H22	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.29	墓地・火葬場の整備状況 3.10	上水道の状況 2.85

【下位3項目】

（単位：評価点）

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	観光振興の状況 -2.74	工業振興の状況 -2.40	商業振興の状況 -2.39
地区 H30	観光振興の状況 -2.74	工業振興の状況 -2.48	公共交通機関の状況 -2.30
H28	商業振興の状況 -3.08	観光振興の状況 -2.86	工業振興の状況 -2.67
H26	工業振興の状況 -3.02	雇用対策の状況 -2.77	商業振興の状況 -2.67
H24	商業振興の状況 -3.16	雇用対策の状況 -2.89	観光振興の状況 -2.71
H22	雇用対策の状況 -3.93	観光振興の状況 -3.79	工業振興の状況 -3.38

<本城地区>

満足度の上位3項目は第1位が「上水道の状況」(3.28点)、第2位が「保健サービス提供体制」(3.11点)、第3位が「し尿処理の状況」(2.95点)の順でした。一方、下位3項目は第1位が「観光振興の状況」(-2.46点)、第2位が「商業振興の状況」(-2.00点)、第3位が「工業振興の状況」(-1.83点)の順でした。

設定した54項目のうちプラス評価の項目は38(24→38)項目、マイナス評価の項目は16(28→16)項目となっており満足を示す項目が増加しています。

平成28年と比較すると、上位では第2位に「保健サービス提供体制」が新たに入っています。下位では第2位だった「観光振興の状況」が第1位となっています。

[図表5の④参照]

図表5の④ まちの各環境に関する満足度
(全体・本城地区)

【上位3項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	上水道の状況 2.75	保健サービス提供体制 2.12	消防・救急体制 2.03
地区 H30	上水道の状況 3.28	保健サービス提供体制 3.11	し尿処理の状況 2.95
H28	し尿処理の状況 2.50	緑化の推進状況 2.06	上水道の状況 2.03
H26	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.62	墓地・火葬場の整備状況 2.65	し尿処理の状況 2.61
H24	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.22	し尿処理の状況 3.64	消防・救急体制 2.82
H22	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.22	し尿処理の状況 3.96	保健サービス提供体制 3.44

【下位3項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	観光振興の状況 -2.74	工業振興の状況 -2.40	商業振興の状況 -2.39
地区 H30	観光振興の状況 -2.46	商業振興の状況 -2.00	工業振興の状況 -1.83
H28	情報環境 -2.74	観光振興の状況 -2.50	道路の整備状況 -2.03
H26	工業振興の状況 -3.10	観光振興の状況 -2.73	雇用対策の状況 -2.65
H24	工業振興の状況 -3.28	観光振興の状況 -3.10	道路の整備状況 -2.67
H22	工業振興の状況 -4.20	道路の整備状況 -3.40	雇用対策の状況 -3.30

<都井地区>

満足度の上位3項目は第1位が「保健サービス提供体制」(3.05点)、第2位が「し尿処理の状況」(2.20点)、第3位が「公園・緑地の整備状況」(2.00点)の順でした。一方、下位3項目は第1位が「観光振興の状況」(-4.21点)、第2位が「工業振興の状況」(-3.46点)、第3位が「商業振興の状況」(-3.42点)の順でした。

設定した54項目のうちプラス評価の項目は20(40→20)項目、マイナス評価の項目は31(13→31)項目、中間点が3項目となっており、満足を示す項目が大きく減少しています。

平成28年と比較すると、上位では「ごみ処理・リサイクル等の状況」が上位3項目から外れ、「保健サービス提供体制」が第1位になり、下位では「工業振興の状況」「商業振興の状況」が第2位、第3位に入っています。

[図表5の⑤参照]

図表5の⑤ まちの各環境に関する満足度
(全体・都井地区)

【上位3項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	上水道の状況 2.75	保健サービス提供体制 2.12	消防・救急体制 2.03
地区 H30	保健サービス提供体制 3.05	し尿処理の状況 2.20	公園・緑地の整備状況 2.00
H28	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.57	広報・広聴の状況 3.15	保健サービス提供体制 2.76
H26	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.29	保健サービス提供体制 3.02	高齢者支援体制 2.33
H24	ごみ処理・リサイクル等の状況 5.00	し尿処理の状況 3.52	墓地・火葬場の整備状況 3.39
H22	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.83	墓地・火葬場の整備状況 2.83	し尿処理の状況 2.50

【下位3項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	観光振興の状況 -2.74	工業振興の状況 -2.40	商業振興の状況 -2.39
地区 H30	観光振興の状況 -4.21	工業振興の状況 -3.46	商業振興の状況 -3.42
H28	観光振興の状況 -1.67	道路の整備状況 -1.54	雇用対策の状況 -1.00
H26	観光振興の状況 -3.68	工業振興の状況 -2.44	商業振興の状況 -2.31
H24	商業振興の状況 -4.07	工業振興の状況 -3.89	雇用対策の状況 -3.21
H22	観光振興の状況 -4.33	工業振興の状況 -4.00	雇用対策の状況 -4.00

<市木地区>

満足度の上位3項目は第1位に「し尿処理の状況」、「上水道の状況」(2.88点)が並び、第3位が「保健サービス提供体制」(2.44点)でした。一方、下位3項目は第1位が「道路の整備状況」(-4.87点)、第2位が「公共交通機関の状況」(-4.47点)、第3位が「観光振興の状況」(-2.63点)の順でした。

設定した54項目のうちプラス評価の項目は19(21→19)項目、マイナス評価の項目は30(32→30)項目、中間点が5項目となっています。

平成28年と比較すると、上位では「保健サービス提供体制」が第3位に入っています。下位では第1位が「道路の整備状況」へとかわり、第2位の「公共交通機関の状況」は順位は下がったものの不満度が高まっています。

[図表5の⑥参照]

図表5の⑥ まちの各環境に関する満足度
(全体・市木地区)

【上位3項目】 (単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	上水道の状況 2.75	保健サービス提供体制 2.12	消防・救急体制 2.03
地区 H30	し尿処理の状況/上水道の状況 2.88		保健サービス提供体制 2.44
H28	上水道の状況 2.86	し尿処理の状況 2.44	墓地・火葬場の整備状況 1.86
H26	ごみ処理・リサイクル等の状況 2.79	消防・救急体制 2.12	し尿処理の状況 2.06
H24	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.17	上水道の状況 2.90	墓地・火葬場の整備状況 2.74
H22	ごみ処理・リサイクル等の状況 3.24	墓地・火葬場の整備状況 3.18	し尿処理の状況 2.58

【下位3項目】 (単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位
全体 H30	観光振興の状況 -2.74	工業振興の状況 -2.40	商業振興の状況 -2.39
地区 H30	道路の整備状況 -4.87	公共交通機関の状況 -4.47	観光振興の状況 -2.63
H28	観光振興の状況/公共交通機関の状況 -2.86		情報環境 -2.62
H26	工業振興の状況 -2.94	商業振興の状況 -2.06	情報環境 -1.88
H24	観光振興の状況 -3.06	雇用対策の状況/親水空間の整備状況/ 行財政改革に関する取り組みの状況 -2.90	
H22	道路の整備状況 -3.18	観光振興の状況 -3.03	雇用対策の状況 -2.81

(2) まちの各環境に関する重要度

問3 市では下記にあげる様々な施策に取り組んでいますが、あなたは、(2)今後どの程度重視（力を入れるべき）していますか。

- 重要度が最も高い項目は「医療体制」。次いで「保健サービス提供体制」、「ごみ処理・リサイクル等の状況」、「消防・救急体制」の順。

本市の各環境に関する市民の重要度について、重要度をたずねた54の設問項目の傾向を、“重要である”（「重視している」及び「やや重視している」の合計），“重要でない”（「あまり重視していない」及び「重視していない」の合計）にまとめ、その比率でみていくと、“重要である”の比率が高い項目としては、「医療体制」（69.6%）が第1位にあげられ、次いで第2位が「保健サービス提供体制」（66.1%）、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」（63.2%）と続き、以下、「消防・救急体制」（61.6%）、「防災体制」（59.2%）などの順となっています。

平成28年と比較すると、順位に大きな変化はみられませんが、「学校教育環境」（57.5%）が第7位に入ってきています。[図表6～6-1参照]

さらに、加重平均値[後述参照]による評価点（重要度：最高点10点、最低点-10点）による結果をみると、重要度の最も高い項目は、「医療体制」（5.47点）が第1位にあげられ、次いで「保健サービス提供体制」（4.77点）、「消防・救急体制」（4.72点）、と続き、以下、「ごみ処理・リサイクル等の状況」（4.62点）、「上水道の状況」（4.58点）、「学校教育環境」（4.46点）、「防災体制」（4.36点）の順となっています。

平成28年と比較すると、全体的に評価点がやや下がり傾向ですが、大きな変化はみられません。[図表7参照]

※加重平均値の算出方法※

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \left[\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{点} \end{array} \right]}{\left[\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視している」、} \\ \text{「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{array} \right]}\end{array}}$$

図表6 まちの各環境に関する重要度（全体）

（単位：％）

区分	項目	平成22年調査		平成24年調査		平成26年調査		平成28年調査		平成30年調査	
		重要である	重要でない	重要である	重要でない	重要である	重要でない	重要である	重要でない	重要である	重要でない
1 人権・教育 文化分野	①人権尊重のまちづくり状況	38.7	③ 9.7	41.6	③ 11.1	38.2	② 12.2	39.4	③ 11.2	41.4	③ 10.8
	②男女共同参画の状況	35.2	② 10.9	38.3	④ 9.9	38.8	② 12.2	38.1	⑤ 9.8	37.2	④ 10.7
	③学校教育環境	52.8	4.5	54.7	6.3	⑩ 53.4	6.2	51.9	7.1	⑦ 57.5	5.6
	④青少年の健全育成環境	45.8	4.5	48.8	6.6	46.5	5.4	45.2	6.9	48.8	6.0
	⑤生涯学習環境	43.3	⑧ 6.5	43.8	7.7	42.9	7.8	42.0	7.9	44.2	7.3
	⑥スポーツ環境	47.8	④ 7.6	49.7	7.2	48.4	6.9	45.4	7.4	47.7	6.6
	⑦文化芸術環境	37.6	5.7	38.7	⑤ 9.6	36.2	⑨ 9.4	31.3	④ 10.9	37.1	⑨ 7.9
	⑧文化遺産の保存・活用の状況	35.4	⑧ 6.5	36.7	② 12.3	37.1	④ 11.3	34.3	② 12.2	35.4	② 10.9
	⑨国内外との交流活動	26.9	① 11.1	29.1	① 12.5	28.4	① 12.8	29.6	① 12.7	30.9	① 11.3
2 保健・福祉・医療 社会分野	①保健サービス提供体制	② 64.6	3.5	① 69.9	3.3	② 64.2	5.0	② 66.5	3.8	② 66.1	3.5
	②医療体制	① 68.7	4.3	② 69.0	5.1	① 68.3	5.8	① 69.4	4.5	① 69.6	5.5
	③子育て支援体制	52.1	4.1	51.5	4.4	⑨ 54.6	4.0	⑦ 56.3	3.5	⑩ 52.8	5.1
	④障害者支援体制	47.0	4.3	51.8	4.8	49.0	6.0	45.7	4.5	46.6	5.2
	⑤高齢者支援体制	⑥ 57.0	3.0	⑤ 62.0	5.4	⑦ 57.1	5.2	⑥ 59.6	4.2	⑧ 56.4	5.2
	⑥地域福祉体制	43.7	4.9	46.7	6.8	45.1	6.1	45.5	3.8	40.7	6.2
	⑦バリアフリー化の状況	48.1	5.4	53.9	7.2	48.2	7.2	53.5	4.6	51.5	5.9
3 生活環境 生活環境分野	①防災体制	⑦ 55.3	4.6	⑥ 61.9	5.4	⑤ 58.8	7.0	⑤ 61.1	4.3	⑤ 59.2	5.3
	②消防・救急体制	④ 59.8	3.2	④ 64.9	3.3	④ 61.3	3.9	④ 64.9	1.8	④ 61.6	2.9
	③交通安全体制	49.0	4.2	55.0	4.1	47.9	5.3	52.2	2.9	49.7	3.9
	④防犯体制	⑩ 53.2	3.2	55.6	4.8	48.6	5.9	54.5	2.9	51.1	4.2
	⑤消費者対策の状況	40.2	5.2	44.3	6.0	38.5	6.3	41.8	4.0	37.8	5.5
	⑥環境保全の状況	47.3	3.8	53.2	4.7	46.7	6.5	47.8	4.5	44.3	5.1
	⑦新エネルギー導入の状況	47.6	⑤ 7.5	⑩ 56.9	6.3	44.6	7.7	37.2	7.9	40.6	⑤ 9.2
	⑧景観の状況	51.3	3.7	56.8	5.7	50.6	8.8	⑨ 55.9	6.1	49.2	⑧ 8.1
	⑨公園・緑地の整備状況	49.7	6.2	55.1	6.8	53.1	8.8	50.0	⑨ 8.2	51.0	6.8
	⑩親水空間の整備状況	45.2	⑧ 6.5	45.9	6.6	46.3	9.2	43.1	⑦ 8.7	45.4	6.6
	⑪緑化の推進状況	46.8	4.6	50.0	6.6	45.2	8.2	44.2	7.1	41.1	7.0
	⑫ごみ処理・リサイクル等の状況	③ 63.2	1.8	③ 66.1	3.8	③ 62.8	4.1	③ 65.9	3.4	③ 63.2	3.8
	⑬し尿処理の状況	49.7	2.7	52.9	4.2	48.6	4.1	46.3	4.0	46.2	3.1
	⑭生活排水処理の状況	52.1	4.2	54.4	5.3	49.9	4.6	47.8	3.7	48.5	3.4
	⑮上水道の状況	⑤ 57.8	2.2	⑧ 60.7	4.1	⑥ 57.9	4.0	⑨ 55.9	2.6	⑥ 58.3	2.3
	⑯墓地・火葬場の整備状況	44.6	3.3	43.7	5.3	40.4	6.6	39.1	5.9	40.4	5.9
4 生活基盤・産業 産業分野	①土地利用の状況	32.2	3.9	35.7	⑨ 8.4	31.5	6.6	34.5	5.4	32.9	5.7
	②道路の整備状況	⑨ 53.7	4.1	⑦ 61.0	6.0	⑧ 56.7	7.2	⑦ 56.3	6.3	⑨ 56.4	7.0
	③住宅施設の状況	29.6	4.8	35.4	5.9	30.7	6.5	34.8	5.9	31.9	6.4
	④公共交通機関の状況	42.5	⑥ 7.0	47.1	7.8	39.9	⑥ 10.3	43.8	7.9	46.4	7.5
	⑤情報環境	30.1	5.3	34.0	6.9	29.9	7.1	37.5	6.9	38.6	5.1
	⑥雇用対策の状況	⑧ 55.0	4.9	56.6	6.9	52.1	6.0	50.6	5.4	47.3	5.7
	⑦農業振興の状況	50.2	3.9	48.9	6.6	46.3	6.6	48.1	5.6	43.0	6.1
	⑧林業振興の状況	37.4	4.6	35.4	⑩ 8.0	34.1	7.4	35.9	3.8	35.8	6.9
	⑨水産業振興の状況	38.2	4.1	38.0	6.0	34.3	7.0	38.3	5.1	33.3	6.9
	⑩工業振興の状況	48.6	5.4	49.8	⑥ 8.9	44.5	⑧ 9.5	43.6	7.5	44.2	7.5
	⑪商業振興の状況	46.5	4.4	50.5	⑥ 8.9	46.6	6.9	48.1	7.4	44.9	6.9
	⑫観光振興の状況	52.4	5.3	⑨ 57.2	7.4	50.3	8.8	55.3	7.5	51.2	⑦ 8.1
5 市民参画 市民参画分野	①NPO、市民活動の育成等の状況	25.5	⑧ 6.5	31.2	⑧ 8.6	23.5	⑦ 10.2	27.2	⑨ 8.2	22.1	⑥ 8.7
	②コミュニティ活動の状況	28.1	⑦ 6.7	32.4	5.7	26.8	8.6	31.1	7.1	26.3	6.9
	③行財政改革に関する取り組みの状況	41.0	5.4	41.9	5.6	36.4	5.9	37.5	5.6	35.0	4.8
	④広域的な連携によるまちづくりの状況	39.2	5.8	42.0	7.7	35.0	7.9	40.7	7.5	36.9	6.1
	⑤広報・公聴の状況	41.5	3.6	43.5	5.0	39.0	5.6	43.1	5.0	40.3	5.1
	⑥行政情報の提供の状況	40.3	4.6	43.5	6.0	36.8	6.9	39.1	5.0	36.5	4.4
6 男女共同 男女共同分野	①男女共同参画の意識の浸透状況	—	—	33.1	7.8	27.1	⑤ 11.0	30.1	⑥ 8.8	26.5	⑩ 7.7
	②男女共同参画に関する教育の推進状況	—	—	31.3	7.5	26.3	⑩ 9.3	29.3	⑧ 8.5	28.3	7.3
	③配偶者暴力等に関する相談体制の状況	—	—	31.3	6.0	27.4	8.4	30.6	6.3	28.9	4.0
	④地域活動における男女共同参画の促進状況	—	—	31.6	6.8	28.0	7.7	31.6	6.7	27.0	5.6

※丸数字は全体の中での順位を示す

図表6-1 まちの各環境に関する重要度（全体）

【上位10項目】

	H30	H28	H26	H24	H22
第1位	医療体制	医療体制	医療体制	保健サービス提供体制	医療体制
第2位	保健サービス提供体制	保健サービス提供体制	保健サービス提供体制	医療体制	保健サービス提供体制
第3位	ごみ処理・リサイクル等の状況	ごみ処理・リサイクル等の状況	ごみ処理・リサイクル等の状況	ごみ処理・リサイクル等の状況	ごみ処理・リサイクル等の状況
第4位	消防・救急体制	消防・救急体制	消防・救急体制	消防・救急体制	消防・救急体制
第5位	防災体制	防災体制	防災体制	高齢者支援体制	上水道の状況
第6位	上水道の状況	高齢者支援体制	上水道の状況	防災体制	高齢者支援体制
第7位	学校教育環境	道路の整備状況	高齢者支援体制	道路の整備状況	防災体制
第8位	高齢者支援体制	子育て支援体制	道路の整備状況	上水道の状況	雇用対策の状況
第9位	道路の整備状況	景観の状況	子育て支援体制	観光振興の状況	道路の整備状況
第10位	子育て支援体制	上水道の状況	学校教育環境	新エネルギー導入の状況	防犯体制

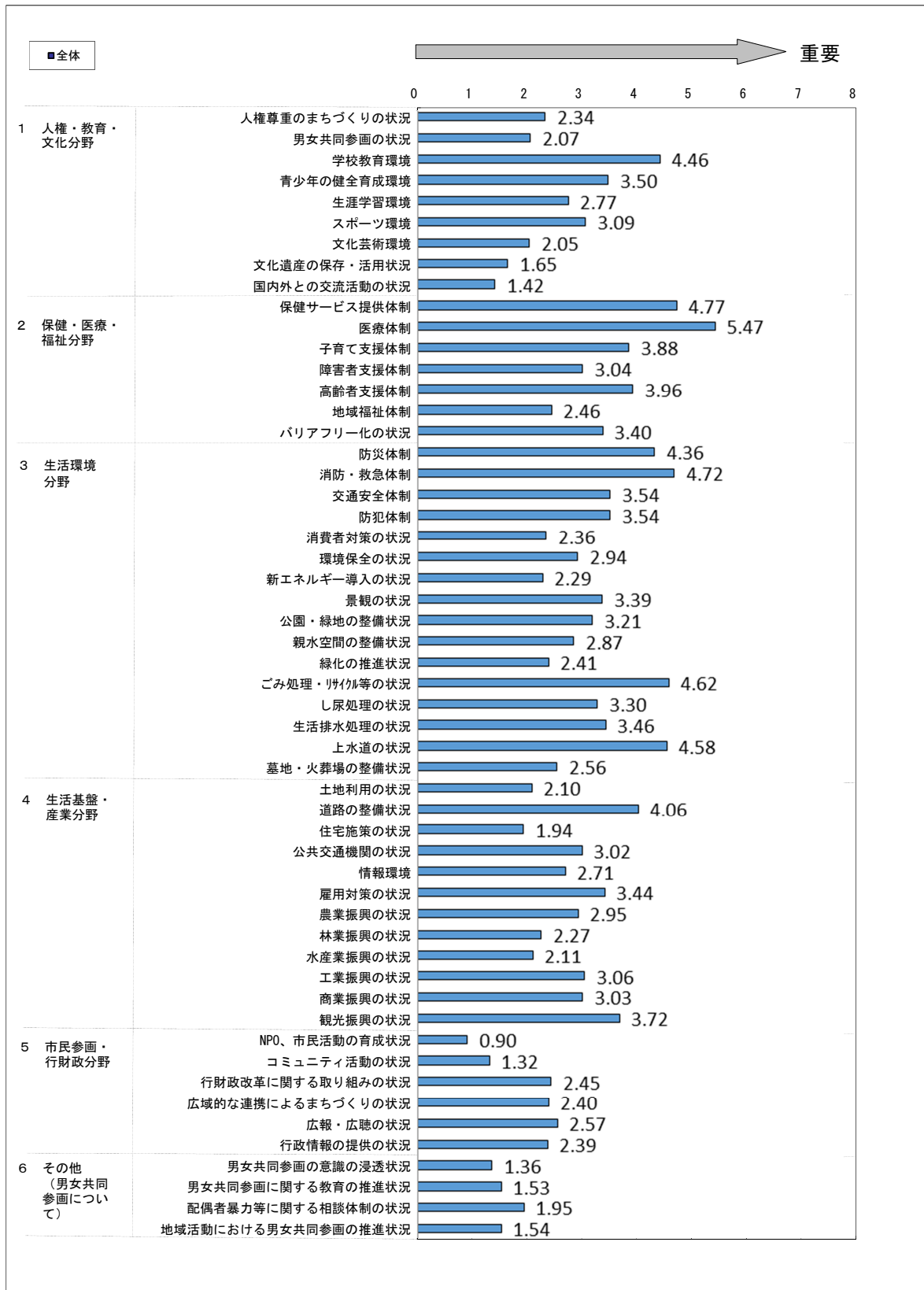
【下位10項目】

	H30	H28	H26	H24	H22			
第1位	国内外との交流活動	国内外との交流活動	国内外との交流活動	国内外との交流活動	国内外との交流活動			
第2位	文化遺産の保存・活用の状況	文化遺産の保存・活用の状況	人権尊重のまちづくりの状況	男女共同参画の状況	文化遺産の保存・活用の状況	男女共同参画の状況		
第3位	人権尊重のまちづくりの状況	人権尊重のまちづくりの状況			人権尊重のまちづくりの状況	人権尊重のまちづくりの状況		
第4位	男女共同参画の状況	文化芸術環境	文化遺産の保存・活用の状況	男女共同参画の状況	スポーツ環境			
第5位	新エネルギー導入の状況	男女共同参画の状況	男女共同参画の意識の浸透状況	文化芸術環境	新エネルギー導入の状況			
第6位	NPO、市民活動の育成等の状況	男女共同参画の意識の浸透状況	公共交通機関の状況	工業振興の状況	商業振興の状況	公共交通機関の状況		
第7位	観光振興の状況	親水空間の整備状況	NPO、市民活動の育成等の状況			コミュニティ活動の状況		
第8位	景観の状況	男女共同参画に関する教育の推進状況	工業振興の状況	NPO、市民活動の育成等の状況	生涯学習環境	文化遺産の保存・活用の状況	親水空間の整備状況	NPO、市民活動の育成等の状況
第9位	文化芸術環境	公園・緑地の整備状況	文化芸術環境	土地利用の状況				
第10位	男女共同参画の意識の浸透状況	NPO、市民活動の育成等の状況	男女共同参画に関する教育の推進状況	林業振興の状況				

図表7 まちの各環境に関する重要度（全体）

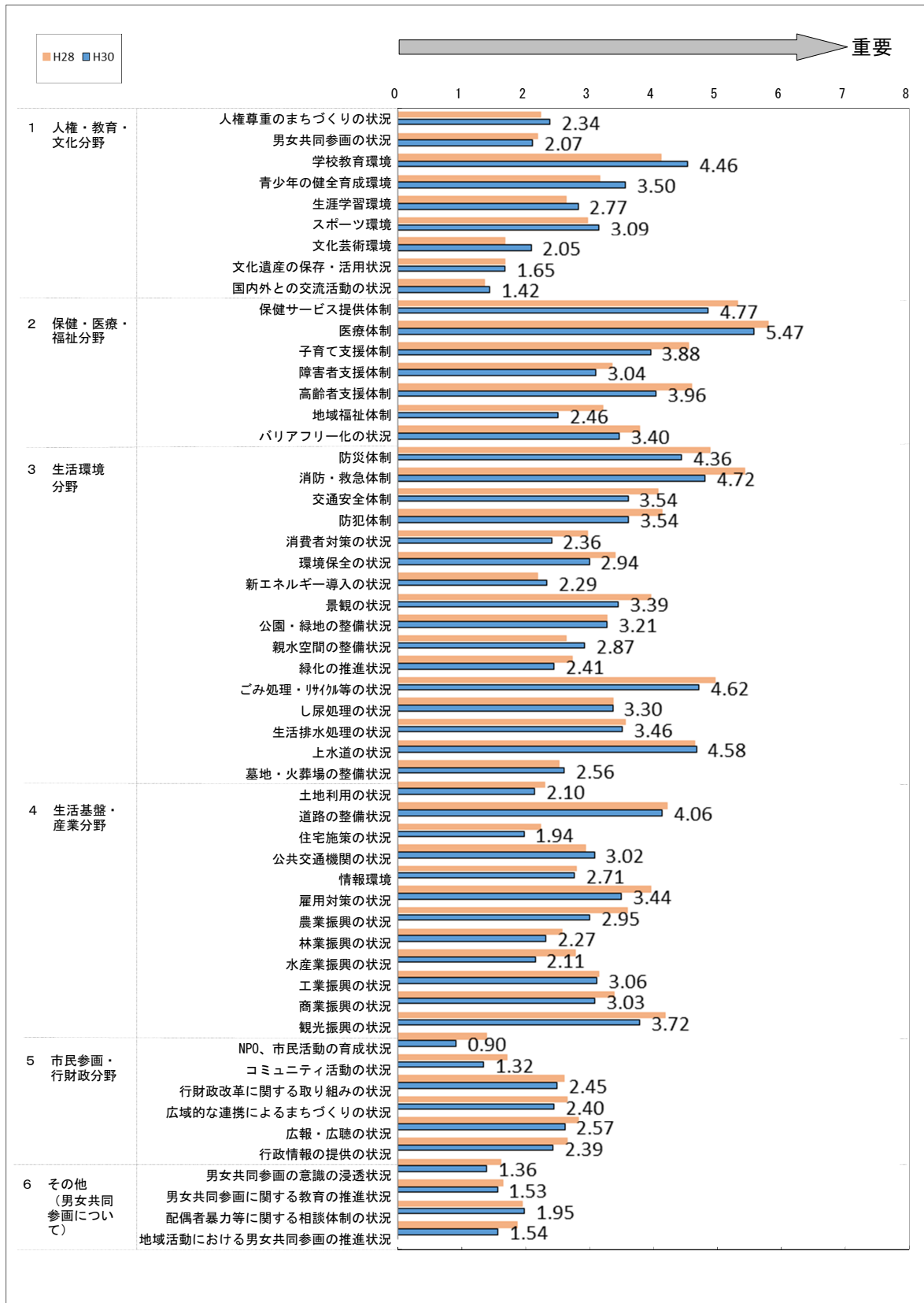
（平成30年）

（単位：評価点）



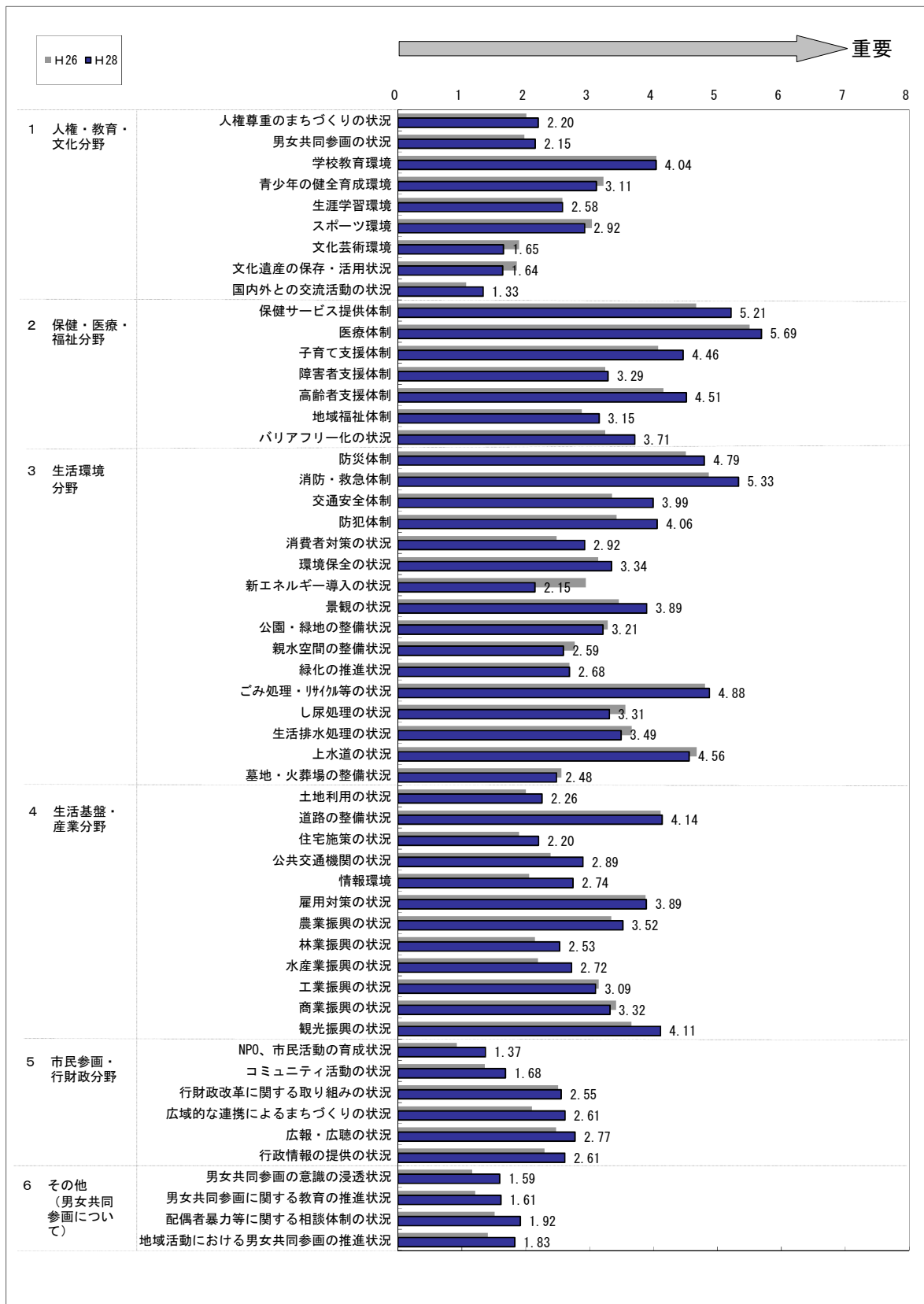
(平成 28-30 年)

(単位：評価点)



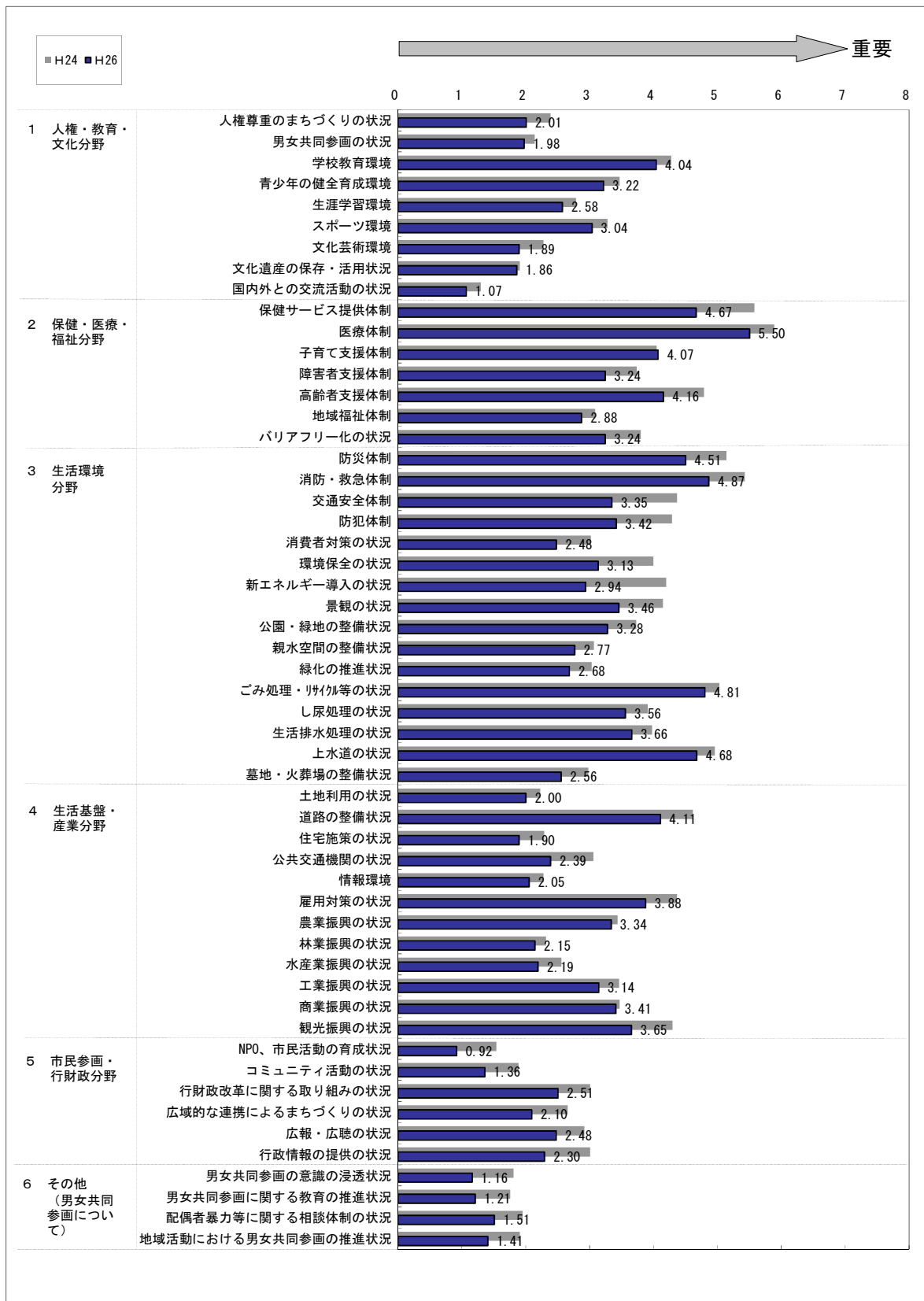
(平成 26-28 年)

(単位：評価点)



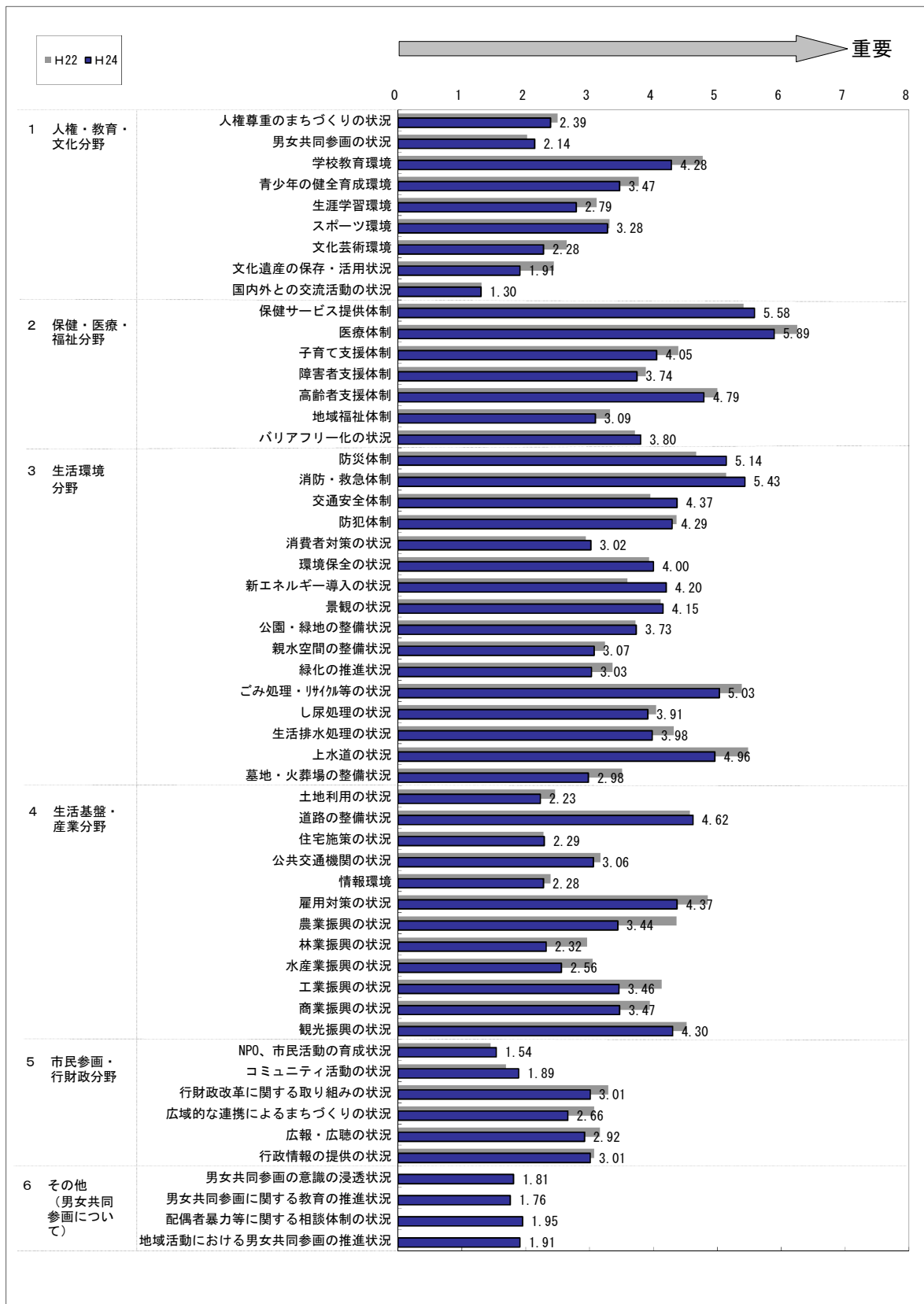
(平成 24-26 年)

(単位：評価点)



(平成 22-24 年)

(単位：評価点)



■また、地区別の重要度の上位項目をまとめると、以下のとおりとなります。

<福島地区>

重要度の上位5項目は第1位が「医療体制」(5.59点)、第2位が「保健サービス提供体制」(4.82点)、第3位が「上水道の状況」(4.75点)、第4位が「学校教育環境」(4.72点)、第5位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(4.63点)の順となっています。

平成28年と比較すると、「上水道の状況」、「学校教育環境」の順位が上がっています。

[図表8の①参照]

図表8の① まちの各環境に関する重要度
(全体・福島地区)

【上位5項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 H30	医療体制 5.47	保健サービス提供体制 4.77	消防・救急体制 4.72	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.62	上水道の状況 4.58
地区 H30	医療体制 5.59	保健サービス提供体制 4.82	上水道の状況 4.75	学校教育環境 4.72	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.63
H28	医療体制 5.46	消防・救急体制 5.22	保健サービス提供体制 5.14	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.83	防災体制 4.72
H26	医療体制 6.00	保健サービス提供体制 4.93	消防・救急体制 4.81	上水道の状況 4.71	防災体制 4.69
H24	医療体制 5.99	消防・救急体制 5.41	保健サービス提供体制 5.38	防災体制 5.20	上水道の状況 5.03
H22	医療体制 6.71	上水道の状況 5.78	保健サービス提供体制 5.56	ごみ処理・リサイクル等の状況 5.36	消防・救急体制 5.35

<北方地区>

重要度の上位5項目は第1位が「医療体制」(6.39点)、第2位が「消防・救急体制」(5.36点)、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(5.29点)、第4位が「防災体制」(5.28点)、第5位が「保健サービス提供体制」(5.07点)の順となっています。

平成28年と比較すると、「学校教育環境」、「高齢者支援体制」の順位が下がり、「ごみ処理・リサイクル等の状況」、「防災体制」が第3位、第4位として入っています。

[図表8の②参照]

図表8の② まちの各環境に関する重要度
(全体・北方地区)

【上位5項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 H30	医療体制 5.47	保健サービス提供体制 4.77	消防・救急体制 4.72	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.62	上水道の状況 4.58
地区 H30	医療体制 6.39	消防・救急体制 5.36	ごみ処理・リサイクル等の状況 5.29	防災体制 5.28	保健サービス提供体制 5.07
H28	医療体制 7.20	学校教育環境 5.85	保健サービス提供体制 5.80	消防・救急体制 5.78	高齢者支援体制 5.50
H26	消防・救急体制 5.26	上水道の状況 5.21	防災体制 5.07	医療体制 4.93	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.86
H24	医療体制 6.44	保健サービス提供体制 5.78	消防・救急体制 5.56	防災体制 5.34	高齢者支援体制 5.11
H22	医療体制 5.09	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.91	消防・救急体制 4.91	上水道の状況 4.55	防犯体制 4.45

<大東地区>

重要度の上位5項目は第1位が「医療体制」(5.27点)、第2位が「保健サービス提供体制」(4.64点)、第3位が「消防・救急体制」、「学校教育環境」(4.55点)、第5位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(4.38点)の順となっています。

平成28年と比較すると、第3位に「学校教育環境」、第5位に「ごみ処理・リサイクル等の状況」が新たに入っています。[図表8の③参照]

図表8の③ まちの各環境に関する重要度
(全体・大東地区)

【上位5項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 H30	医療体制 5.47	保健サービス提供体制 4.77	消防・救急体制 4.72	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.62	上水道の状況 4.58
地区 H30	医療体制 5.27	保健サービス提供体制 4.64	消防・救急体制/学校教育環境 4.55		ごみ処理・リサイクル等の状況 4.38
H28	医療体制 6.07	保健サービス提供体制 5.57	消防・救急体制 5.40	子育て支援体制 5.00	防災体制 4.89
H26	医療体制 5.45	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.90	保健サービス提供体制 4.80	上水道の状況 4.70	消防・救急体制 4.60
H24	保健サービス提供体制 5.72	消防・救急体制 5.32	医療体制 5.21	高齢者支援体制 4.90	学校教育環境 4.48
H22	上水道の状況 5.52	ごみ処理・リサイクル等の状況 5.51	医療体制 5.14	保健サービス提供体制 4.65	高齢者支援体制 4.64

<本城地区>

重要度の上位5項目は第1位が「医療体制」(5.48点)、第2位が「消防・救急体制」(5.17点)、第3位が「保健サービス提供体制」(4.76点)、第4位が「上水道の状況」(4.75点)、第5位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(4.67点)の順となっています。

平成28年と比較すると、「上水道の状況」の順位が第4位に上がり、「防災体制」の順位が下がっています。[図表8の④参照]

図表8の④ まちの各環境に関する重要度
(全体・本城地区)

【上位5項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 H30	医療体制 5.47	保健サービス提供体制 4.77	消防・救急体制 4.72	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.62	上水道の状況 4.58
地区 H30	医療体制 5.48	消防・救急体制 5.17	保健サービス提供体制 4.76	上水道の状況 4.75	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.67
H28	医療体制 5.59	保健サービス提供体制 5.44	消防・救急体制 4.85	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.69	防災体制 4.26
H26	医療体制/消防・救急体制 5.00		防災体制 4.85	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.77	上水道の状況 4.38
H24	医療体制 6.42	保健サービス提供体制 5.92	ごみ処理・リサイクル等の状況 5.83	道路の整備状況 5.82	生活排水処理の状況 5.45
H22	医療体制 7.77	高齢者支援体制 7.17	保健サービス提供体制 6.91	防災体制 6.67	雇用対策の状況 6.06

<都井地区>

重要度の上位5項目は第1位が「保健サービス提供体制」(4.87点)、第2位が「消防・救急体制」(4.49点)、第3位が「医療体制」(4.36点)、第4位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(4.21点)、「防災体制」(4.19点)の順となっています。

平成28年と比較すると、「高齢者支援体制」が順位を下げ、「防災体制」の順位が上がっています。[図表8の⑤参照]

図表8の⑤ まちの各環境に関する重要度
(全体・都井地区)

【上位5項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 H30	医療体制 5.47	保健サービス提供体制 4.77	消防・救急体制 4.72	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.62	上水道の状況 4.58
地区 H30	保健サービス提供体制 4.87	消防・救急体制 4.49	医療体制 4.36	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.21	防災体制 4.19
H28	ごみ処理・リサイクル等の状況/保健サービス提供体制/ 消防・救急体制 5.22			医療体制/高齢者支援体制 4.79	
H26	ごみ処理・リサイクル等の状況 5.51	消防・救急体制 4.88	上水道の状況 4.87	保健サービス提供体制 4.76	雇用対策の状況 4.36
H24	上水道の状況 7.31	防災体制 7.29	保健サービス提供体制/ 消防・救急体制 7.08		医療体制 6.88
H22	観光振興の状況 5.69	医療体制 5.52	保健サービス提供体制/ 工業振興の状況 5.34		消防・救急体制/ ごみ処理・リサイクル等の状況 5.17

<市木地区>

重要度の上位5項目は第1位が「消防・救急体制」、「医療体制」(5.38点)で同率、第3位が「道路の整備状況」(5.26点)、第4位が「学校教育環境」(4.74点)、第5位が「防災体制」(4.63点)の順となっています。

平成28年と比較すると、前回第2位の「ごみ処理・リサイクル等の状況」が下がり、第4位に「学校教育環境」が上昇しています。[図表8の⑥参照]

図表8の⑥ まちの各環境に関する重要度
(全体・市木地区)

【上位5項目】

(単位：評価点)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 H30	医療体制 5.47	保健サービス提供体制 4.77	消防・救急体制 4.72	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.62	上水道の状況 4.58
地区 H30	消防・救急体制/医療体制 5.38		道路の整備状況 5.26	学校教育環境 4.74	防災体制 4.63
H28	消防・救急体制 6.13	ごみ処理・リサイクル等の状況 5.95	医療体制 5.90	防災体制 5.88	道路の整備状況 5.00
H26	防災体制/消防・救急体制 5.15		ごみ処理・リサイクル等の状況 4.85	親水空間の整備状況 4.56	道路の整備状況 4.26
H24	保健サービス提供体制 4.83	道路の整備状況 4.82	し尿処理の状況 4.48	ごみ処理・リサイクル等の状況 4.46	防災体制 4.14
H22	ごみ処理・リサイクル等の状況 5.76	道路の整備状況/上水道の状況 5.47		医療体制 5.15	親水空間の整備状況 5.00

(3) 満足度と重要度の相関（優先度）

- 優先度が最も高い項目は「医療体制」。次いで「観光振興の状況」、「道路の整備状況」の順。

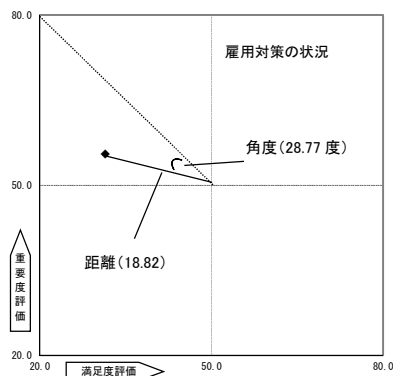
これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するための一つの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成しました。このグラフでは左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど優先度が高くなり、右下隅の「満足度評価最高・重要度評価最低」に近づくほど優先度が低くなります。

この結果をみると、優先度は、「医療体制」(19.81点)が第1位となっており、次いで「観光振興の状況」(18.09点)、「道路の整備状況」(17.48点)が続き、以下、「雇用対策の状況」(12.81点)、「工業振興の状況」(11.76点)、「商業振興の状況」(11.48点)、「公共交通機関の状況」(8.89点)などの順となっています。[図表9～10参照]

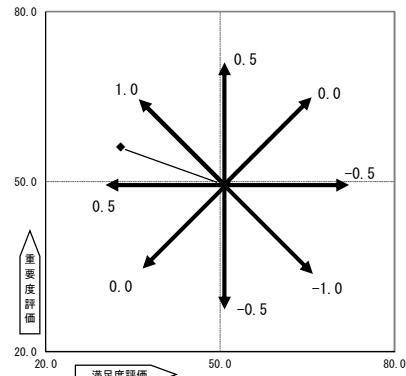
※優先度の算出方法

- ① 散布図を作成するため満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。
例：「雇用対策の状況」→満足度偏差値 31.92…、重要度偏差値 55.26…
- ② ①で算出した偏差値から平均（中心）からの距離を算出する。
例：「雇用対策の状況」→ $18.82\dots = \sqrt{(31.92-50)^2 + (55.26-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。
例：「雇用対策の状況」→28.77度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる。）。
例：「雇用対策の状況」→ $0.6803 = (90-28.77) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と④で算出された修正指数から優先度を算出する。
例：「雇用対策の状況」→ $12.81 = 18.82\dots \times 0.6803\dots$

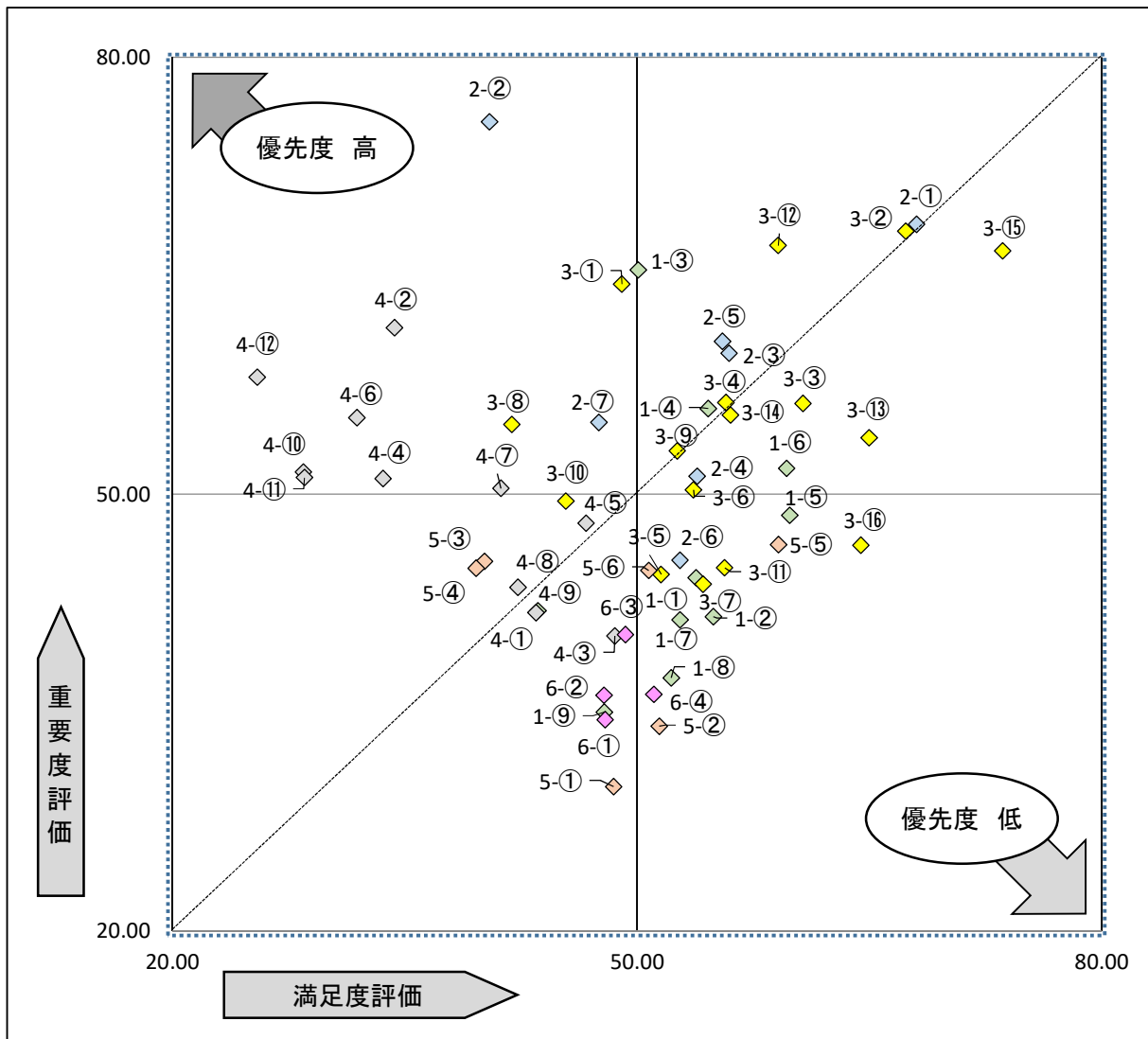
距離・角度



指数の設定



図表9 満足度と重要度の相関（全体／優先度）



図表 9-1 優先度（全体）

1 人権・教育 文化分野	1-①人権尊重のまちづくりの状況	-5.99	
	1-②男女共同参画の状況	-8.15	
	1-③学校教育環境	7.66	第10位
	1-④青少年の健全育成環境	0.59	
	1-⑤生涯学習環境	-5.90	
	1-⑥スポーツ環境	-3.76	
	1-⑦文化芸術環境	-6.32	
	1-⑧文化遺産の保存・活用状況	-7.80	
	1-⑨国内外との交流活動の状況	-6.20	
2 保健・医療 福祉分野	2-①保健サービス提供体制	0.21	
	2-②医療体制	19.81	第1位
	2-③子育て支援体制	1.70	
	2-④障害者支援体制	-1.24	
	2-⑤高齢者支援体制	2.27	
	2-⑥地域福祉体制	-4.53	
	2-⑦バリアフリー化の状況	4.37	
3 生活環境 分野	3-①防災体制	7.84	第9位
	3-②消防・救急体制	0.33	
	3-③交通安全体制	-2.04	
	3-④防犯体制	0.25	
	3-⑤消費者対策の状況	-3.86	
	3-⑥環境保全の状況	-1.65	
	3-⑦新エネルギー導入の状況	-6.65	
	3-⑧景観の状況	7.89	第8位
	3-⑨公園・緑地の整備状況	0.16	
	3-⑩親水空間の整備状況	2.01	
	3-⑪緑化の推進状況	-7.31	
	3-⑫ごみ処理・リサイクル等の状況	3.64	
	3-⑬し尿処理の状況	-5.25	
	3-⑭生活排水処理の状況	-0.28	
	3-⑮上水道の状況	-3.12	
3-⑯墓地・火葬場の整備状況	-9.69		
4 生活基盤・産業 分野	4-①土地利用の状況	-0.73	
	4-②道路の整備状況	17.48	第3位
	4-③住宅施策の状況	-4.01	
	4-④公共交通機関の状況	8.89	第7位
	4-⑤情報環境	0.59	
	4-⑥雇用対策の状況	12.81	第4位
	4-⑦農業振興の状況	4.65	
	4-⑧林業振興の状況	0.57	
	4-⑨水産業振興の状況	-0.72	
	4-⑩工業振興の状況	11.76	第5位
	4-⑪商業振興の状況	11.48	第6位
	4-⑫観光振興の状況	18.09	第2位
5 市民参画 分野	5-①NPO、市民活動の育成状況	-9.12	
	5-②コミュニティ活動の状況	-8.90	
	5-③行財政改革の推進の状況	2.40	
	5-④広域的な連携の状況	2.42	
	5-⑤広報・広聴の状況	-7.14	
	5-⑥行政情報の提供の状況	-3.12	
6 男女共同 参画分野	6-①男女共同参画の意識の浸透状況	-6.50	
	6-②男女共同参画に関する教育の推進状況	-5.63	
	6-③配偶者暴力等に関する相談体制の状況	-4.36	
	6-④地域活動における男女共同参画の推進	-7.58	

図表9-2 優先度（全体）

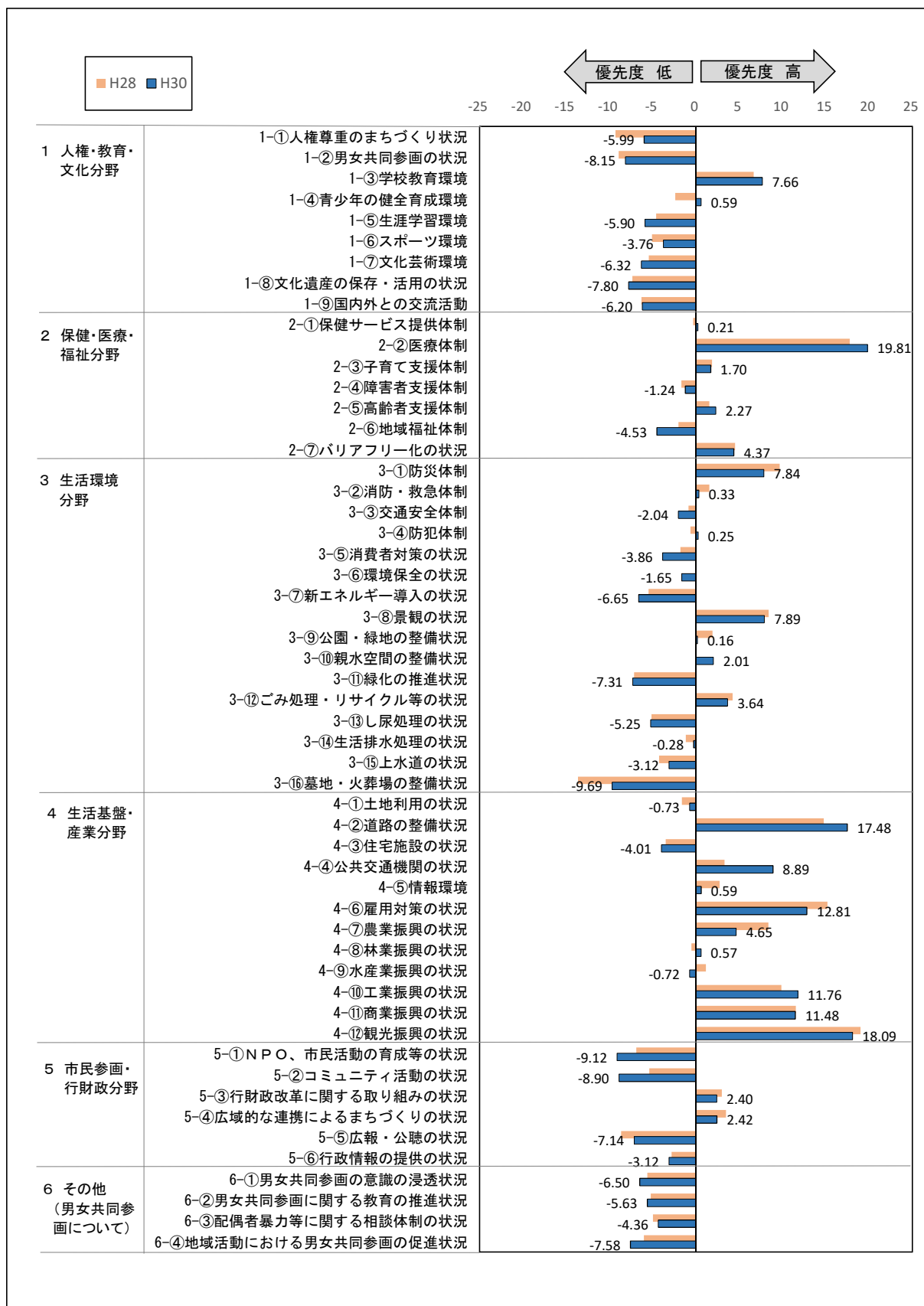
【上位、下位 各10項目】

（単位：評価点）

	H30年	H28年	H26年	H24年	H22年
優先度高い	第1位 2-②医療体制(19.81)	第1位 4-⑫観光振興の状況(19.02)	第1位 2-②医療体制(19.03)	第1位 4-⑥雇用対策の状況(18.18)	第1位 4-⑥雇用対策の状況(20.70)
	第2位 4-⑫観光振興の状況(18.09)	第2位 2-②医療体制(17.77)	第2位 4-⑥雇用対策の状況(16.88)	第2位 4-②道路の整備状況(16.38)	第2位 4-⑫観光振興の状況(16.44)
	第3位 4-②道路の整備状況(17.48)	第3位 4-⑥雇用対策の状況(15.17)	第3位 4-⑫観光振興の状況(14.90)	第3位 4-⑫観光振興の状況(16.24)	第3位 2-②医療体制(15.59)
	第4位 4-⑥雇用対策の状況(12.81)	第4位 4-②道路の整備状況(14.75)	第4位 4-⑩商業振興の状況(14.02)	第4位 2-②医療体制(13.16)	第4位 4-⑩工業振興の状況(14.67)
	第5位 4-⑩工業振興の状況(11.76)	第5位 4-⑩商業振興の状況(11.54)	第5位 4-②道路の整備状況(13.87)	第5位 3-①防災体制(12.84)	第5位 4-②道路の整備状況(12.17)
	第6位 4-⑩商業振興の状況(11.48)	第6位 4-⑩工業振興の状況(9.87)	第6位 4-⑩工業振興の状況(13.06)	第6位 4-⑩工業振興の状況(12.14)	第6位 4-⑩商業振興の状況(11.00)
	第7位 4-④公共交通機関の状況(8.89)	第7位 3-①防災体制(9.66)	第7位 3-①防災体制(10.19)	第7位 3-⑦新エネルギー導入の状況(11.94)	第7位 4-⑦農業振興の状況(10.99)
	第8位 3-⑤景観の状況(7.89)	第8位 3-⑤景観の状況(8.40)	第8位 4-⑦農業振興の状況(8.86)	第8位 4-⑩商業振興の状況(11.65)	第8位 1-③学校教育環境(4.82)
	第9位 3-①防災体制(7.84)	第9位 4-⑦農業振興の状況(8.37)	第9位 3-⑤景観の状況(6.75)	第9位 3-⑤景観の状況(6.31)	第9位 3-⑤景観の状況(4.44)
	第10位 1-③学校教育環境(7.66)	第10位 1-③学校教育環境(6.66)	第10位 1-③学校教育環境(6.34)	第10位 4-⑦農業振興の状況(6.18)	第10位 5-③行政改革の推進の状況(4.12)
	H30年	H28年	H26年	H24年	H22年
優先度低い	第1位 3-⑬墓地・火葬場の整備状況(-9.69)	第1位 3-⑬墓地・火葬場の整備状況(-13.62)	第1位 3-⑬墓地・火葬場の整備状況(-16.87)	第1位 3-⑬墓地・火葬場の整備状況(-11.26)	第1位 3-⑬墓地・火葬場の整備状況(-18.61)
	第2位 5-①NPO、市民活動の育成等の状況(-9.12)	第2位 1-①人権尊重のまちづくりの状況(-9.30)	第2位 6-④地域活動における男女共同参画の推進状況(-8.48)	第2位 1-⑨国内外との交流活動の状況(-10.73)	第2位 1-⑨国内外との交流活動の状況(-11.92)
	第3位 5-②コミュニティ活動の状況(-8.90)	第3位 1-②男女共同参画の状況(-8.93)	第3位 1-⑨国内外との交流活動の状況(-8.04)	第3位 1-⑧文化遺産の保存・活用状況(-9.72)	第3位 5-②コミュニティ活動の状況(-10.47)
	第4位 1-②男女共同参画の状況(-8.15)	第4位 5-⑤広報・広聴の状況(-8.66)	第4位 1-①人権尊重のまちづくりの状況(-8.03)	第4位 1-②男女共同参画の状況(-8.29)	第4位 5-①NPO、市民活動の育成状況(-9.75)
	第5位 1-⑧文化遺産の保存・活用の状況(-7.80)	第5位 1-⑧文化遺産の保存・活用状況(-7.35)	第5位 5-①NPO、市民活動の育成状況(-8.02)	第5位 5-②コミュニティ活動の状況(-8.29)	第5位 1-⑧文化遺産の保存・活用状況(-9.47)
	第6位 6-④地域活動における男女共同参画の促進状況(-7.58)	第6位 3-①緑化の推進状況(-7.15)	第6位 6-①男女共同参画の意識の浸透状況(-7.50)	第6位 6-④地域活動における男女共同参画の推進状況(-8.26)	第6位 1-②男女共同参画の状況(-8.38)
	第7位 3-①緑化の推進状況(-7.31)	第7位 5-①NPO、市民活動の育成状況(-6.90)	第7位 1-⑧文化遺産の保存・活用状況(-7.22)	第7位 5-①NPO、市民活動の育成状況(-8.21)	第7位 1-⑤生涯学習環境(-6.85)
	第8位 5-⑤広報・広聴の状況(-7.14)	第8位 1-⑨国内外との交流活動の状況(-6.29)	第8位 5-②コミュニティ活動の状況(-7.04)	第8位 1-⑤生涯学習環境(-7.88)	第8位 5-⑤広報・広聴の状況(-6.53)
	第9位 3-⑦新エネルギー導入の状況(-6.65)	第9位 6-④地域活動における男女共同参画の推進状況(-6.03)	第9位 5-⑤広報・広聴の状況(-6.86)	第9位 5-⑤広報・広聴の状況(-7.35)	第9位 3-①緑化の推進状況(-6.47)
	第10位 6-①男女共同参画の意識の浸透状況(-6.50)	第10位 6-①男女共同参画の意識の浸透状況(-5.62)	第10位 6-②男女共同参画に関する教育の推進状況(-6.74)	第10位 6-②男女共同参画に関する教育の推進状況(-7.12)	第10位 1-⑦文化芸術環境(-6.09)

図表 10 満足度と重要度の相関（全体／優先度）

（単位：評価点）



3 あなたの日頃の行動などについて

(1) 週1回以上のスポーツ活動

問4① あなたは、週1回以上、スポーツ活動をしていますか。



- スポーツ活動をしている人は26.3%であり、前回より増加。

週1回以上のスポーツ活動については、している人が26.3%、していない人が72.6%になっています。

性別での差は、ほとんどありませんでした。

年齢で見ると、10-20代(35.4%)で最も高く、次いで70歳以上の35.0%になっていますが、40代(20.9%)で最も低くなっています。

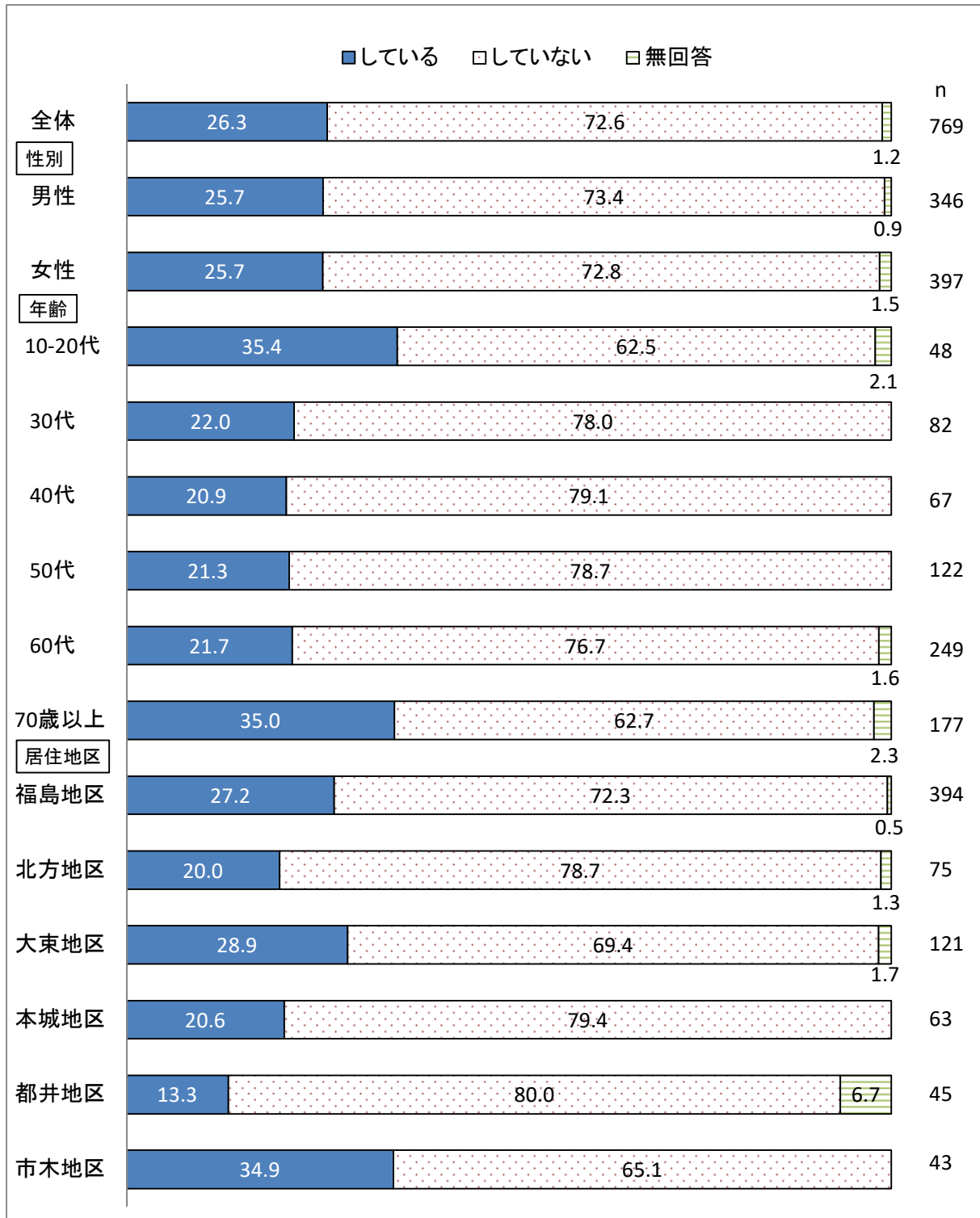
居住地区では、市木地区が34.9%で最も高く、都井地区で13.3%と最も低くなっています。

平成28年と比較すると、全体で増加となり、特に、居住地区では市木地区で大きく増加しています。[図表11参照]

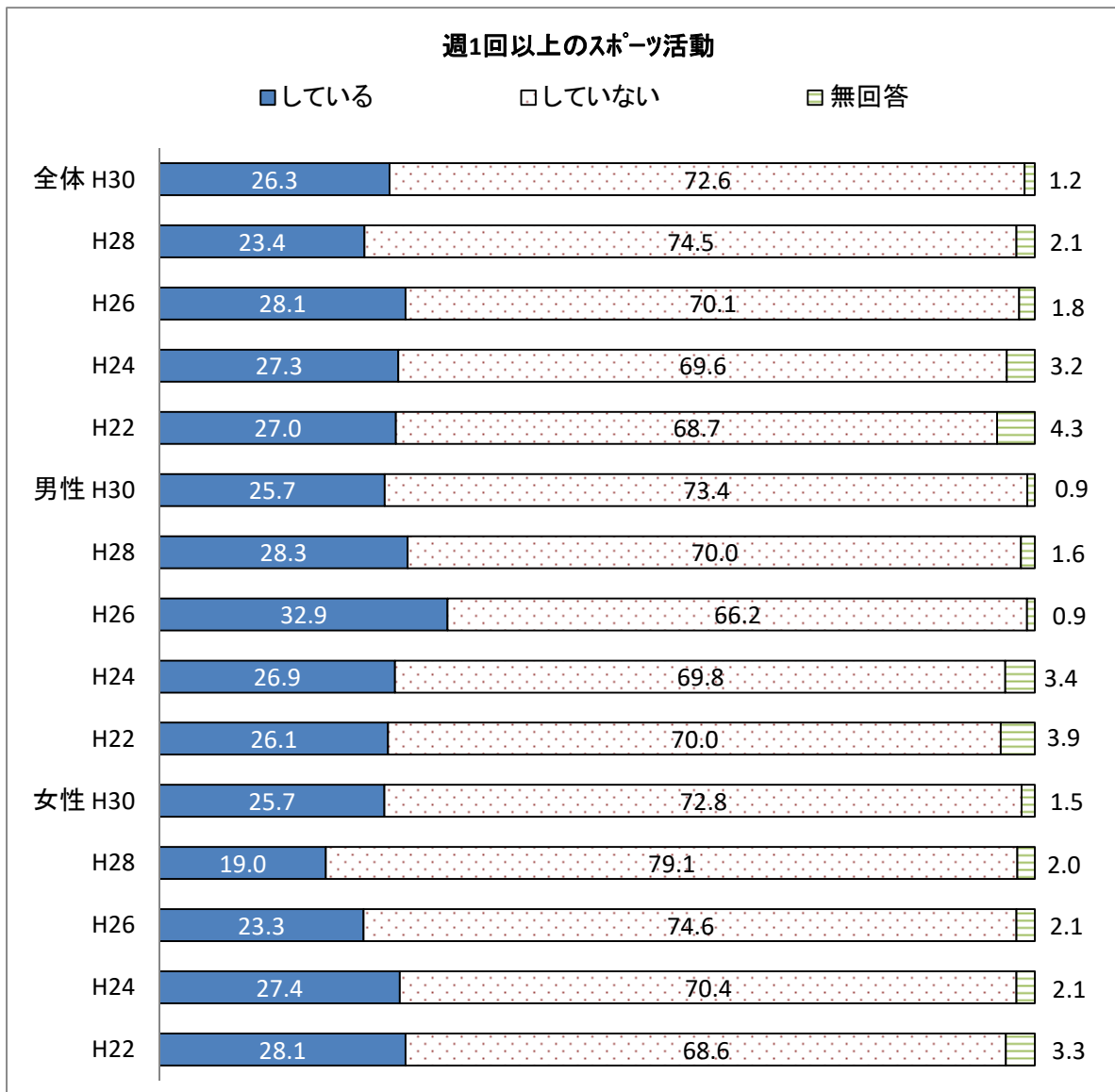
図表 11 週1回以上のスポーツ活動

(全体・性別・年齢・居住地区)

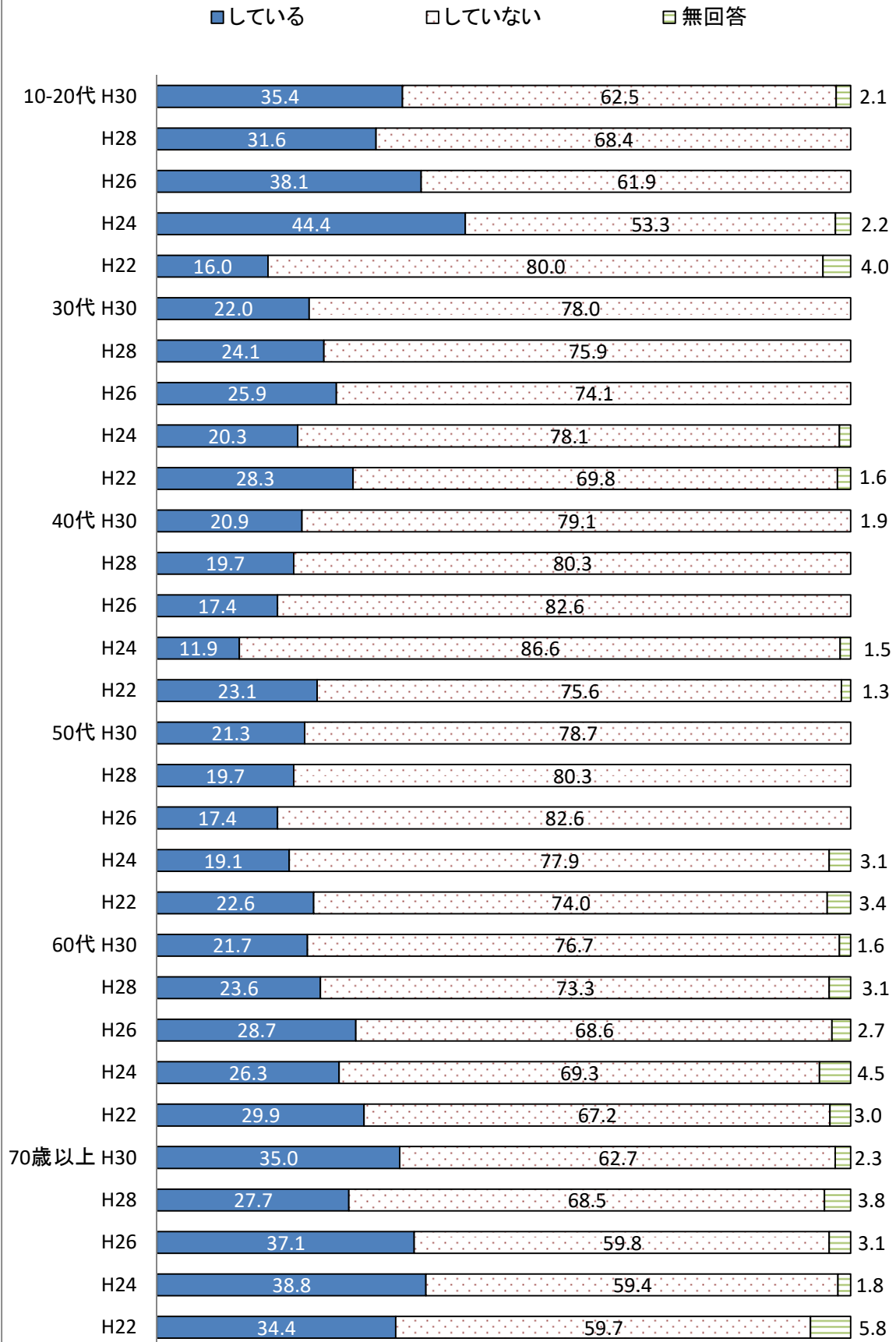
(単位：%)



■過去の調査との比較



週1回以上のスポーツ活動



(2) 健康増進への取り組み

問4② あなたは、日頃、健康増進のための取り組み（食生活の改善や運動など）をしていますか。



- 健康増進のための取り組みをしている人は 58.9%であり、前回より増加。

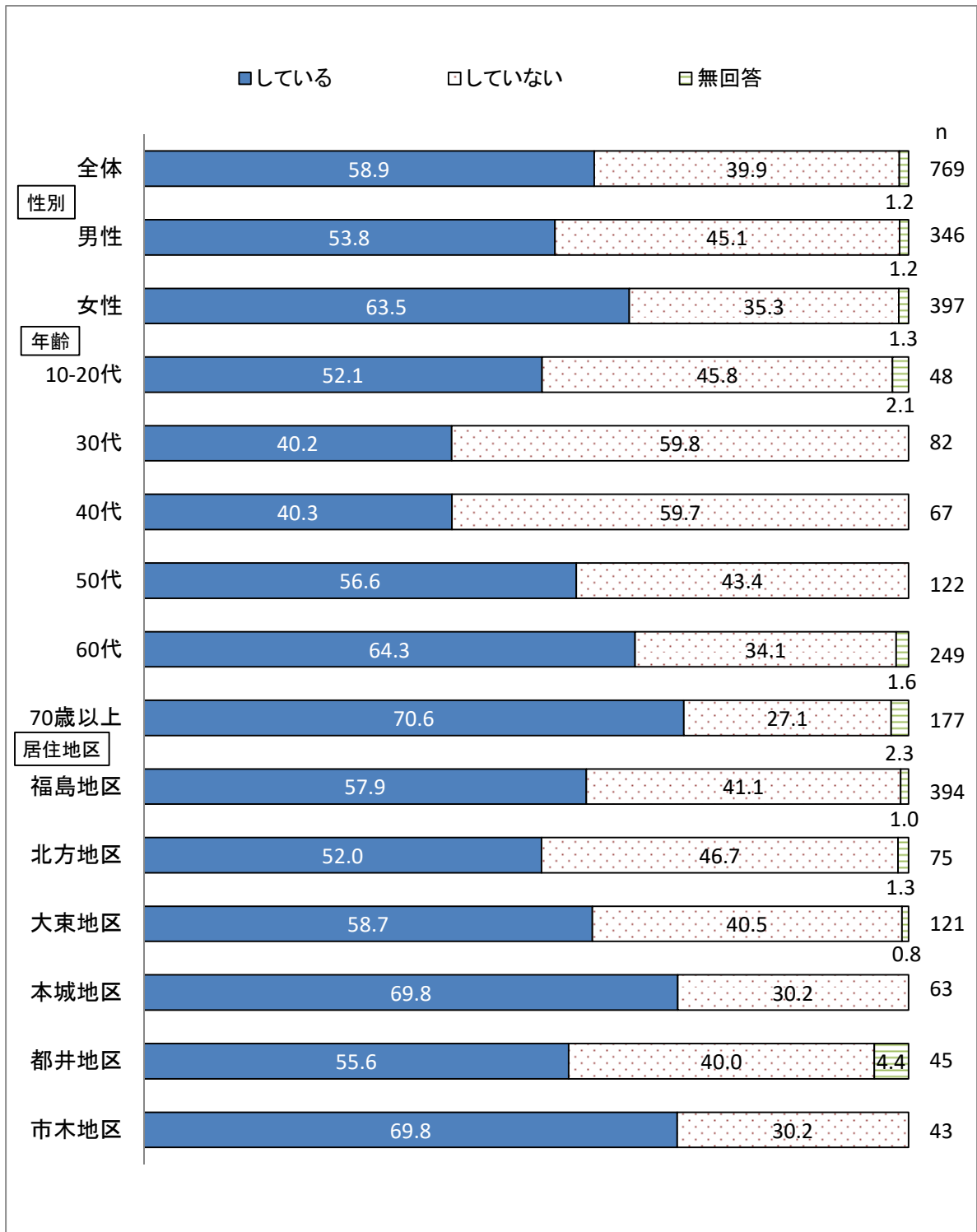
健康増進のための取り組みについては、している人が 58.9%、していない人が 39.9%となっています。

性別で見ると、女性が男性を（9.7ポイント）上回っています。年齢で見ると、60代（64.3%）、70歳以上（70.6%）と高くなっていますが、30代（40.2%）、40代（40.3%）と低くなっています。居住地区では、本城地区と市木地区で 69.8%と高くなっています。

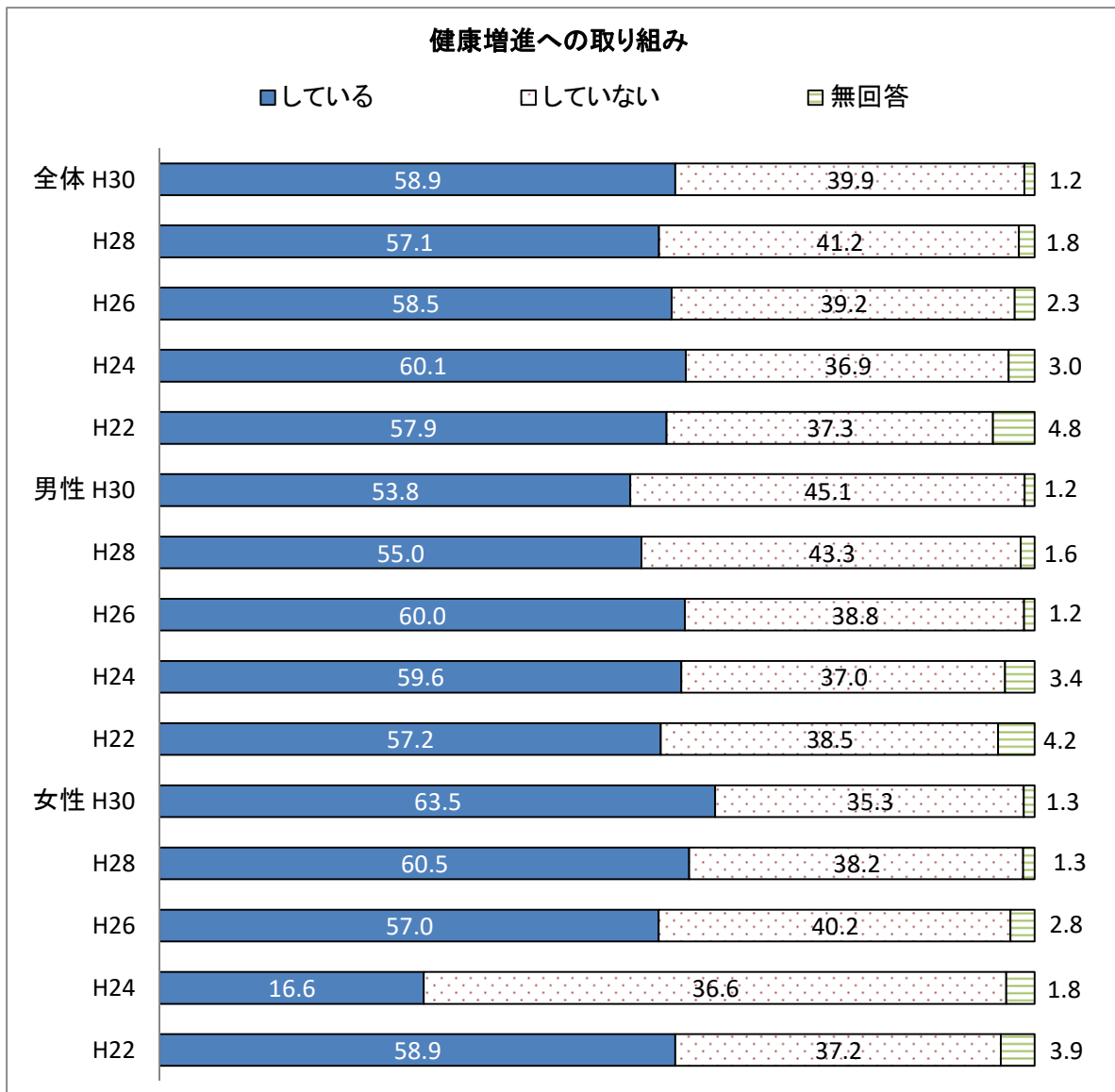
平成28年と比較すると、性別では男性は減少し、女性は増加しています。年齢では、10-20代で減少し、70歳以上で増加しています。[図表12参照]

図表 12 健康増進への取り組み
 (全体・性別・年齢・居住地区)

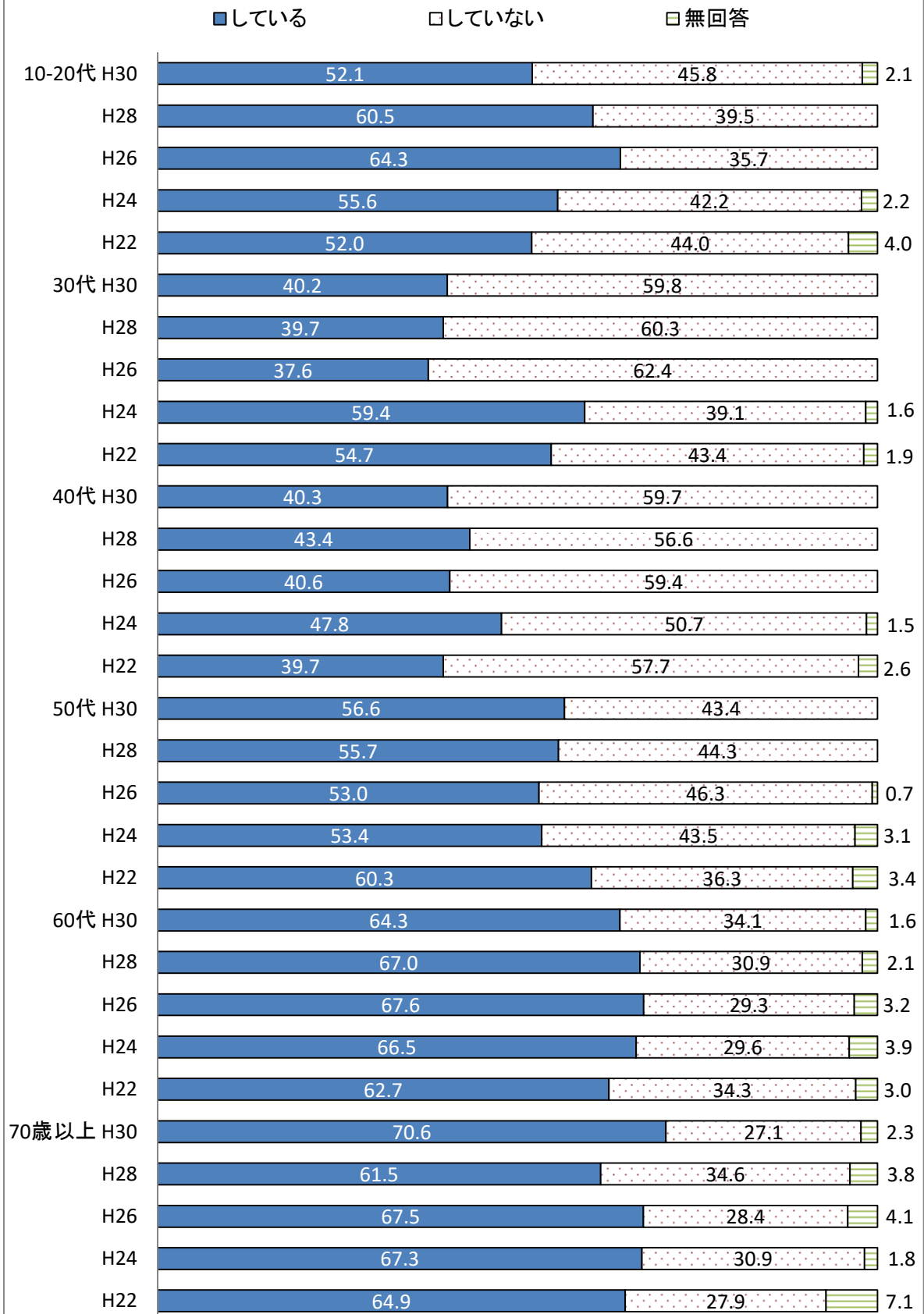
(単位：%)



■過去の調査との比較



健康増進への取り組み



(3) 地域福祉活動への参加

問4③ あなたは、身近な地域での見守り、支え合いなど、地域福祉活動に参加していますか。



- 地域福祉活動に参加している人は22.0%であり、前回より減少。

地域福祉活動については、参加している人が22.0%、参加していない人が77.0%となっています。

性別で見ると、男性の参加がやや高くなっています。

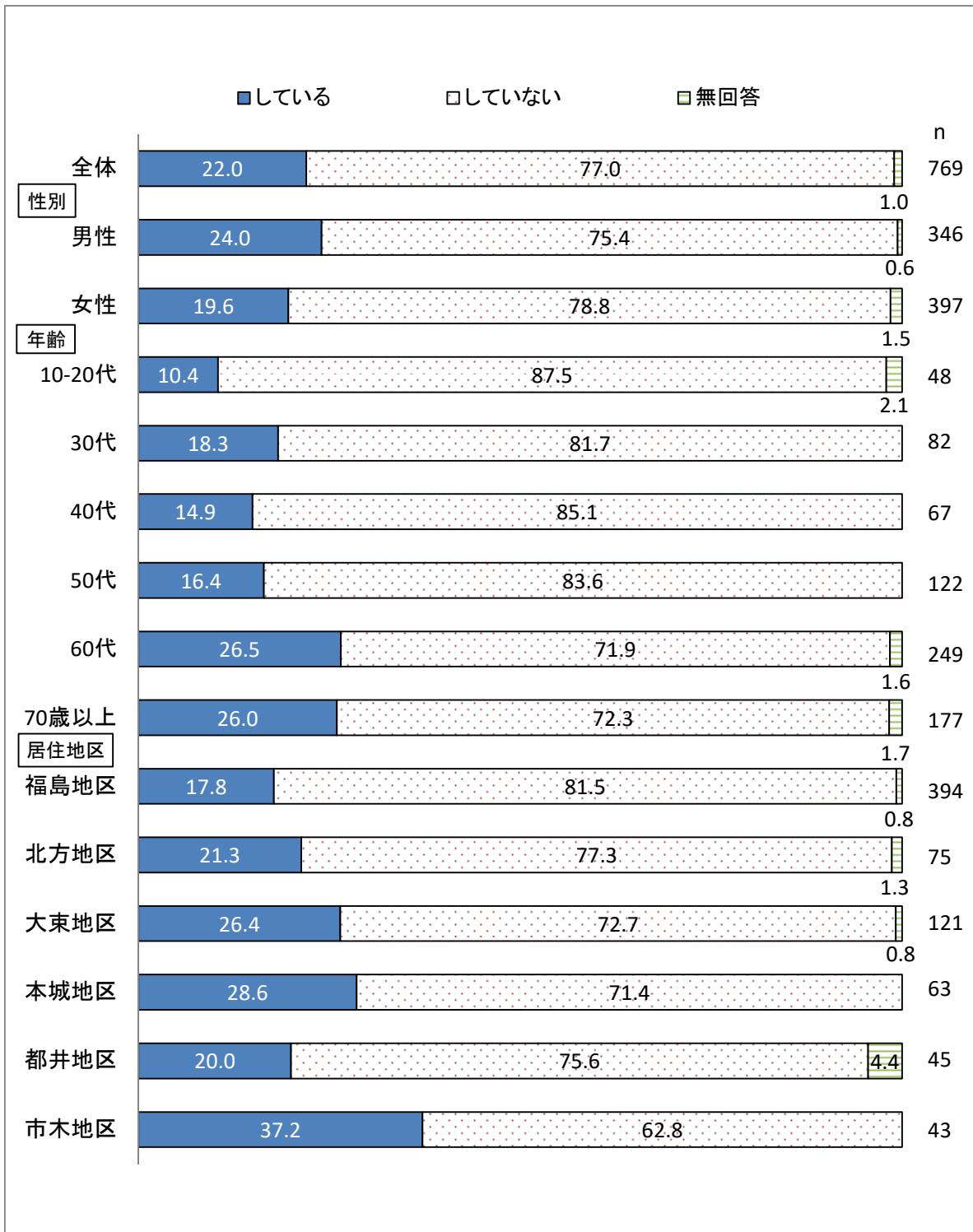
年齢で見ると、概ね加齢とともに参加率が上昇する傾向がみられ、70歳以上では26.0%になっています。

居住地区で見ると、参加は市木地区(37.2%)で最も高く、本城地区(28.6%)、大東地区(26.4%)、北方地区(21.3%)の順になっています。

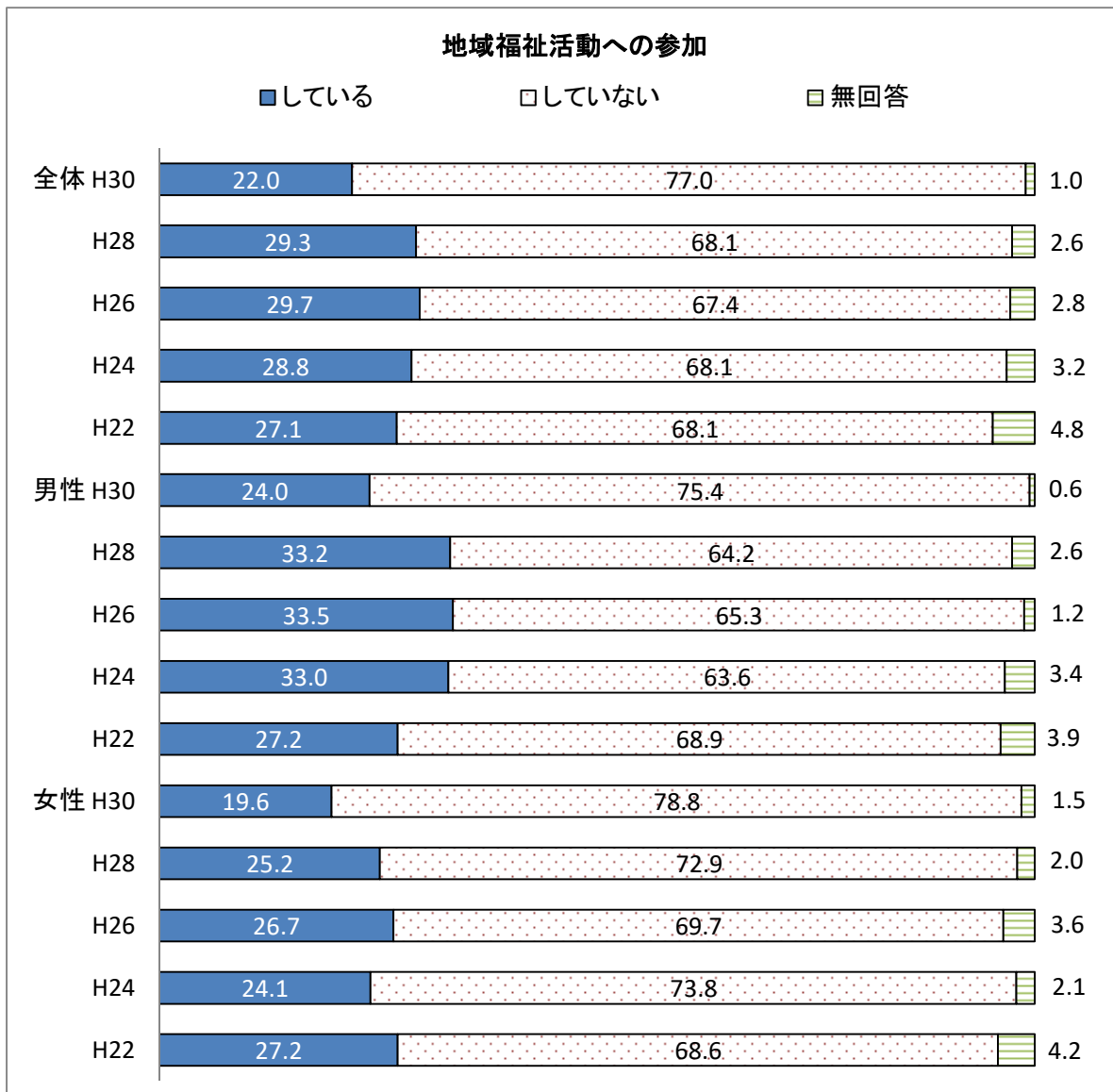
平成28年と比較すると、全体、性別ともに減少しています。年齢でも、すべての年齢で減少しており、特に前回31.6%であった40代が16.7ポイント減少し約半分の14.9%になっています。[図表13参照]

図表 13 地域福祉活動への参加
 (全体・性別・年齢・居住地区)

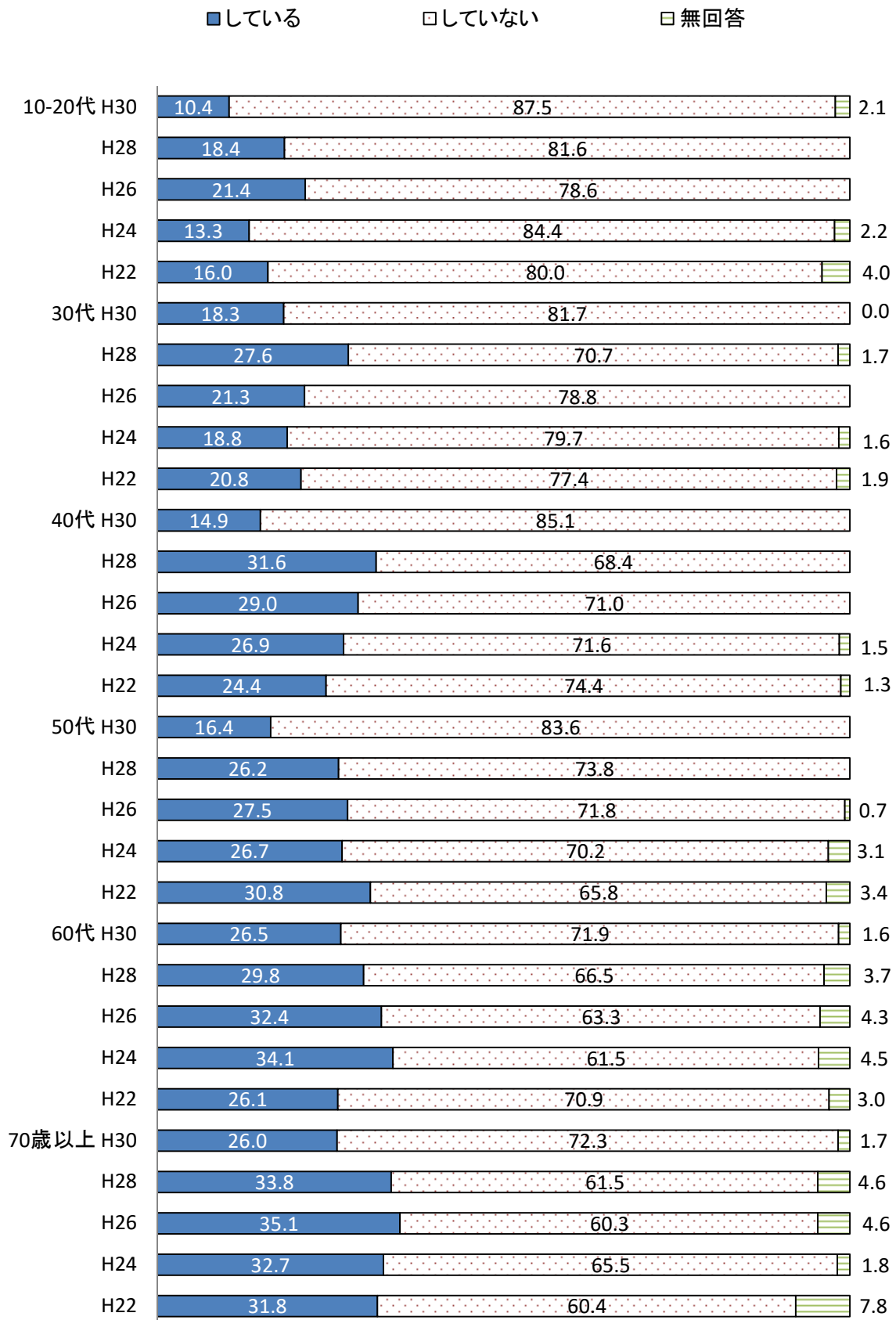
(単位：%)



■過去の調査との比較



地域福祉活動への参加



(4) 避難路・避難場所

問4④ あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。



- 避難路・避難場所を知っている人は77.1%であり、前回からほぼ横ばい。

避難路・避難場所を知っているかについては、知っている人が77.1%、知らない人が21.7%となっています。

性別で見ると、男性の方がわずかに高くなっています。

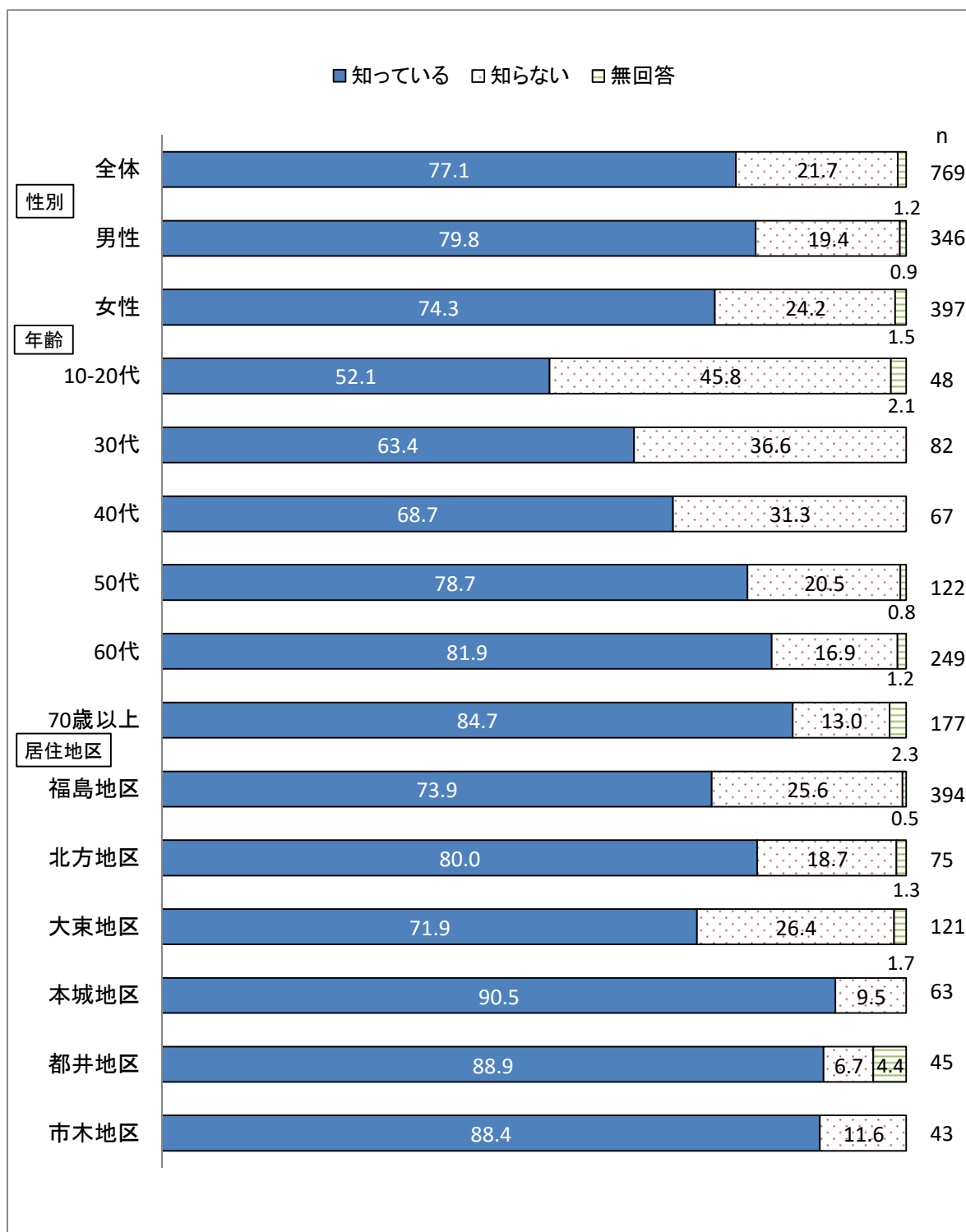
年齢で見ると、10-20代が52.1%と低くなっていますが、70歳以上で84.7%と最も高く、加齢とともに高くなる傾向にあります。

居住地区で見ると、知っている率は本城地区(90.5%)で最も高く、都井地区、市木地区が90%近くになっています。大東地区(71.9%)は最も低く、福島地区(73.9%)とともに、他の地区より下回っています。

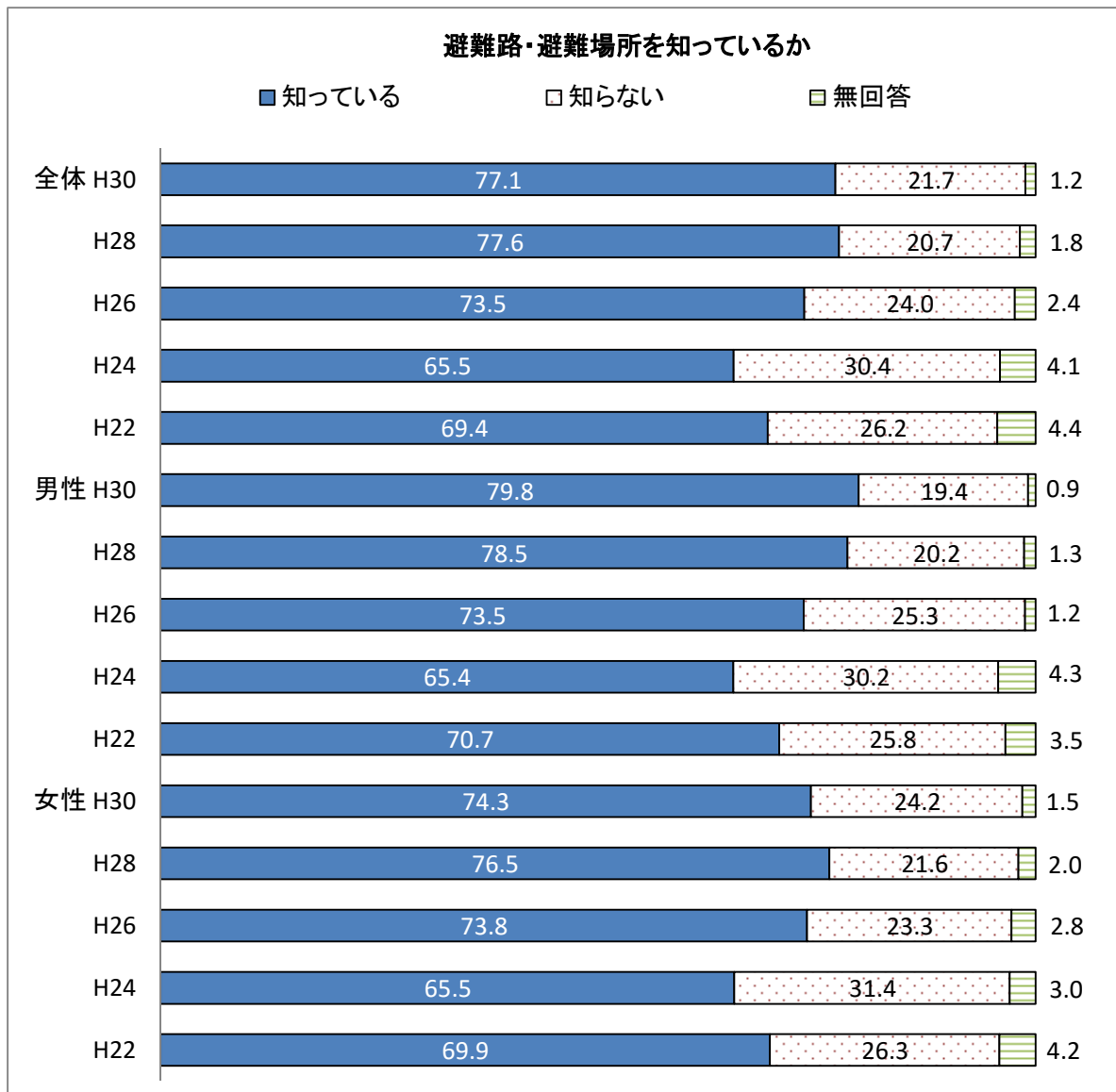
平成28年と比較すると、全体、性別ともにほぼ横ばいになっています。年齢では、10-20代で大きく減少していますが、他の年齢ではほぼ横ばいとなっています。[図表14参照]

図表 14 避難路・避難場所
(全体・性別・年齢・居住地区)

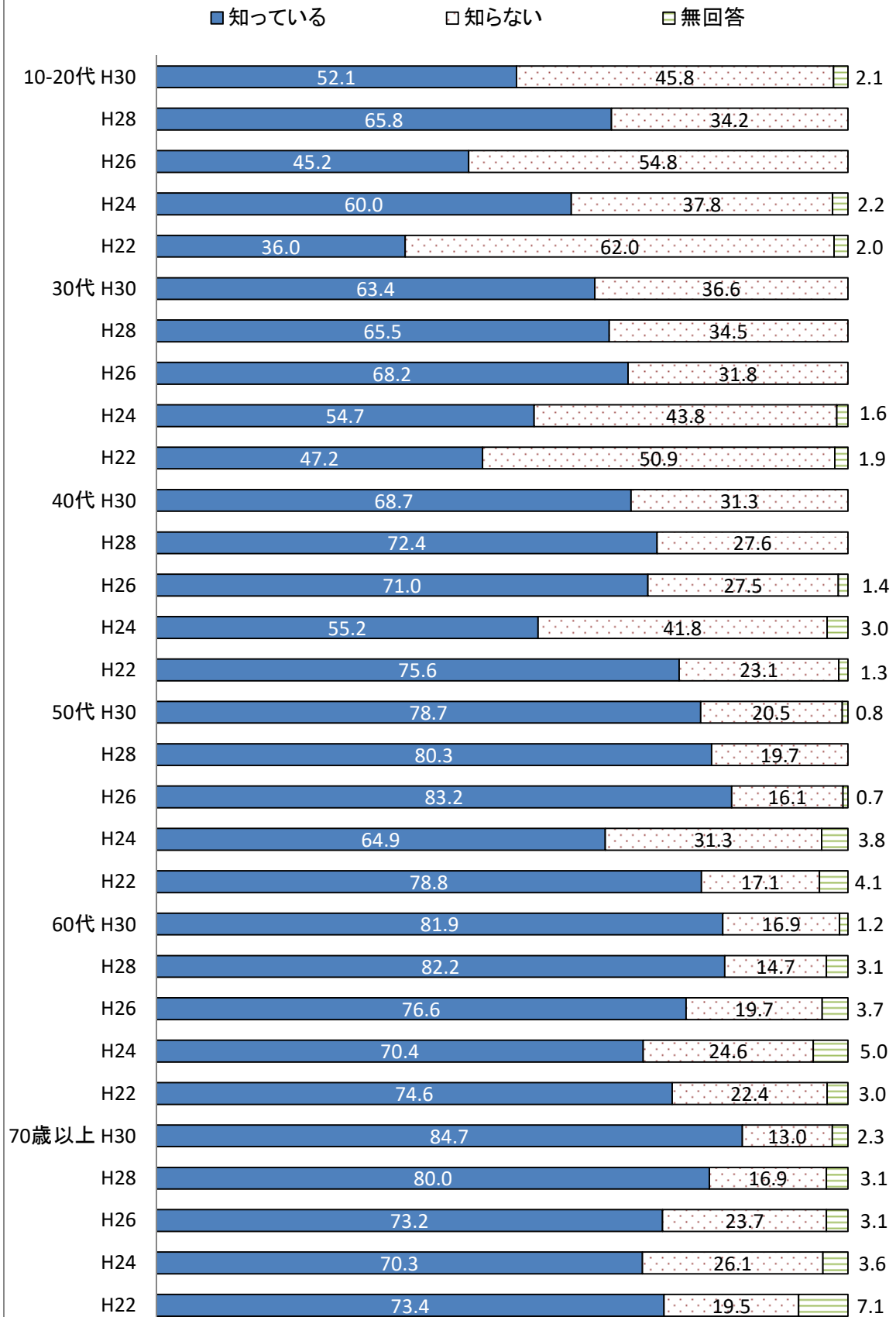
(単位：%)



■過去の調査との比較



避難路・避難場所を知っているか



(5) 防火・防災訓練への参加

問4⑤ あなたは、この1年間に、防火・防災訓練に参加しましたか。



- 防火・防災訓練に参加した人は22.5%であり、前回より減少。

防火・防災訓練への参加については、参加した人が22.5%、しなかった人が76.2%になっています。

性別で見ると、男性で参加した人が女性より4.7ポイント高くなっています。

年齢で見ると、参加率は40代(31.3%)、10-20代(29.2%)が高く、50代(19.7%)、70歳以上(18.6%)で低くなっています。

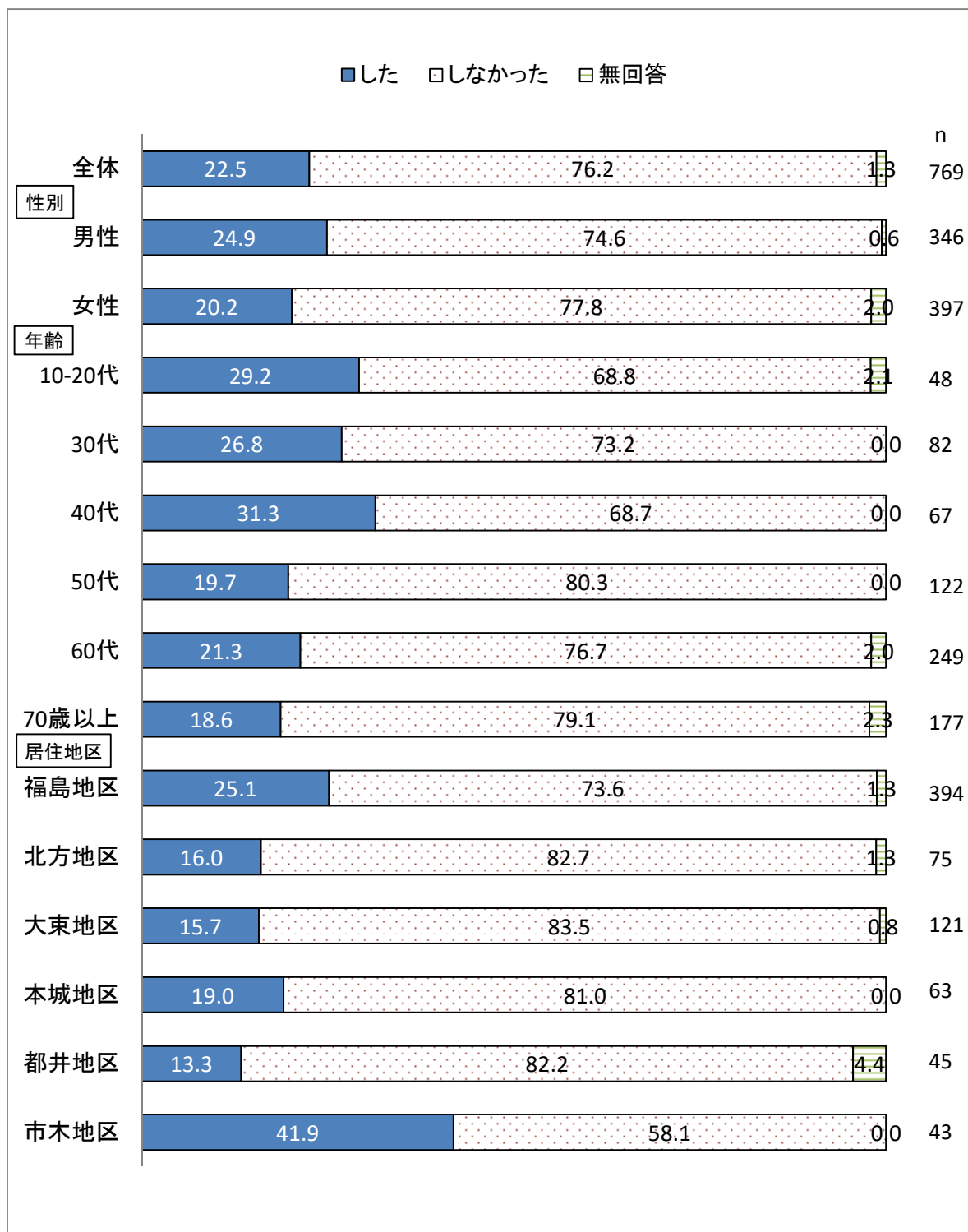
居住地区では、市木地区(41.9%)が最も高く、都井地区(13.3%)が最も低くなっています。

平成28年と比較すると、全体で減少しており、性別では男性の参加が減少しています。年齢では、50代の参加が特に減少していますが、その他の年齢では、ほぼ横ばいになっています。[図表15参照]

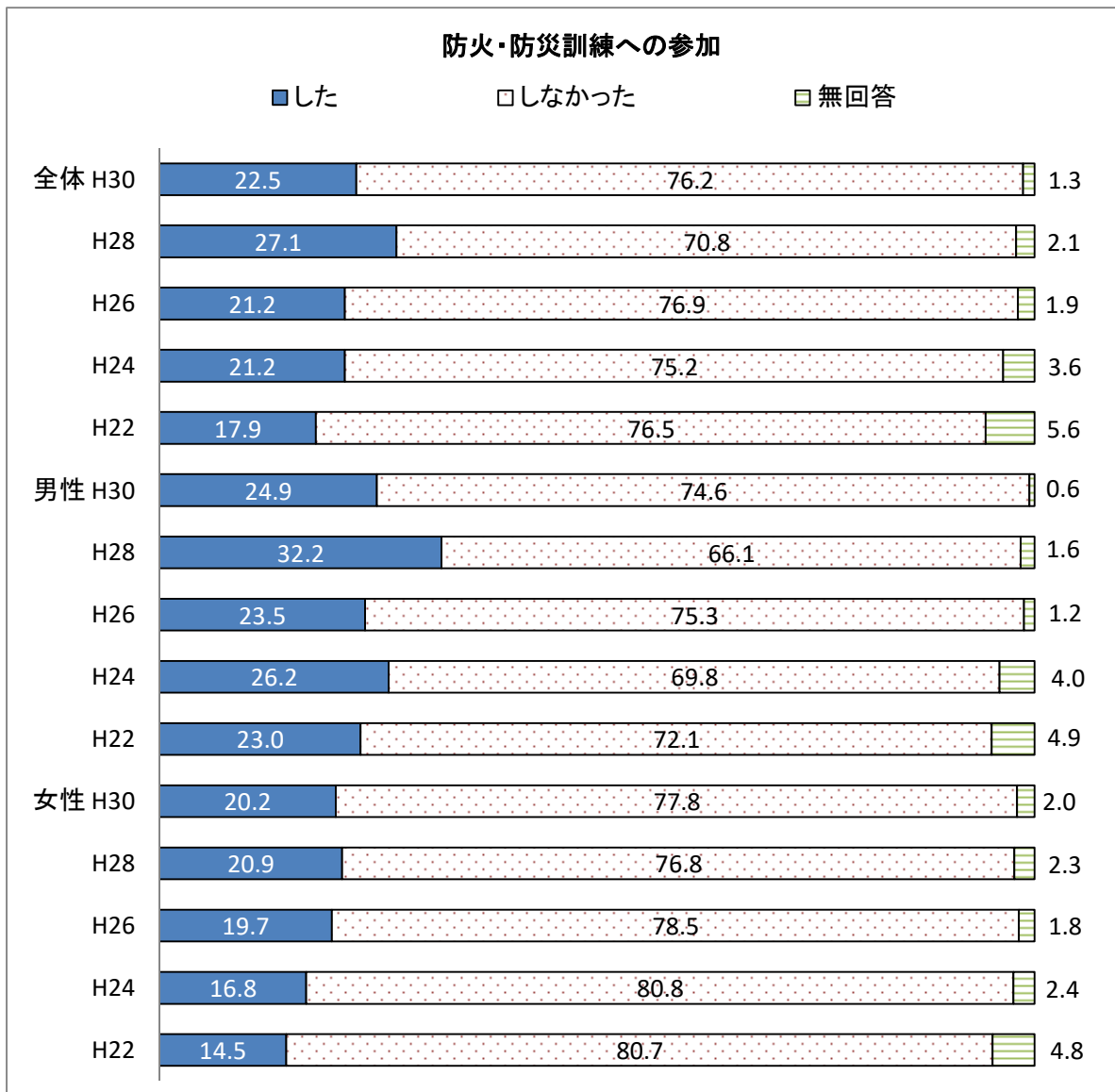
図表 15 防火・防災訓練への参加

(全体・性別・年齢・居住地区)

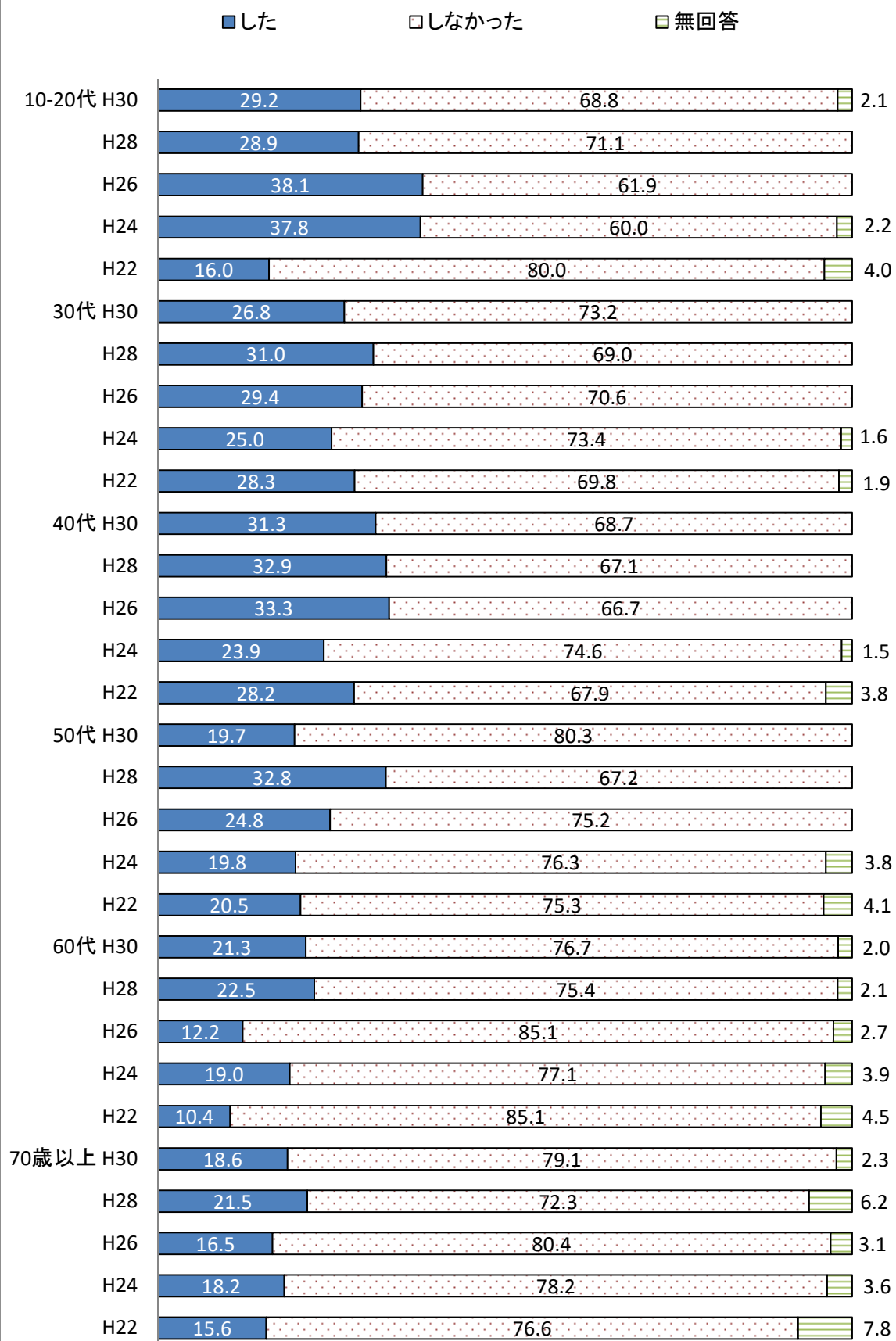
(単位：%)



■過去の調査との比較



防火・防災訓練への参加



(6) 地域の防犯活動等

問4⑥ あなたは、身近な地域での防犯活動・パトロール活動に参加していますか。



● 防犯活動・パトロール活動に参加している人は7.9%であり、前回より減少。

防犯活動・パトロール活動については、参加している人が7.9%、していない人は90.4%になっています。

性別で見ると、男性で参加している人が約7ポイント女性より高くなっています。

年齢で見ると、60代、70歳以上で参加している人は5.6%と最も低く、最も参加率の高い40代でも13.4%となっています。

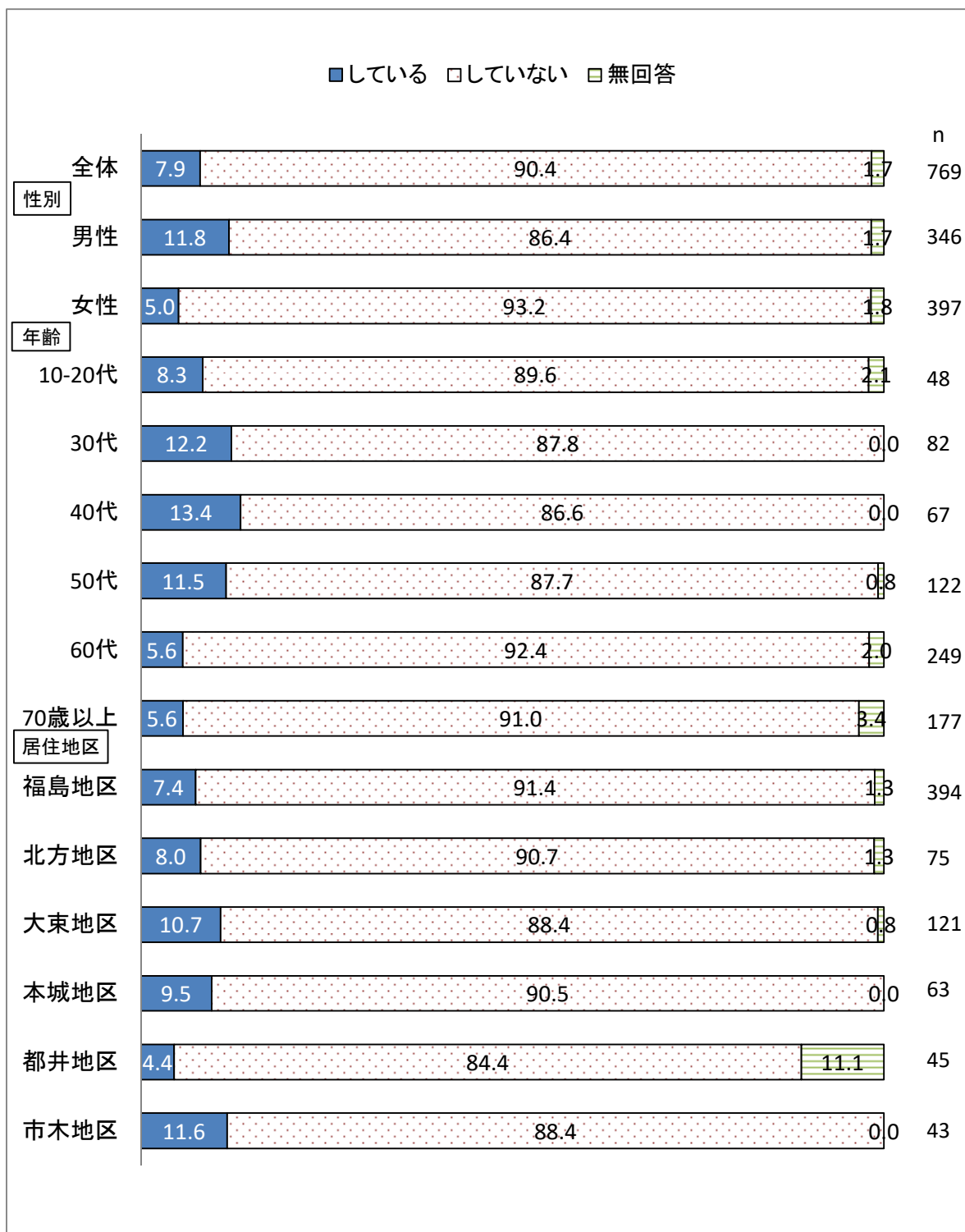
居住地区で見ると、市木地区(11.6%)、大東地区(10.7%)で高く、都井地区(4.4%)で最も低くなっています。

平成28年と比較すると、全体では3ポイント減少しています。性別では男女ともに減少しています。年齢では10-20代以上が増加しているのに対し、50代では横ばい、その他の年齢では減少しています。[図表16参照]

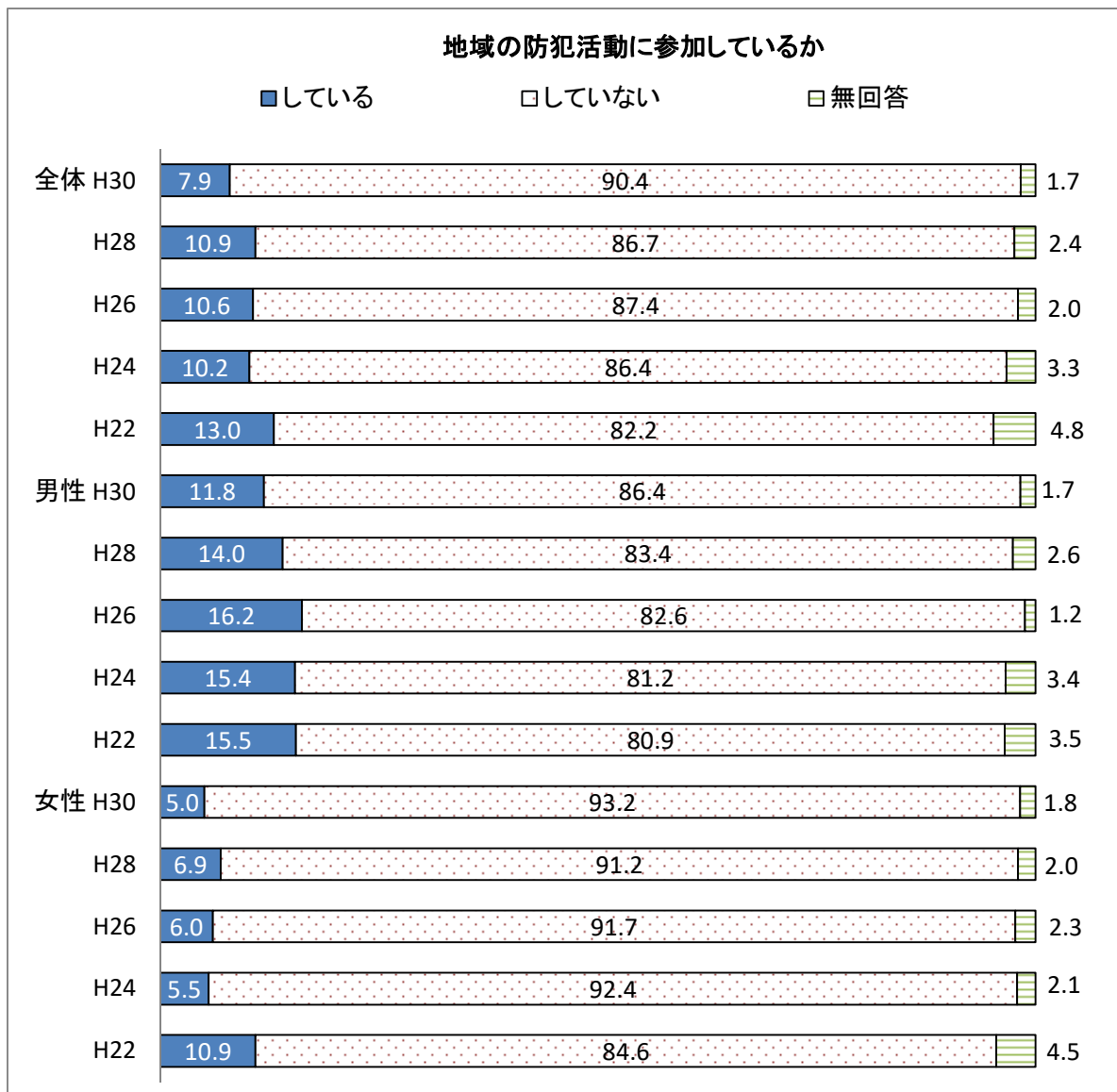
図表 16 地域の防犯活動等への参加

(全体・性別・年齢・居住地区)

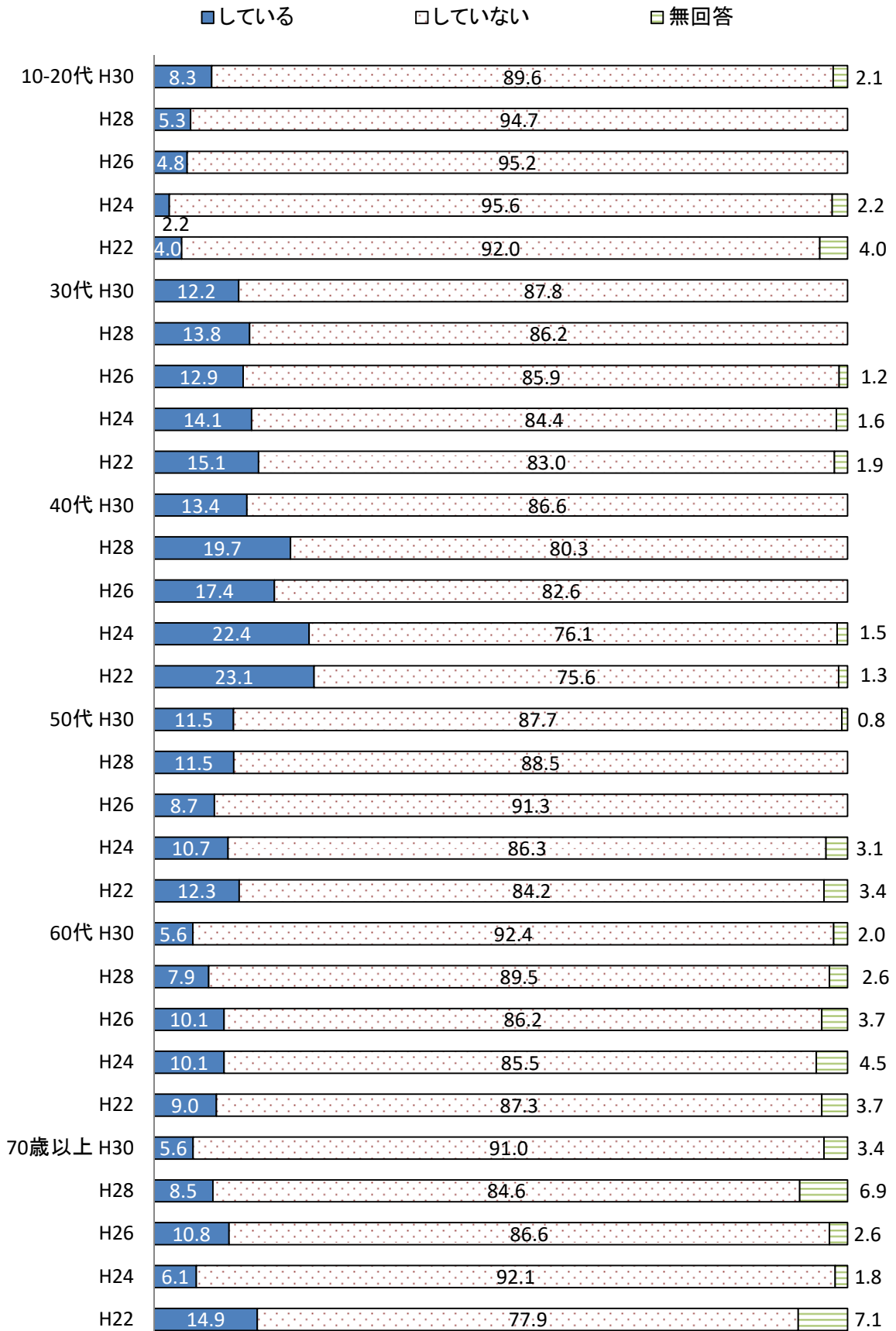
(単位：%)



■過去の調査との比較



地域の防犯活動に参加しているか



(7) 環境に配慮した生活

問4⑦ あなたは、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。



- 環境に配慮した生活をしている人は70.7%であり、前回より増加。

環境に配慮した生活については、している人が70.7%、していない人が27.3%となっています。

性別で見ると、女性が7.5ポイント男性より高く、年齢で見ると、している率は70歳以上(79.7%)で最も高く、60代(64.7%)で最も低くなっています

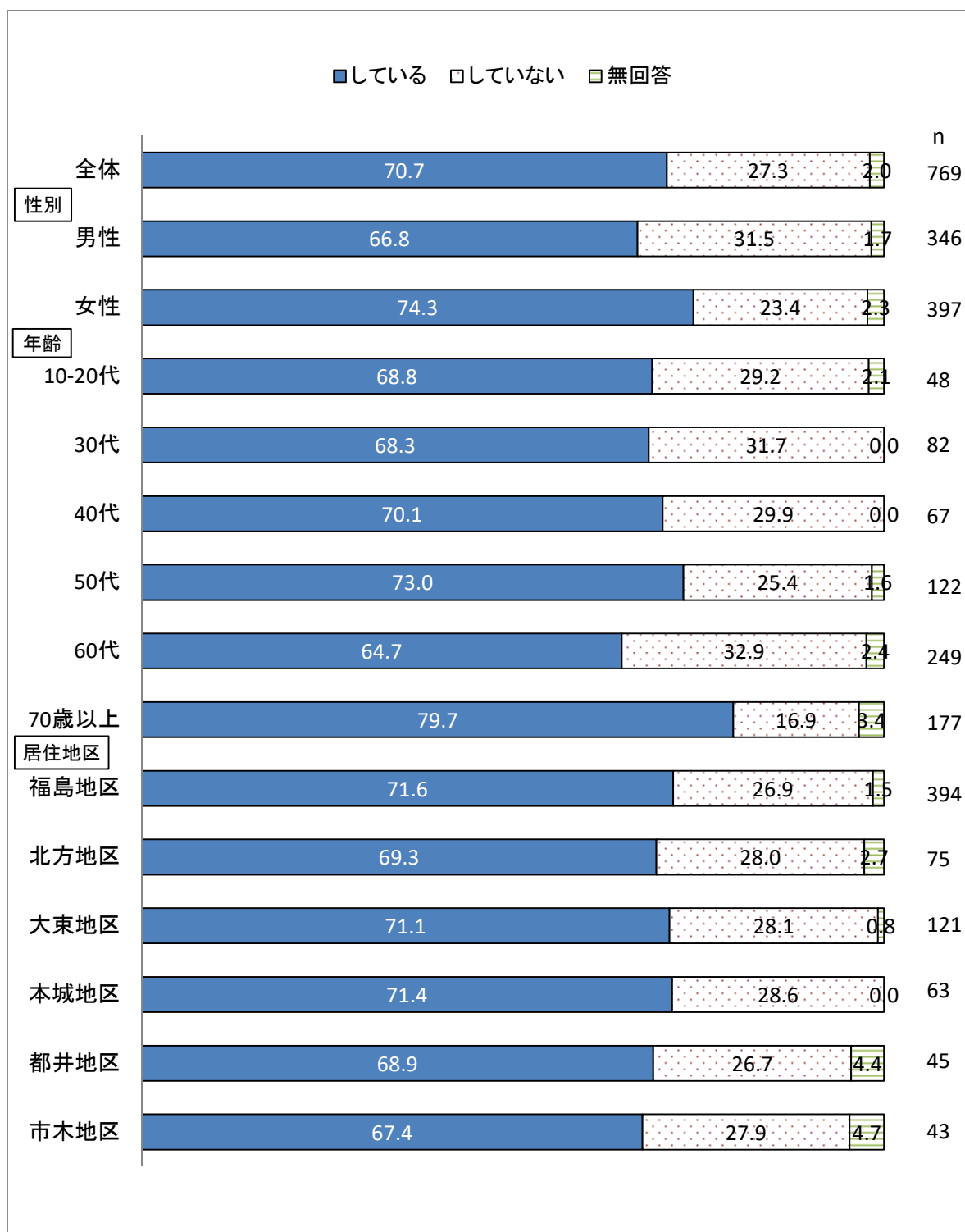
居住地区で見ると、福島地区(71.6%)、本城地区(71.4%)、大東地区(71.1%)で高く、市木地区(67.4%)で最も低くなっています。

平成28年と比較すると、性別では男性が減少したものの、女性は増加しています。年齢では、30代、60代で減少しているものの、その他の年齢では増加しています。

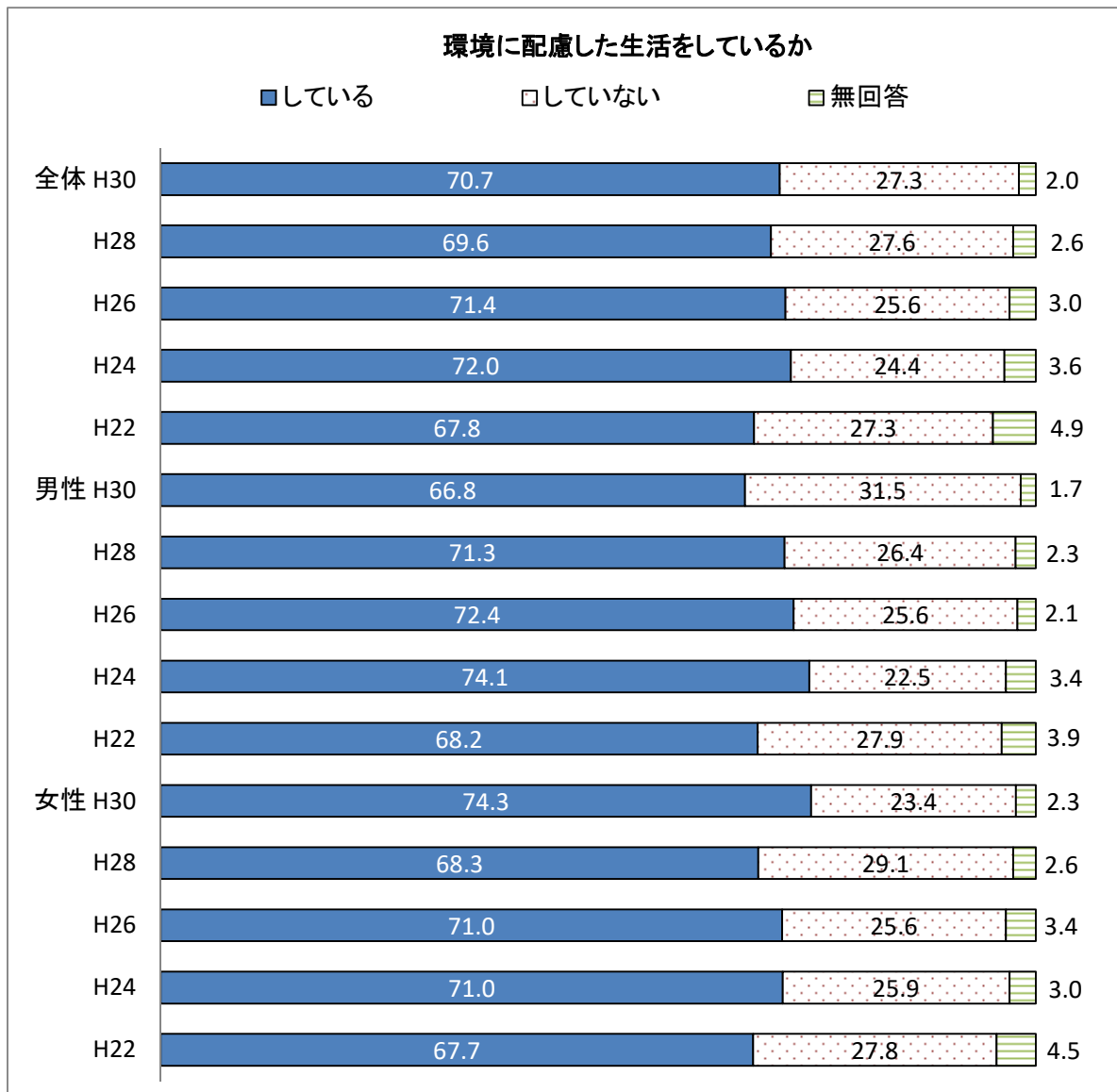
[図表17参照]

図表 17 環境に配慮した生活
(全体・性別・年齢・居住地区)

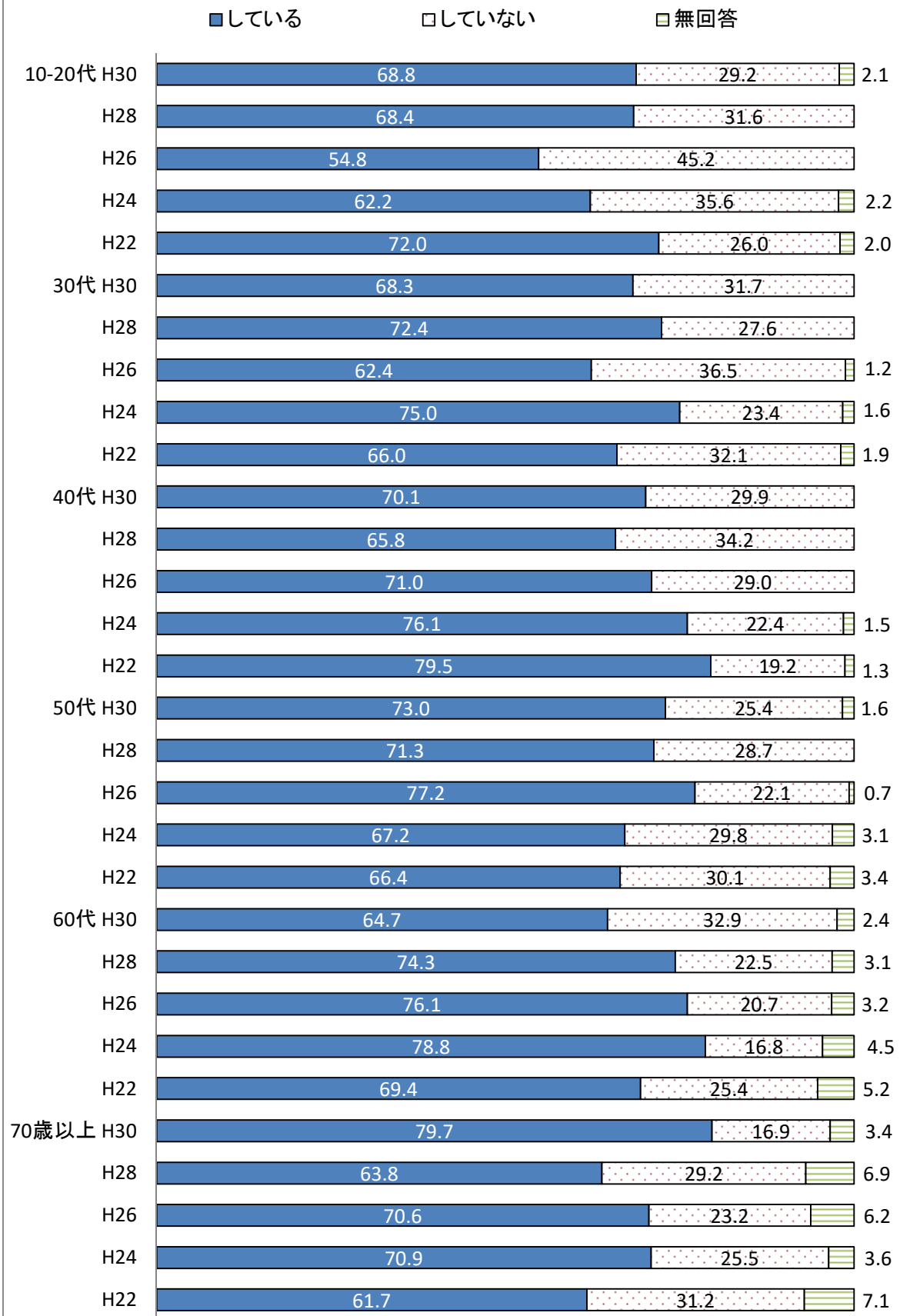
(単位：%)



■過去の調査との比較



環境に配慮した生活をしているか



(8) 地元の公園の維持管理

問4⑧ あなたは、地元の公園など公共施設の維持管理（草刈りや清掃など）に参加していますか。



● 公園などの維持管理に参加している人は43.7%であり、前回より減少。

地元の公園の維持管理については、参加している人が43.7%、参加していない人が55.0%となっています。

性別で見ると、男性で参加している人が12.5ポイント女性より高くなっています。

年齢で見ると、10-20代（14.6%）、30代（24.4%）では、その他の年齢と比較して特に低くなっています。

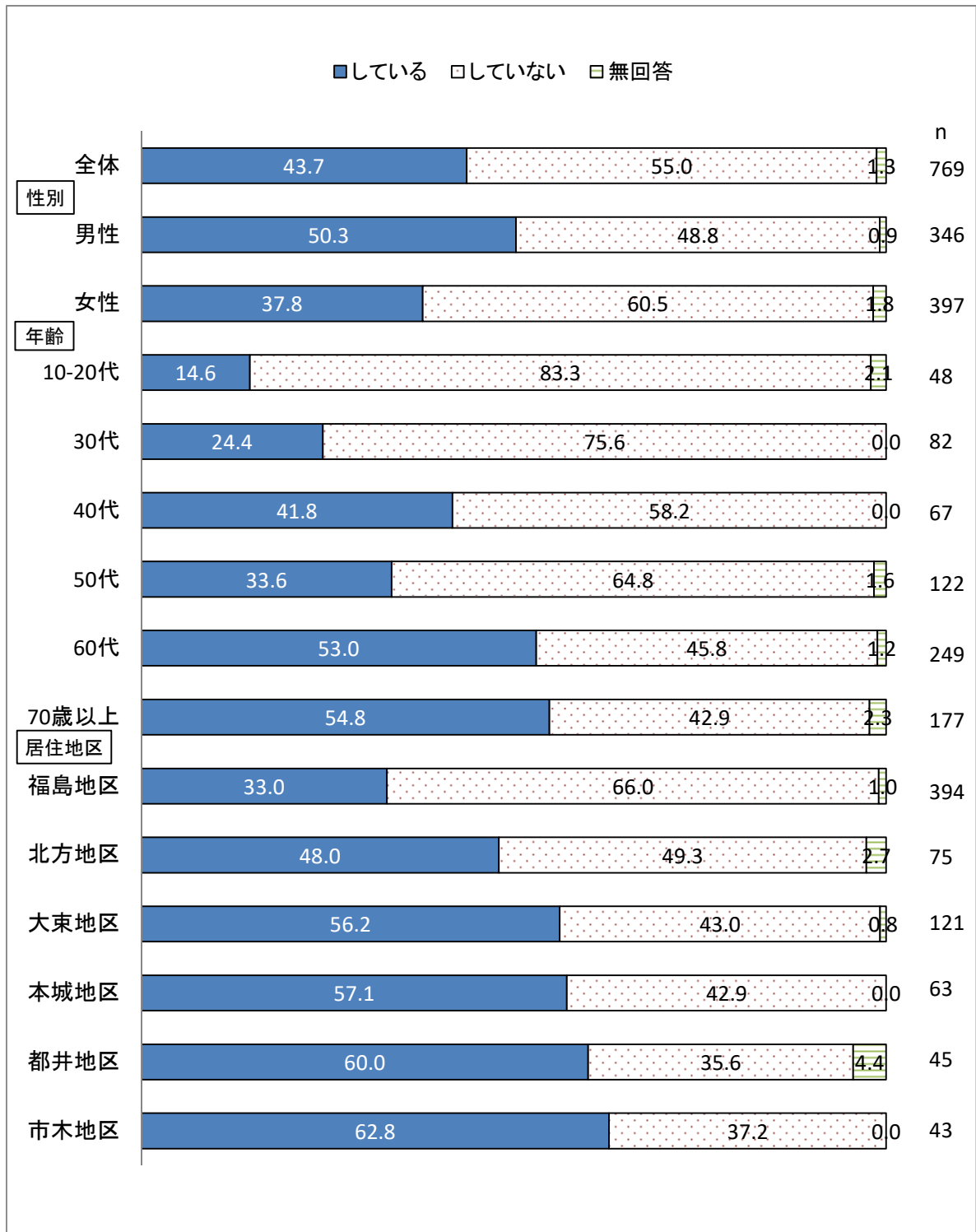
居住地区で見ると、市木地区（62.8%）で最も高く、福島地区（33.0%）で最も低くなっています。

平成28年と比較すると、性別では、男性が増加しているのに対し女性が減少しています。年齢では、30代、50代が大きく減少しています。また10-20代ではほぼ横ばいとなっており、依然低い参加率となっています。[図表18参照]

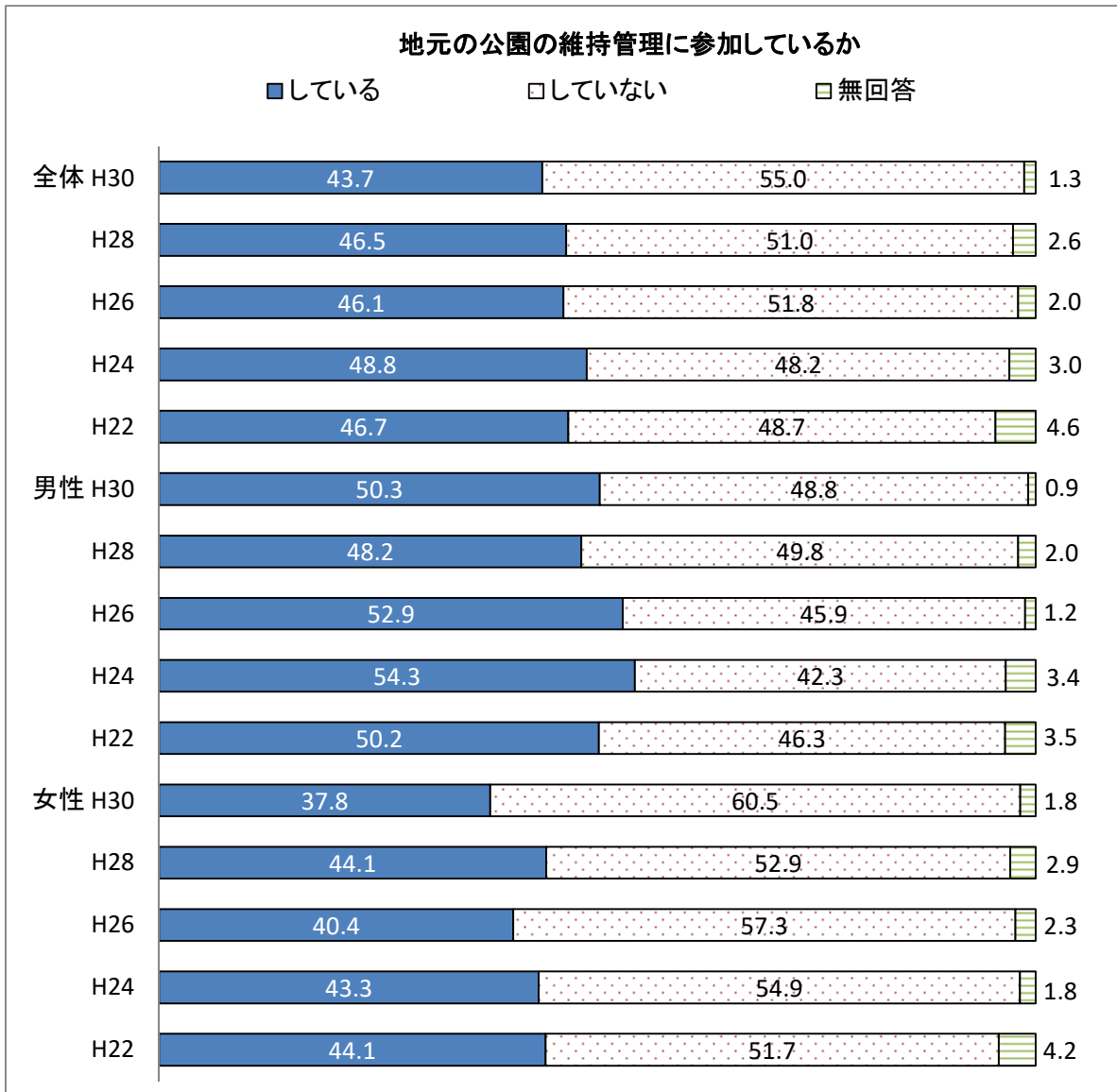
図表 18 地元の公園の維持管理

(全体・性別・年齢・居住地区)

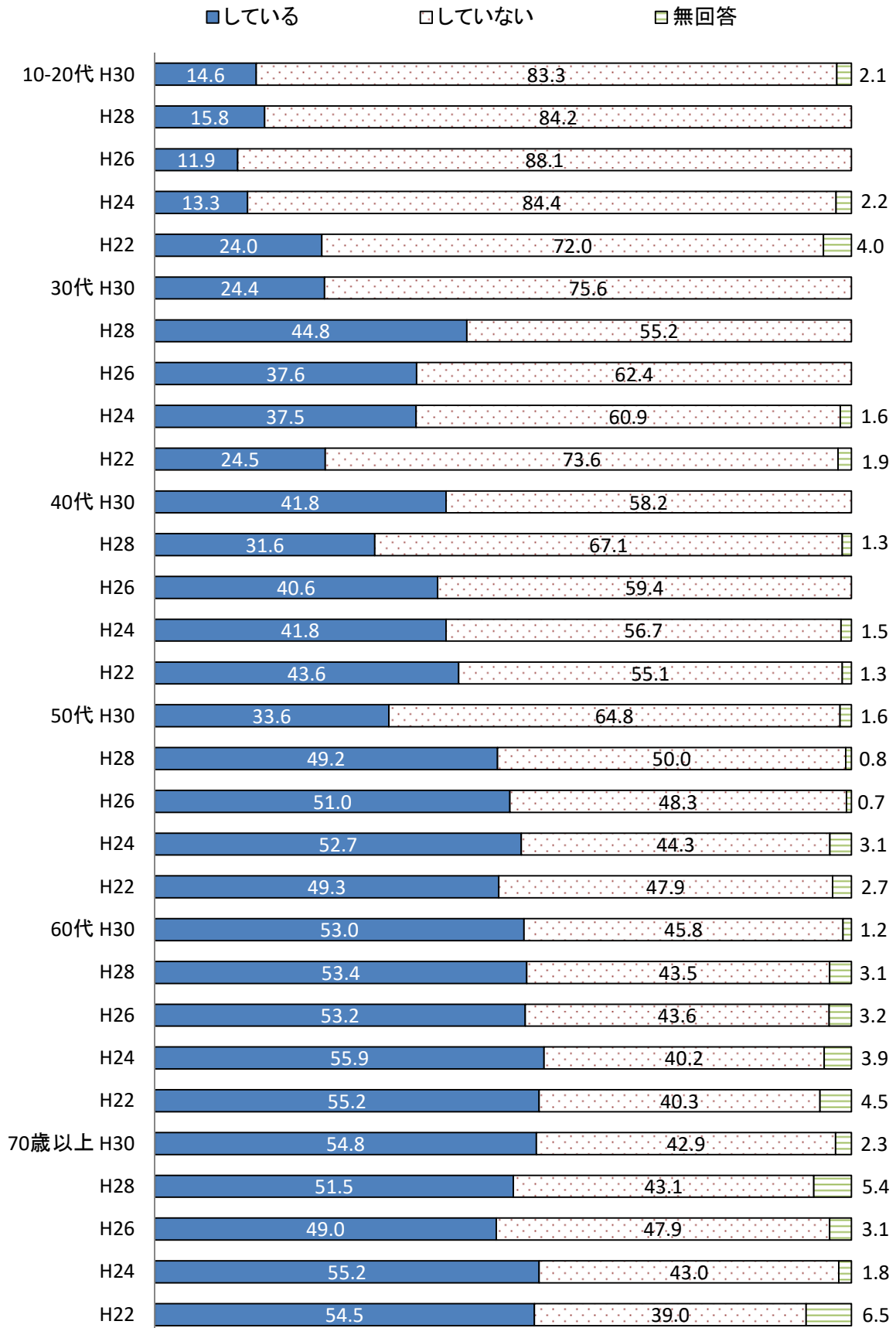
(単位：%)



■過去の調査との比較



地元の公園の維持管理に参加しているか



(9) 市内での買物

問4⑨ あなたは、日頃、市内で買物をしていますか。



- 市内で買物をしている人は93.9%であり、前回からほぼ横ばい。

市内で買物をしているかについては、している人が93.9%となっています。

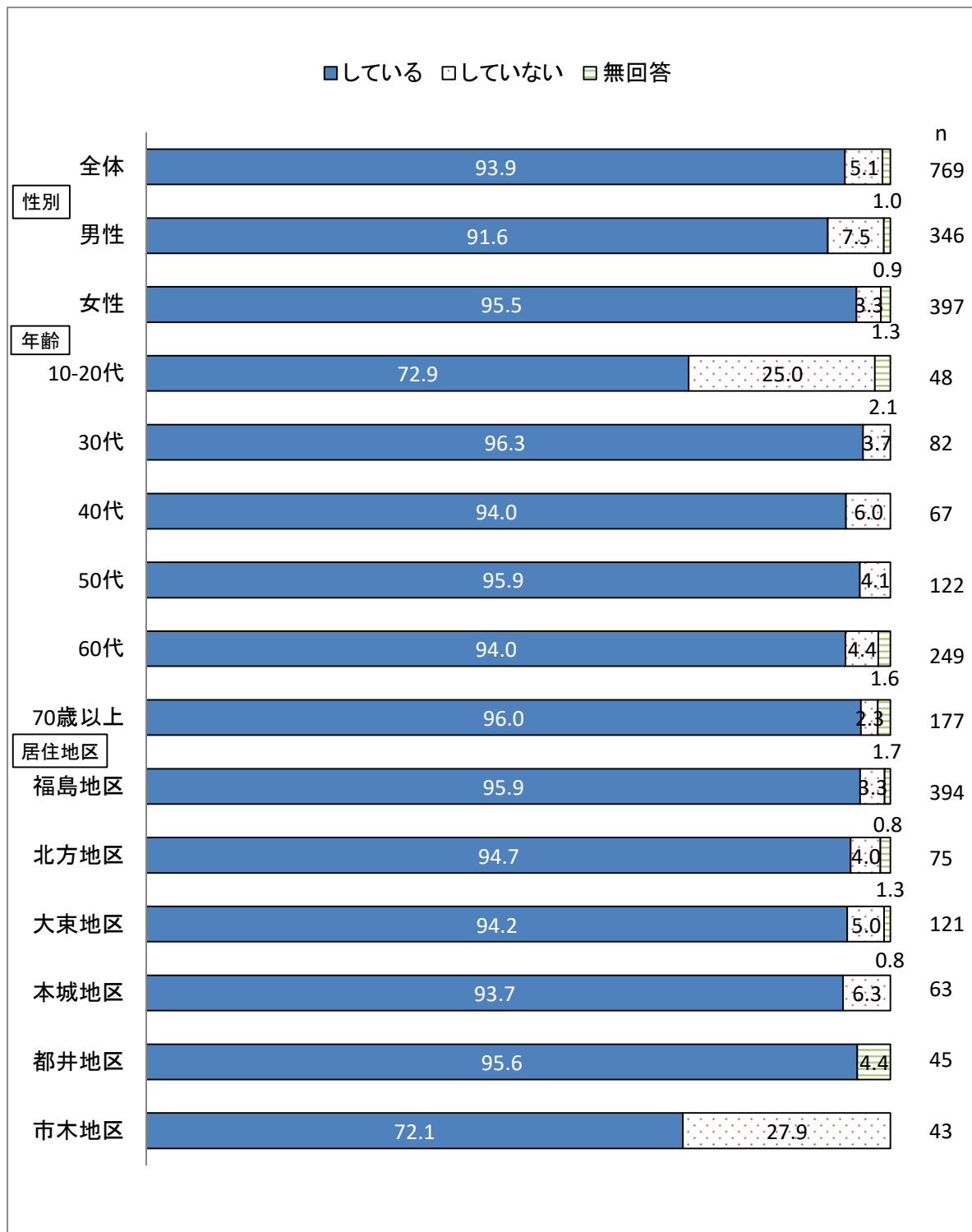
性別で見ると、大きな差はみられず、年齢で見ると、10-20代(72.9%)以外は90%以上となっています。

居住地区で見ると、市木地区(72.1%)が他の地区と比較して低くなっていますが、それ以外は90%以上になっています。

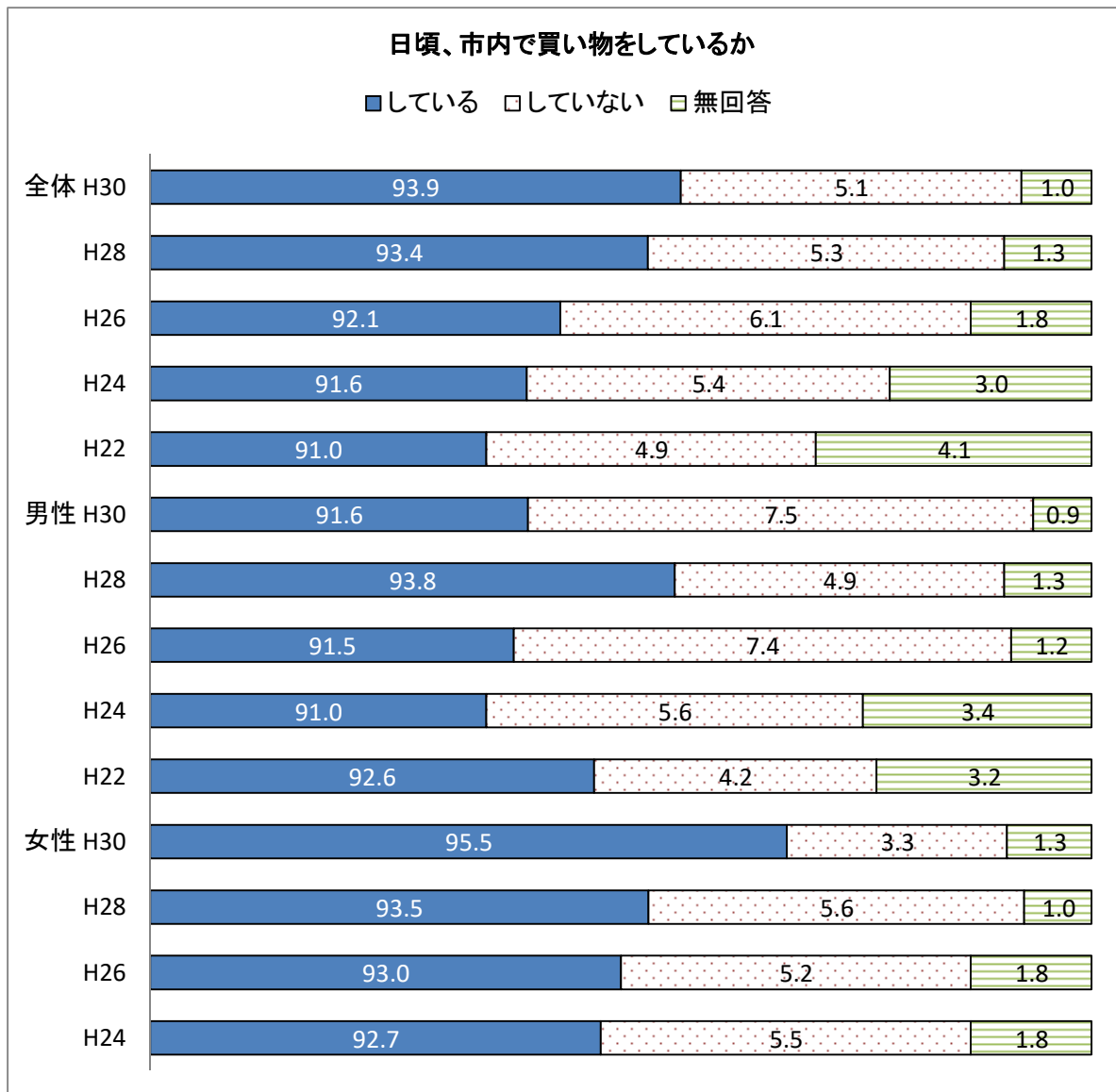
平成28年と比較すると、全体、性別では、大きな変化は見られませんが、年齢では、10-20代の「している」の大きな減少が目立っています。[図表19参照]

図表 19 市内での買物
(全体・性別・年齢・居住地区)

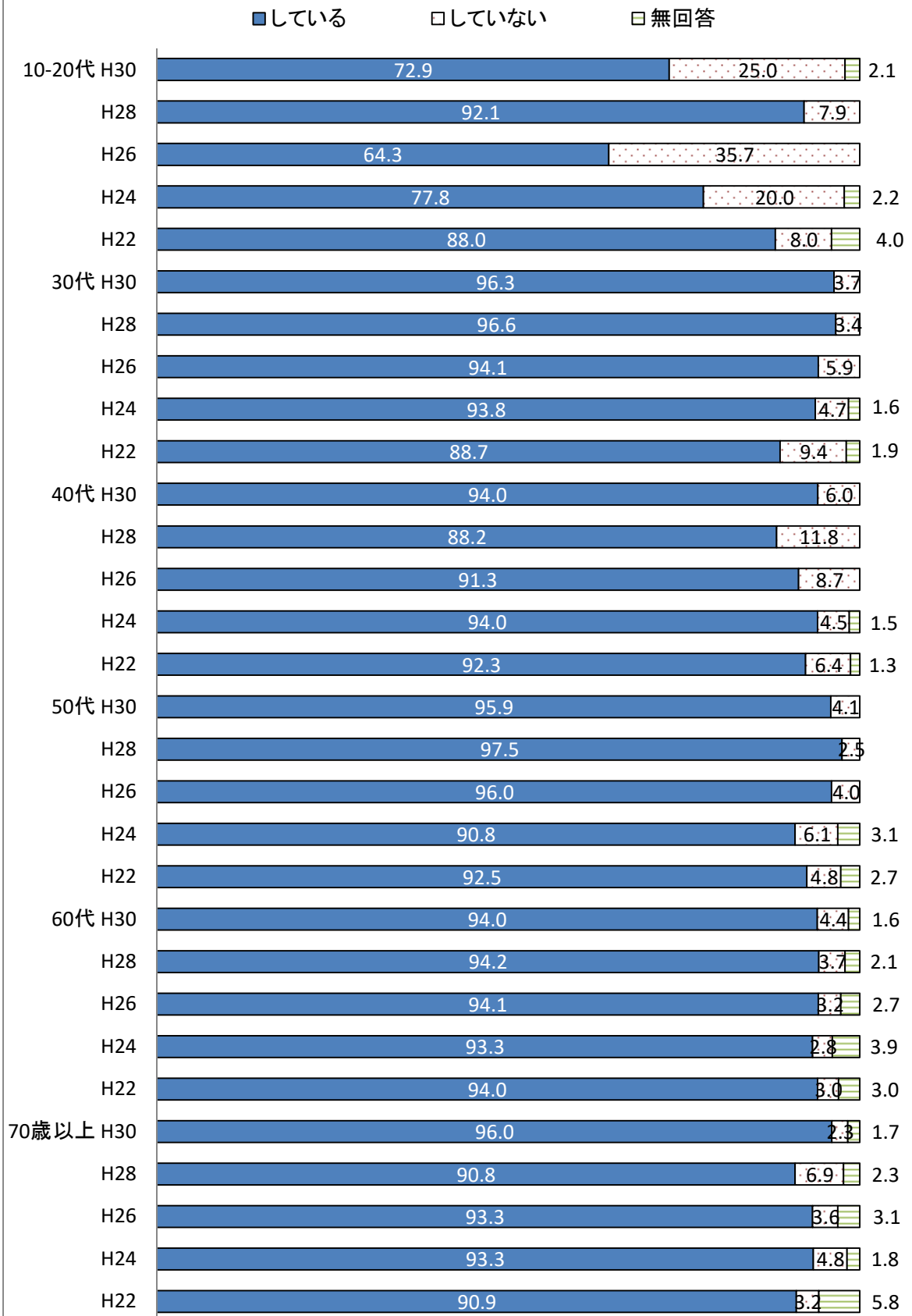
(単位：%)



■過去の調査との比較



日頃、市内で買い物をしているか



4 障がい者の施策について

問5 平成25年6月に「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）が成立しましたが、あなたはこの法律のことをしていますか。

- 「障害者差別解消法」を知っている人は10.0%。知らない人は44.0%。

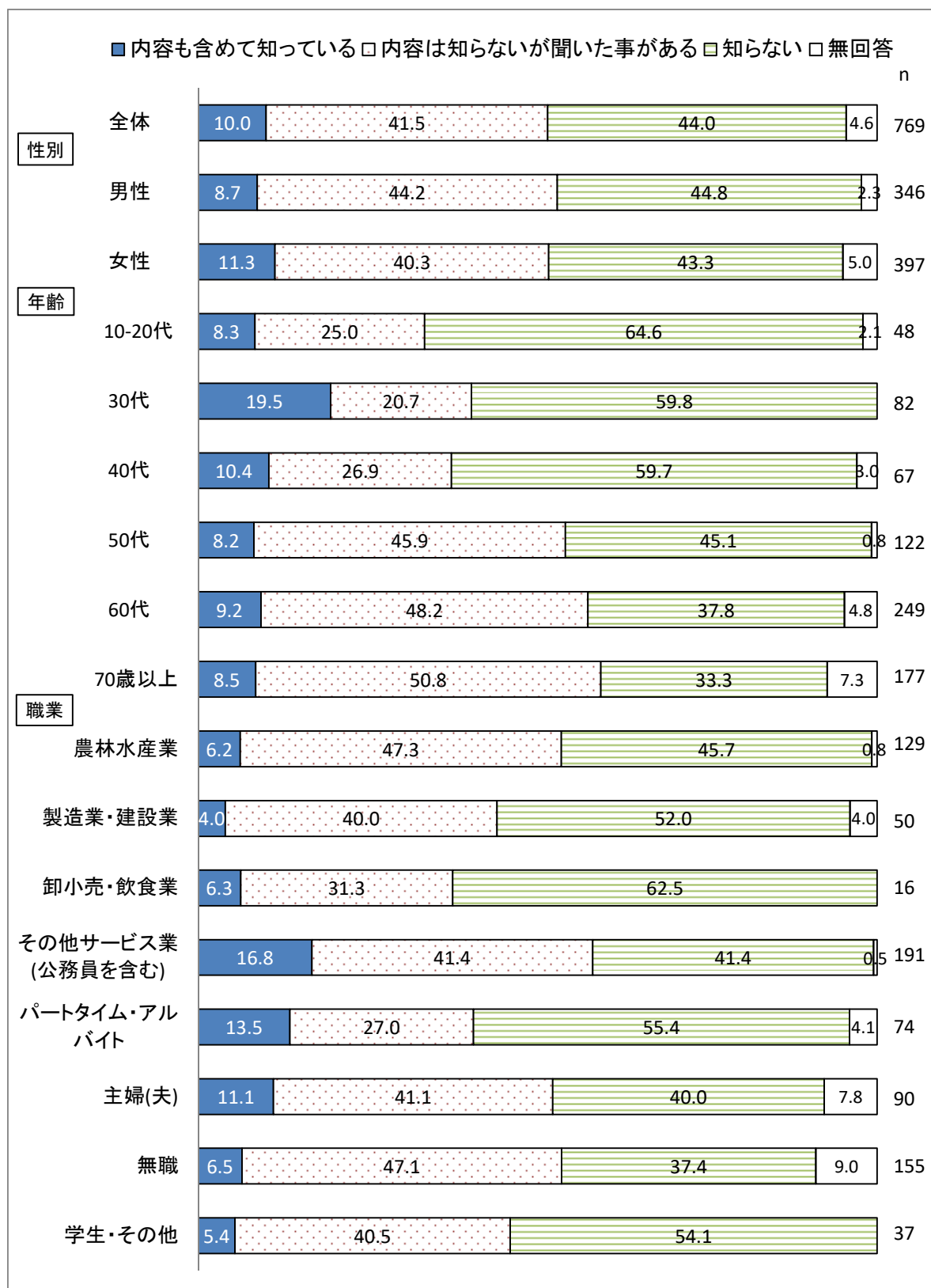
「障害者差別解消法」の認知については、「内容も含めて知っている」と回答した人は10.0%、「内容は知らないが聞いた事がある」人は41.5%、「知らない」人は44.0%になり認知度は低い傾向になっています。“知っている”（「内容等も知っている」及び「名称は知っている」の合計）人は51.5%となっています。

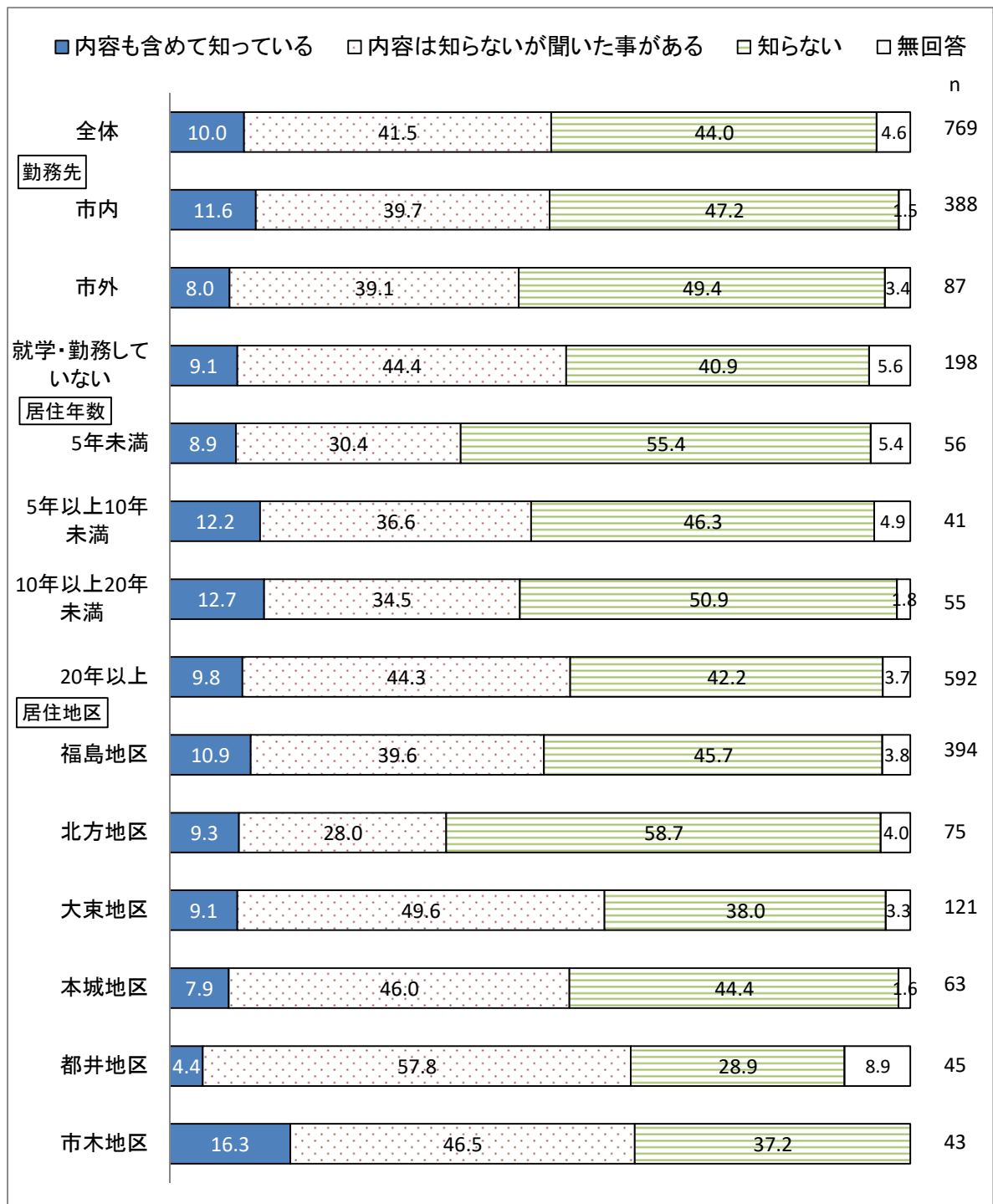
性別でみると、女性の「内容も含めて知っている」が男性よりやや高くなっています。

年齢でみると、「内容も含めて知っている」のは30代の19.5%が最も高く、“知らない”率は加齢とともに低くなる傾向があります。「知らない」率は10-20代で64.6%と最も高く、70歳以上で33.3%と最も低くなっています。

職業でみると、その他サービス業等が他の職業よりも“知っている”率が高くなっています。[図表20参照]

図表 20 障害者差別解消法の認知度
 (全体・性別・年齢・職業・勤務先・居住年数・居住地区) (単位：%)





問6 障がいのある人への理解を深めるために何が必要とお考えですか。【複数回答】

- 第1位は「小・中学校における障がいのある人との交流教育」(45.0%)、第2位が「障がいのある人の各種イベントへの参加・協力」(35.1%)、第3位が「各種マスメディアを活用した広報活動の充実」(33.8%)

障がいのある人への理解を深めるために必要なことをたずねたところ、第1位は「小・中学校における障がいのある人との交流教育」(45.0%)、第2位が「障がいのある人の各種イベントへの参加・協力」(35.1%)、第3位が「各種マスメディアを活用した広報活動の充実」(33.8%)、第4位が「ボランティア活動を通じた交流」(33.7%)、第5位が「市民を対象とした福祉講座の開催」(26.4%)となっています。

性別でみると、女性の第3位に「ボランティア活動を通じた交流」が入っています。

年齢でみると、60代以下のすべての年齢で「小・中学校における障がいのある人との交流教育」が第1位になっています。

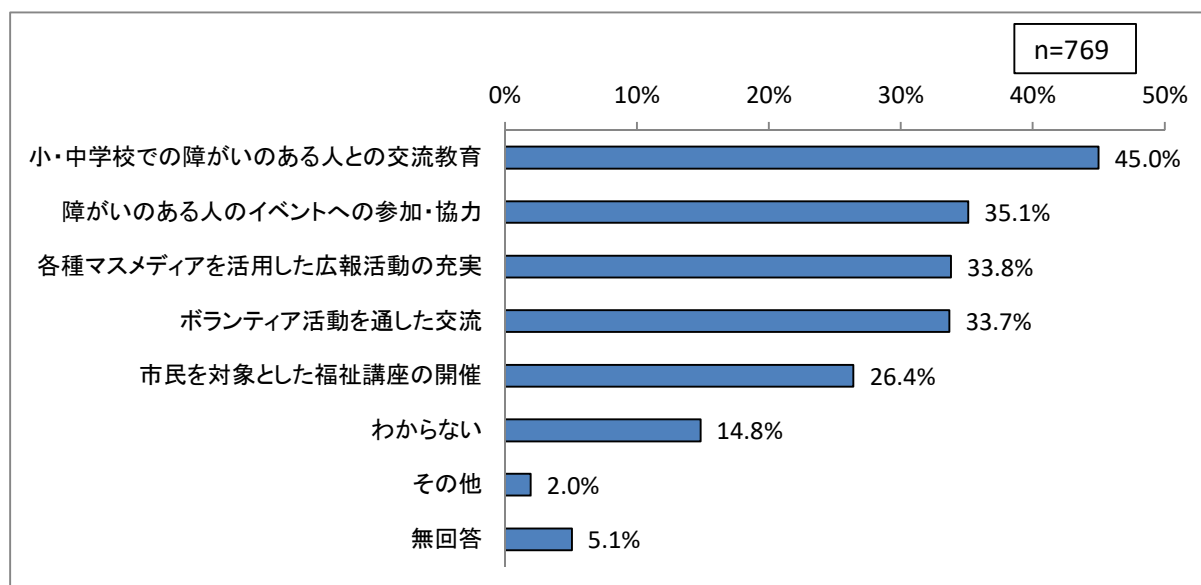
職業でみると、無職で「ボランティア活動を通じた交流」が第1位になっています。

居住地区では、市木地区で「ボランティア活動を通じた交流」が第1位になっています。

平成26、28年と比較すると、上位3項目に大きな変化は見られませんでした。

[図表21参照]

図表21 障がいのある人への理解を深める方法
(全体/複数回答)



(全体・性別・年齢・職業・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		小中学校における障がいのある人との交流教育 45.0%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 35.1%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 33.8%
性別	男性	小中学校における障がいのある人との交流教育 41.3%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 36.4%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 34.7%
	女性	小中学校における障がいのある人との交流教育 49.1%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 36.0%	ボランティア活動を通じた交流 33.8%
年齢	10-20代	小中学校における障がいのある人との交流教育 54.2%	ボランティア活動を通じた交流 37.5%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 33.3%
	30代	小中学校における障がいのある人との交流教育 61.0%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実/障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 39.0%	
	40代	小中学校における障がいのある人との交流教育 58.2%	ボランティア活動を通じた交流 32.8%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 28.4%
	50代	小中学校における障がいのある人との交流教育 48.4%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 40.2%	ボランティア活動を通じた交流 36.9%
	60代	小中学校における障がいのある人との交流教育 43.4%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 40.2%	ボランティア活動を通じた交流 34.5%
	70代以上	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 32.8%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実/小中学校における障がいのある人との交流教育 32.2%	
職業	農林水産業	小中学校における障がいのある人との交流教育 53.5%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 37.2%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 35.7%
	製造業・建設業	小中学校における障がいのある人との交流教育 42.0%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実/ボランティア活動を通じた交流 32.0%	
	卸小売・飲食業	小中学校における障がいのある人との交流教育 62.5%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 50.0%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 43.8%
	その他サービス業等(公務員を含む)	小中学校における障がいのある人との交流教育 51.3%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 38.7%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 38.2%
	パートタイム・アルバイト	小中学校における障がいのある人との交流教育 48.6%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実/ボランティア活動を通じた交流 37.8%	
	主婦(夫)	小中学校における障がいのある人との交流教育 41.1%	ボランティア活動を通じた交流 38.9%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 36.7%
	無職	ボランティア活動を通じた交流 35.5%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力/市民を対象とした福祉講座の開催 31.6%	
	学生、その他	小中学校における障がいのある人との交流教育 56.8%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 45.9%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 35.1%
居住地区	福島地区	小中学校における障がいのある人との交流教育 44.4%	ボランティア活動を通じた交流 36.0%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 35.3%
	北方地区	小中学校における障がいのある人との交流教育 50.7%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力/ボランティア活動を通じた交流/市民を対象とした福祉講座の開催 33.3%	
	大東地区	小中学校における障がいのある人との交流教育 48.8%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 42.1%	ボランティア活動を通じた交流 31.4%
	本城地区	小中学校における障がいのある人との交流教育 54.0%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 49.2%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 38.1%
	都井地区	小中学校における障がいのある人との交流教育 37.8%	各種マスメディアを活用した広報活動の充実 35.6%	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力 24.4%
	市木地区	各種マスメディアを活用した広報活動の充実/ボランティア活動を通じた交流 41.9%	小中学校における障がいのある人との交流教育 32.6%	

■過去の調査との比較

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位
H30 全体	小・中学校における障がいのある人との交流教育	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力	各種マスメディアを活用した広報活動の充実
	45.0	35.1	33.8
H28 全体	小・中学校における障がいのある人との交流教育	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力	各種マスメディアを活用した広報活動の充実
	44.7	35.9	34.5
H26 全体	小・中学校における障がいのある人との交流教育	障がいのある人の各種イベントへの参加・協力	各種マスメディアを活用した広報活動の充実
	43.8	39.2	35.0

問7 あなたは、障がいのある人のために企業や民間団体が行う活動について、どのような事を希望しますか。【複数回答】



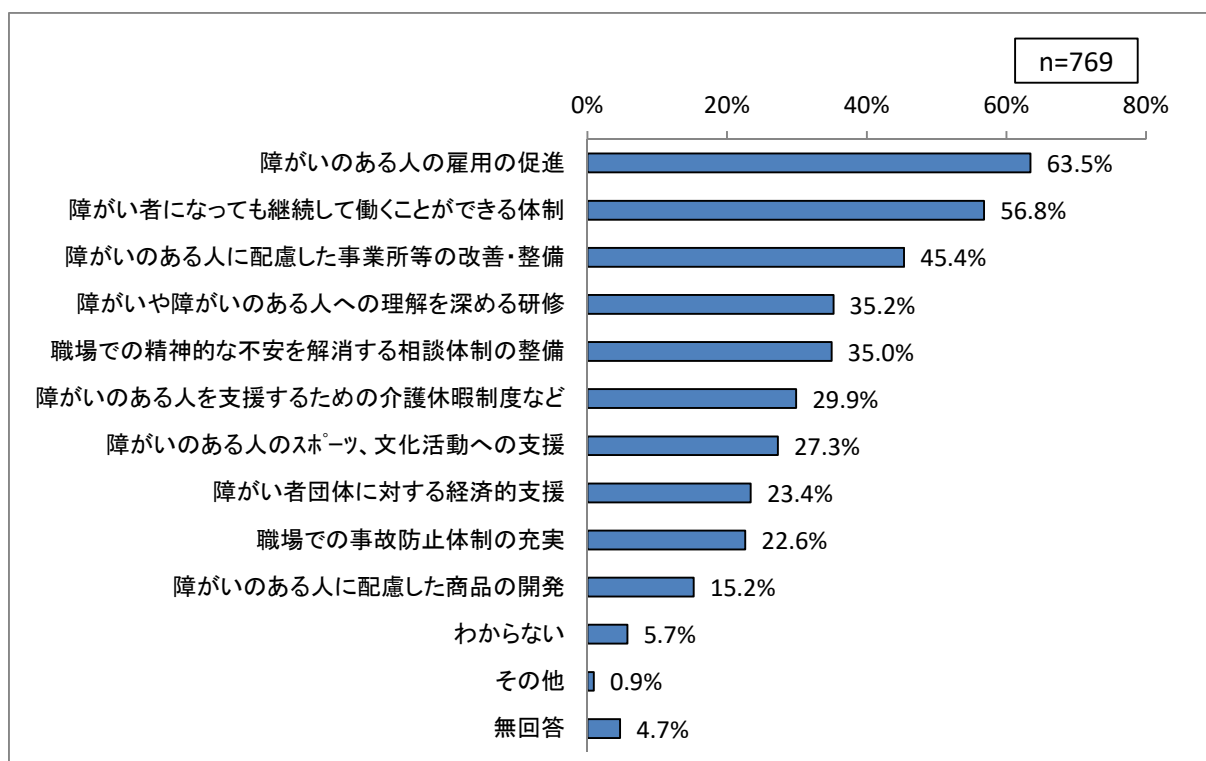
- 第1位は「障がいのある人の雇用の促進」(63.5%)、第2位が「障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備」(56.8%)、第3位が「障がいのある人に配慮した事業所等の改善・整備」(45.4%)

障がいのある人のために企業や民間団体が行う活動について、どのような事を希望するかたずねたところ、第1位は「障がいのある人の雇用の促進」(63.5%)、第2位が「障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備」(56.8%)、第3位が「障がいのある人に配慮した事業所等の改善・整備」(45.4%)、第4位が「障がいや障がいのある人への理解を深めるための研修の実施」(35.2%)、第5位が「職場での精神的な不安を解消する相談体制の整備」(35.0%)、第6位が「障がいのある人を支援するための介護休暇制度やボランティア休暇制度の充実」(29.9%)などの順となっています。

平成26、28年と比較すると、上位3項目に大きな変化は見られませんでした。

[図表22参照]

図表 22 障がいのある人への活動で企業等に希望すること
(全体／複数回答)



■過去の調査との比較

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位
H30 全体	障がいのある人の雇用の促進 63.5	障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備 56.8	障がいのある人に配慮した事業所等の改善・整備 45.4
H28 全体	障がいのある人の雇用の促進 60.1	障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備 52.9	障がいのある人に配慮した事業所等の改善・整備 43.4
H26 全体	障がいのある人の雇用の促進 57.3	障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備 53.9	障がいのある人の配慮した事業所等の改善・整備 42.5

問8 今後、串間市が推進する障がい者施策について、特に力を入れるべきことはどのようなことと思いますか。【複数回答5つまで】



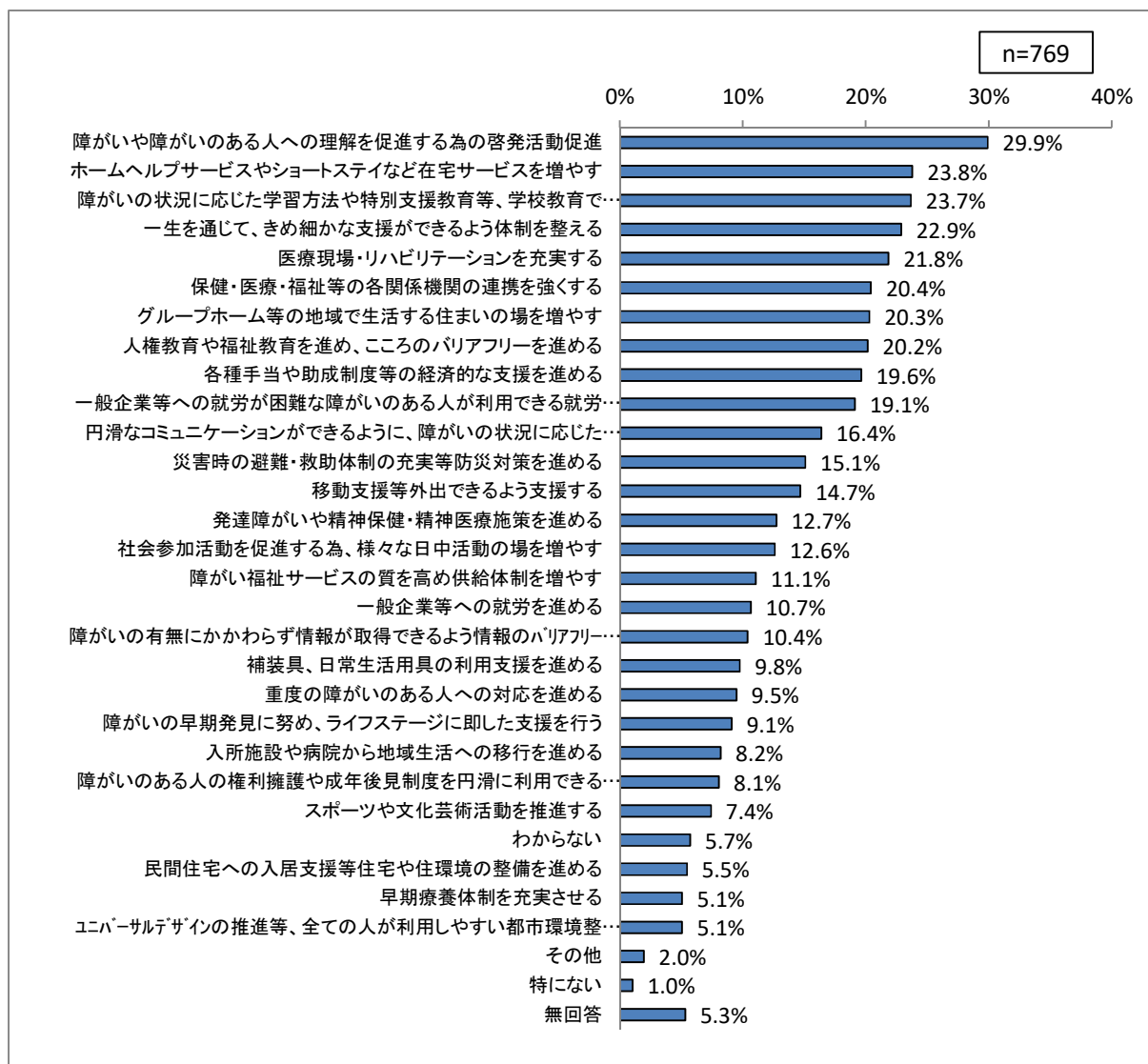
- 第1位は「障がいや障がいのある人への理解を促進する為の啓発活動を進める」(29.9%)、第2位が「ホームヘルプサービスやショートステイなど在宅サービスを増やす」(23.8%)、第3位が「障がいの状況に応じた学習方法や特別支援教育の充実等、学校教育の場での充実を図る」(23.7%)。

市が推進する障がい者施策について、特に力を入れるべきことをたずねたところ、第1位は「障がいや障がいのある人への理解を促進する為の啓発活動を進める」(29.9%)、第2位が「ホームヘルプサービスやショートステイなど在宅サービスを増やす」(23.8%)、第3位が「障がいの状況に応じた学習方法や特別支援教育の充実等、学校教育の場での充実を図る」(23.7%)、第4位が「一生を通じて、きめ細かな支援ができるよう体制を整える」(22.9%)、第5位が「医療現場・リハビリテーションを充実する」(21.8%)、第6位が「保健・医療・福祉等の各関係機関の連携を強くする」(20.4%)、第7位が「グループホーム等の地域で生活する住まいの場を増やす」(20.3%) 第8位が「人権教育や福祉教育を進め、こころのバリアフリーを進める」(20.2%) などの順となっています。

平成28年と比較すると、前回第3位の「一生を通じて、きめ細かな支援ができるよう体制を整える」が第4位となり、前回第9位の「障がいの状況に応じた学習方法や特別支援教育の充実等、学校教育の場での充実を図る」が第3位となりました。

[図表23参照]

図表 23 障がい者施策について、特に力を入れるべきこと
(全体／複数回答5つまで)



■過去の調査との比較

(単位：%)

	第1位	第2位	第3位
H30 全体	障がいや障がいのある人への理解を促進する為の啓発活動を進める 29.9	ホームヘルプサービスやショートステイなど在宅サービスを増やす 23.8	障がいの状況に応じた学習方法や特別支援教育の充実等、学校教育の場での充実を図る 23.7
H28 全体	障がいや障がいのある人への理解を促進する為の啓発活動を進める 33.7	ホームヘルプサービスやショートステイなど在宅サービスを増やす 25.3	一生を通じて、きめ細やかや支援ができるよう体制を整える 24.8
H26 全体	ホームヘルプサービスやショートステイなど在宅サービスを増やす 29.3	障がいや障がいのある人への理解を促進する為の啓発活動を進める 27.5	グループホーム等の地域で生活する住まいの場を増やす 23.5

5 ICT/IoT分野について

(1) 希望する行政サービスについて

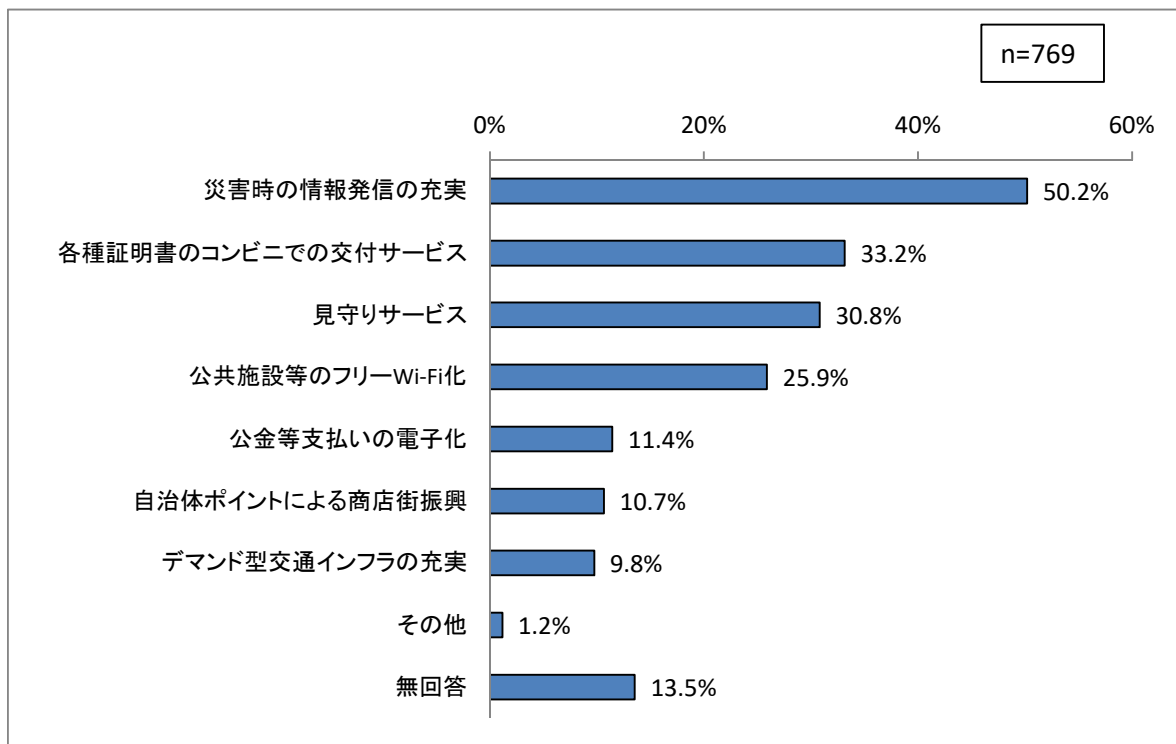
問9 串間市に望む行政サービスはどのようなことですか。【○印はいくつでも】

- 第1位は「災害時の情報発信の充実」(50.2%)、第2位が「各種証明書のコンビニでの交付サービス」(33.2%)、第3位が「見守りサービス」(30.8%)

市に望む行政サービスをたずねたところ、第1位は「災害時の情報発信の充実」(50.2%)、第2位が「各種証明書のコンビニでの交付サービス」(33.2%)、第3位が「見守りサービス」(30.8%)、第4位が「公共施設等のフリーWi-Fi化」(25.9%)、第5位が「公金等支払いの電子化」(11.4%)などの順となっています。[図表24参照]

図表24 希望する行政サービス
(全体/複数回答)

(単位：%)



(2) インターネットの利用状況

問 10 現在、インターネット（パソコン・スマートフォン等）を利用していますか。



- 「利用している」が 55.4%、一方、「利用していない」が 38.1%。

インターネットを利用しているかについては、「利用している」が 55.4%、「利用していない」が 38.1%となっています。

性別での差は、ほとんどありませんでした。

年齢で見ると、若い年齢層で利用率が高く、30代（91.5%）が最も高く、10-20代では 89.6%、40代では 86.6%となっています。また、加齢とともに利用していない傾向になっています。

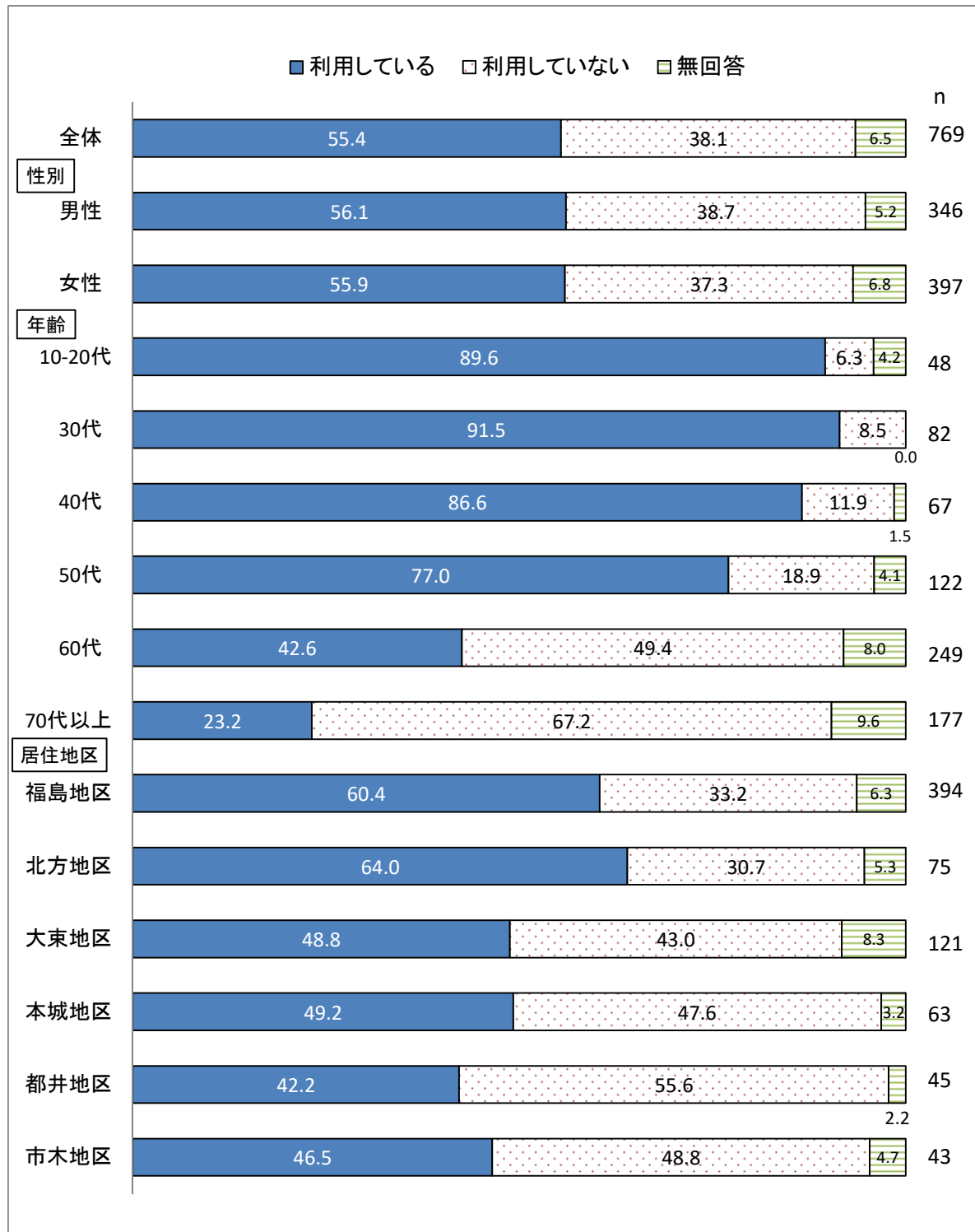
居住地区では、北方地区が 64.0%と最も高く、都井地区が 42.2%と最も低くなっています。

平成 28 年と比較すると、全体では 11ポイント、性別では、男性の利用が約 4ポイント、女性の利用が約 19ポイント増加しています。年齢では、50代、60代において約 20ポイント増加しています。[図表 25 参照]

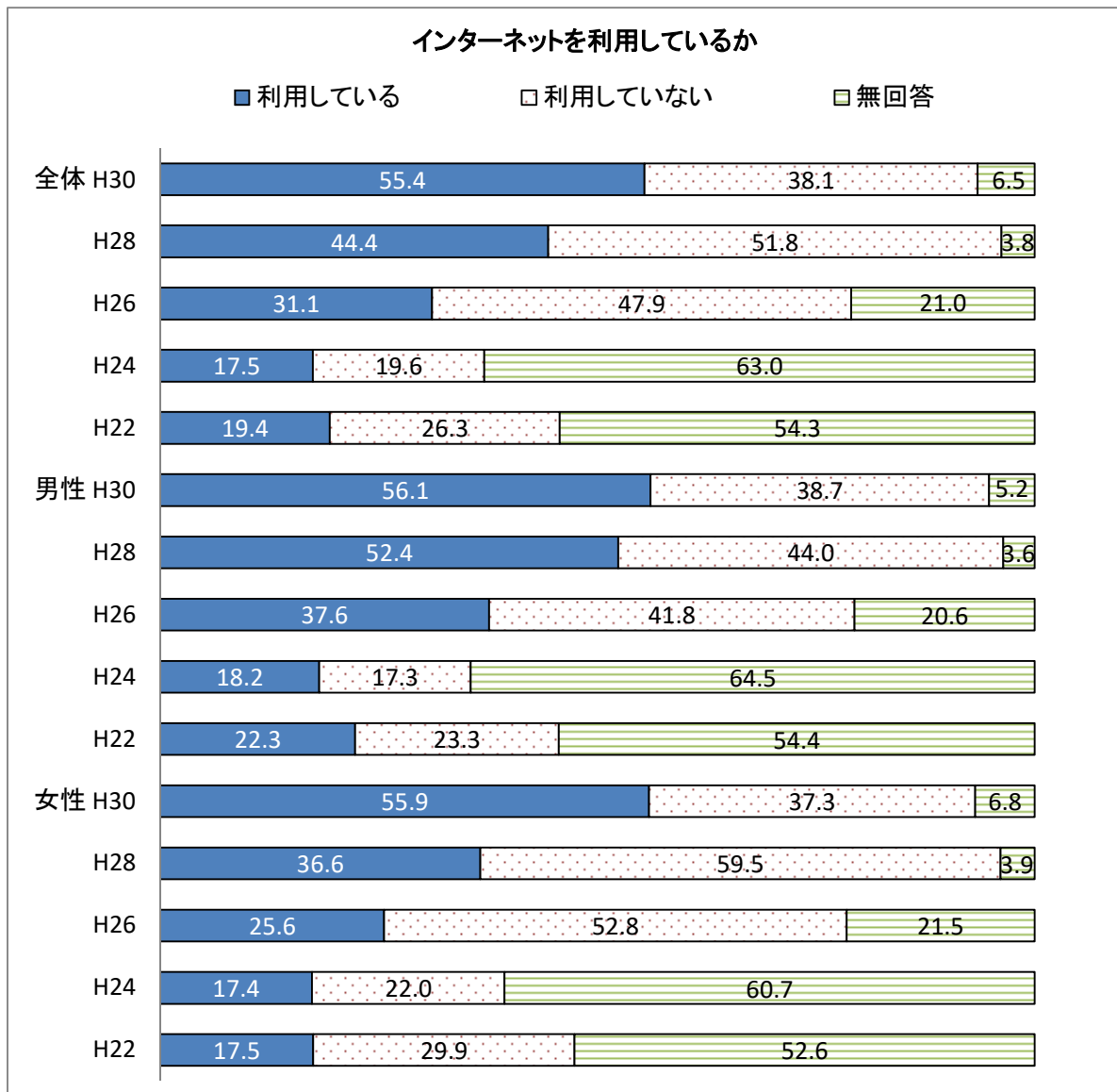
図表 25 インターネットを利用しているか

(全体・性別・年齢・居住地区)

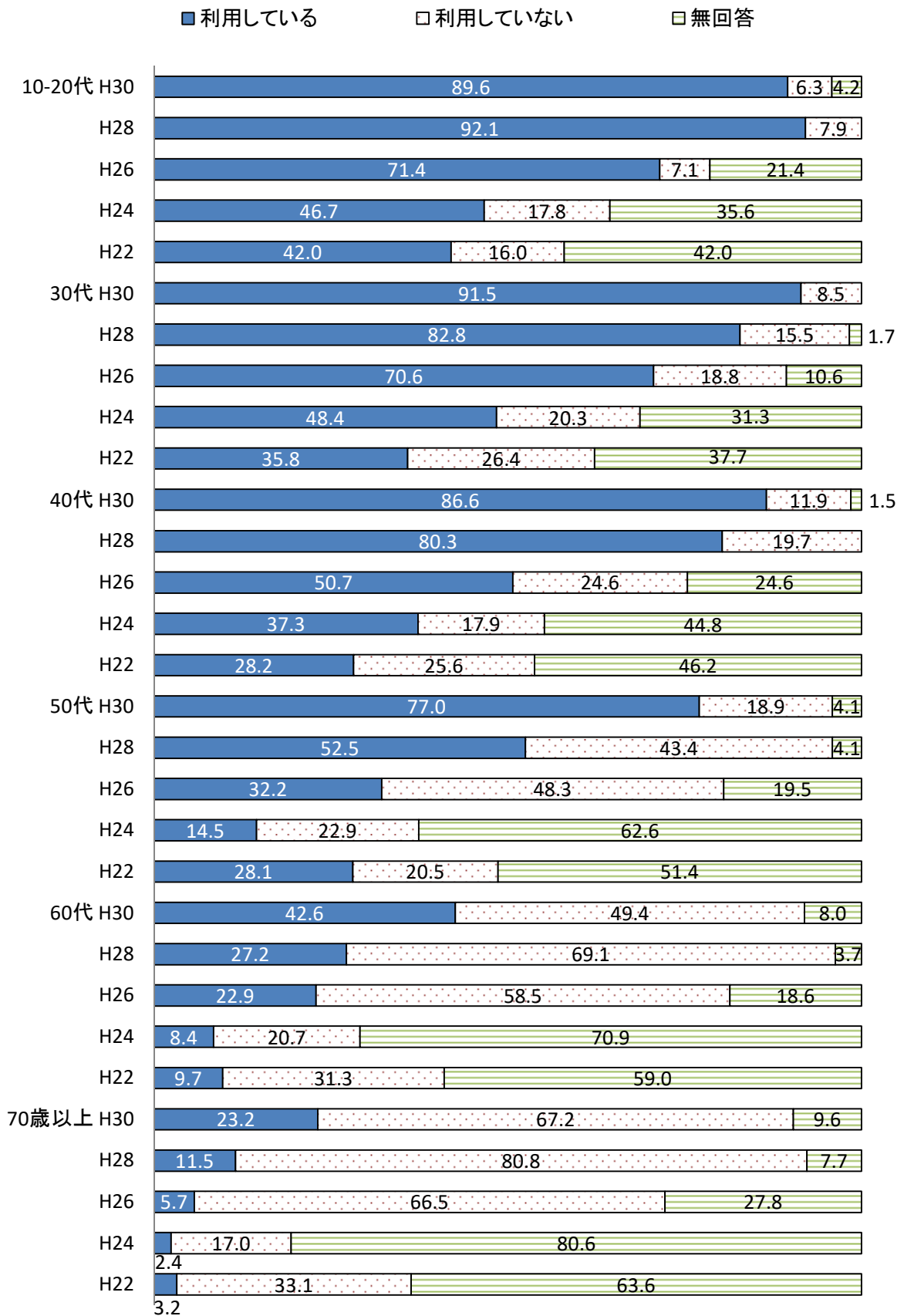
(単位：%)



■過去の調査との比較



インターネットを利用しているか



(3) 情報関連費について

問 11 生活費に占める情報関連費用を教えてください。1. 携帯電話料金



- 携帯電話の所持台数は、1台(36.0%)が最も多く、次に2台(31.5%)。携帯電話の料金は、「5千円以上1万円未満」(19.4%)が最も多い。

生活費に占める携帯電話料金についてたずねたところ、携帯電話の所持台数は、「1台」(36.0%)が最も多く、「2台」(31.5%)、「3台」(7.8%)の順でした。携帯電話料金は、「5千円以上1万円未満」(19.4%)、「5千円未満」(16.5%)、「1万円以上1万5千円未満」(16.1%)の順でした。

性別では、所持台数には差がありませんでしたが、料金では、女性の第2位が「5千円未満」(16.9%)であったのに対し、男性の第2位は「1万円以上1万5千円未満」(17.6%)でした。

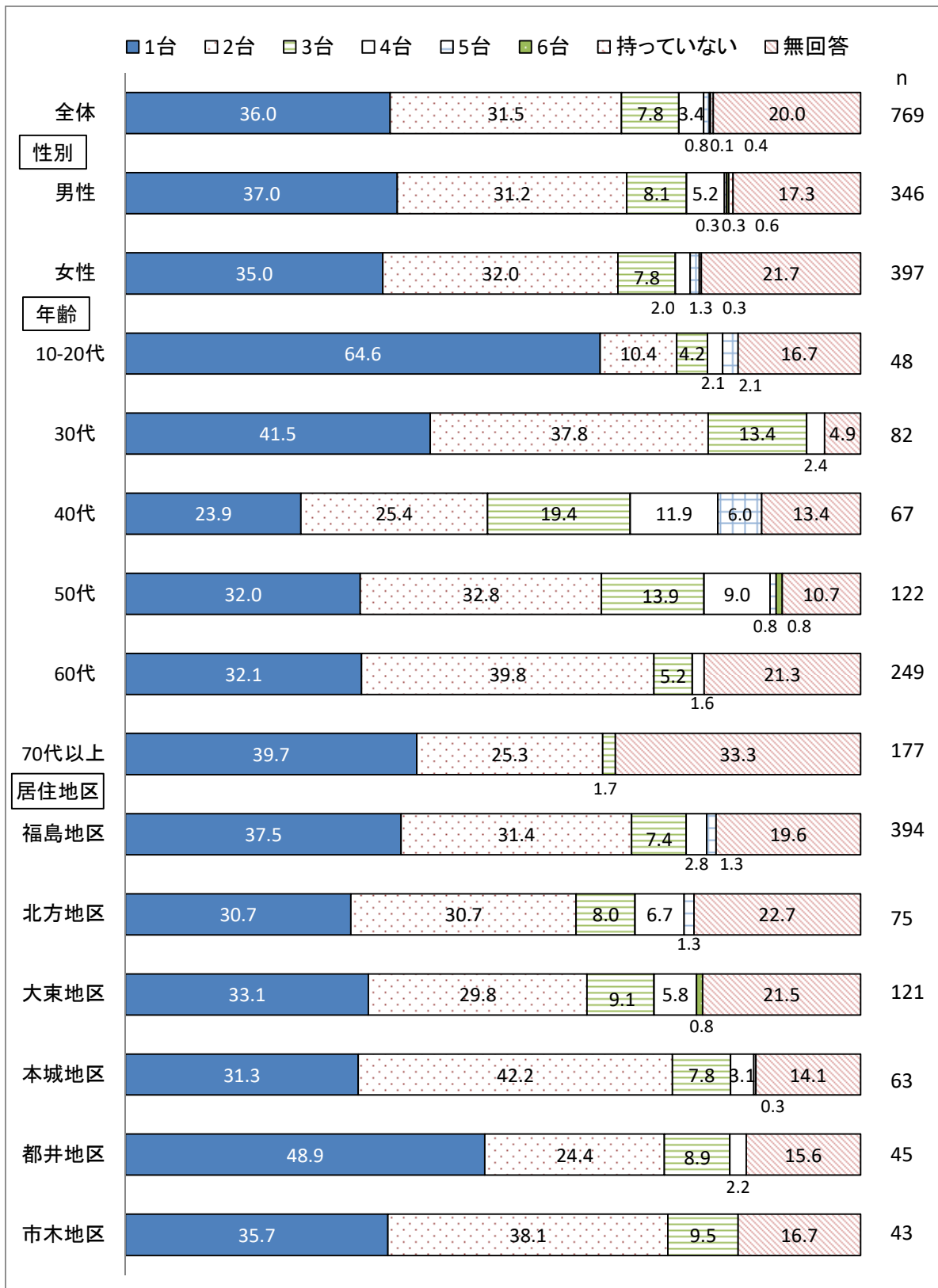
年齢で見ると、所持台数は40代、50代、60代では、「2台」が最も多くなっています。料金は、10-20代では「1万円以上1万5千円未満」(39.6%)が最も多く、70歳以上では「5千円未満」(28.2%)が最も多くなっています。

居住地区で見ると、所持台数は本城地区(42.2%)、市木地区(38.1%)で、「2台」が最も多くなっています。料金は、都井地区の「5千円以上1万円未満」が40%と多くなっています。[図表 26、26-1 参照]

図表 26 携帯電話の所持台数

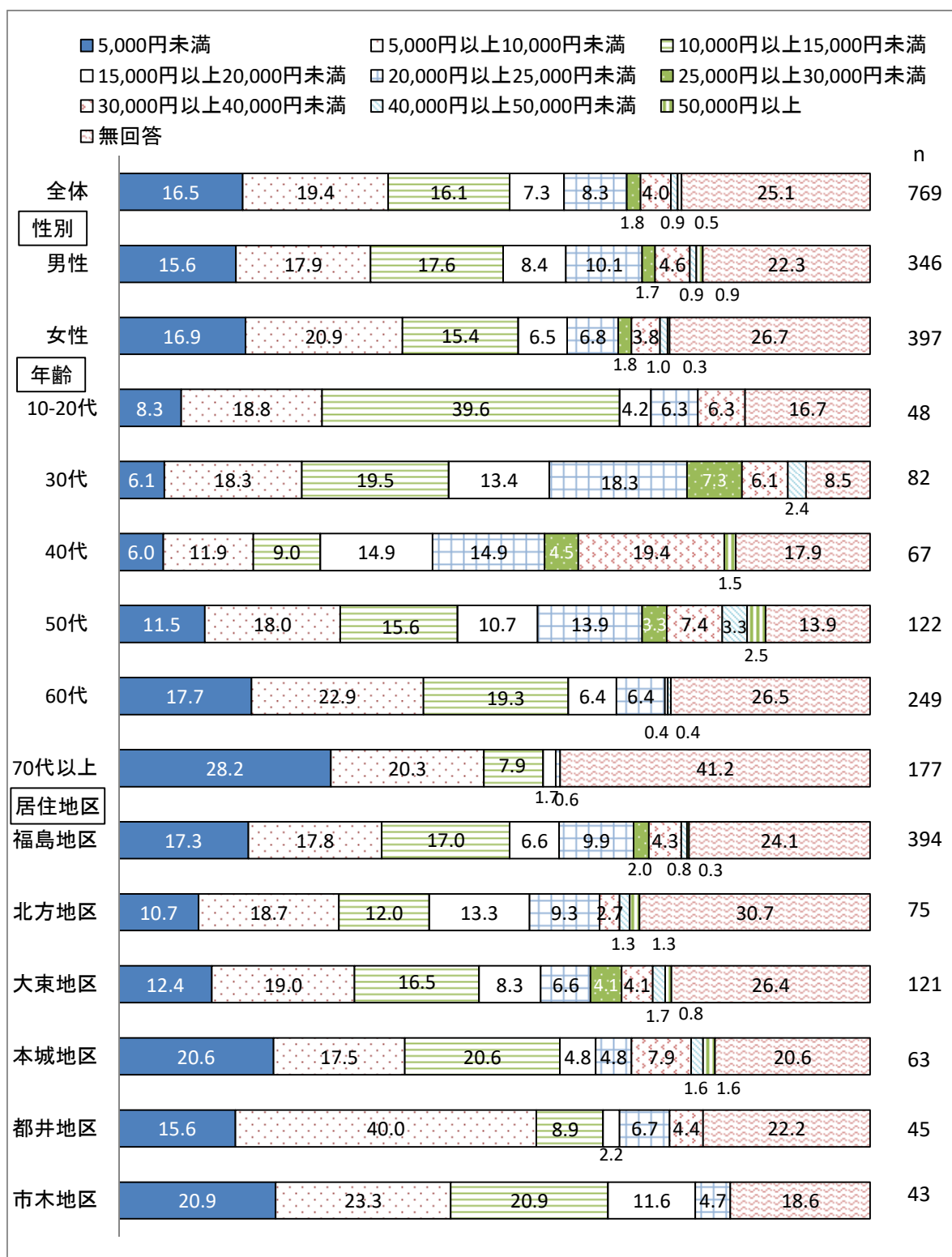
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



図表 26-1 携帯電話料金
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



問 11 生活費に占める情報関連費用を教えてください。2. 固定電話・インターネット料金



- 回線数の第1位は「1回線」(43.7%)、第2位は「2回線」(4.3%)。
料金の第1位は「5千円未満」(28.9%)、第2位は「5千円以上1万円未満」(18.3%)。

固定電話・インターネット料金については、回線数の第1位は「1回線」(43.7%)、第2位が「2回線」(4.3%)、第3位が「繋がっていない」(2.7%)となっています。料金の第1位は、「5千円未満」(28.9%)、第2位が「5千円以上1万円未満」(18.3%)、第3位が「1万円以上1万5千円未満」(3.1%)となっています。

性別でみると、男女に大きな差はありませんでした。

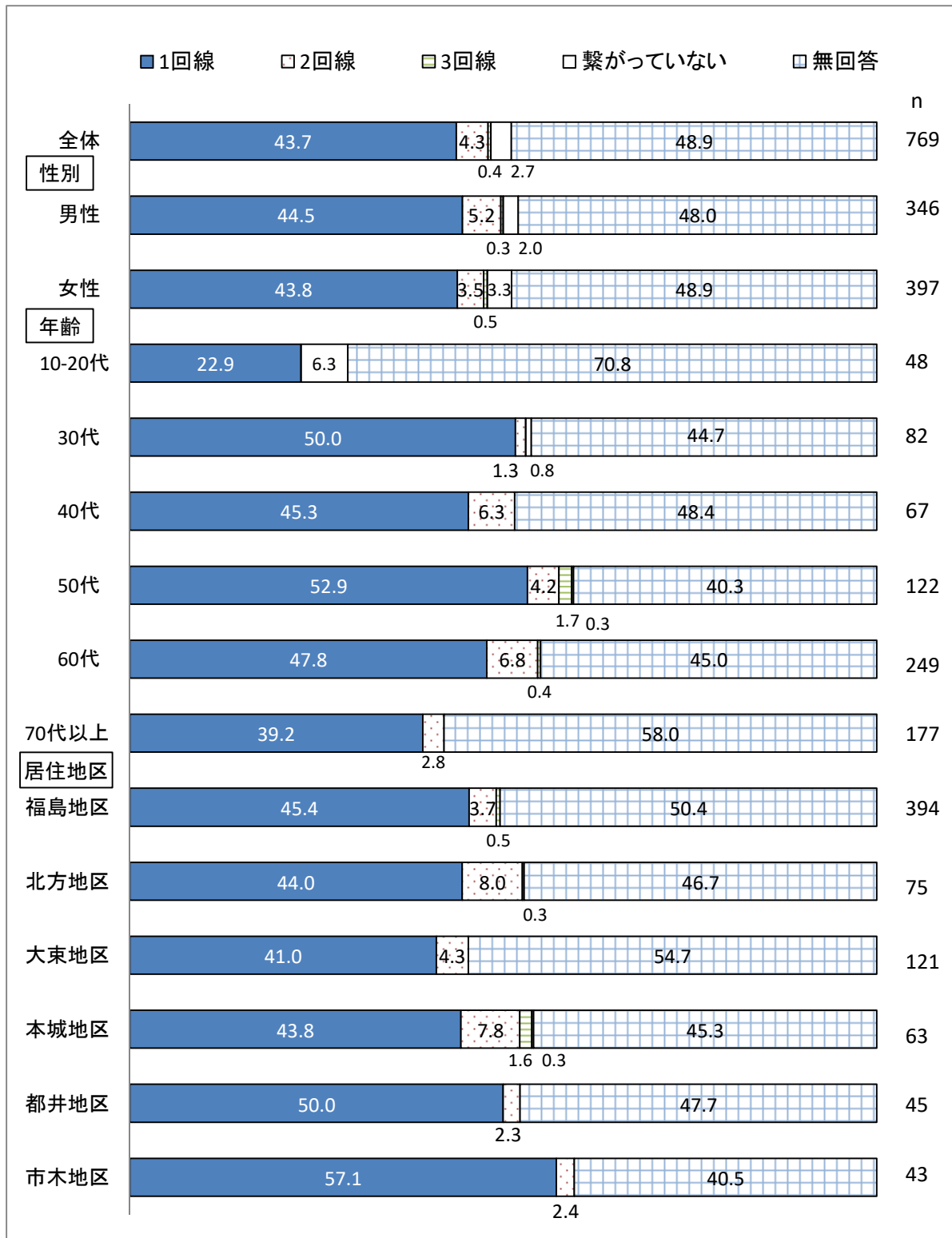
年齢でみると、若い年齢層では「5千円以上1万円未満」の割合が大きくなっています。

居住地区でみると、北方地区の第1位が「5千円以上1万円未満」(22.7%)となっていますが、それ以外の地区では全体と同じ順位になっています。[図表 27、27-1 参照]

図表 27 固定電話・インターネット回線数

(全体・性別・年齢・居住地区)

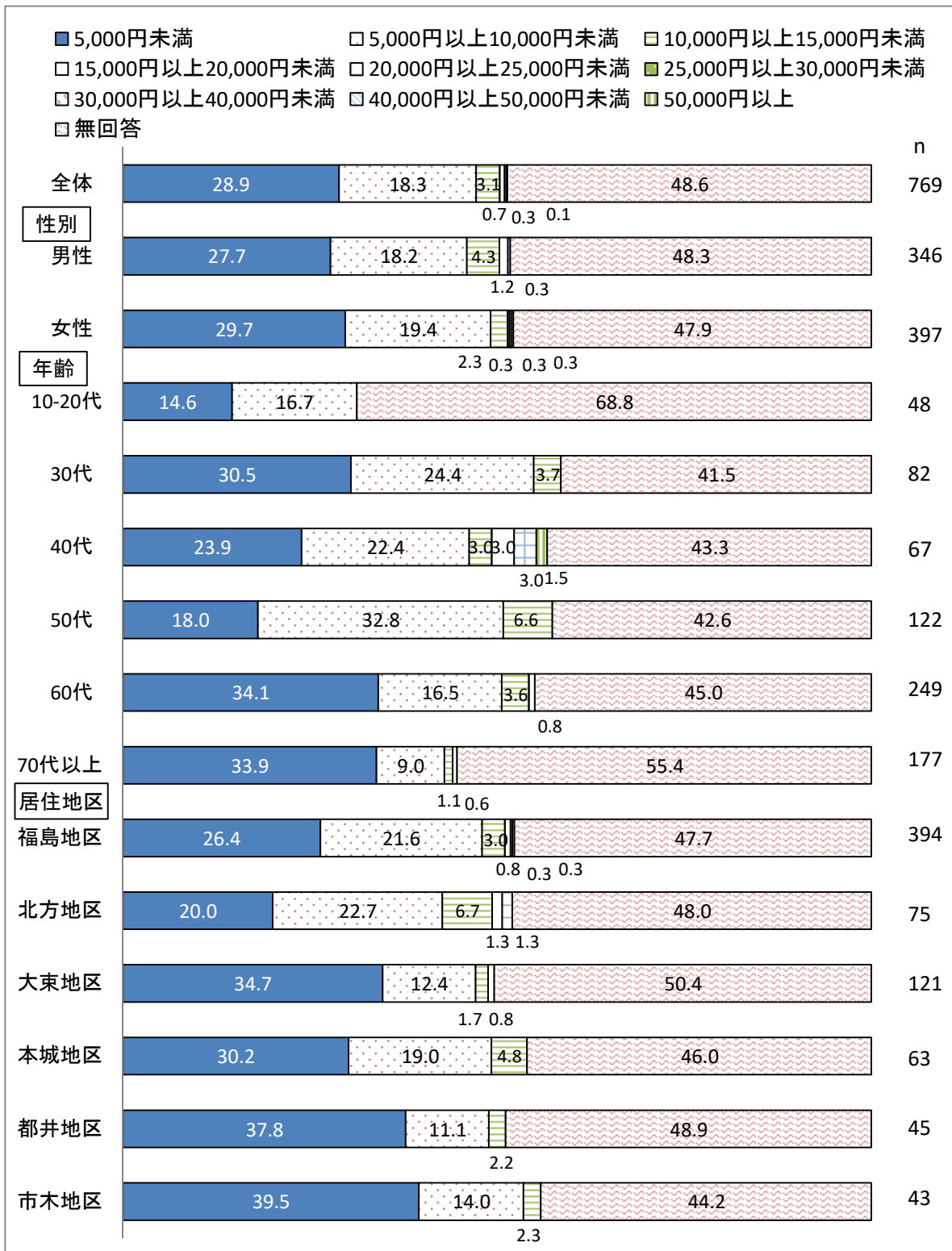
(単位：%)



図表 27-1 固定電話・インターネット料金

(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



問 11 生活費に占める情報関連費用を教えてください。
3. 有料サービス利用料金（VOD、CS放送、ゲームなど）



● 第1位は「5千円未満」(16.0%)、第2位は「5千円以上1万円未満」(1.4%)。

有料サービス利用料金については、第1位は、「5千円未満」(16.0%)、第2位が「5千円以上1万円未満」(1.4%)、第3位が「1万円以上1万5千円未満」(0.4%)となりましたが、「無回答」の割合が大きく有効な回答の割合が小さい結果となっています。

性別で見ると、男女に大きな差はありませんでしたが、男性では「1万円以上1万5千円未満」(0.9%)が第3位となっています。

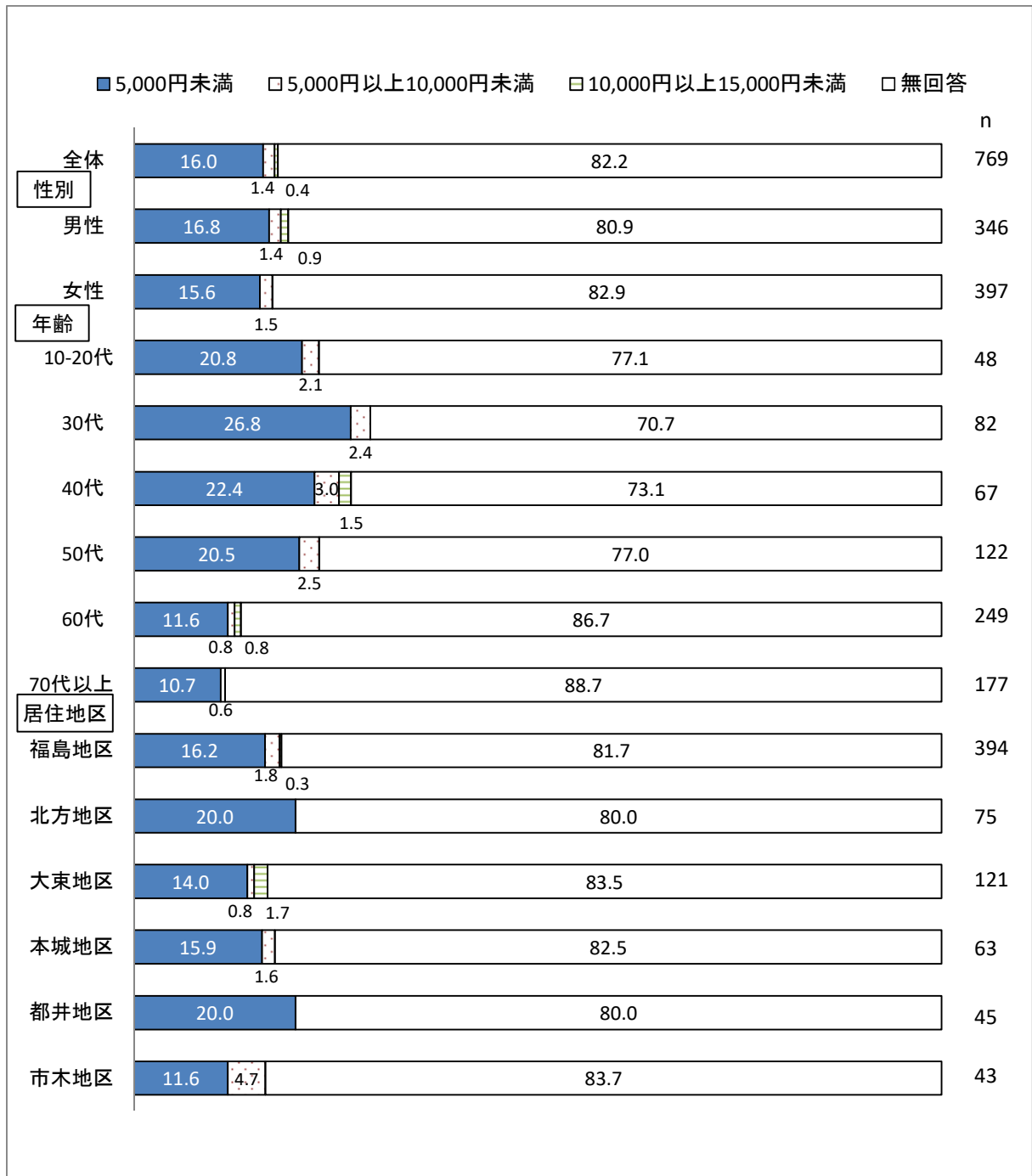
年齢で見ると、若い年齢層では「5千円未満」の割合が大きくなっています。

居住地区で見ると、北方地区と都井地区では、有効な回答が「5千円未満」のみとなりました。[図表 28 参照]

図表 28 有料サービス利用料金

(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



問 11 生活費に占める情報関連費用を教えてください。4. その他料金



● 第1位は「5千円未満」(7.4%)、第2位は「5千円以上1万円未満」(0.4%)。

その他の回答として、“新聞”、“無回答”などがありました。

料金については、第1位は、「5千円未満」(7.4%)、第2位が「5千円以上1万円未満」(0.4%)、第3位が「1万円以上1万5千円未満」(0.1%)となりましたが、「無回答」の割合が大きく有効な回答の割合が小さい結果となっています。

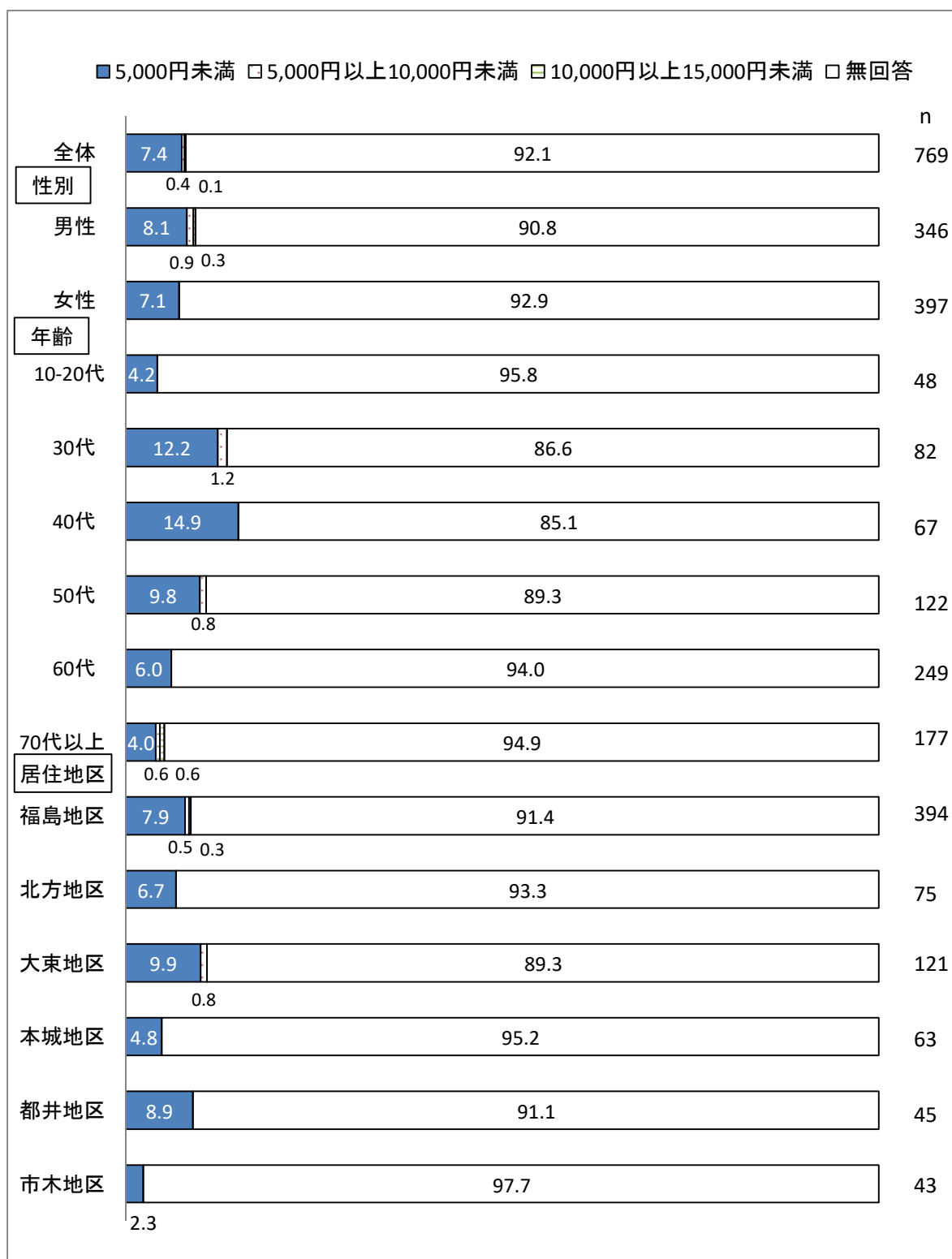
性別でみると、男女に大きな差はありませんでしたが、女性では有効な回答が「5千円未満」(7.1%)のみとなりました。

年齢でみると、10-20代、40代、60代では有効な回答が「5千円未満」のみとなりました。

居住地区でみると、福島地区と大東地区以外の地区では、有効な回答が「5千円未満」のみとなりました。[図表 29 参照]

図表 29 その他料金
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



(4) テレビ視聴時間

問 12 テレビ（地上波放送）を1日のうち、平均してどのくらい視聴していますか。



- 第1位は「ほとんどつけている」(60.5%)、第2位が「1時間程度」(16.4%)。

1日のうちテレビをどの程度視聴しているか、たずねたところ、第1位は「ほとんどつけている」(60.5%)、第2位が「1時間程度」(16.4%)の順になっています。

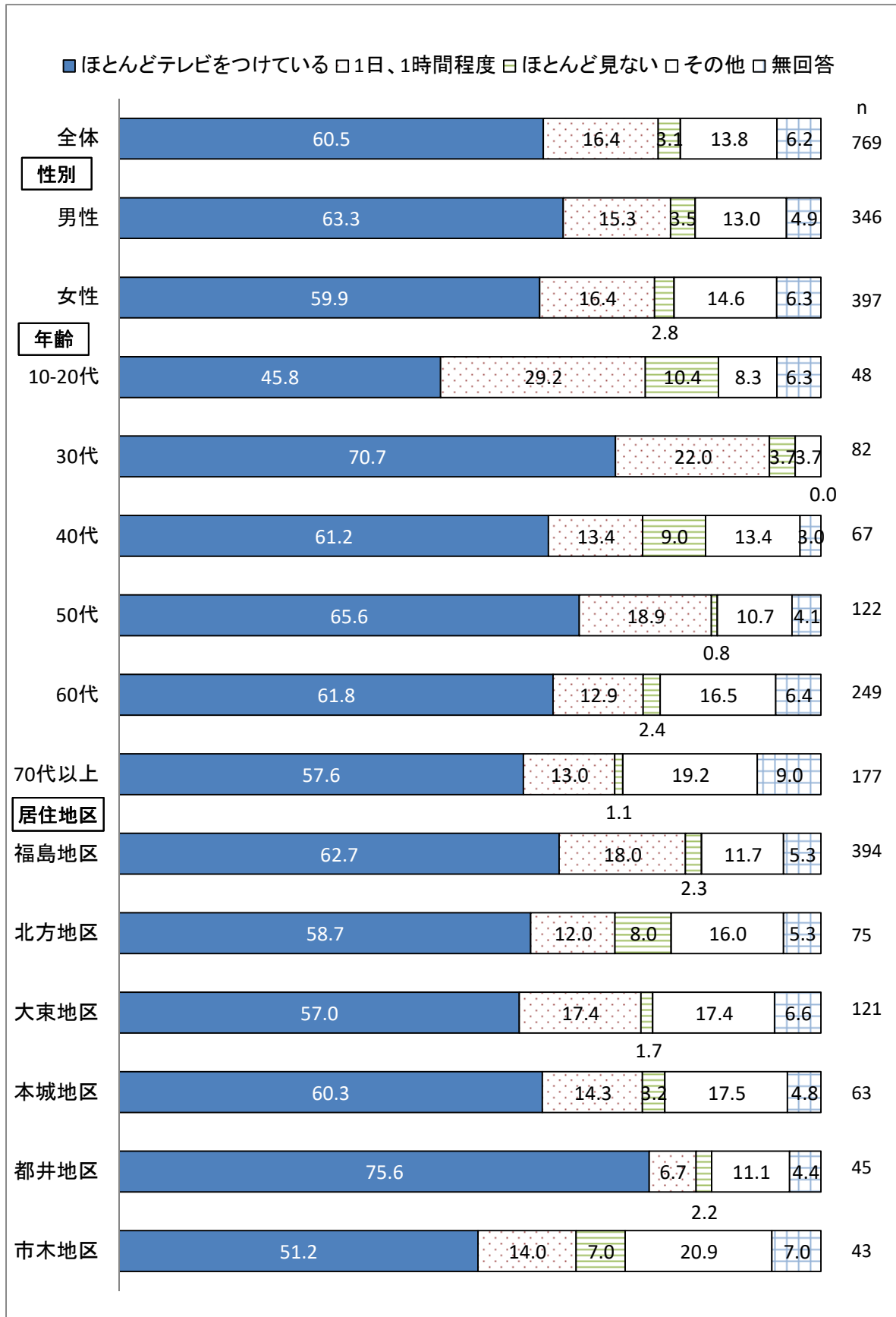
性別で見ると、男性の「ほとんどつけている」が女性より約3ポイント高くなっています。

年齢で見ると、10-20代では「ほとんどつけている」(45.8%)が第1位ではあるものの、他の年齢より割合が小さくなっています。[図表 30 参照]

図表 30 テレビの平均視聴時間

(全体／複数回答)

(単位：%)



(5) テレビ以外の情報関連機器の使用について

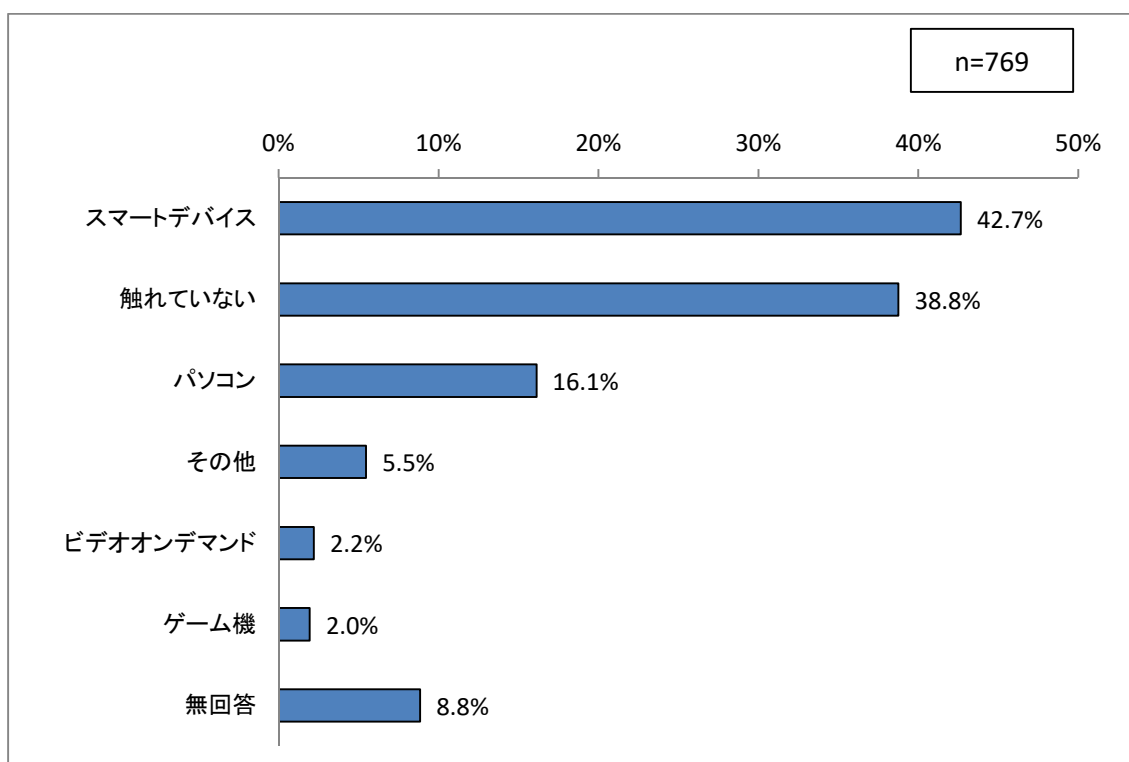
問 13 自宅でテレビ（地上波放送）を見ていない間は、情報機器に触れていますか。【○印は
いくつでも】

- 第1位は「スマートデバイス」(42.7%)、第2位が「触れていない」(38.8%)。

テレビを見ていない間に、情報機器を使用しているかたずねたところ、第1位は「スマートデバイス」(42.7%)、第2位が「触れていない」(38.8%)、第3位が「パソコン」(16.1%)となっています。

年齢でみると、60代、70歳以上では「触れていない」が第1位となっています。[図表 31 参照]

図表 31 テレビを見ていない時に、情報機器を使用しているか
(全体/複数回答)



※スマートデバイス：スマートフォン、タブレット、iPhone、iPad など

※ビデオオンデマンド：dTV、hulu、NETFLIX、Amazon プライムなど

(全体・性別・年齢／上位3位)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		スマートデバイス 42.7%	触れていない 38.8%	パソコン 16.1%
性別	男性	スマートデバイス 44.2%	触れていない 36.4%	パソコン 20.5%
	女性	スマートデバイス 42.3%	触れていない 40.8%	パソコン 12.8%
年齢	10-20代	スマートデバイス 81.3%	パソコン 22.9%	触れていない 12.5%
	30代	スマートデバイス 81.7%	触れていない 15.9%	パソコン 12.2%
	40代	スマートデバイス 77.6%	パソコン 22.4%	触れていない 13.4%
	50代	スマートデバイス 59.8%	触れていない 25.4%	パソコン 23.8%
	60代	触れていない 47.0%	スマートデバイス 29.3%	パソコン 17.7%
	70歳以上	触れていない 63.8%	スマートデバイス 10.2%	パソコン 7.9%

6 コミュニティ活動、参画・協働について

問 15 あなたの現在のコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。



- 現在“参加している”人が 26.7%。一方、“参加していない”人は 65.3%。
“参加している”は前回と比較し、減少。
- 今後“参加したい”人が 56.6%。一方、“参加したくない”人が 35.4%。

地域活動・ボランティア活動への参加状況と今後の参加意向については、「参加しておらず、今後も参加しない」が 32.8%で最も多く、次いで「参加していないが、今後は参加したい」（32.5%）、「参加しており、今後は参加したい」（24.1%）、「参加しているが、今後は参加するつもりはない」（2.6%）の順となっています。

これを現在の参加状況でみると、現在“参加している”人（「参加しており、今後も参加したい」24.1%及び「参加しているが、今後は参加しない」2.6%の合計）が 26.7%、一方、“参加していない”人（「参加していないが、今後は参加したい」32.5%及び「参加しておらず、今後も参加しない」32.8%の合計）が 65.3%となっています。

これを今後の参加意向でみると、今後“参加したい”人（「参加しており、今後も参加したい」24.1%及び「参加していないが、今後は参加したい」32.5%の合計）が 56.6%、今後“参加したくない”人（「参加しているが、今後は参加しない」2.6%及び「参加しておらず、今後も参加しない」32.8%の合計）が 35.4%となっており、現在“参加している”人の 26.7%から今後“参加したい”人が 56.6%と大きく上回る結果となっています。

性別でみると、男性で“参加したい”率が女性より高くなっています。

年齢でみると、“参加したい”率は 40 代（64.2%）が最も高く、70 歳以上（46.3%）が最も低くなっています。

居住地区でみると、“参加したい”率は本城地区（66.7%）が最も高く、都井地区と市木地区（51.1%）が最も低くなっています。

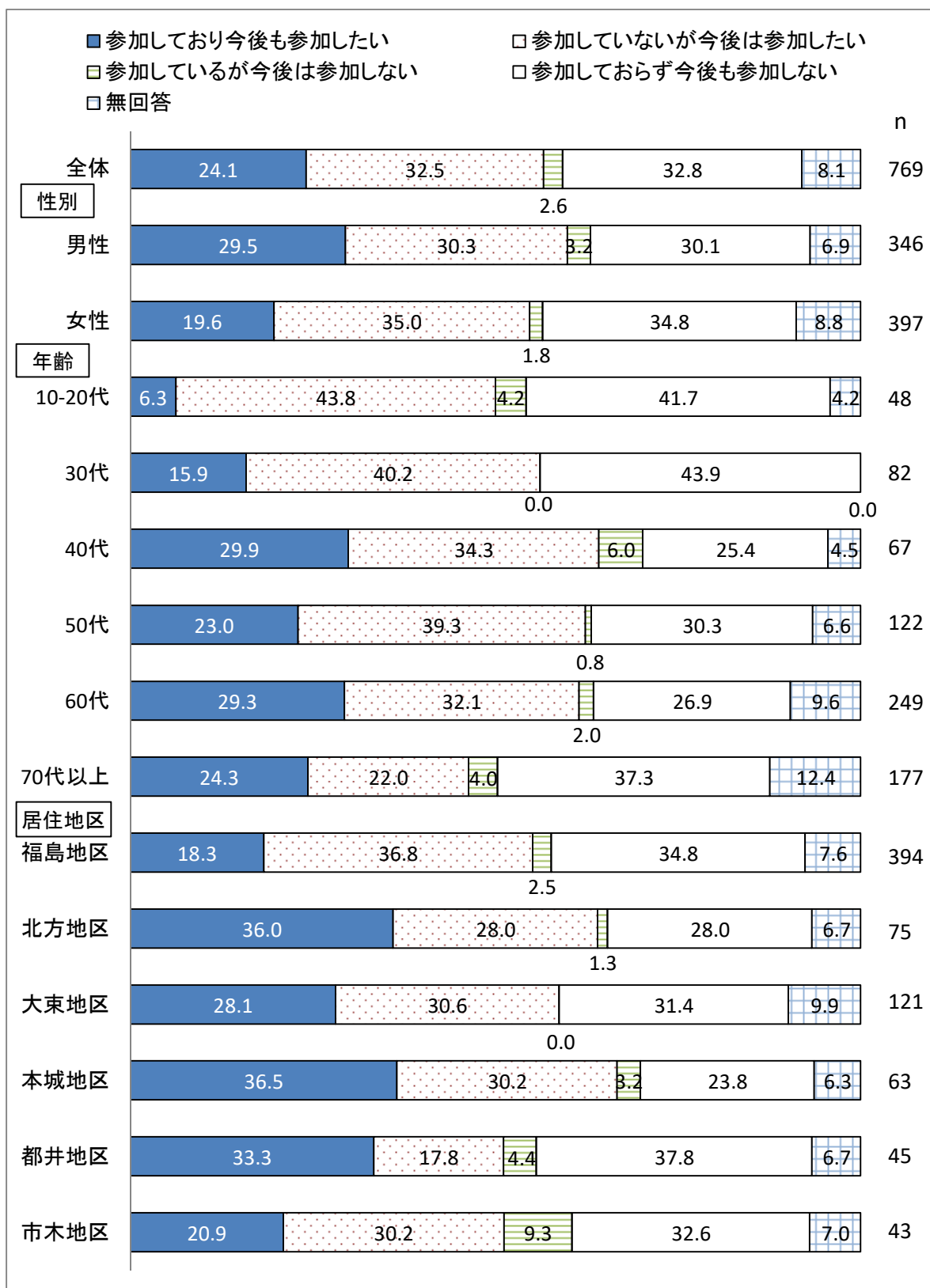
平成 28 年と比較すると、全体・性別では大きな違いはありませんが、年齢では 10-20 代、30 代、50 代、60 代で「参加しておらず、今後も参加しない」が増加しています。

[図表 32 参照]

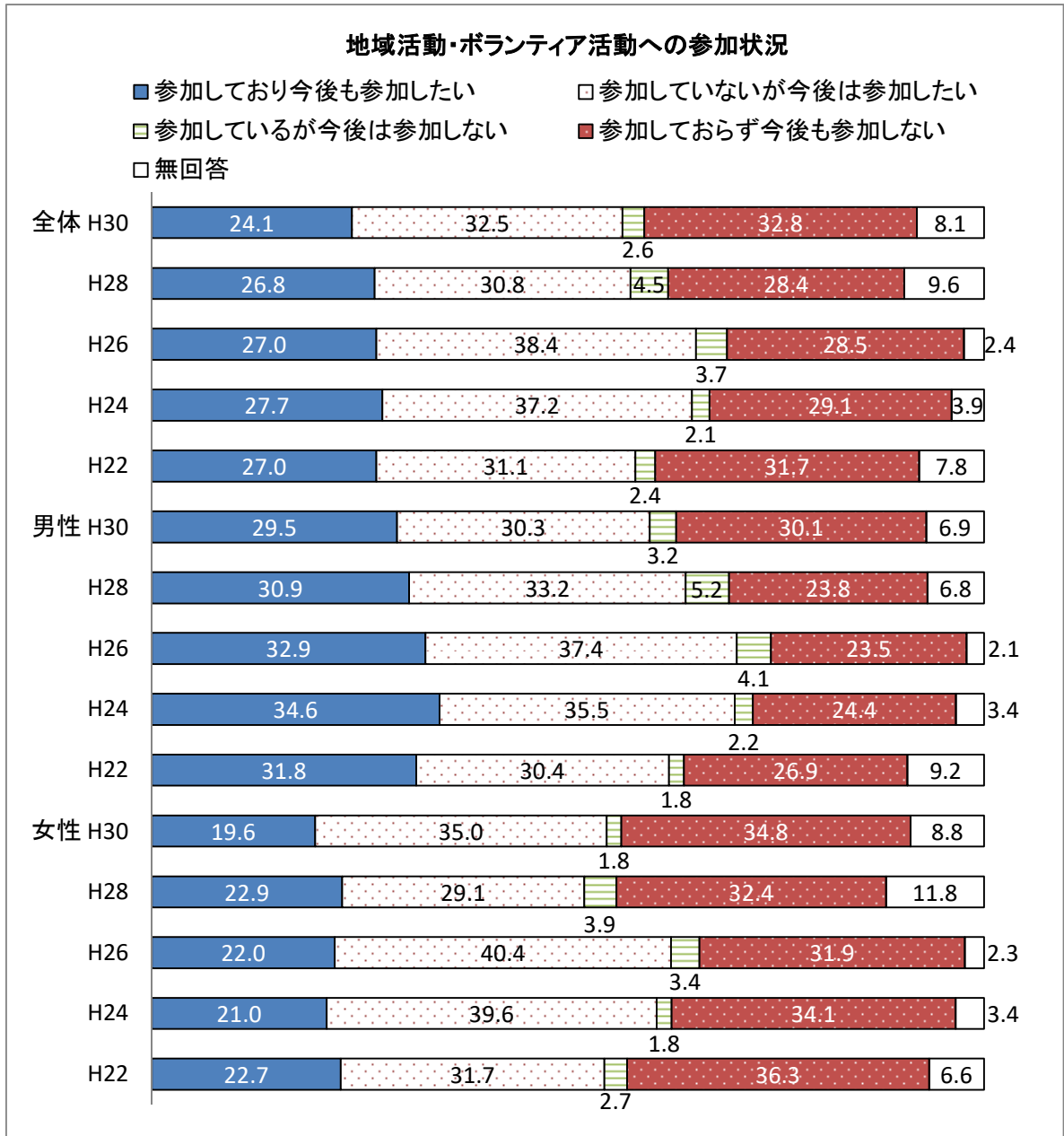
図表 32 地域活動・ボランティア活動の参加

(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)

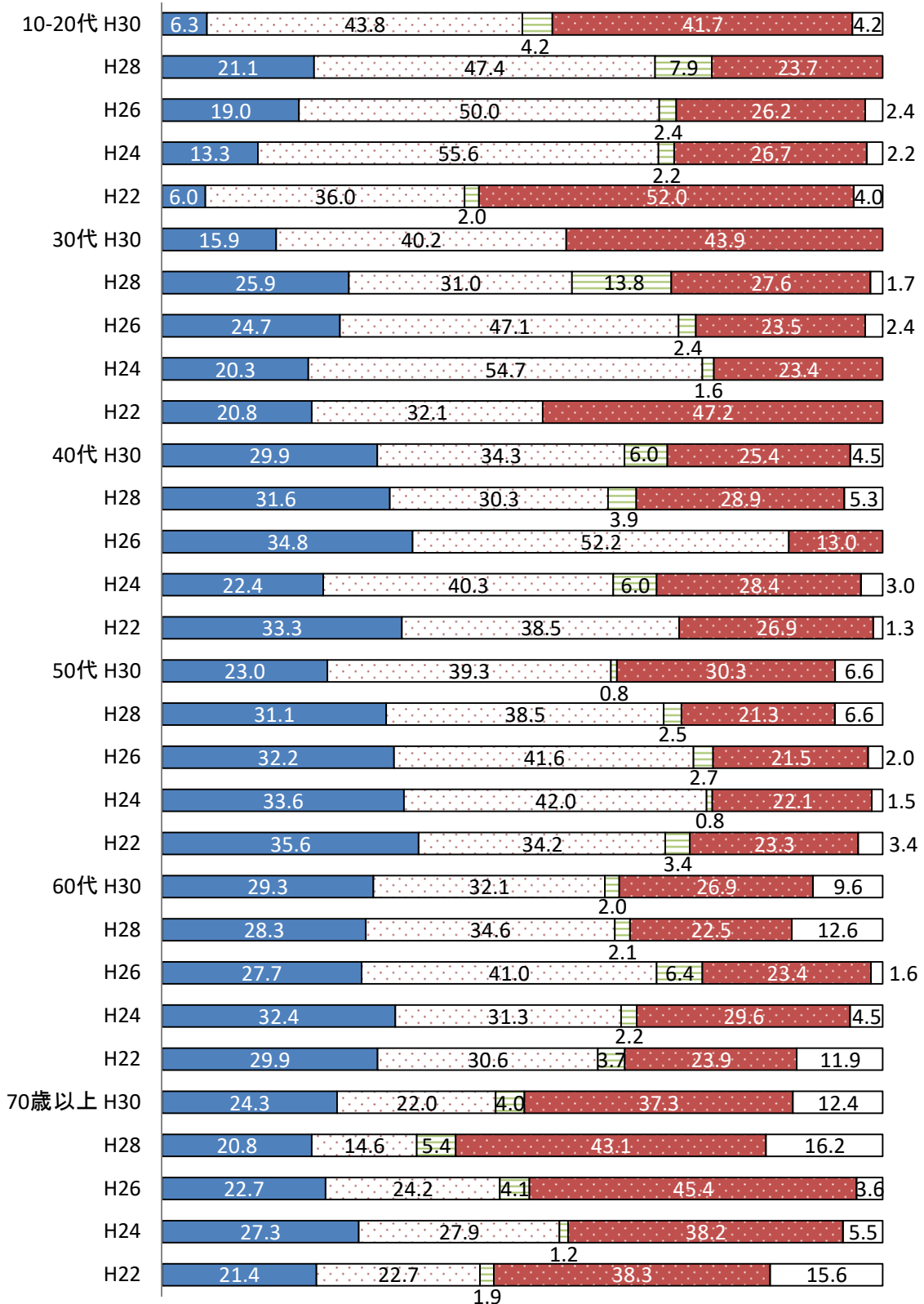


■過去の調査との比較



地域活動・ボランティア活動への参加状況

- 参加しており今後も参加したい
- 参加しているが今後は参加しない
- 参加していないが今後は参加したい
- 参加しておらず今後も参加しない
- 無回答



7 育児・介護休暇制度などについて

問 16 あなたの職場では、育児・介護休暇など休暇を取る際、性別によって差があると思いますか。



- 「どちらともいえない」(33.0%) が第1位、次いで「平等である」(15.3%) の順。

職場では、育児・介護休暇など休暇を取る際、性別によって差があるかについてたずねたところ、「どちらともいえない」が33.0%で最も多く、次いで「平等である」(15.3%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(13.4%)、「女性の方が非常に優遇されている」(6.8%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(2.9%)、「男性の方が非常に優遇されている」(0.5%) の順となっています。

性別でみると、男女ともに「どちらともいえない」が第1位となっています。

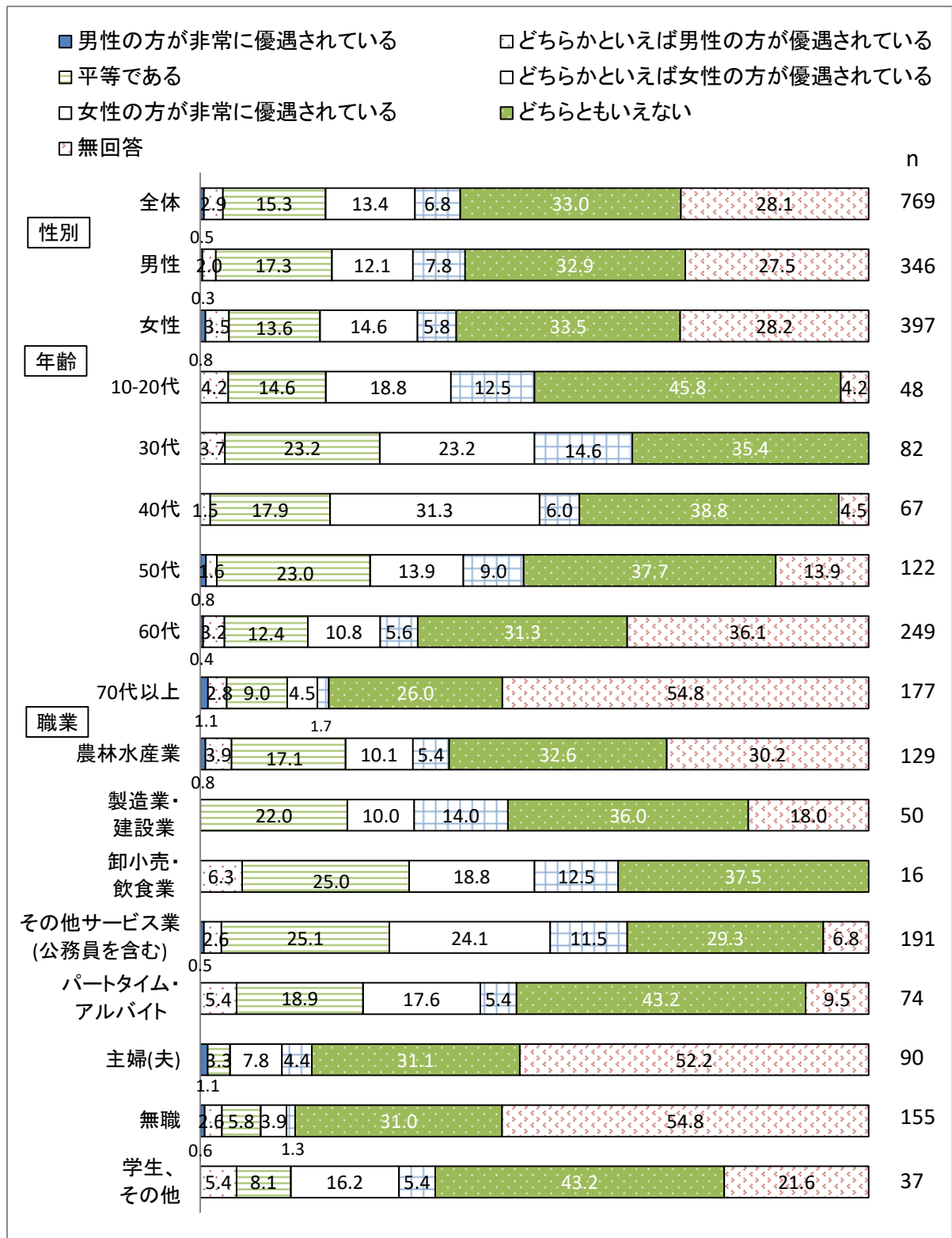
年齢でみると、30代、40代では“女性の方が優遇されている”率（「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の合計）が他の年齢よりも高くなっています。

職業でみると、製造業・建設業では“男性の方が優遇されている”率（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が0.0%となっています。[図表 33 参照]

図表 33 育児・介護休暇など休暇を取る際の性別差別

(全体・性別・年齢・職業)

(単位：%)



8 スポーツの振興について

問 17 あなたは、今後、串間市のスポーツ振興に何が必要だと思いますか。



- スポーツ振興に必要なことは「指導者の充実」が 26.0%で第 1 位。次いで「施設の充実」(22.9%)、の順。

今後のスポーツ振興に対する必要なことについては、「指導者の充実」(26.0%)が第 1 位で、次いで「施設の充実」(22.9%)、「推進体制の充実」(22.2%)、「学校における取り組みの充実」(15.1%)の順となっています。

性別でみると、男性では「推進体制の充実」(26.3%)、女性では「指導者の充実」(27.5%)が第 1 位となっています。

年齢でみると、10-20 代では「指導者の充実」「施設の充実」、30 代では「施設の充実」、40 代、50 代、60 代、70 歳以上では「指導者の充実」が第 1 位となっています。

居住地区でみると、福島地区、大東地区、本城地区では「指導者の充実」、北方地区、都井地区では「推進体制の充実」、市木地区では「推進体制の充実」「施設の充実」が第 1 位となっています。

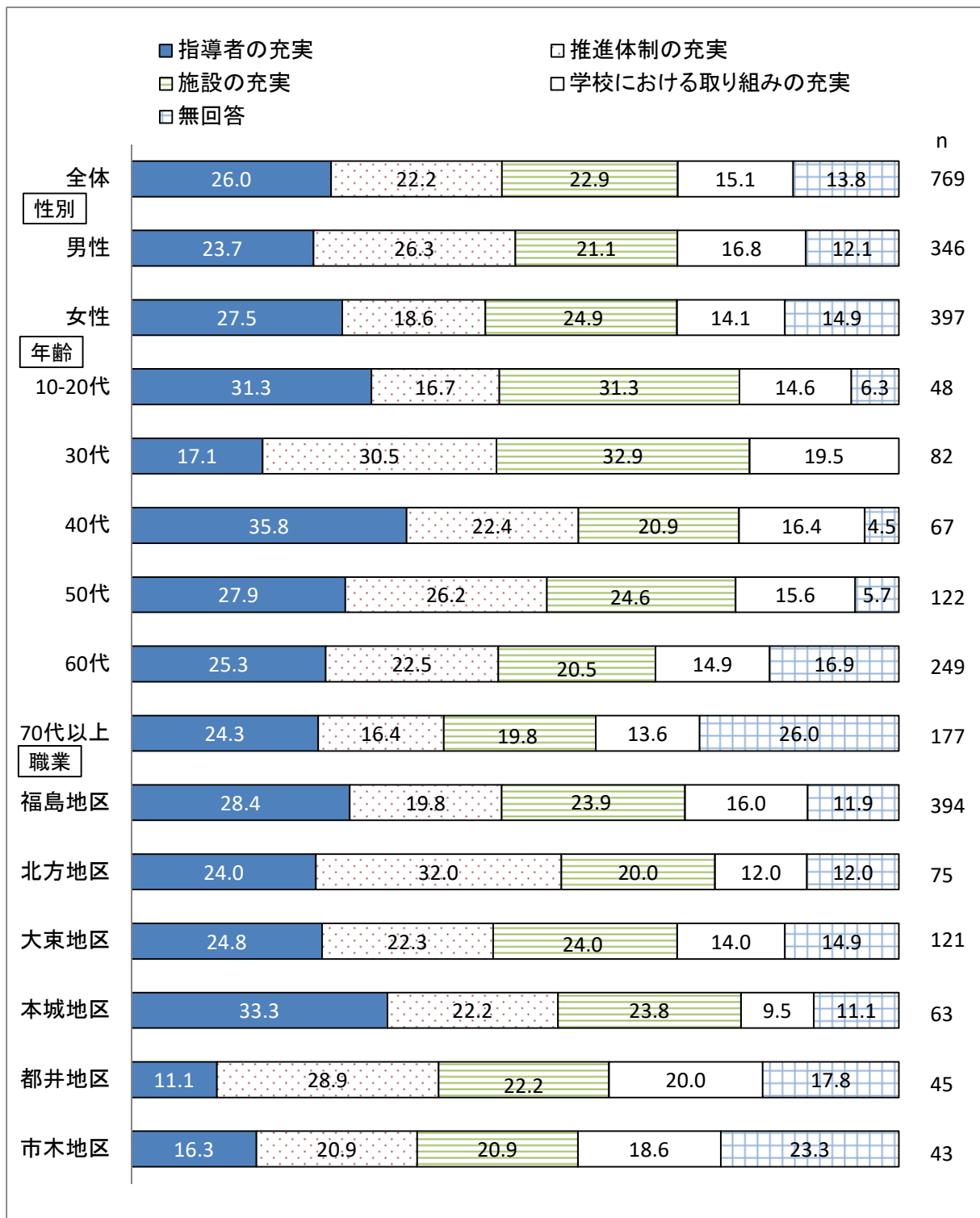
平成 28 年と比較すると、全体の「指導者の充実」が減少し、「推進体制の充実」が増加しています。性別では、男女ともに、「指導者の充実」が減少し、「推進体制の充実」が増加しています。年齢では、30 代を除き「指導者の充実」が高くなっています。

[図表 34 参照]

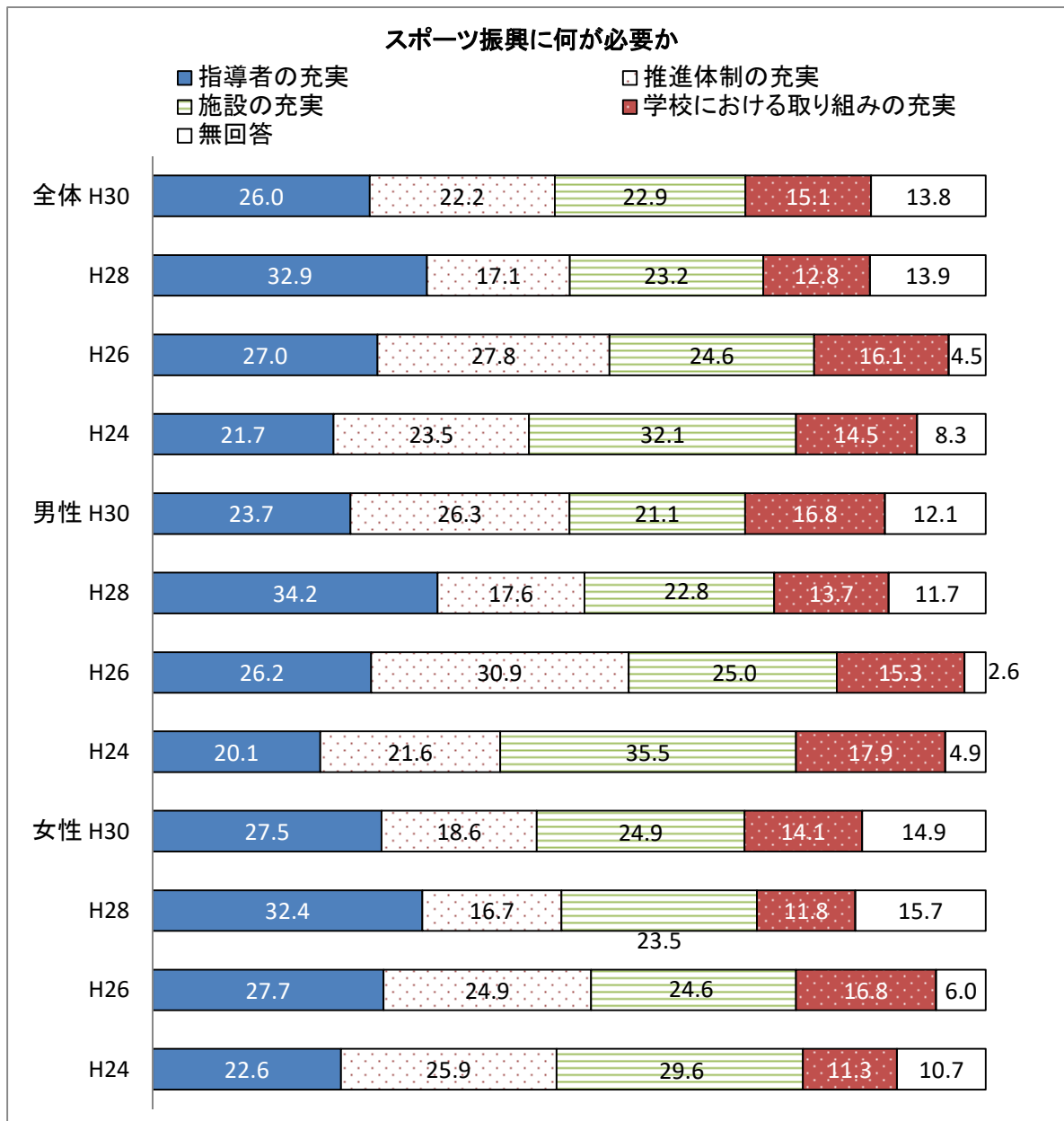
図表 34 スポーツ振興に必要なこと

(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)

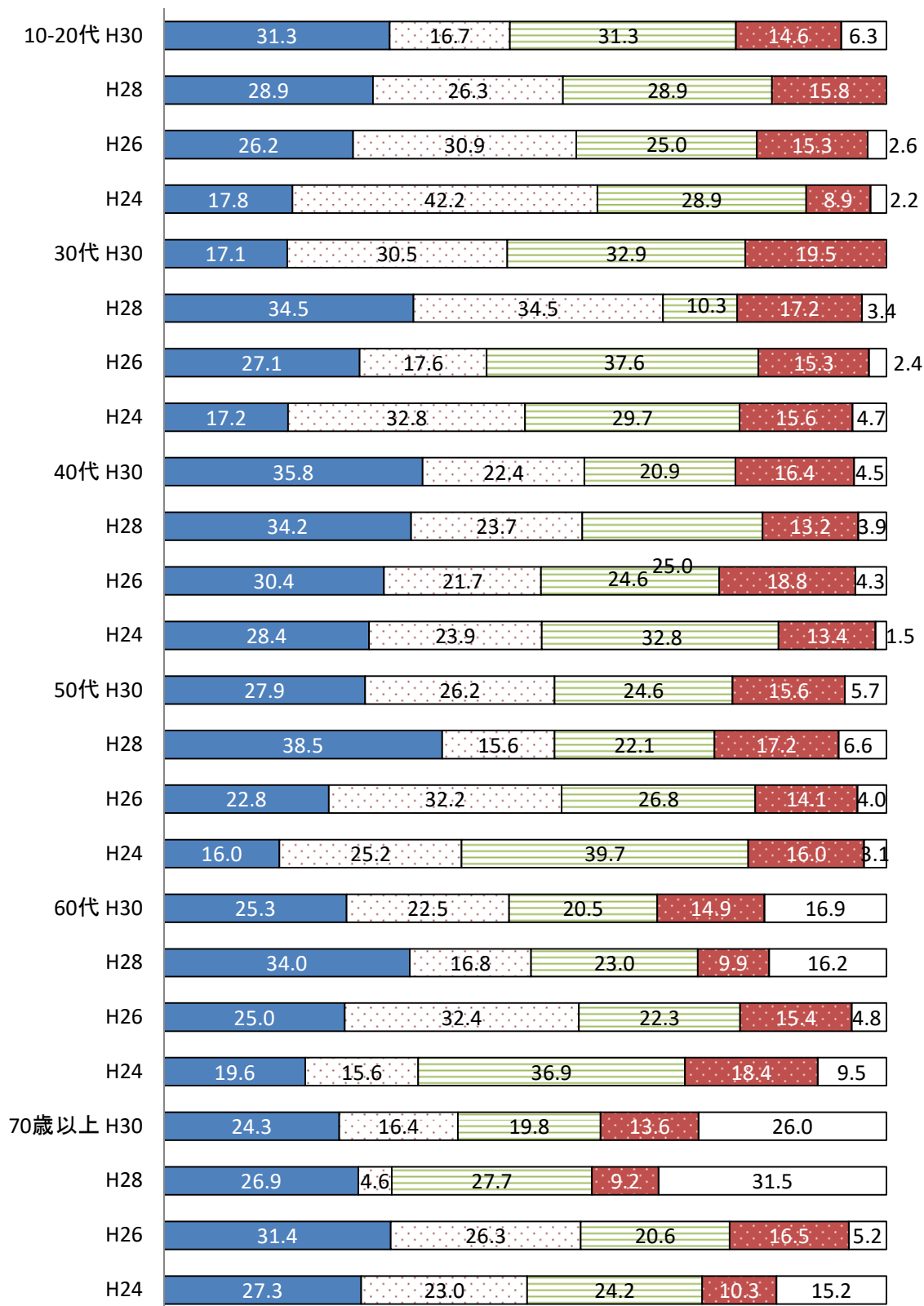


■過去の調査との比較



スポーツ振興に何が必要か

- 指導者の充実
- 推進体制の充実
- ▨ 施設の充実
- 学校における取り組みの充実
- 無回答



9 串間市の景観について

(1) 景観に関する意識

問 18 あなたは、景観やまちなみなどに関心がありますか。

● 景観に関心がある人は 78.8%、関心がない人は 13.7%。

景観やまちなみなどに関心があるかについて、「大に関心がある」、「関心がある」、「多少関心がある」、「あまり関心がない」、「関心がない」の中から1つを選んでもらったところ、「関心がある」と答えた人が 32.6%と最も多く、これに「大に関心がある」(22.9%)と「多少関心がある」(23.3%)をあわせた 78.8%の人が“景観に関心がある”という意識を示しています。一方、「あまり関心がない」(9.4%)及び「関心がない」(4.3%)と答えた“景観に関心がない”という人の合計は 13.7%にとどまっています。

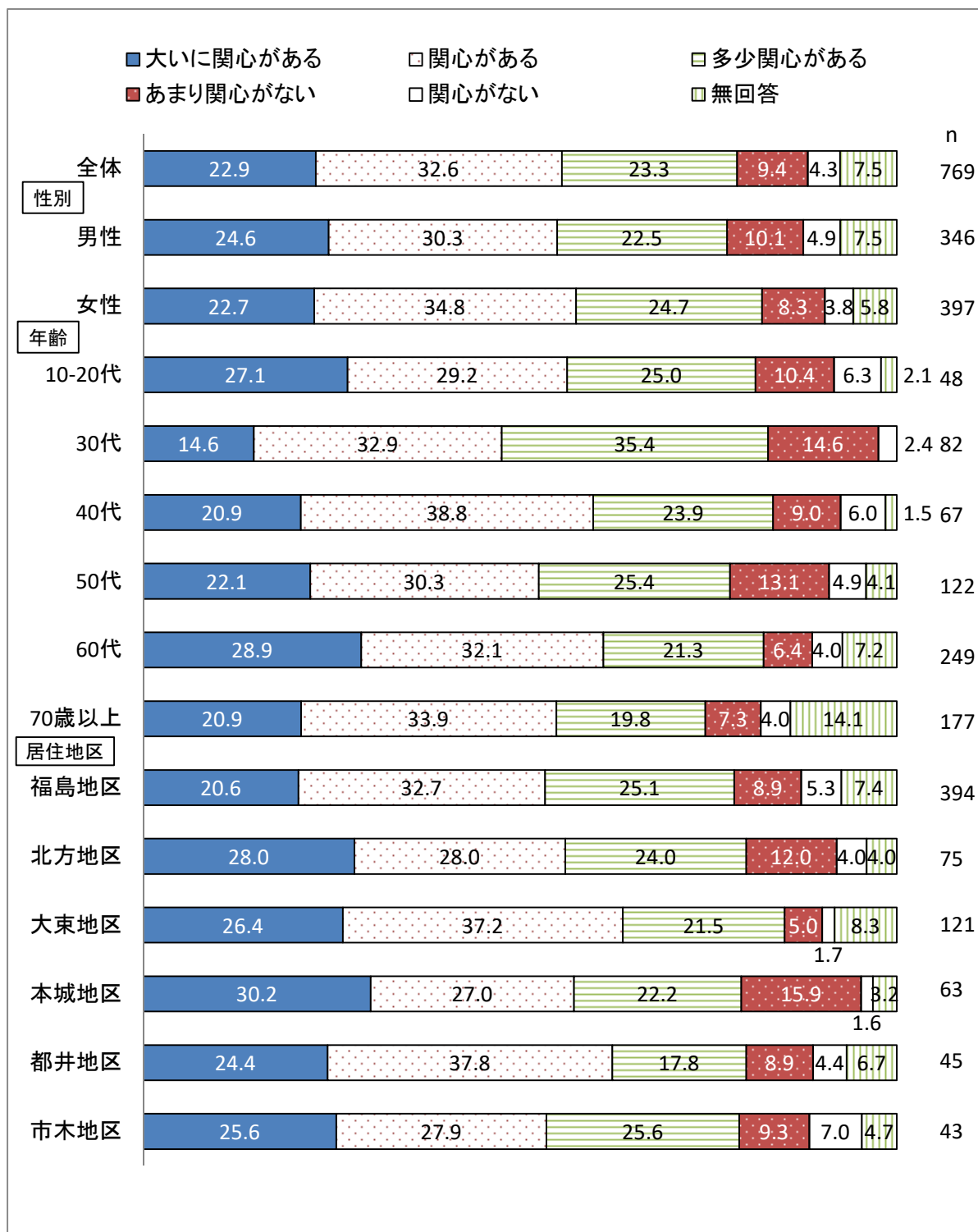
性別では、男女に大きな違いはありませんが、女性の方が関心がある人が多くなっています。

年齢では、70 歳以上では、他の年齢の人と比較して“景観に関心がある”率は低くなっています。

居住地区では、大東地区が 85.1%で最も高く、福島地区で 78.4%と最も低くなっています。[図表 35 参照]

図表 35 景観に対する関心度
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



問 19 串間市で良好な景観づくりに取り組むことは、重要だと思いますか。



● 約7割の人が景観づくりは重要だと答えている。

景観づくりに取り組むことについて、「非常に重要である」、「重要である」、「どちらともいえない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の中から1つを選んでもらったところ、「重要である」と答えた人が42.3%と最も多く、これに「非常に重要である」(28.1%)をあわせた70.4%の人が“重要である”という意識を示しています。一方、「あまり重要でない」(5.1%)及び「重要でない」(2.0%)と答えた“重要でない”という人の合計は7.1%にとどまっています。

性別では、男女に大きな違いはありません。

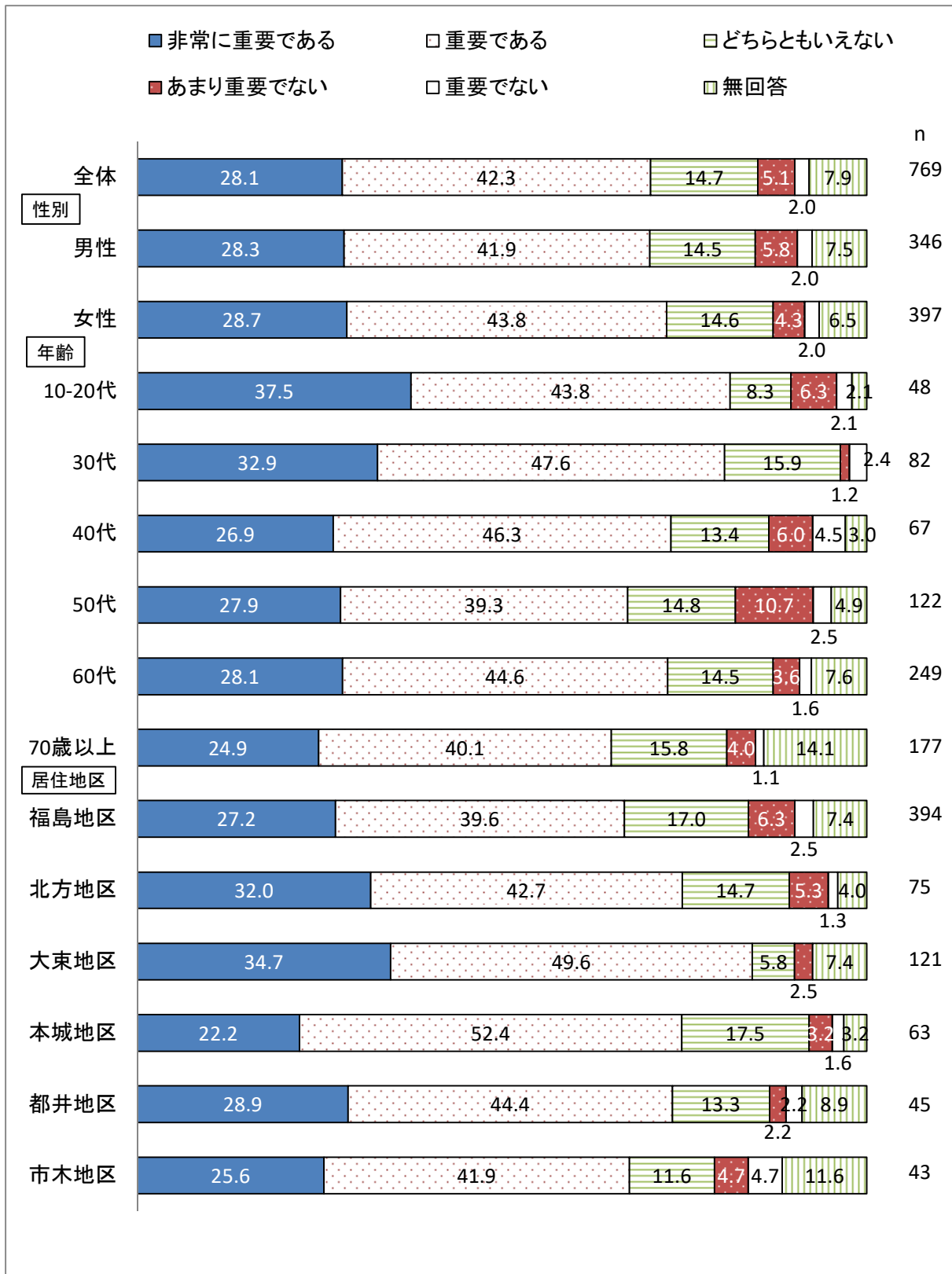
年齢では、“重要である”率は、10-20代が81.3%で最も高く、70歳以上が64.5%と最も低くなっています。

居住地区では、大東地区が84.3%で最も高く、福島地区で66.8%と最も低くなっています。

[図表 36 参照]

図表 36 景観づくりの重要度
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



問 20 景観を損なっているものは何だと思いますか。【複数回答】



- 8割弱の人が「空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など」を答えている。

景観を損なっているものは何かについてたずねたところ、第1位は「空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など」の77.5%であり、他の回答割合を大きく上回っています。第2位は「耕作放棄地や手入れされていない山林」(31.5%)、第3位が「まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場」(30.6%)、第4位が「空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など」(27.7%)、第5位が「雑然とした資材置き場や野ざらしの堆積物」(22.2%)などの順となっています。そのほかの回答は少数でした。

性別では、男性は全体の傾向と変わりませんが、女性は「まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場」(30.7%)が第2位であり、「空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など」(29.5%)が第3位となっています。

年齢では、30代、40代及び60代において「まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場」が第2位であり、10-20代では「空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など」が第3位に入っています。

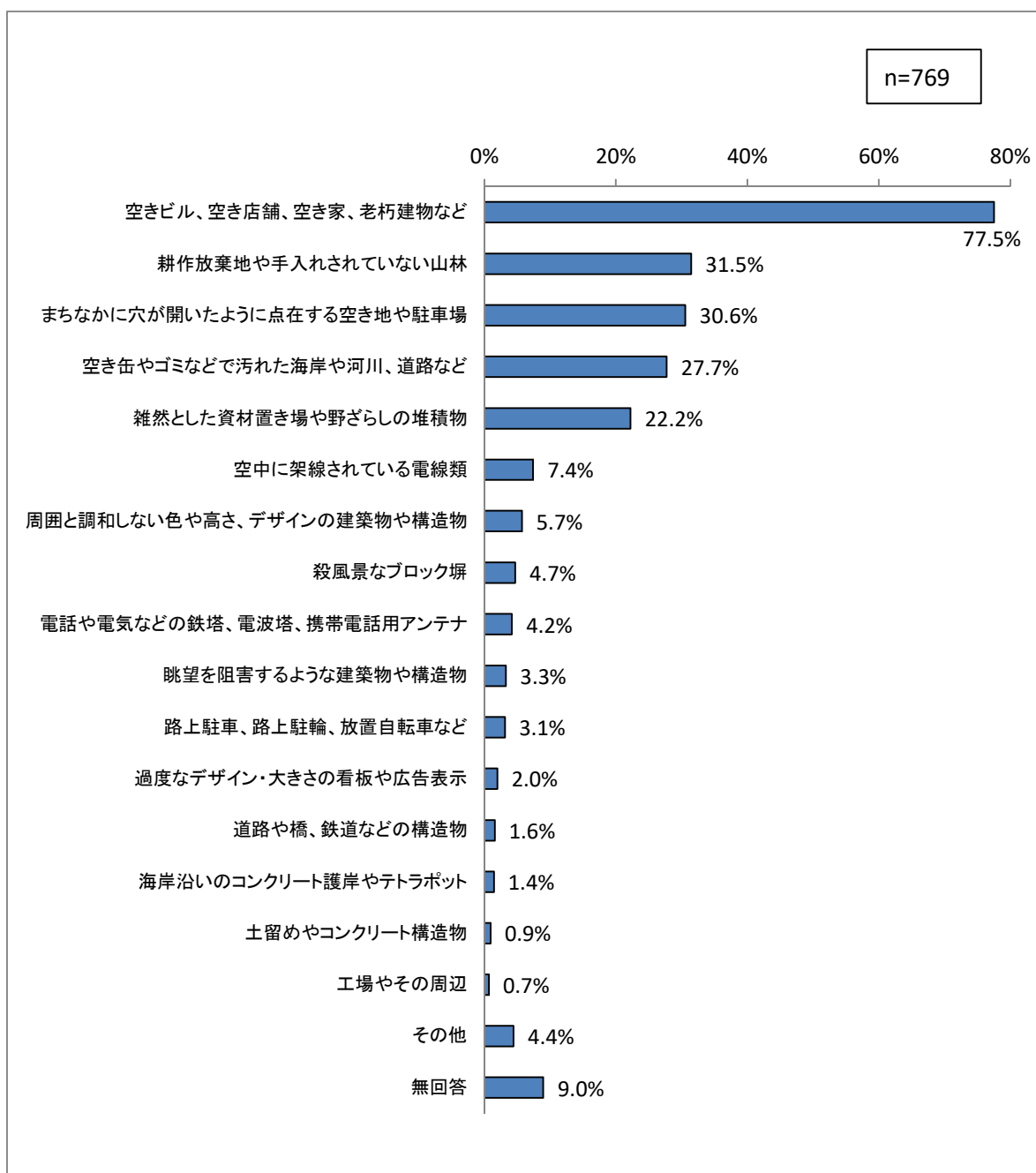
居住地区では、福島地区で「まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場」が第2位であり、福島、本城、都井及び市木地区で「空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など」が第3位となっています。

[図表 37 参照]

図表 37 景観を損なっているもの

(全体／複数回答3つまで)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 77.5%	耕作放棄地や手入れされていない山林 31.5%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 30.6%
	性別			
	男性	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 75.1%	耕作放棄地や手入れされていない山林 35.3%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 31.8%
	女性	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 81.1%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 30.7%	空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など 29.5%
年齢	10-20代	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 83.3%	耕作放棄地や手入れされていない山林 35.4%	空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など 31.3%
	30代	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 86.6%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 41.5%	耕作放棄地や手入れされていない山林 37.8%
	40代	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 82.1%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 32.8%	耕作放棄地や手入れされていない山林/空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など 23.9%
	50代	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 78.7%	耕作放棄地や手入れされていない山林 31.1%	空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など 28.7%
	60代	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 76.7%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 30.9%	耕作放棄地や手入れされていない山林 29.3%
	70代以上	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 73.4%	耕作放棄地や手入れされていない山林 35.6%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 29.9%
	居住地区	福島地区	空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 78.2%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 33.5%
北方地区		空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 80.0%	耕作放棄地や手入れされていない山林 34.7%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 30.7%
大東地区		空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 77.7%	耕作放棄地や手入れされていない山林 42.1%	雑然とした資材置き場や野ざらしの堆積物 27.3%
本城地区		空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 87.3%	耕作放棄地や手入れされていない山林 42.9%	空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など 33.3%
都井地区		空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 82.2%	耕作放棄地や手入れされていない山林 42.2%	空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など 37.8%
市木地区		空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など 62.8%	耕作放棄地や手入れされていない山林 32.6%	まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場/空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など 25.6%

◆串間市の景観に対する満足度

問 21 串間市の景観に対する満足度について教えてください。

- 満足度が最も高い項目は「自然や緑、農業などの景観」。次いで「港や海などの景観」の順。
- 満足度が最も低い項目は「駅の周りや商店などの景観」。

串間市の景観について、満足度をたずねた 7 つの設問項目の傾向を、“満足”（「とても満足」及び「どちらかといえば満足」の合計），“不満”（「どちらかといえば不満」及び「とても不満」の合計）にまとめ、その比率でみていくと、“満足”と回答した率は、「自然や緑、農業などの景観」（44.2%）が最も高く、次いで「港や海などの景観」（37.2%）、「まつり・文化、歴史などの景観」（27.8%）などの順となっています。一方、“不満”と回答した率は、「駅の周りや商店などの景観」（43.7%）が最も高くなっています。

【図表 38 参照】

さらに、加重平均値 [後述参照] による評価点（満足度：最高点 10 点、中間点 0 点、最低点 -10 点）による分析を行いました。

この結果、評価点の最も高い項目は「自然や緑、農業などの景観」（2.26 点）となっており、次いで第 2 位が「港や海などの景観」（1.47 点）、第 3 位が「まつり・文化、歴史などの景観」（0.81 点）と続いています。一方、評価点の低い方からみると、「駅の周りや商店などの景観」（-2.42 点）が最も低く、次いで第 2 位が「工業などの景観」（-0.34 点）、第 3 位が「住宅地の景観」（0.34 点）と続き、以下、「公共施設の景観」（0.79 点）となっています。

【図表 38 の①～⑦参照】

※加重平均値の算出方法※

5 段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「とても満足」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「とても不満」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「とても満足」、「どちらかとい} \\ \text{えば満足」、「どちらともいえない」、} \\ \text{「どちらかといえば不満」、} \\ \text{「とても不満」の回答者数} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点（満足度）は 10 点～-10 点の間に分布し、中間点の 0 点を境に、10 点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に -10 点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

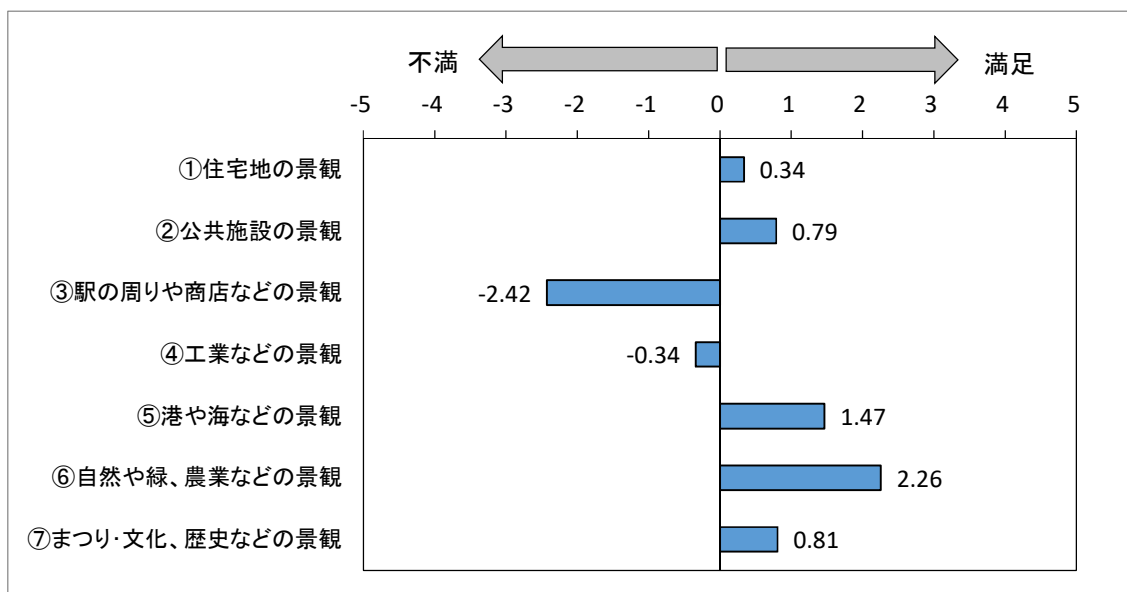
図表 38 串間市の景観に対する満足度（全体）

（単位：％）

項目	全体		
	満足	どちらとも いえない	不満
①住宅地の景観	19.1	57.2	12.7
②公共施設の景観	26.3	50.5	12.2
③駅の周りや商店などの景観	9.9	36.5	43.7
④工業などの景観	7.3	67.0	12.1
⑤港や海などの景観	37.2	39.8	13.4
⑥自然や緑、農業などの景観	44.2	36.3	10.0
⑦まつり・文化、歴史などの景観	27.8	48.2	14.0

図表 38 串間市の景観に対する満足度の評価点（全体）

（単位：評価点）



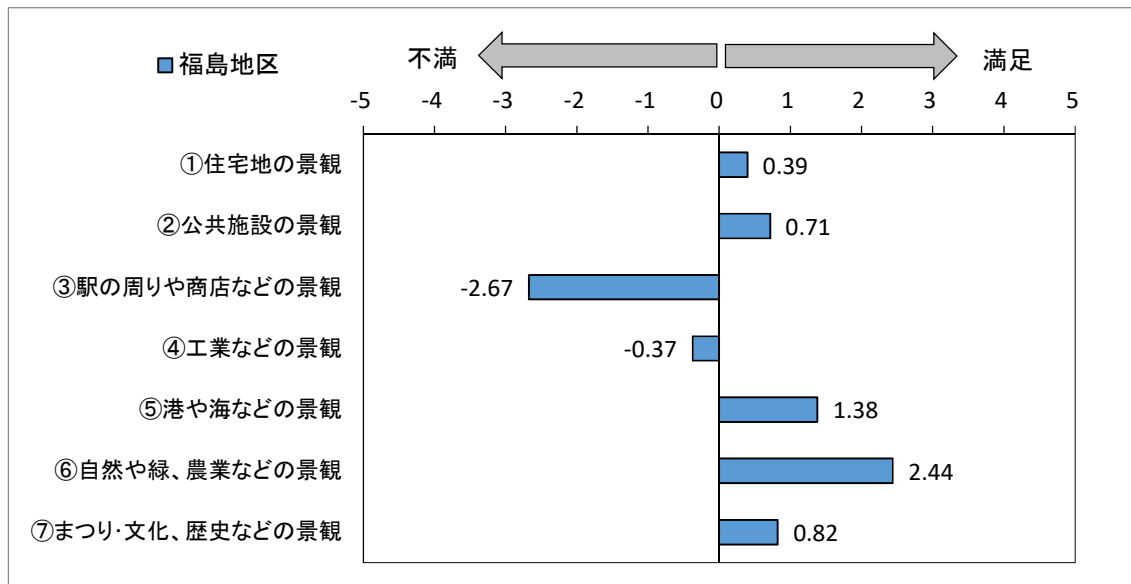
■また、地区別の満足度の項目をまとめると、以下のとおりとなります。

<福島地区>

福島地区での満足度は、全体の傾向とほぼ同じ結果となっています。

図表 38 の① 串間市の景観に対する満足度の評価点（福島地区）

（単位：評価点）

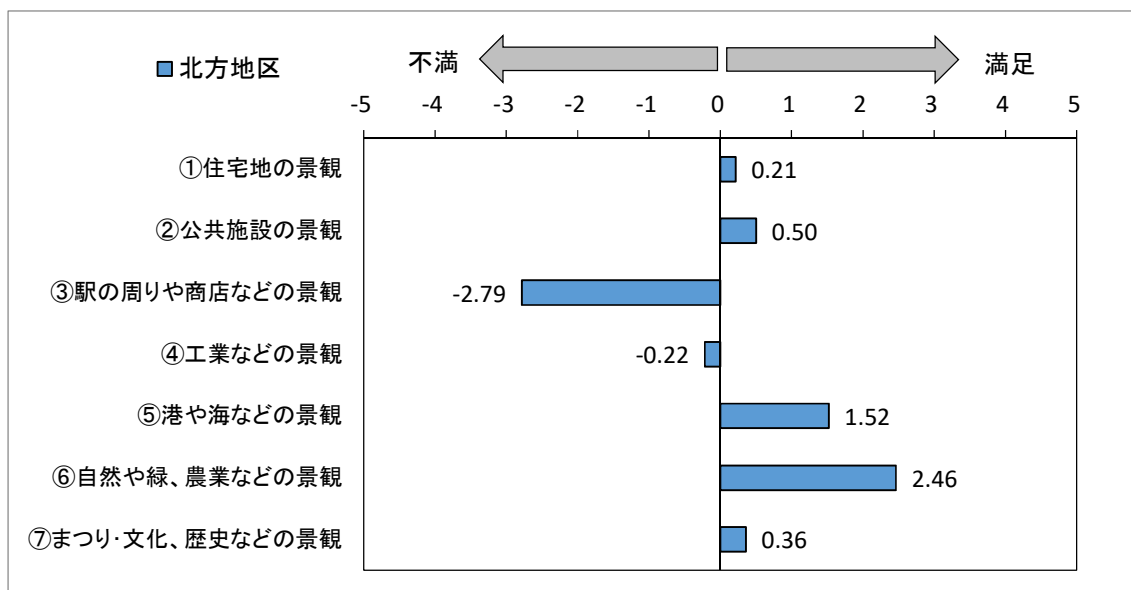


<北方地区>

北方地区での満足度は、全体の傾向とほぼ同じ結果となっています。

図表 38 の② 串間市の景観に対する満足度の評価点（北方地区）

（単位：評価点）

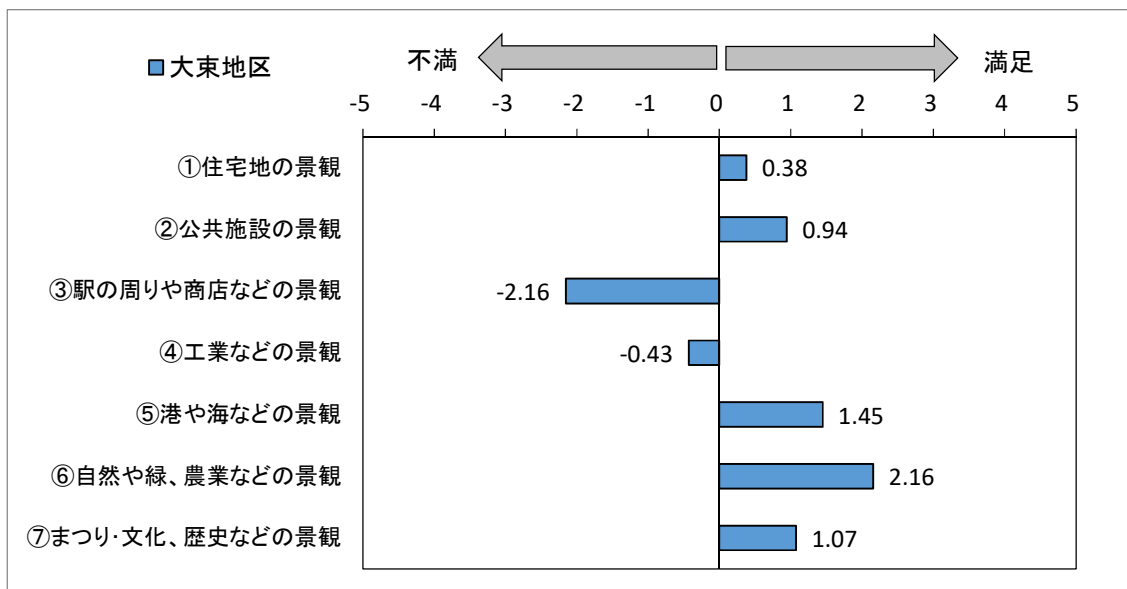


<大東地区>

大東地区での満足度は、全体の傾向とほぼ同じ結果となっています。

図表 38 の③ 串間市の景観に対する満足度の評価点（大東地区）

（単位：評価点）

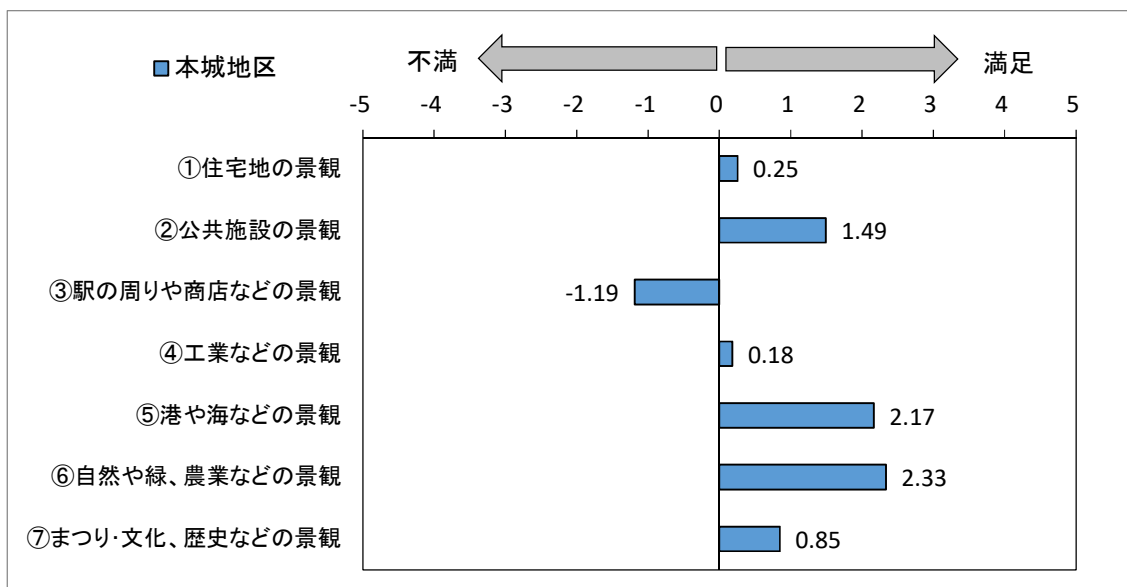


<本城地区>

本城地区での満足度は、全体の傾向と変わりませんが、上位3項目の評価点が「全体」よりも高くなっています。

図表 38 の⑤ 串間市の景観に対する満足度の評価点（本城地区）

（単位：評価点）

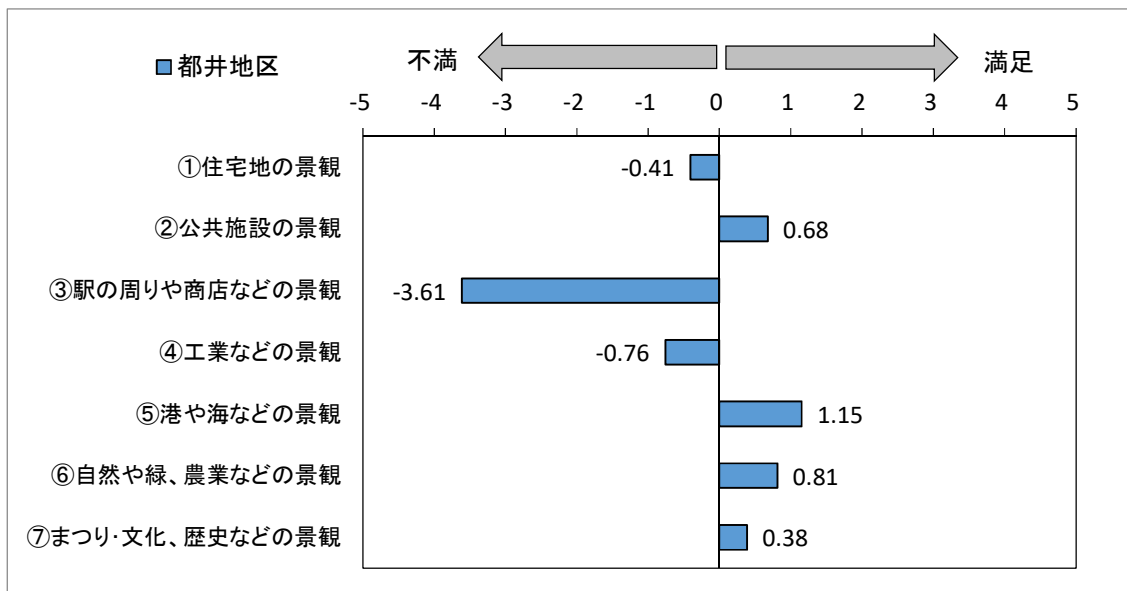


<都井地区>

都井地区での満足度は、「港や海などの景観」が第1位となり、「住宅地の景観」が不満を示しています。

図表 38 の⑥ 串間市の景観に対する満足度の評価点（都井地区）

（単位：評価点）

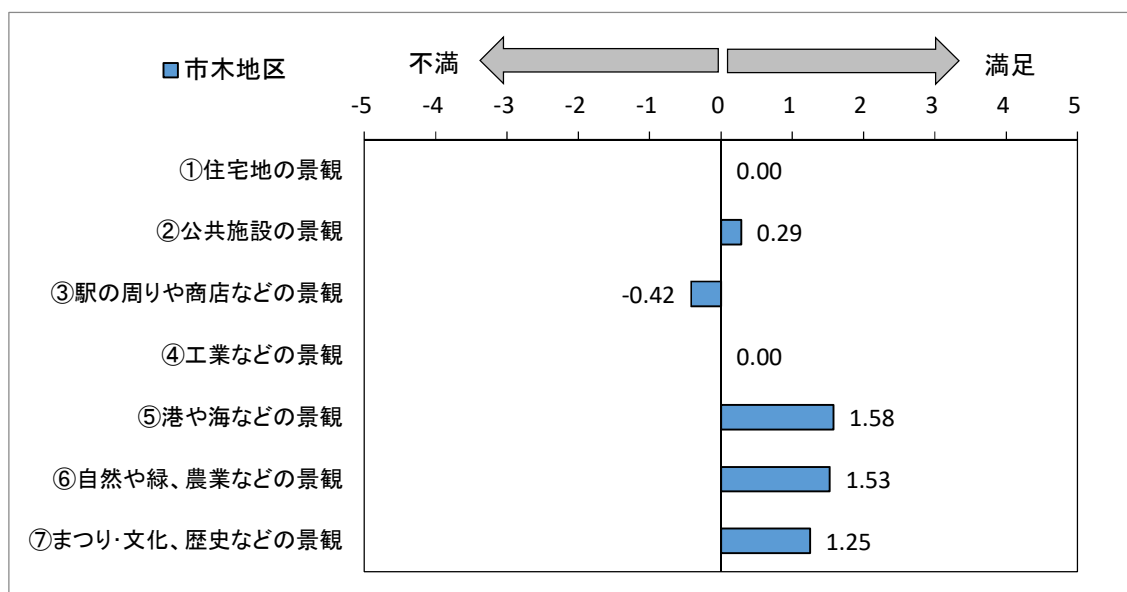


<市木地区>

市木地区での満足度は、「港や海などの景観」が第1位となり、「駅の周りや商店などの景観」の不満度が他の地区と比較して小さくなっています。

図表 38 の⑦ 串間市の景観に対する満足度の評価点（市木地区）

（単位：評価点）



(2) 串間市の景観形成について

問 22 串間市らしい景観形成のために最も重要だと思うものはなんですか。



- 「福島港などの港や都井岬、砂浜や本城干潟など海や港の景観」が 38.4%、「串間駅周辺など市街地の景観」が 31.1%であり、これらの2つの回答で大別されます。

串間市らしい景観形成のために最も重要なことをたずねたところ、第1位は「福島港などの港や都井岬、砂浜や本城干潟など海や港の景観」(38.4%)、第2位が「串間駅周辺など市街地の景観」(31.1%)となっています。第3位以下は回答数が少なく、第3位が「山や丘陵、河川や赤池溪谷など自然の景観」(7.0%)、第4位が「農地や幹線道路などが混在する郊外の風景」(5.6%)などの順となっています。

性別では、男女に大きな違いはありません。

年齢では、30代及び40代で「串間駅周辺など市街地の景観」が第1位となっています。

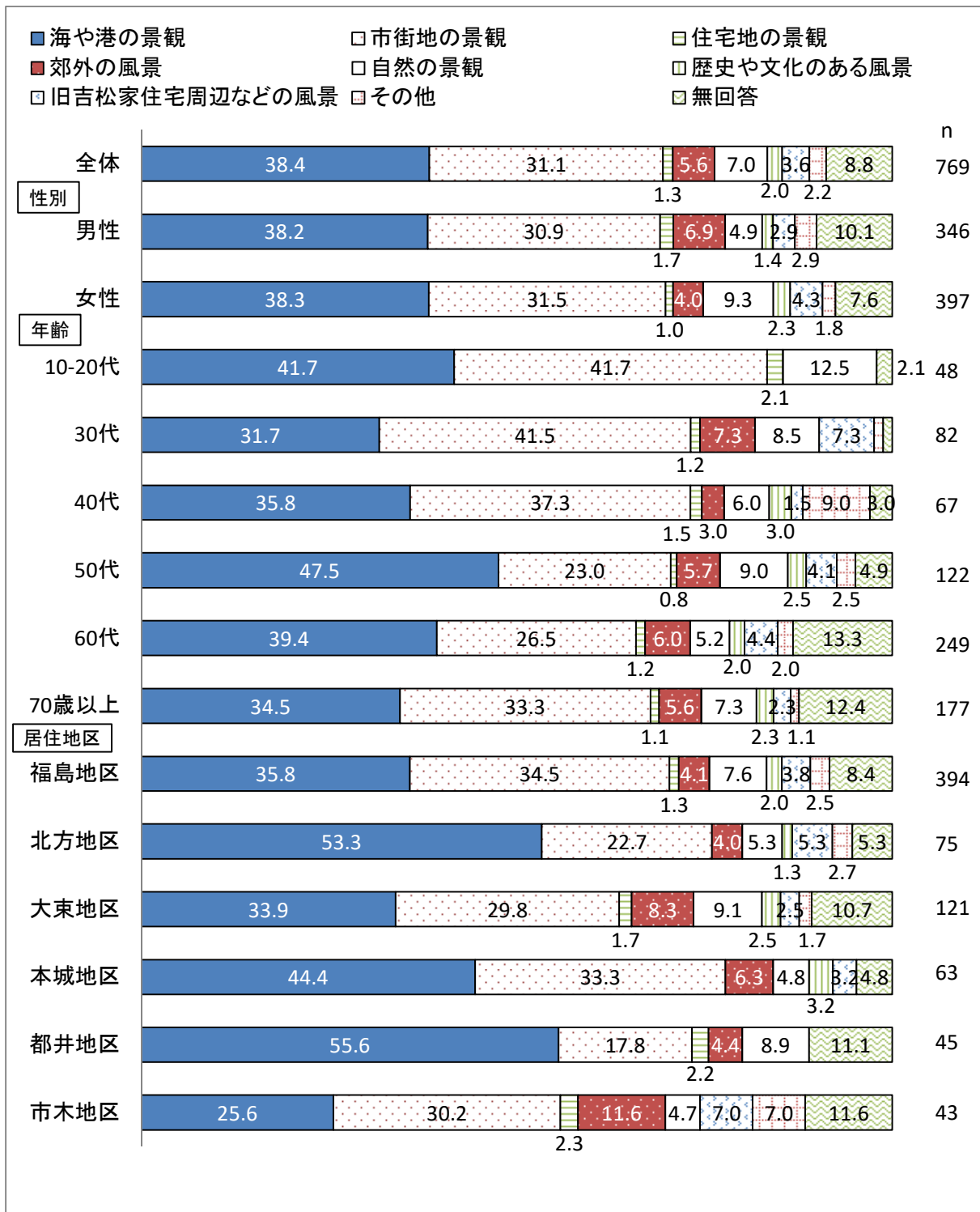
居住地区では、市木地区で「串間駅周辺など市街地の景観」が第1位となっています。

[図表 39 参照]

図表 39 串間市らしい景観形成のために最も重要なこと

(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



問 23 海や港の景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。【複数回答】

- 「干潟や砂浜などの自然環境を保全する」が過半数を占めています。

海や港の景観を良くするための重要なことについてたずねたところ、第1位は「干潟や砂浜などの自然環境を保全する」(52.0%)、第2位が「港や橋などの海が見える場所を守り、つくる」(34.1%)、第3位が「緑を豊かにする」(26.9%)、第4位が「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」(14.7%)などの順となっています。

性別では、男女に大きな違いはありません。

年齢では、30代以上では全体の傾向とあまり変わりませんが、10-20代の若い世代では、「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」が第3位に入っています。

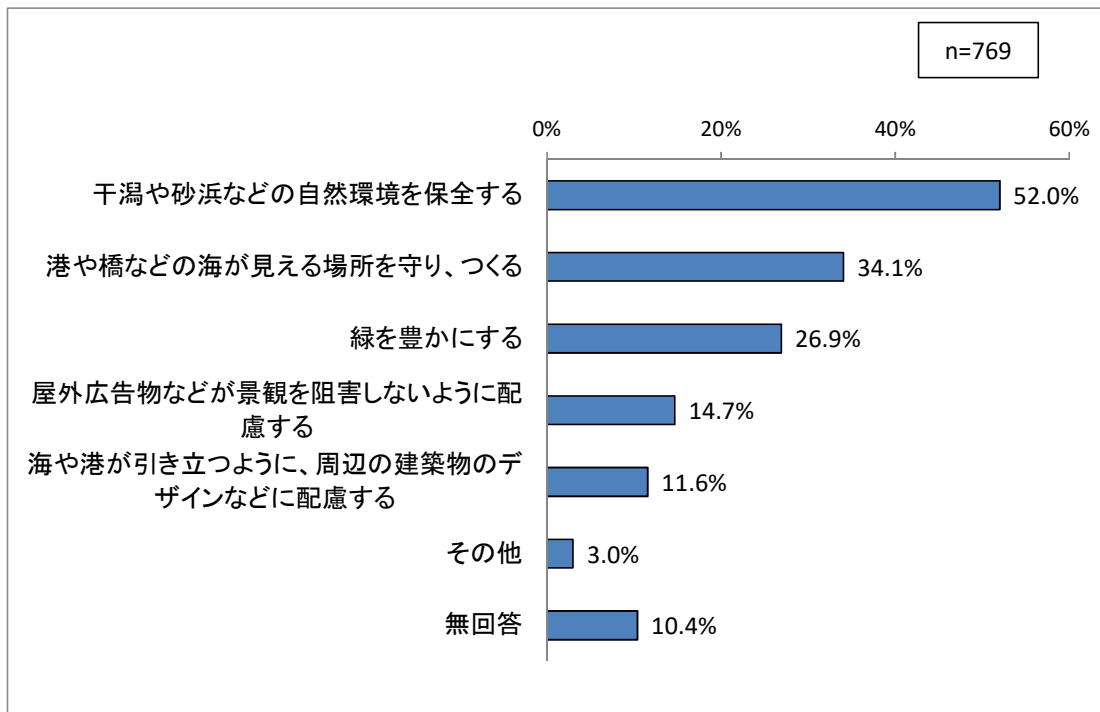
居住地区では、北方地区、大東地区、市木地区で「緑を豊かにする」が第2位となっています。

[図表 40 参照]

図表 40 海や港の景観を良くするための重要なこと

(全体/複数回答2つまで)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：％)

		第1位	第2位	第3位
全体		干潟や砂浜などの自然環境を保全する 52.0%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 34.1%	緑を豊かにする 26.9%
性別	男性	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 53.5%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 36.1%	緑を豊かにする 23.1%
	女性	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 51.1%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 33.2%	緑を豊かにする 30.5%
年齢	10-20代	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 52.1%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 47.9%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 20.8%
	30代	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 59.8%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 40.2%	緑を豊かにする 29.3%
	40代	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 46.3%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 34.3%	緑を豊かにする 23.9%
	50代	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 56.6%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 38.5%	緑を豊かにする 24.6%
	60代	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 52.6%	緑を豊かにする 29.3%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 28.1%
	70代以上	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 31.6%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 22.1%	緑を豊かにする 18.8%
居住地区	福島地区	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 52.8%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 37.3%	緑を豊かにする 23.6%
	北方地区	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 56.0%	緑を豊かにする 38.7%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 32.0%
	大東地区	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 43.8%	緑を豊かにする 29.8%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 26.4%
	本城地区	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 76.2%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 34.9%	緑を豊かにする 22.2%
	都井地区	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 44.4%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 40.0%	緑を豊かにする 31.1%
	市木地区	干潟や砂浜などの自然環境を保全する 41.9%	緑を豊かにする 34.9%	港や橋などの海が見える場所を守り、つくる 30.2%

問 24 市街地の景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。【複数回答】

- 「駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる」が過半数を占めています。

市街地の景観を良くするために重要なことについてたずねたところ、第1位は「駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる」(61.9%)、第2位が「商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する」(31.7%)、第3位が「緑を豊かにする」(30.2%)、第4位が「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」(13.4%)などの順となっています。

性別では、男女に大きな違いはありません。

年齢では、30代及び60代では、「緑を豊かにする」が第2位となっています。

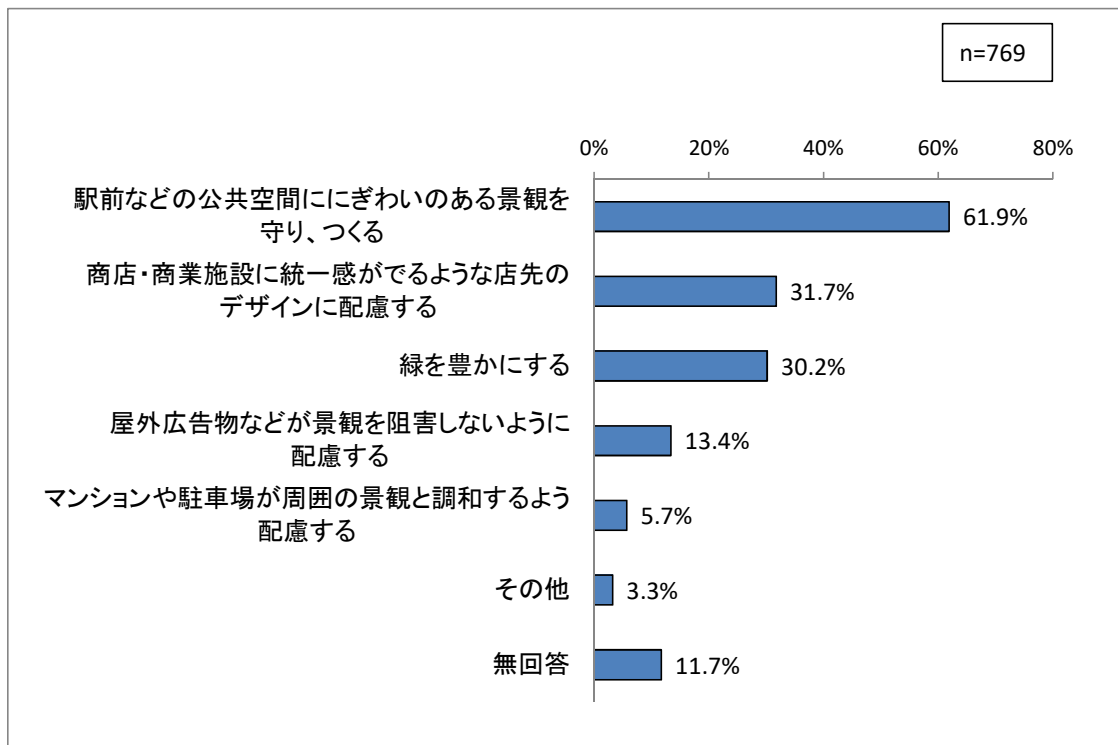
居住地区では、福島、都井及び市木地区で「緑を豊かにする」が第2位となっています。

[図表 41 参照]

図表 41 市街地の景観を良くするための重要なこと

(全体/複数回答2つまで)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 61.9%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 31.7%	緑を豊かにする 30.2%
性別	男性	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 63.6%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 32.7%	緑を豊かにする 30.3%
	女性	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 62.2%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 31.7%	緑を豊かにする 30.7%
年齢	10-20代	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 66.7%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 35.4%	緑を豊かにする 22.9%
	30代	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 81.7%	緑を豊かにする 35.4%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 29.3%
	40代	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 64.2%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 41.8%	緑を豊かにする 26.9%
	50代	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 66.4%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 30.3%	緑を豊かにする 29.5%
	60代	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 57.0%	緑を豊かにする 33.7%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 32.5%
	70代以上	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 37.1%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 18.5%	緑を豊かにする 17.8%
	居住地区	福島地区	駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 64.0%	緑を豊かにする 32.7%
北方地区		駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 65.3%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 42.7%	緑を豊かにする 25.3%
大東地区		駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 60.3%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 33.1%	緑を豊かにする 26.4%
本城地区		駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 58.7%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 38.1%	緑を豊かにする 31.7%
都井地区		駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 60.0%	緑を豊かにする 28.9%	商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する 24.4%
市木地区		駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる 62.8%	緑を豊かにする 30.2%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 23.3%

問 25 住宅地の景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。【複数回答】



- 第1位は「緑を豊かにする」の40.2%、第2位は「店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する」の26.5%。

住宅地の景観を良くするための重要なことについてたずねたところ、第1位は「緑を豊かにする」(40.2%)、第2位が「店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する」(26.5%)、第3位が「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」(25.6%)、第4位が「住宅の建築物のデザインが周囲の住宅と調和するよう配慮する」(19.0%)などの順となっています。

性別では、女性で「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」が第2位となっています。

年齢では、50代及び60代で「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」が第2位となっています。

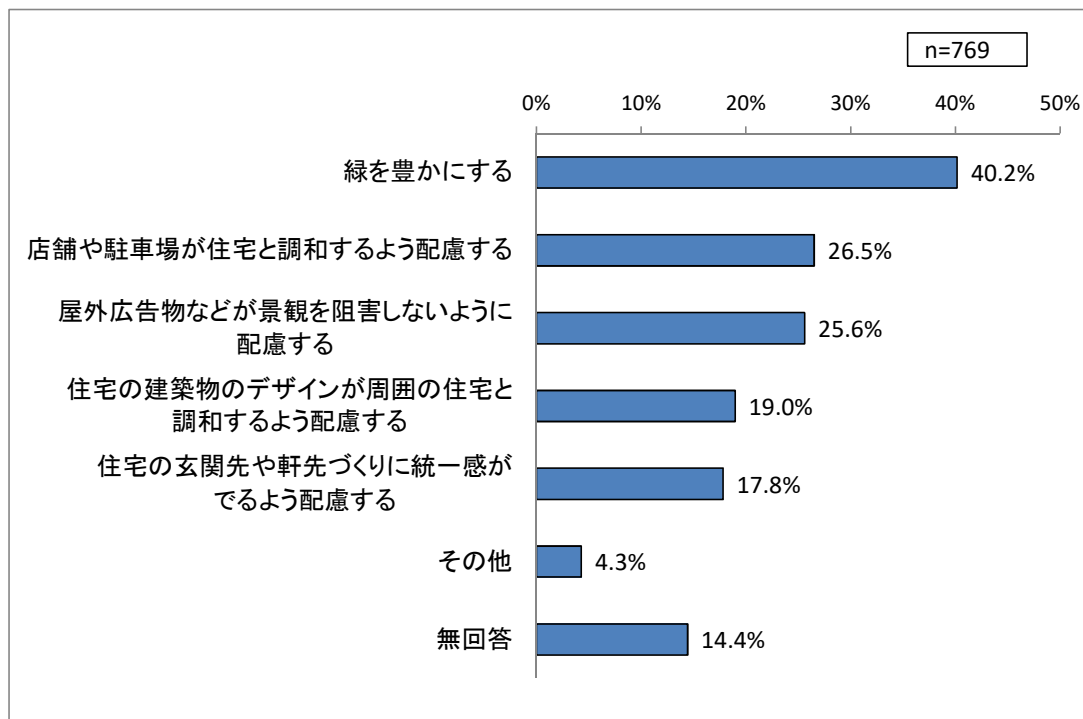
居住地区では、福島地区で「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」が第2位となっています。

[図表 42 参照]

図表 42 住宅地の景観を良くするための重要なこと

(全体/複数回答2つまで)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		緑を豊かにする 40.2%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 26.5%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 25.6%
性別	男性	緑を豊かにする 39.3%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 28.3%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 24.0%
	女性	緑を豊かにする 41.6%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 27.2%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 25.9%
年齢	10-20代	緑を豊かにする 43.8%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 31.3%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 25.0%
	30代	緑を豊かにする 42.7%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 31.7%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 23.2%
	40代	緑を豊かにする 38.8%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 28.4%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 23.9%
	50代	緑を豊かにする 48.4%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 25.4%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 24.6%
	60代	緑を豊かにする 38.6%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 28.1%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 24.9%
	70代以上	緑を豊かにする 25.3%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 18.8%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 16.9%
	居住地区	福島地区	緑を豊かにする 41.9%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 26.6%
北方地区		緑を豊かにする 42.7%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 28.0%	住宅の建築物のデザインが周囲の住宅と調和するよう配慮する/屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 21.3%
大東地区		緑を豊かにする 38.8%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 29.8%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 27.3%
本城地区		緑を豊かにする 38.1%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 30.2%	住宅の玄関先や軒先づくりに統一感がでるよう配慮する/屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 27.0%
都井地区		緑を豊かにする 33.3%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 26.7%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 17.8%
市木地区		緑を豊かにする 41.9%	店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する 30.2%	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 27.9%

問 26 郊外の景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。【複数回答】

- 第1位は「一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる」の35.8%、第2位は「田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する」の30.0%。

郊外の景観を良くするための重要なことについてたずねたところ、第1位は「一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる」(35.8%)、第2位が「田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する」(30.0%)、第3位が「緑を豊かにする」(26.5%)、第4位が「住宅・幹線道路の景観が周囲の田園景観などと調和するよう配慮する」(23.7%)などの順となっており、意見が分かれました。

性別では、女性で「緑を豊かにする」が第2位となっています。

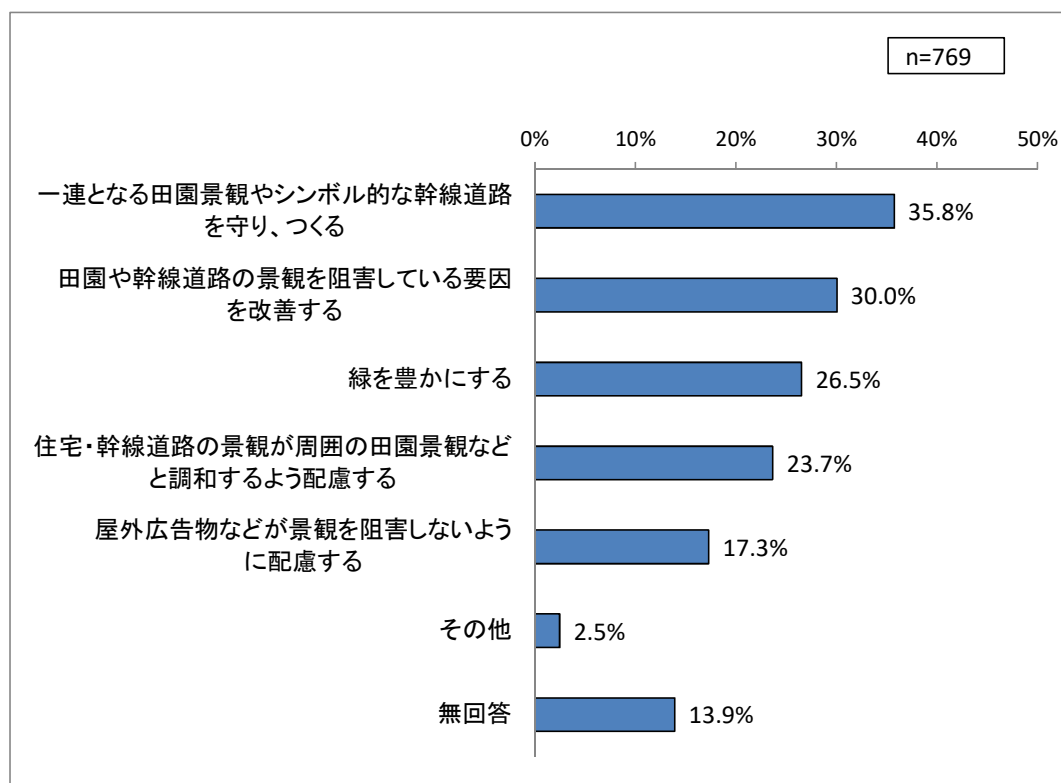
年齢では、60代及び70歳以上では、「田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する」が第1位となっています。

居住地区では、本城地区で「田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する」が第1位、市木地区で「住宅・幹線道路の景観が周囲の田園景観などと調和するよう配慮する」が第2位となっています。

[図表 43 参照]

図表 43 郊外の景観を良くするための重要なこと
(全体/複数回答2つまで)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 35.8%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 30.0%	緑を豊かにする 26.5%
性別	男性	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 41.3%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 32.4%	住宅・幹線道路の景観が周囲の田園景観などと調和するよう配慮する 24.6%
	女性	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 32.2%	緑を豊かにする 29.5%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 28.5%
年齢	10-20代	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 37.5%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する/緑を豊かにする 31.3%	
	30代	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 37.8%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 34.1%	緑を豊かにする 26.8%
	40代	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 38.8%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 29.9%	緑を豊かにする 28.4%
	50代	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 49.2%	緑を豊かにする 28.7%	住宅・幹線道路の景観が周囲の田園景観などと調和するよう配慮する 23.0%
	60代	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる/田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 35.3%		住宅・幹線道路の景観が周囲の田園景観などと調和するよう配慮する 26.1%
	70代以上	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 18.9%	緑を豊かにする 18.5%	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 18.1%
居住地区	福島地区	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 37.6%	緑を豊かにする 30.2%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 29.7%
	北方地区	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 32.0%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 29.3%	緑を豊かにする 28.0%
	大東地区	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 37.2%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 32.2%	住宅・幹線道路の景観が周囲の田園景観などと調和するよう配慮する 21.5%
	本城地区	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 42.9%	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 38.1%	緑を豊かにする 22.2%
	都井地区	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 31.1%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する/緑を豊かにする 26.7%	
	市木地区	一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる 37.2%	住宅・幹線道路の景観が周囲の田園景観などと調和するよう配慮する 34.9%	田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する 20.9%

問 27 自然の景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。【複数回答】

- 「丘陵や河川などの自然景観を保全する」が過半数を占めています。

自然の景観を良くするための重要なことについてたずねたところ、第1位は「丘陵や河川などの自然景観を保全する」(57.3%)、第2位が「丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する」(32.5%)、第3位が「緑を豊かにする」(26.3%)、第4位が「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」(14.6%)などの順となっています。

性別では、男女に大きな違いはありません。

年齢では、10-20代で「自然の景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する」が第3位に入っている以外、上位3項目に違いはありません。

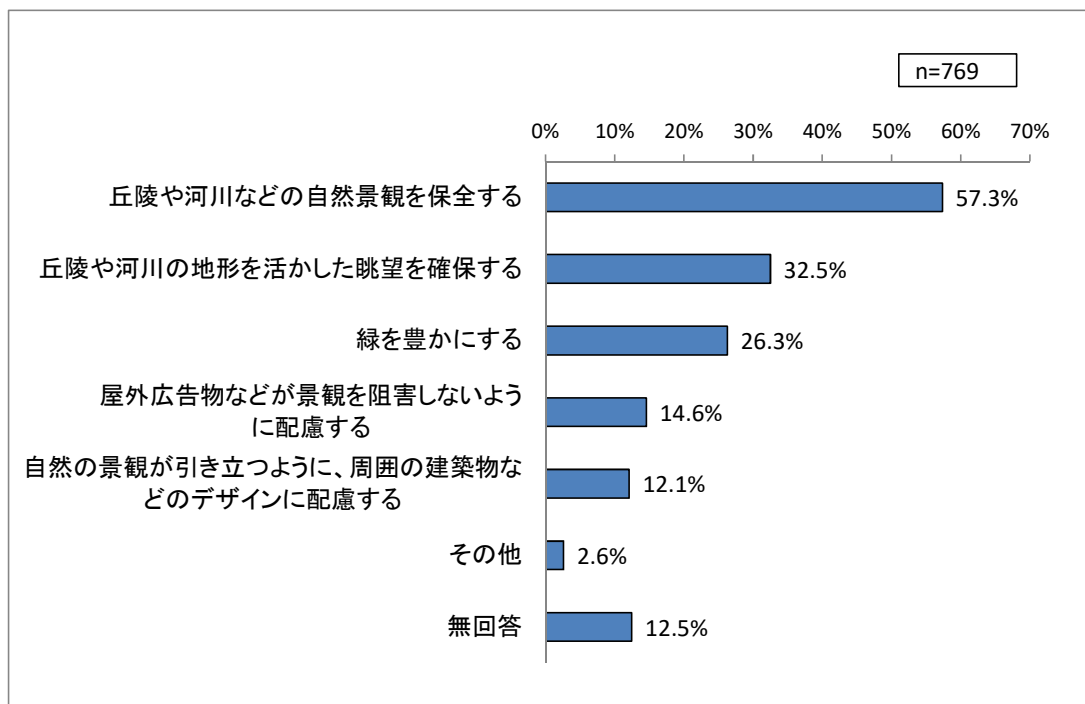
居住地区では、上位3項目の順位に違いはありませんでした。

[図表 44 参照]

図表 44 自然の景観を良くするための重要なこと

(全体/複数回答2つまで)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		丘陵や河川などの自然景観を保全する 57.3%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 32.5%	緑を豊かにする 26.3%
性別	男性	丘陵や河川などの自然景観を保全する 59.5%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 36.7%	緑を豊かにする 25.4%
	女性	丘陵や河川などの自然景観を保全する 56.4%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 30.5%	緑を豊かにする 27.7%
年齢	10-20代	丘陵や河川などの自然景観を保全する 54.2%	緑を豊かにする 27.1%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する/自然の景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 22.9%
	30代	丘陵や河川などの自然景観を保全する 70.7%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 45.1%	緑を豊かにする 26.8%
	40代	丘陵や河川などの自然景観を保全する 55.2%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 37.3%	緑を豊かにする 25.4%
	50代	丘陵や河川などの自然景観を保全する 60.7%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 39.3%	緑を豊かにする 23.8%
	60代	丘陵や河川などの自然景観を保全する 56.2%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 34.5%	緑を豊かにする 29.3%
	70代以上	丘陵や河川などの自然景観を保全する 35.3%	緑を豊かにする 15.6%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 14.5%
居住地区	福島地区	丘陵や河川などの自然景観を保全する 59.6%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 33.5%	緑を豊かにする 26.6%
	北方地区	丘陵や河川などの自然景観を保全する 58.7%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 36.0%	緑を豊かにする 26.7%
	大東地区	丘陵や河川などの自然景観を保全する 57.0%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 32.2%	緑を豊かにする 24.0%
	本城地区	丘陵や河川などの自然景観を保全する 54.0%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する 38.1%	緑を豊かにする 27.0%
	都井地区	丘陵や河川などの自然景観を保全する 62.2%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する/緑を豊かにする 26.7%	
	市木地区	丘陵や河川などの自然景観を保全する 51.2%	丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する/緑を豊かにする 27.9%	

問 28 歴史や文化のある景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。
【複数回答】



- 「市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する」が過半数を占めています。

歴史や文化のある景観を良くするための重要なことについてたずねたところ、第1位は「市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する」(57.3%)、第2位が「歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする」(36.2%)、第3位が「歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する」(19.2%)、第4位が「屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する」(14.4%)などの順となっています。

性別では、男女に大きな違いはありません。

年齢では、30代で「歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする」が第1位になっています。

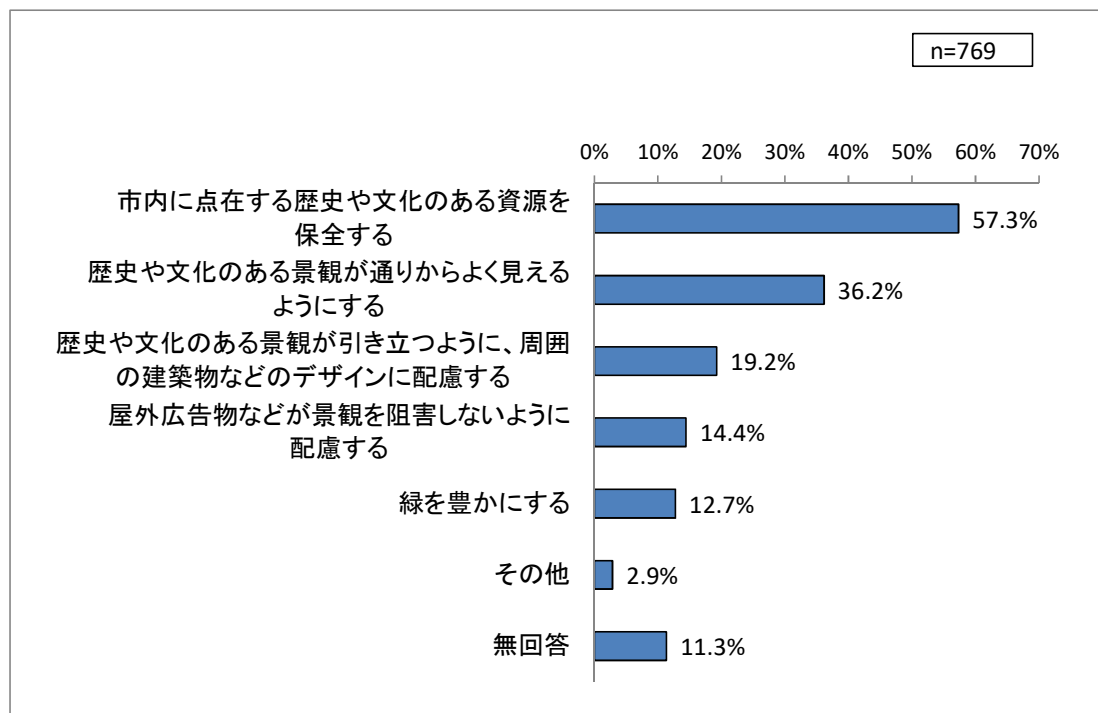
居住地区では、上位3項目の順位に違いはありませんでした。

[図表 45 参照]

図表 45 歴史や文化のある景観を良くするための重要なこと

(全体/複数回答2つまで)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位	
全体		市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		57.3%	36.2%	19.2%	
性別	男性	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		57.5%	35.8%	19.1%	
	女性	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		57.2%	37.3%	19.9%	
年齢	10-20代	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		60.4%	39.6%	31.3%	
	30代	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		54.9%	48.8%	25.6%	
	40代	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		55.2%	35.8%	20.9%	
	50代	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		66.4%	37.7%	20.5%	
	60代	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する	
		58.2%	35.3%	16.1%	
	70代以上	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		36.5%	18.6%	12.5%	
	居住地区	福島地区	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する
			57.9%	37.8%	19.0%
北方地区		市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		64.0%	34.7%	20.0%	
大東地区		市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		52.1%	36.4%	24.0%	
本城地区		市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する	
		68.3%	38.1%	17.5%	
都井地区		市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する	
		53.3%	22.2%	20.0%	
市木地区	市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する	歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする	屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する		
	48.8%	41.9%	20.9%		

問 29 旧吉松家住宅周辺の景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。
【複数回答】

- 第1位は「旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する」の44.6%、第2位は「旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する」の36.8%。

旧吉松家住宅周辺の景観を良くするための重要なことについてたずねたところ、第1位は「旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する」(44.6%)、第2位が「旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する」(36.8%)であり、これらの意見に大別されます。第3位は「景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する」(16.8%)、第4位が「電柱や架線など通りの工作物等の移設、埋設」(14.6%)などの順となっています。

性別では、男女に大きな違いはありません。

年齢では、30代で「旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する」が第1位になっています。

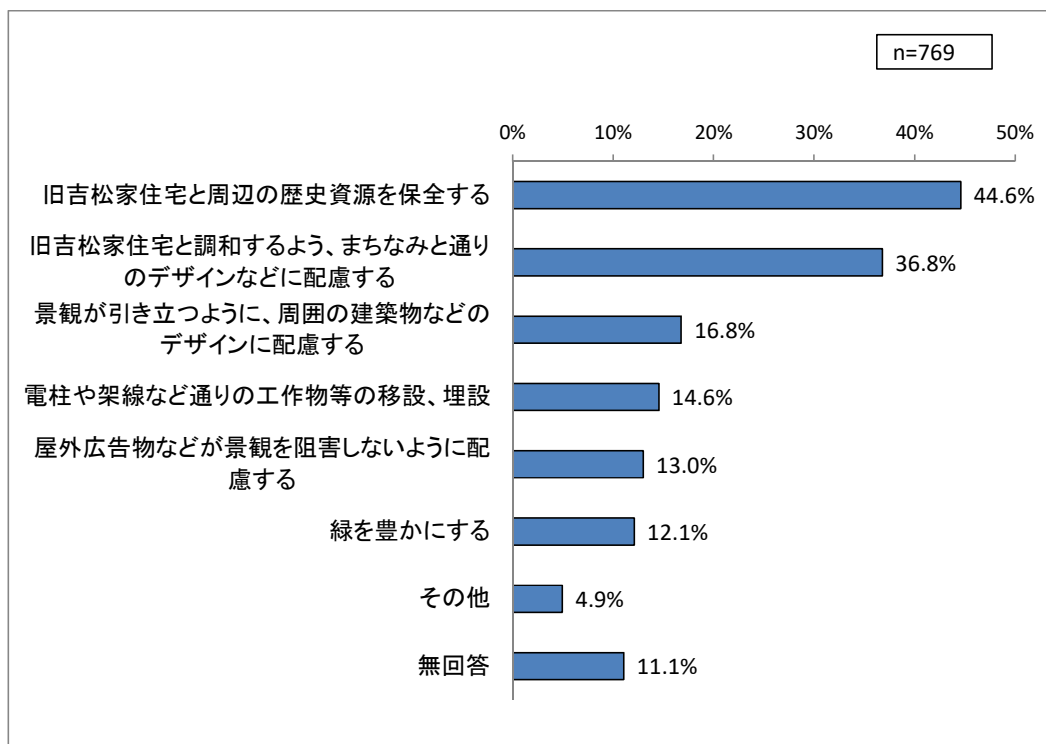
居住地区では、北方地区で「旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する」が第1位になっています。

[図表 46 参照]

図表 46 旧吉松家住宅周辺の景観を良くするための重要なこと

(全体/複数回答2つまで)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 44.6%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 36.8%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 16.8%
性別	男性	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 41.9%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 36.7%	電柱や架線など通りの工作物等の移設、埋設 17.9%
	女性	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 46.6%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 37.3%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 16.9%
年齢	10-20代	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 41.7%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 35.4%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 27.1%
	30代	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 46.3%	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 42.7%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 22.0%
	40代	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 28.7%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 25.7%	緑を豊かにする 10.9%
	50代	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 50.8%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 44.3%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 18.9%
	60代	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 43.4%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 34.1%	電柱や架線など通りの工作物等の移設、埋設/景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 16.5%
	70代以上	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 44.6%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 32.2%	電柱や架線など通りの工作物等の移設、埋設 15.8%
居住地区	福島地区	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 44.2%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 38.3%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 16.2%
	北方地区	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 50.7%	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 49.3%	緑を豊かにする 16.0%
	大東地区	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 43.8%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 32.2%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 18.2%
	本城地区	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 47.6%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 41.3%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 20.6%
	都井地区	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 37.8%	景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 22.2%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 20.2%
	市木地区	旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 46.5%	旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 32.6%	電柱や架線など通りの工作物等の移設、埋設 16.3%

◆串間市の景観形成の重要度

問 30 串間市の景観形成の重要度について教えてください。

- 重要度が最も高い項目は「重要な河川や道路沿いの景観を整える」。次いで「農地や里山、山林を保全する」の順。
- 重要度が最も低い項目は「重点地区を定め、建物などの色彩や高さなどをきめ細かく誘導する」。

本市の景観形成に関する市民の重要度について、重要度をたずねた9つの設問項目の傾向を、“重要である”（「重視している」及び「やや重視している」の合計），“重要でない”（「あまり重視していない」及び「重視していない」の合計）にまとめ、その比率でみていくと、“重要である”の比率が高い項目としては、「重要な河川や道路沿いの景観を整える」（55.9%）が第1位にあげられ、次いで第2位が「農地や里山、山林を保全する」（52.4%）、第3位が「重要な建築物や樹木を保全する」（49.8%）と続き、以下、「まちなかの緑を増やす」（44.9%）、「市民のまちづくり活動を支援する仕組みづくり」（41.9%）などの順となっています。

[図表 47 参照]

さらに、加重平均値 [後述参照] による評価点（重要度：最高点 10 点、最低点-10 点）による結果をみると、重要度の最も高い項目は、「重要な河川や道路沿いの景観を整える」（3.81 点）が第1位にあげられ、次いで「農地や里山、山林を保全する」（3.76 点）、「重要な建築物や樹木を保全する」（3.30 点）、と続き、以下、「まちなかの緑を増やす」（2.68 点）、「市民のまちづくり活動を支援する仕組みづくり」（2.60 点）の順となっています。

[図表 47 の①～⑨参照]

※加重平均値の算出方法※

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視し} \\ \text{ている」、「どちらともいえない」、} \\ \text{「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{array}}$$

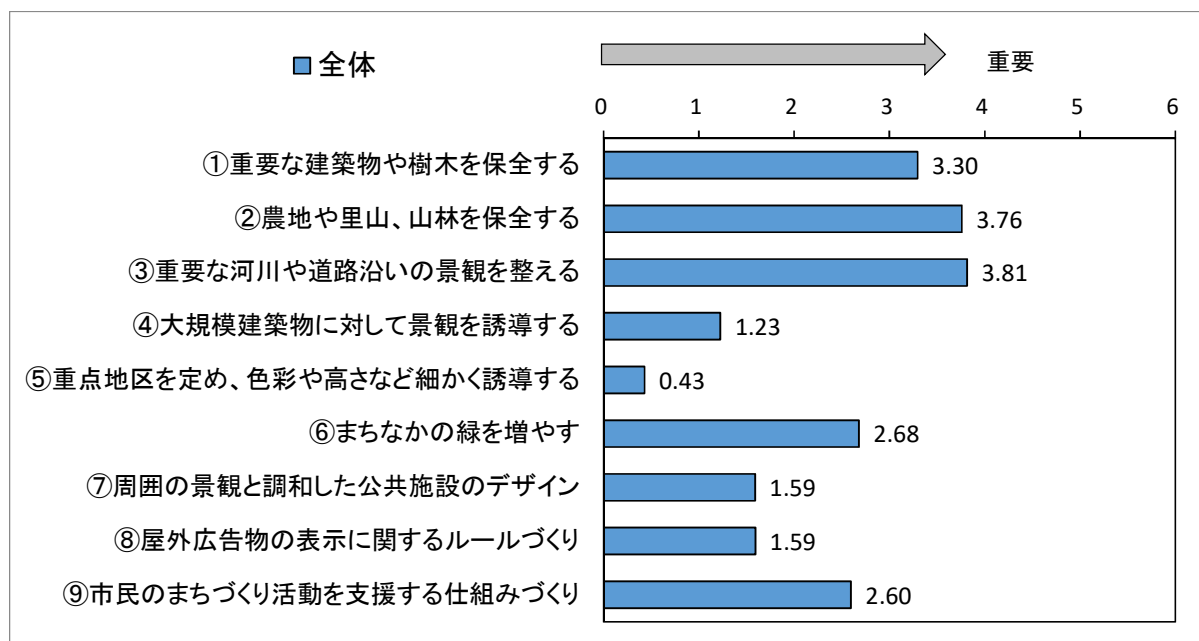
図表 47 串間市の景観形成の重要度（全体）

（単位：％）

項目	全体		
	重要である	どちらとも いえない	重要でない
①重要な建築物や樹木を保全する	49.8	31.7	5.5
②農地や里山、山林を保全する	52.4	29.8	4.8
③重要な河川や道路沿いの景観を整える	55.9	27.0	4.8
④大規模建築物に対して景観を誘導する	26.4	50.1	9.5
⑤重点地区を定め、色彩や高さなど細かく誘導する	20.7	51.1	14.6
⑥まちなかの緑を増やす	44.9	32.0	9.8
⑦周囲の景観と調和した公共施設のデザイン	33.9	40.6	10.9
⑧屋外広告物の表示に関するルールづくり	33.3	41.2	11.2
⑨市民のまちづくり活動を支援する仕組みづくり	41.9	37.2	7.3

図表 47 串間市の景観に対する満足度の評価点（全体）

（単位：評価点）



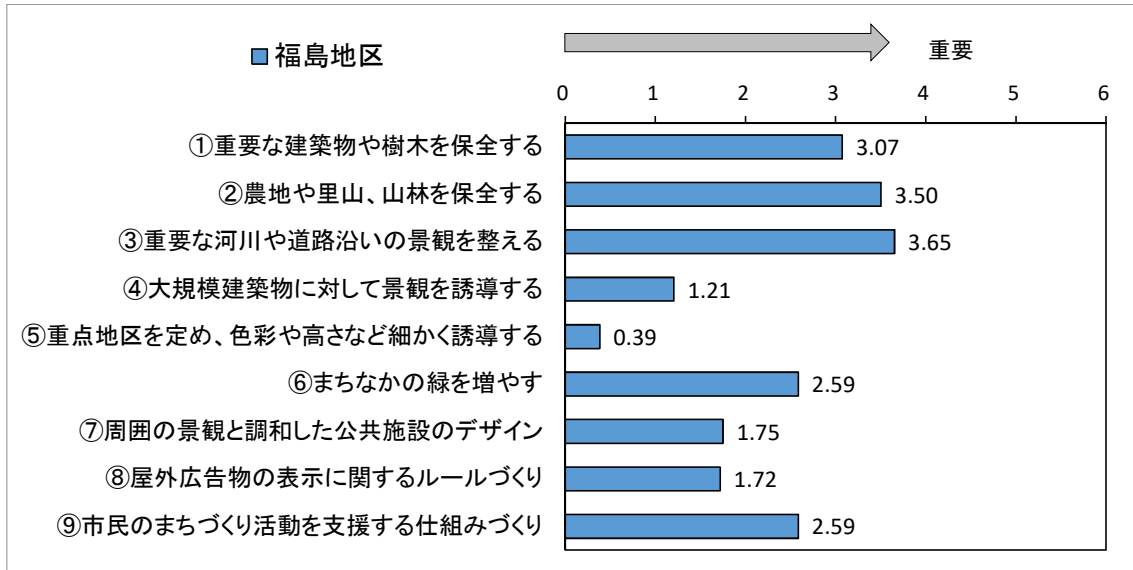
■また、地区別の重要度の項目をまとめると、以下のとおりとなります。

<福島地区>

福島地区での重要度は、全体の傾向とほぼ同じ結果となっています。

図表 47 の① 串間市の景観形成の重要度の評価点（福島地区）

（単位：評価点）

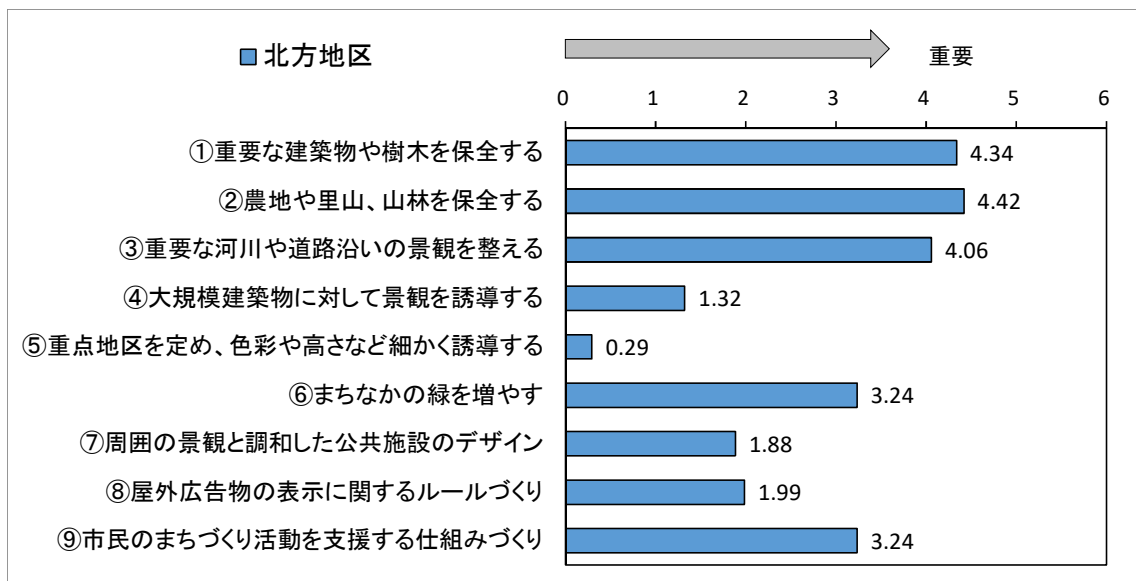


<北方地区>

北方地区での重要度は、全体の傾向とほぼ同じ結果ですが評価点は若干高くなっています。

図表 47 の② 串間市の景観形成の重要度の評価点（北方地区）

（単位：評価点）

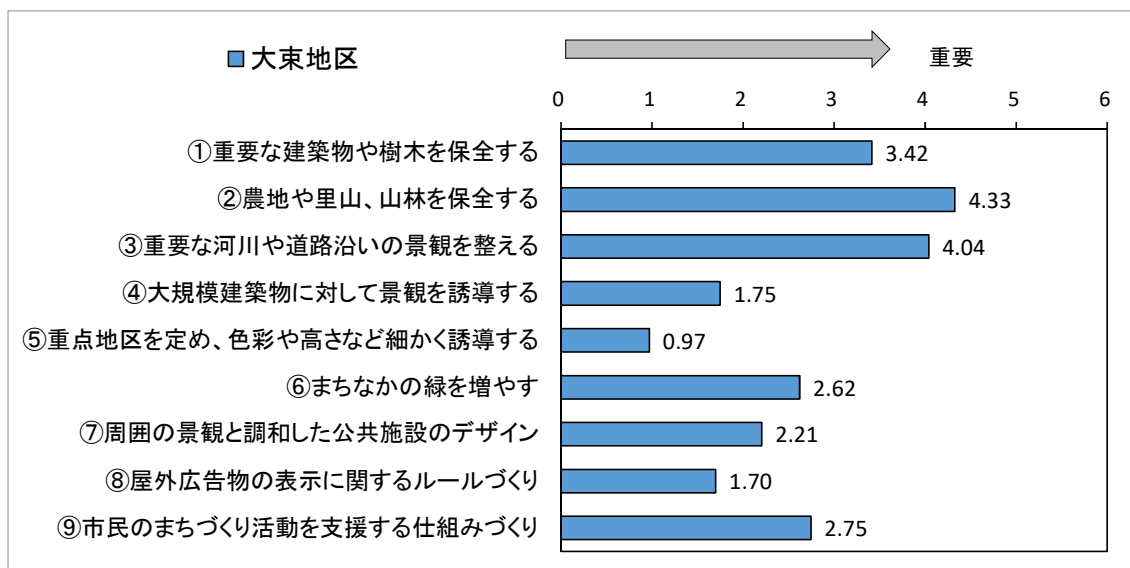


<大東地区>

大東地区での重要度は、全体の傾向とほぼ同じ結果ですが評価点は若干高くなっています。

図表 47 の③ 串間市の景観形成の重要度の評価点（大東地区）

（単位：評価点）

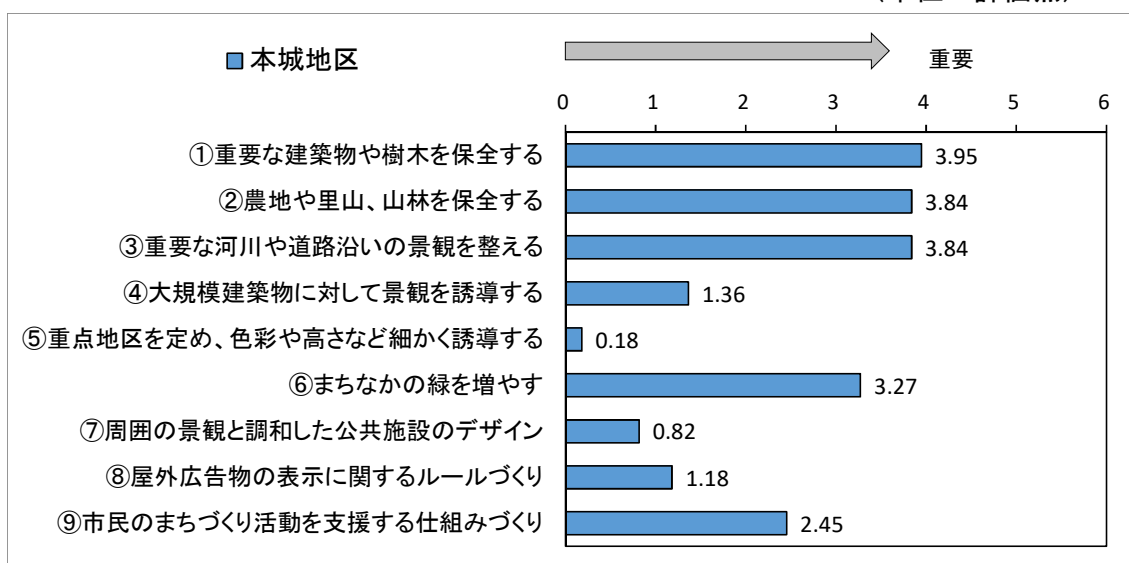


<本城地区>

本城地区での重要度は、全体の傾向とあまり変わりませんが、「③街中の緑を増やす」の評価点が他の地区よりも高くなっています。

図表 47 の⑤ 串間市の景観形成の重要度の評価点（本城地区）

（単位：評価点）

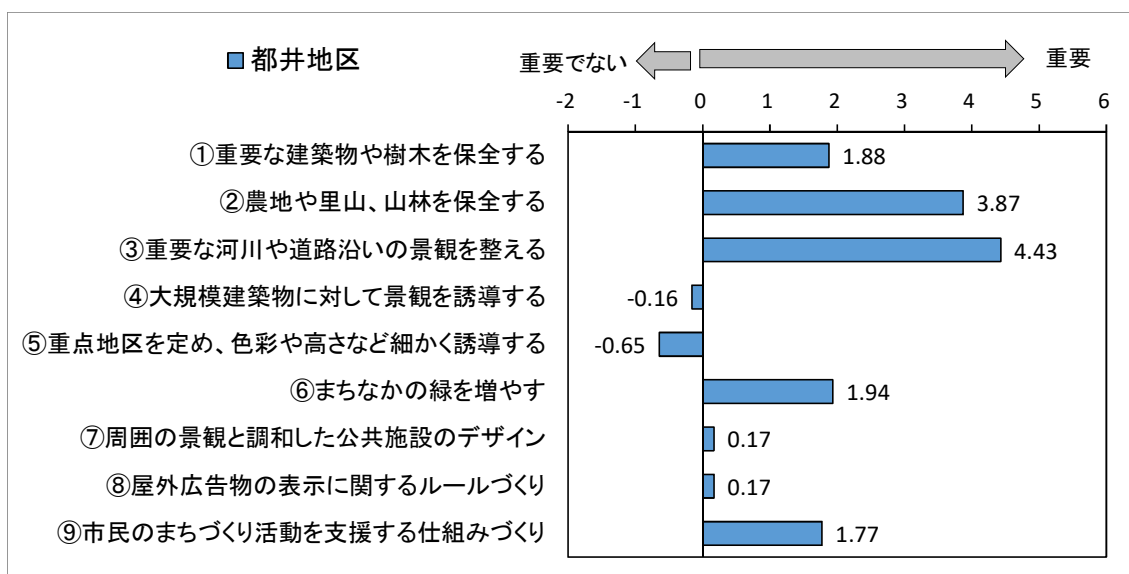


<都井地区>

都井地区での重要度の評価点は、全体的に他の地区より低く、特に、「④大規模建築物に対して景観を誘導する」及び「⑤重点地区を定め、建物などの色彩や高さなどをきめ細かく誘導する」は重要でないのマイナスを示しています。

図表 47 の⑥ 串間市の景観形成の重要度の評価点（都井地区）

（単位：評価点）

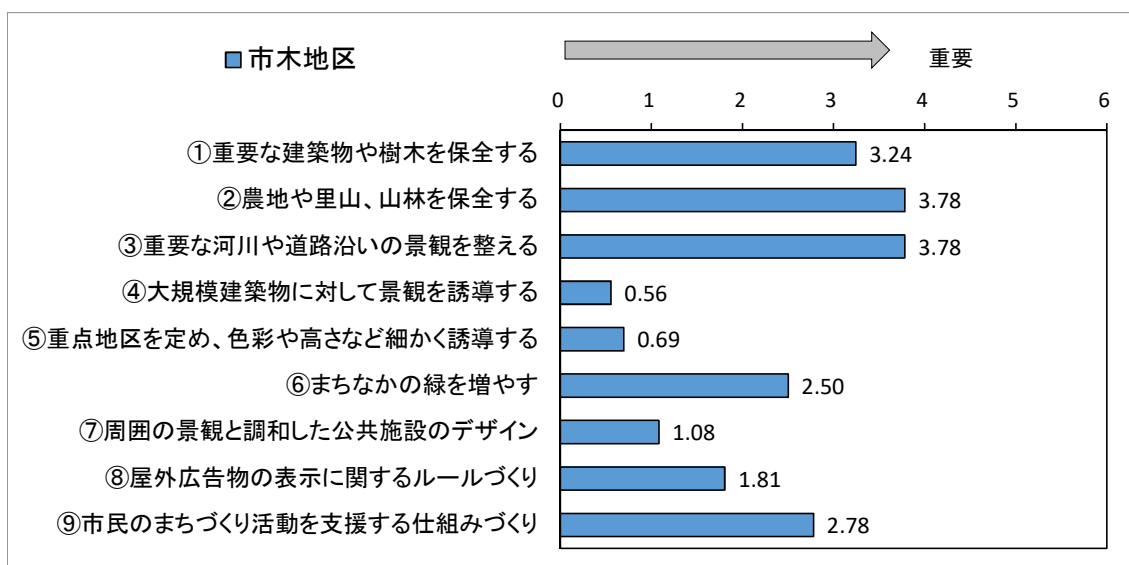


<市木地区>

市木地区での重要度は、全体の傾向とほぼ同じ結果となっています。

図表 47 の⑦ 串間市の景観形成の重要度の評価点（市木地区）

（単位：評価点）



(3) 景観に関する取り組み

問 31 あなたが現在行っている景観に関する取り組みを教えてください。
【複数回答】

- 「家の周りの緑や花を増やす」が過半数を占めていますが、「特になし」が2番目に多い。

現在行っている景観に関する取り組みについてたずねたところ、第1位は「家の周りの緑や花を増やす」(52.9%)、第2位が「特になし」(23.8%)、第3位は「道路や河川、砂浜の清掃活動を行う」(22.6%)、第4位が「まち歩きや写真などで身近な景観に親しむ」(11.4%)などの順となっています。

性別では、男性では「道路や河川、砂浜の清掃活動を行う」が第2位となっています。

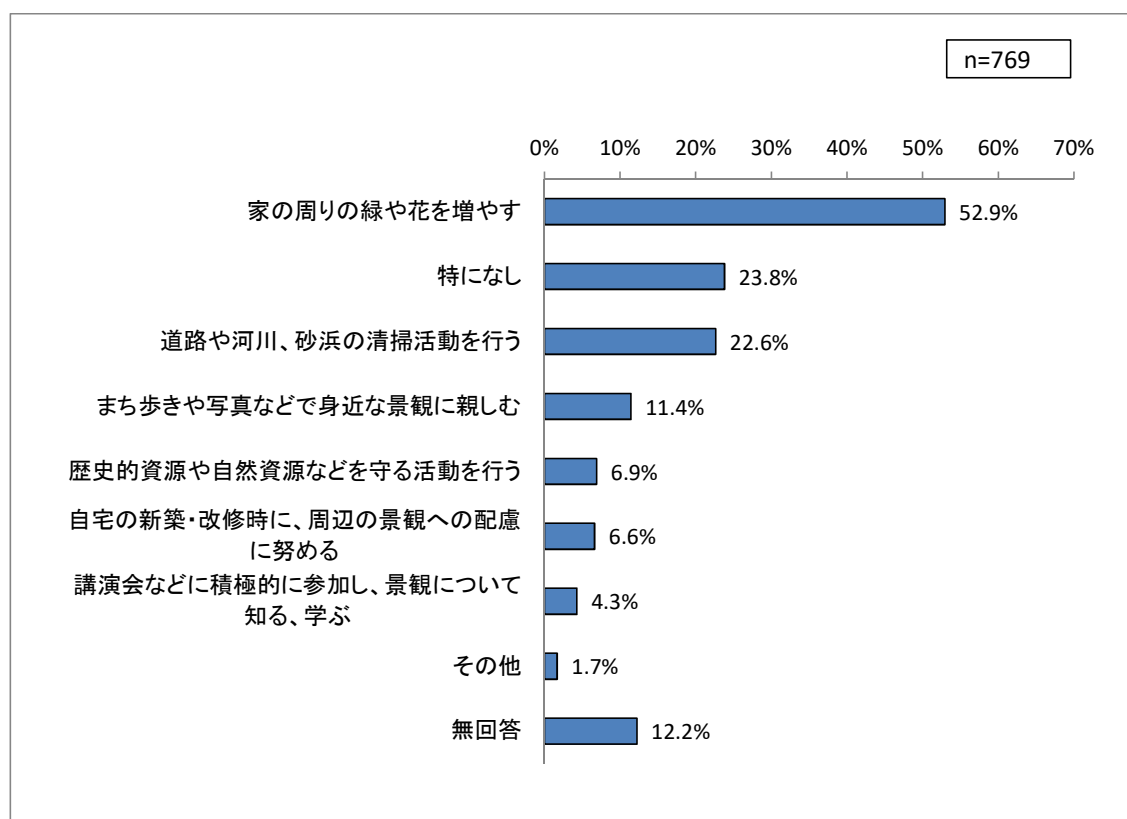
年齢では、30代以下で「特になし」が第1位となっています。

居住地区では、北方、大東、本城及び市木地区で「道路や河川、砂浜の清掃活動を行う」が第2位となっています。

[図表 48 参照]

図表 48 現在行っている景観に関する取り組み
(全体/複数回答いくつでも)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		家の周りの緑や花を増や す 52.9%	特になし 23.8%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 22.6%
性別	男性	家の周りの緑や花を増や す 50.6%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 28.9%	特になし 24.6%
	女性	家の周りの緑や花を増や す 54.9%	特になし 24.2%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 17.6%
年齢	10-20代	特になし 37.5%	家の周りの緑や花を増や す 31.3%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 18.8%
	30代	特になし 39.0%	家の周りの緑や花を増や す 34.1%	まち歩きや写真などで身 近な景観に親しむ 22.0%
	40代	家の周りの緑や花を増や す 41.8%	特になし 35.5%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 26.9%
	50代	家の周りの緑や花を増や す 54.9%	特になし 27.0%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 21.3%
	60代	家の周りの緑や花を増や す 62.2%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 24.9%	特になし 16.9%
	70代以上	家の周りの緑や花を増や す 56.5%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 22.0%	特になし 18.1%
居住地区	福島地区	家の周りの緑や花を増や す 47.7%	特になし 28.4%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 18.5%
	北方地区	家の周りの緑や花を増や す 58.7%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 30.7%	特になし 22.7%
	大東地区	家の周りの緑や花を増や す 55.4%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 20.7%	特になし 18.2%
	本城地区	家の周りの緑や花を増や す 71.4%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 33.3%	特になし 15.9%
	都井地区	家の周りの緑や花を増や す 51.1%	特になし 28.9%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 26.7%
	市木地区	家の周りの緑や花を増や す 60.5%	道路や河川、砂浜の清掃 活動を行う 37.2%	歴史的資源や自然資源な どを守る活動を行う/特に なし 14.0%

問 32 市民が景観づくり活動を行うために必要だと思うものはなんですか。
【複数回答】



- 第1位は「市民が景観に関する関心を高める機会をつくる」の49.5%、第2位は「活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる」の27.6%。

景観づくり活動を行うために必要なことについてたずねたところ、第1位は「市民が景観に関する関心を高める機会をつくる」(49.5%)、第2位が「活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる」(27.6%)、第3位は「専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる」(21.7%)、第4位が「景観作りに興味がある市民同士が会う機会をつくる」(17.8%)などの順となっています。

性別では、男女の違いはありません。

年齢では、40代で「専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる」が第2位になっています。

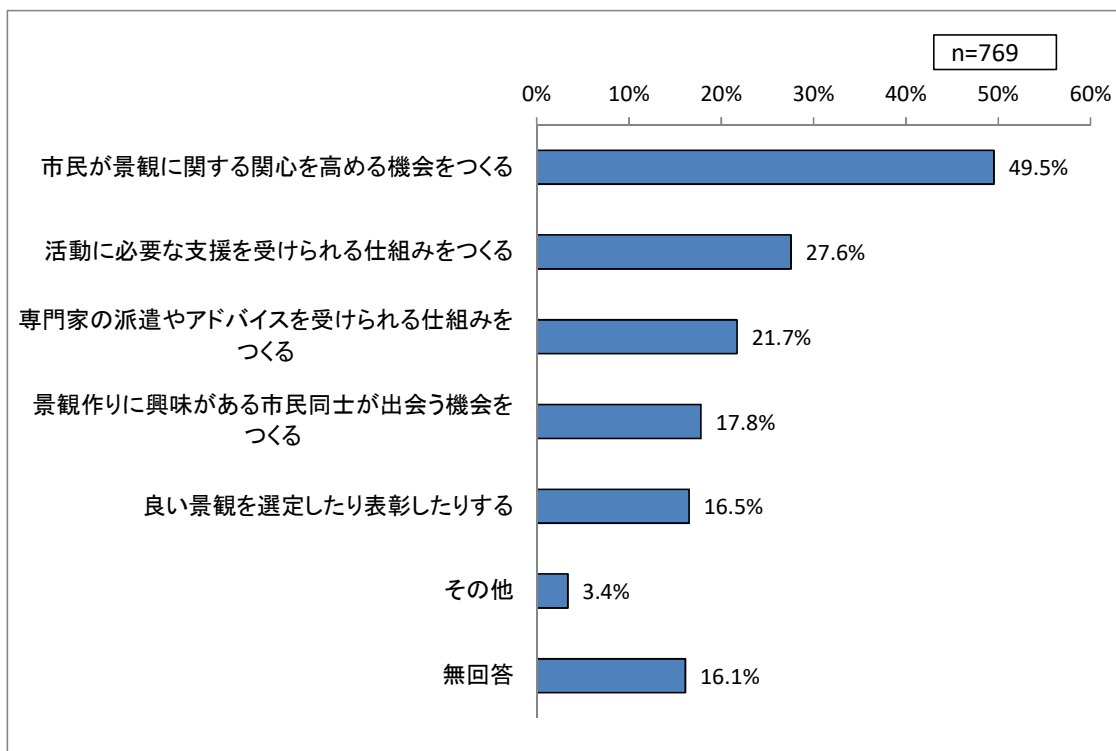
居住地区では、本城地区で「専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる」が第2位、「景観作りに興味がある市民同士が会う機会をつくる」が第3位に入っています。

[図表 49 参照]

図表 49 景観づくり活動を行うために必要なこと

(全体/複数回答いくつでも)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		49.5%	27.6%	21.7%
性別	男性	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		50.3%	27.2%	22.0%
	女性	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		50.1%	27.7%	22.0%
年齢	10-20代	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる/活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	
		35.4%		29.2%
	30代	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		50.0%	35.4%	31.7%
	40代	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる
		43.3%	29.9%	25.4%
	50代	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		55.7%	24.6%	23.0%
	60代	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		53.8%	28.5%	19.7%
	70代以上	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	景観作りに興味がある市民同士が会う機会をつくる
		48.0%	25.4%	19.2%
居住地区	福島地区	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		48.5%	28.4%	23.6%
	北方地区	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		56.0%	25.4%	22.7%
	大東地区	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		48.8%	24.8%	20.7%
	本城地区	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる	景観作りに興味がある市民同士が会う機会をつくる
		58.7%	30.2%	25.4%
	都井地区	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	良い景観を選定したり表彰したりする/景観作りに興味がある市民同士が会う機会をつくる/専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
		40.0%	33.3%	13.3%
市木地区	市民が景観に関する関心を高める機会をつくる	活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる	良い景観を選定したり表彰したりする	
	60.5%	37.2%	14.0%	

問 33 景観に関する催し物として興味があるものはなんですか。【複数回答】

- 第1位は「ガーデニング教室」の32.8%、第2位は「景観資源めぐりなどまち歩き」の32.2%、第3位は「写真展」の29.6%であり、これら3つの回答に分かれています。

景観に関する催し物として興味があるものについてたずねたところ、第1位は「ガーデニング教室」(32.8%)、第2位が「景観資源めぐりなどまち歩き」(32.2%)、第3位は「写真展」(29.6%)であり、これら3つの回答に分かれています。

性別では、男性で「写真展」が第1位となっています。

年齢では、30代で「写真展」が第1位になっています。

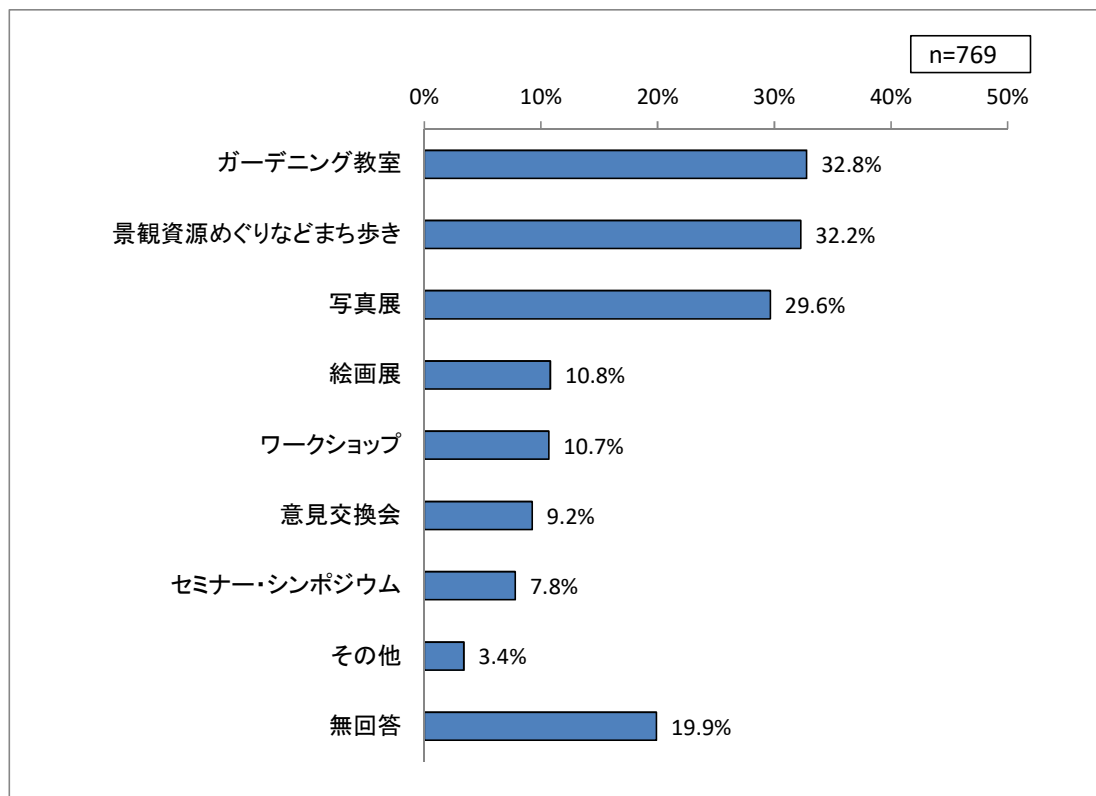
居住地区では、北方、大東及び市木地区で「景観資源めぐりなどまち歩き」が第1位、となっています。

[図表 50 参照]

図表 50 景観に関する催し物として興味があるもの

(全体/複数回答いくつでも)

(単位：%)



(全体・性別・年齢・居住地区／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		ガーデニング教室 32.8%	景観資源めぐりなどまち歩き 32.2%	写真展 29.6%
性別	男性	写真展 34.1%	景観資源めぐりなどまち歩き 30.9%	ガーデニング教室 24.9%
	女性	ガーデニング教室 39.8%	景観資源めぐりなどまち歩き 34.3%	写真展 27.0%
年齢	10-20代	ガーデニング教室 39.6%	写真展 37.5%	景観資源めぐりなどまち歩き 22.9%
	30代	写真展 40.2%	景観資源めぐりなどまち歩き 35.4%	ガーデニング教室 29.3%
	40代	ガーデニング教室 34.3%	景観資源めぐりなどまち歩き 31.3%	写真展 23.9%
	50代	ガーデニング教室 36.1%	景観資源めぐりなどまち歩き 34.4%	写真展 29.5%
	60代	景観資源めぐりなどまち歩き 35.7%	ガーデニング教室 35.3%	写真展 29.7%
	70代以上	景観資源めぐりなどまち歩き 29.4%	写真展 27.1%	ガーデニング教室 26.0%
居住地区	福島地区	ガーデニング教室 33.5%	景観資源めぐりなどまち歩き 32.2%	写真展 30.2%
	北方地区	景観資源めぐりなどまち歩き 45.3%	ガーデニング教室 32.0%	写真展 29.3%
	大東地区	景観資源めぐりなどまち歩き 27.3%	ガーデニング教室 26.4%	写真展 25.6%
	本城地区	ガーデニング教室 47.6%	写真展 41.3%	景観資源めぐりなどまち歩き 38.1%
	都井地区	ガーデニング教室 33.3%	写真展 26.7%	景観資源めぐりなどまち歩き 20.0%
	市木地区	景観資源めぐりなどまち歩き 39.5%	写真展 32.6%	ガーデニング教室 25.6%

問 34 景観に関する情報として入手しやすいものはなんですか。



- 7割弱の人が「広報くしま」を答えている。

景観に関する情報として入手しやすいものは何かについてたずねたところ、第1位は「広報くしま」の65.9%でした。他の回答割合を大きく上回っています。第2位は「回覧板」(10.4%)、第3位が「全戸配布チラシ」(7.0%)、第4位が「市のホームページ」(2.6%)の順となっています。

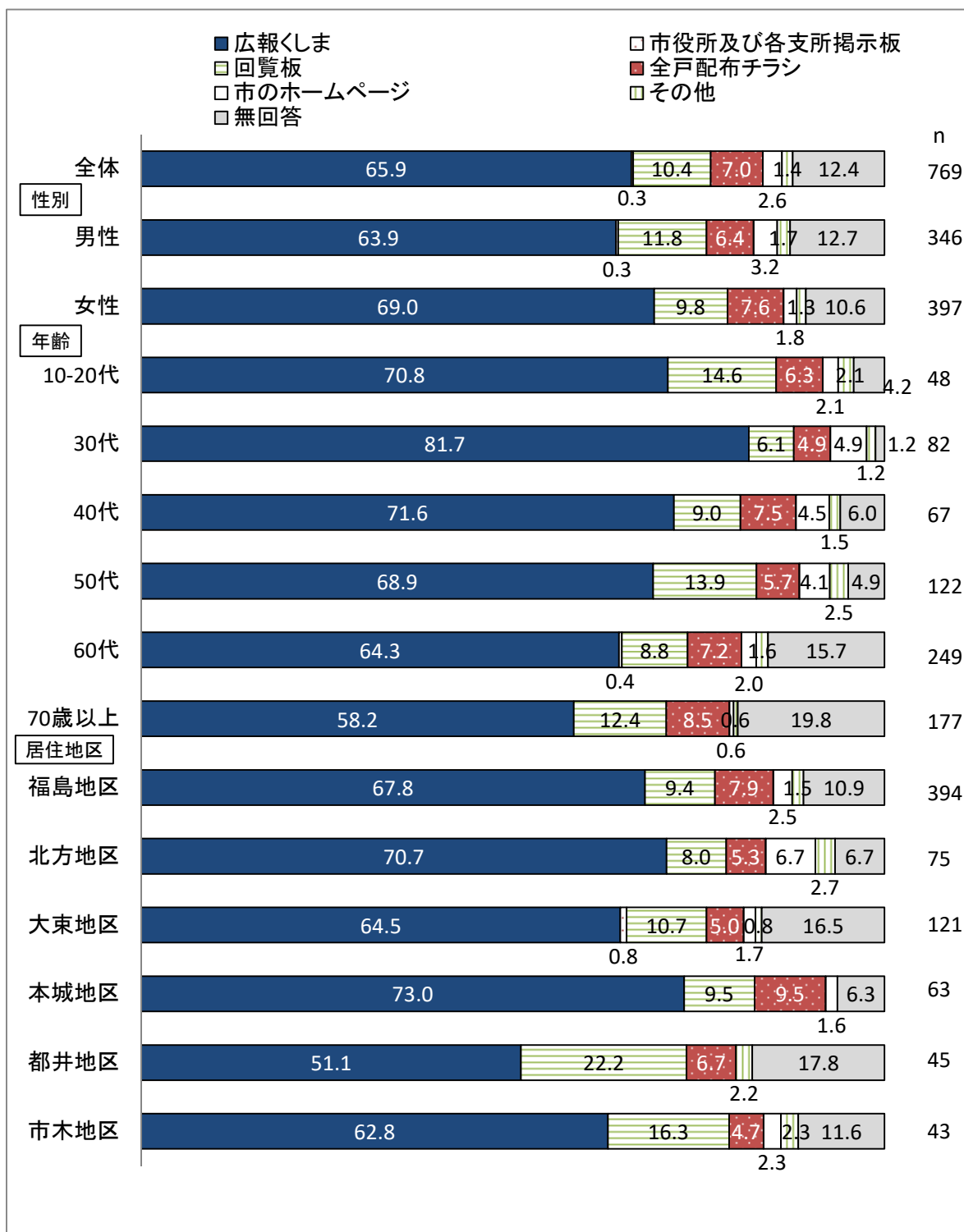
性別、年齢及び居住地区でも、上位3項目の順位はみな同じでした。

[図表 51 参照]

図表 51 景観に関する情報として入手しやすいもの

(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



10 コミュニティバスについて

問 36 よかバスを利用していますか。



- 「利用していない」人が87.8%、「利用している」人は4.2%。

よかバスを利用しているかをたずねたところ、「利用していない」（87.8%）が第1位になりました。“利用している”率（「よく利用する」（0.4%）と「時々利用する」（3.8%）の合計）は4.2%となりました。

性別でみると、男女の違いはほとんどありません。

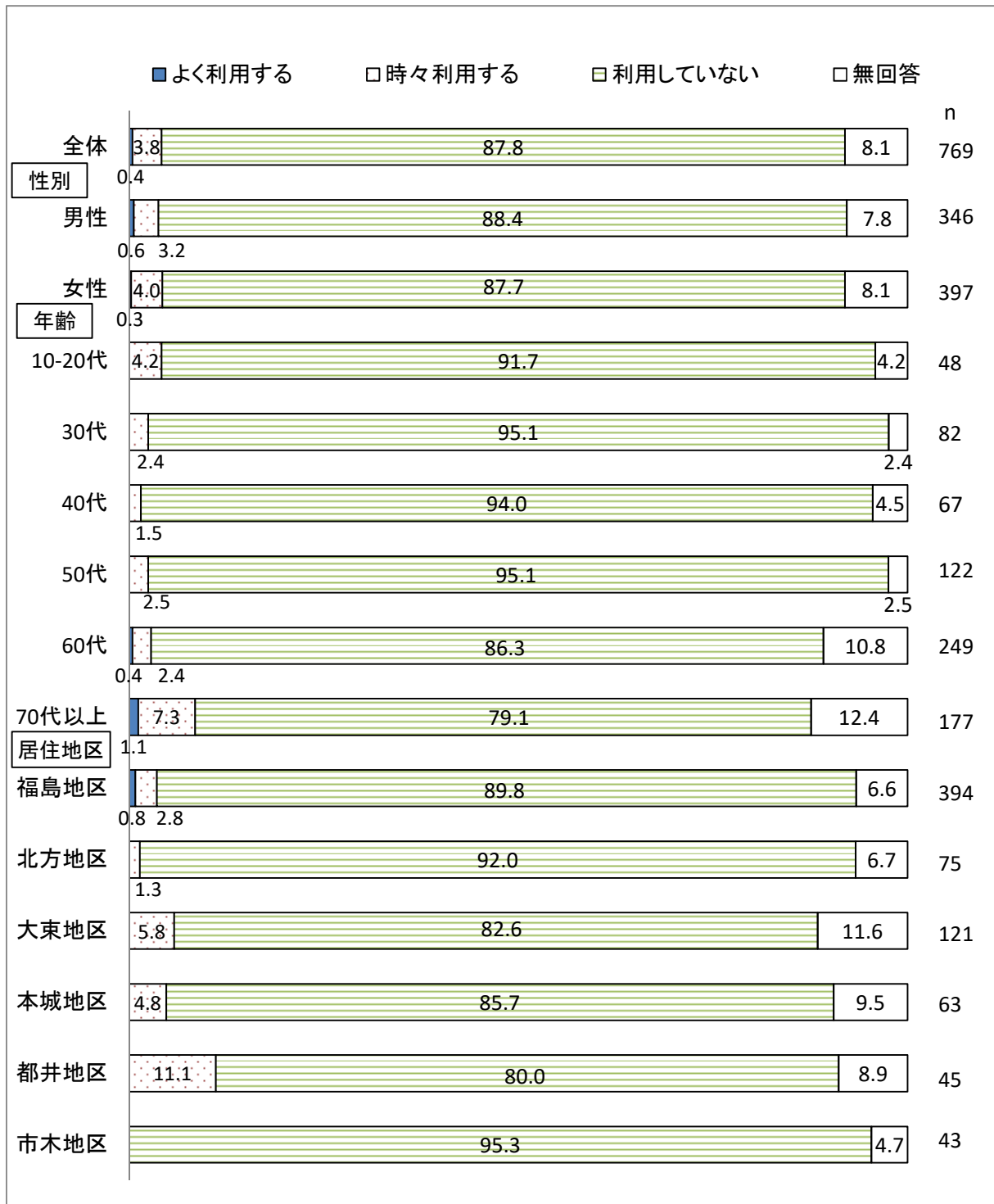
年齢でみると、70歳以上の“利用している”率（8.4%）が他の年齢と比較して高くなっています。

居住地区でみると、都井地区の“利用している”率（11.1%）が、最も高くなっています。市木地区は、“利用している”率が0.0%という結果となりました。

[図表 52 参照]

図表 52 よかバスの利用率
(全体・性別・年齢・居住地区)

(単位：%)



問 37 よかバスを利用される方におたずねします。
①利用の主な目的地はどこですか。(○印はいくつでも)

- 「病院」(40.6%)、「商店、スーパー」(37.5%)、「公共施設」「温泉施設、スポーツ施設」(12.5%)の順。

よかバスを利用している方に主に利用する目的地をたずねたところ回答者は32人となりました。回答結果は「病院」(40.6%)が最も多く、「商店、スーパー」(37.5%)、「公共施設」「温泉施設、スポーツ施設」(12.5%)の順になりました。

性別でみると、男性の第3位は「温泉施設、スポーツ施設」(15.4%)であったのに対し、女性は「金融機関」(17.6%)となっています。

年齢でみると、「商店、スーパー」が70歳以上で第2位となっている以外は、どの年齢でも第1位となっています。

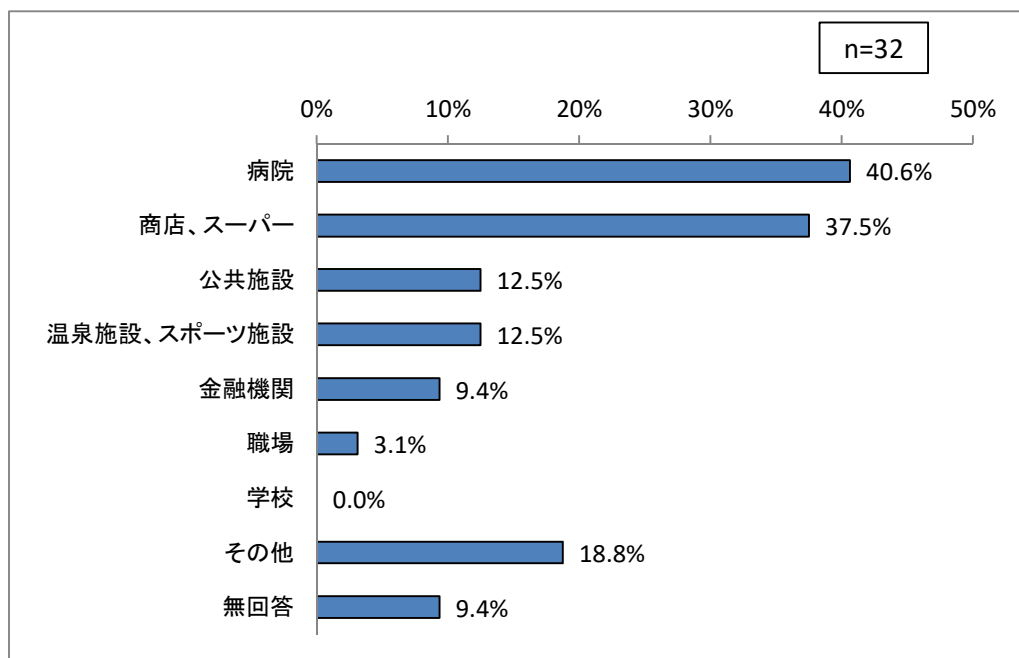
居住地区でみると、福島地区と大東地区の第1位は「病院」となっています。本城地区の第1位は「温泉施設、スポーツ施設」となっています。都井地区の第1位は「商店、スーパー」となっています。北方地区と市木地区は、有効な回答がありません。

[図表 53 参照]

図表 53 よかバスの目的地

(全体・複数回答)

(単位：%)



(全体・性別・年齢／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		病院 40.6%	商店、スーパー 37.5%	公共施設 12.5%
性別	男性	病院 23.1%	商店、スーパー 15.4%	温泉施設、スポーツ施設 15.4%
	女性	病院/商店、スーパー 47.1%		金融機関 17.6%
年齢	10-20代	商店、スーパー/公共施設 50.0%		— —
	30代	病院/商店、スーパー 50.0%		その他 50.0%
	40代	商店、スーパー 100.0%	— —	
	50代	病院/商店、スーパー 33.3%		その他 33.3%
	60代	商店、スーパー/温泉施設、スポーツ施設 28.6%		職場 14.3%
	70歳以上	病院 60.0%	商店、スーパー 26.7%	金融機関 20.0%
居住地区	福島地区	病院 42.9%	商店、スーパー 35.7%	職場 7.1%
	北方地区	無回答 100.0%	— —	
	大東地区	病院 42.9%	商店、スーパー 28.6%	公共施設 14.3%
	本城地区	温泉施設、スポーツ施設 33.3%	その他 66.7%	
	都井地区	商店、スーパー 60.0%	病院/金融機関 40.0%	
	市木地区	— —		

※「その他」は0%を除いた中で最下位としている

問 37 よかバスを利用される方におたずねします。
②よかバスについて改善してほしい点がありますか。(○印はいくつでも)

- 第1位が「運行本数を増やしてほしい」と「他の交通機関との接続を改善してほしい」(21.9%)

よかバスを利用している方によかバスの改善してほしい点をたずねたところ、「運行本数を増やしてほしい」と「他の交通機関との接続を改善してほしい」が21.9%であり、最も多くなりました。次に「運行時間を改善してほしい」(15.6%)、「路線を変更してほしい」(3.1%)の順になりました。

性別で見ると、男性の第1位は「他の交通機関との接続を改善してほしい」(38.5%)となり、女性の第1位は「運行本数を増やしてほしい」(23.5%)となりました。

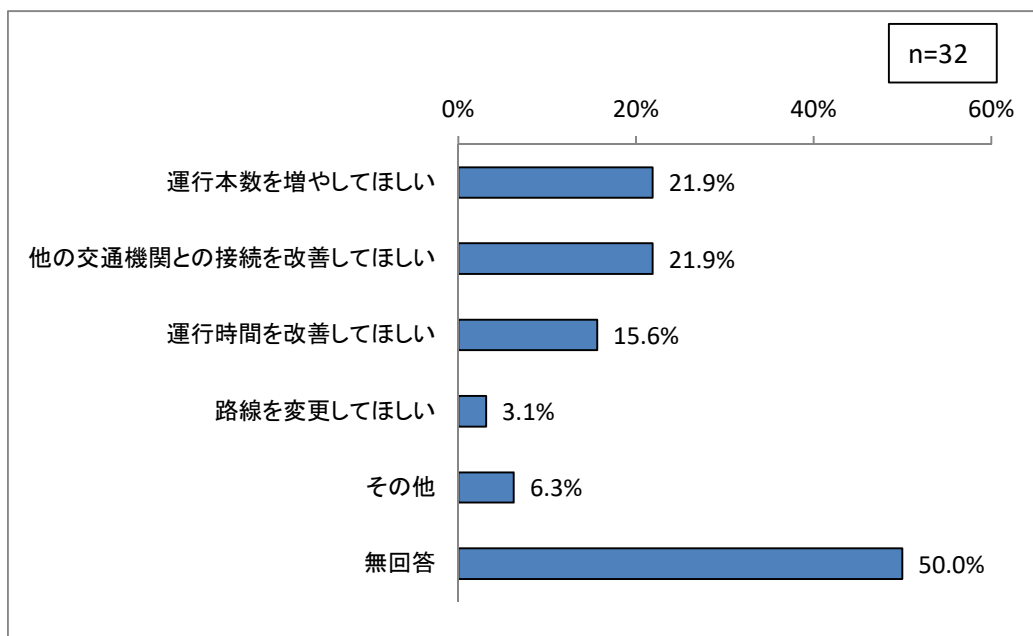
年齢で見ると、60代の第2位、70歳以上の第1位に「運行時間を改善してほしい」が入っています。40代では、有効な回答がありません。

居住地区で見ると、大東地区の第2位に「路線を変更してほしい」(14.3%)が入っています。[図表 54 参照]

図表 54 よかバスの改善してほしい点

(全体・複数回答)

(単位：%)



(全体・性別・年齢／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		運行本数を増やしてほしい/他の交通機関との接続を改善してほしい 21.9%		運行時間を改善してほしい 15.6%
性別	男性	他の交通機関との接続を改善してほしい 38.5%	運行時間を改善してほしい 23.1%	運行本数を増やしてほしい 15.4%
	女性	運行本数を増やしてほしい 23.5%	他の交通機関との接続を改善してほしい 11.8%	運行時間を改善してほしい 5.9%
年齢	10-20代	運行本数を増やしてほしい 50.0%	—	—
	30代	他の交通機関との接続を改善してほしい 50.0%	—	—
	40代	無回答 100.0%	—	—
	50代	運行本数を増やしてほしい/他の交通機関との接続を改善してほしい 33.3%		—
	60代	他の交通機関との接続を改善してほしい 28.6%	運行本数を増やしてほしい/運行時間を改善してほしい 14.3%	
	70歳以上	運行本数を増やしてほしい/運行時間を改善してほしい/他の交通機関との接続を改善してほしい 20.0%		
居住地区	福島地区	他の交通機関との接続を改善してほしい 35.7%	運行時間を改善してほしい 14.3%	—
	北方地区	無回答 100.0%	—	—
	大東地区	運行本数を増やしてほしい 57.1%	運行時間を改善してほしい/路線を変更してほしい 14.3%	
	本城地区	他の交通機関との接続を改善してほしい 66.7%	—	—
	都井地区	運行本数を増やしてほしい 40.0%	運行時間を改善してほしい 20.0%	その他 20.0%
	市木地区	—	—	—

問 38 よかバスを利用していない方におたずねします。
①利用していない理由はなんですか。(〇印はいくつでも)

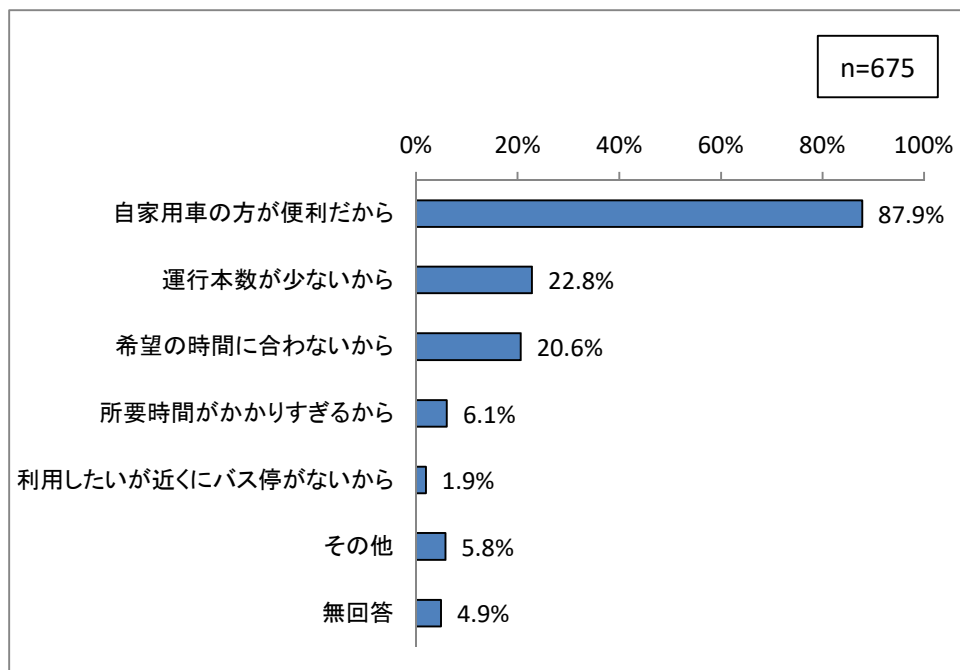
- 「自家用車の方が便利だから」が大半を占めている。

よかバスを利用していない方に利用していない理由をたずねたところ、「自家用車の方が便利だから」(87.9%)が最も多く、次いで「運行本数が少ないから」(22.8%)、「希望の時間に合わないから」(20.6%)、「所要時間がかかりすぎるから」(6.1%)、「利用したいが近くにバス停がないから」(1.9%)の順になりました。

性別、年齢、居住地区でも、「自家用車の方が便利だから」が第1位となっています。[図表 55 参照]

図表 55 よかバスを利用しない理由
(全体・複数回答)

(単位：%)



(全体・性別・年齢／上位3位)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		自家用車の方が便利だから ----- 87.9%	運行本数が少ないから ----- 22.8%	希望の時間に合わないから ----- 20.6%
性別	男性	自家用車の方が便利だから ----- 87.3%	運行本数が少ないから ----- 21.9%	希望の時間に合わないから ----- 18.3%
	女性	自家用車の方が便利だから ----- 89.1%	運行本数が少ないから ----- 24.7%	希望の時間に合わないから ----- 23.3%
年齢	10-20代	自家用車の方が便利だから ----- 81.8%	希望の時間に合わないから ----- 36.4%	運行本数が少ないから ----- 34.1%
	30代	自家用車の方が便利だから ----- 88.5%	運行本数が少ないから ----- 21.8%	希望の時間に合わないから ----- 19.2%
	40代	自家用車の方が便利だから ----- 95.2%	希望の時間に合わないから ----- 23.8%	運行本数が少ないから ----- 22.2%
	50代	自家用車の方が便利だから ----- 92.2%	運行本数が少ないから ----- 21.6%	希望の時間に合わないから ----- 20.7%
	60代	自家用車の方が便利だから ----- 91.2%	運行本数が少ないから ----- 25.6%	希望の時間に合わないから ----- 19.1%
	70歳以上	自家用車の方が便利だから ----- 80.0%	希望の時間に合わないから ----- 19.3%	運行本数が少ないから ----- 18.6%
居住地区	福島地区	自家用車の方が便利だから ----- 87.0%	運行本数が少ないから ----- 22.0%	希望の時間に合わないから ----- 21.2%
	北方地区	自家用車の方が便利だから ----- 88.4%	運行本数が少ないから ----- 20.3%	希望の時間に合わないから ----- 15.9%
	大東地区	自家用車の方が便利だから ----- 88.0%	運行本数が少ないから ----- 26.0%	希望の時間に合わないから ----- 21.0%
	本城地区	自家用車の方が便利だから ----- 98.1%	希望の時間に合わないから ----- 25.9%	運行本数が少ないから ----- 22.2%
	都井地区	自家用車の方が便利だから ----- 91.7%	希望の時間に合わないから/運行本数が少ないから ----- 22.2%	
	市木地区	自家用車の方が便利だから ----- 85.4%	運行本数が少ないから ----- 34.1%	希望の時間に合わないから ----- 22.0%

問 38 よかバスを利用していない方におたずねします。
②上記の①の質問で回答した内容が改善されたらよかバスを利用しますか。



- 「利用する」人が 36.3%、「どのように改善しても利用しない」人は 31.9%。

よかバスを利用しない理由で答えた内容が改善されれば利用するかをたずねたところ、「利用する」(36.3%)、「どのように改善しても利用しない」(31.9%)となりました。

性別で見ると、男女に大きな差はありませんでした。

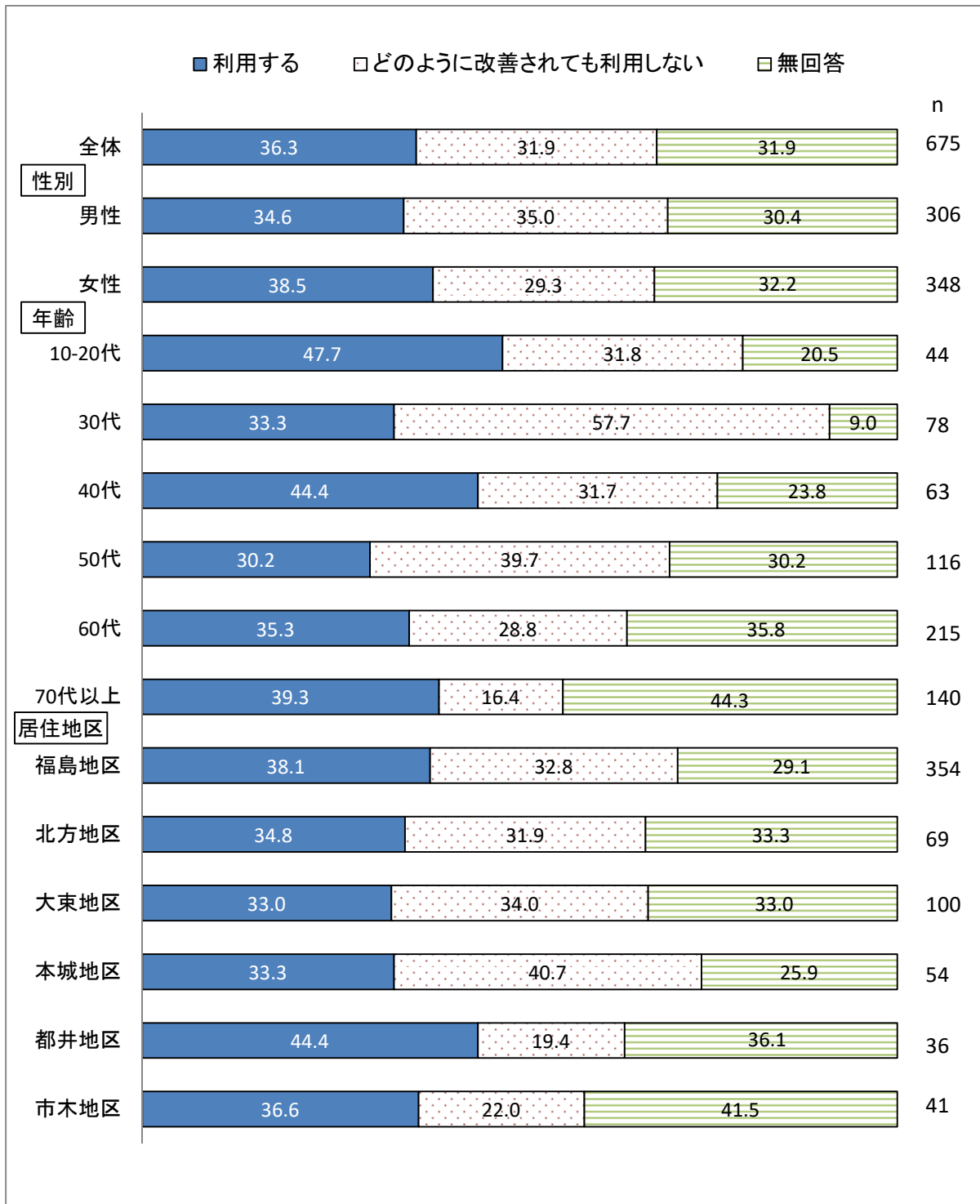
年齢で見ると、30代の「どのように改善されても利用しない」が57.7%であり、他の年齢と比較して高くなっています。

居住地区で見ると、都井地区は他の地区と比べて「利用する」(44.4%)が高く、「どのように改善されても利用しない」(19.4%)が低くなっています。[図表 56 参照]

図表 56 利用しない理由が改善されれば利用するか

(全体・複数回答)

(単位：%)



Ⅲ 自由意見

■ 串間市のまちづくりに対する要望・意見・提案等

問 41 最後に、あなたの生活で現在もしくは将来に向けて市の行政に望むことや、まちづくりに関するご意見・ご提案などがありましたら、ご自由にご記入ください。



本市のまちづくりに対して寄せられた要望・意見・提案等をテキストマイニング方式により単語やフレーズを抽出し、該当する各分野へ分類したところ、下表のように「5 市民参画・行財政分野」、「4 生活基盤・産業分野」への要望・意見・提案等が多くみられました。

分野	該当項目等	件数
1 人権・教育・文化分野	人権尊重のまちづくり・学校教育環境・青少年の健全育成環境・生涯学習環境・スポーツ環境・文化芸術環境・文化遺産・国内外との交流活動などの状況に関する事	17
2 保健・医療・福祉分野	保健サービス提供体制・医療体制・子育て支援体制・障がい者支援体制・高齢者支援体制・地域福祉体制・バリアフリー化などの状況に関する事	39
3 生活環境分野	防災体制・消防・救急体制・交通安全体制・防犯体制・消費者対策・環境保全・新エネルギー・景観・公園・緑地・親水空間・緑化・ごみ処理・リサイクル等・し尿処理・生活排水処理・上水道・墓地・火葬場の整備・環境などの状況に関する事	24
4 生活基盤・産業分野	土地利用・道路・住宅施策・公共交通機関・情報環境・雇用対策・農業振興・林業振興・水産業振興・工業振興・商業振興・観光振興・雇用などの状況に関する事	124
5 市民参画・行財政分野	NPO、市民活動の育成等・コミュニティ活動・行財政改革に関する取り組み・広域的な連携・広報・広聴・行政情報の提供などの状況に関する事	139
6 男女共同参画等	男女共同参画においての環境づくり・意識の浸透・教育の推進・相談体制・地域活動などの状況に関する事	0
7 その他	上記に該当しないもの (当該アンケート調査に関するものを含む)	22
合 計		365

IV アンケート票

市民アンケート調査ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対し格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このアンケート調査は、市民の皆様は、これまでの市の取組みに対して評価をしていただくとともに、これからのまちづくりに対する考えをお聞きすることで、今後の市政運営の基礎資料とするものです。調査結果は、今後の市の取組みの達成度をはかる指標とし、市民の皆様は満足していただける市政の実現に向けて活用してまいります。

今回は、市内にお住まいの18歳以上の市民の方、2,000名を無作為に選ばせていただきました。調査票は無記名でお答えいただき、調査結果は統計的に処理しますので、調査の目的以外に利用することはございません。

お忙しいところ恐縮ですが、調査の目的、趣旨をご理解のうえ、率直なご意見をお聞かせください。

平成30年6月

串間市長 島田俊光

ご記入にあたってのお願い

- ◆調査票は無記名でお答えいただきます。
- ◆宛名のご本人がお答えください。
- ◆ご本人が筆記することが難しい場合は、本人の意見を聞いて代理の方が記入しても構いません。
- ◆お答えは、設問ごとに（1つに○印）、（2つまで○印）などそれぞれ指定されていますので、お間違のないようお願いいたします。
○印は、黒のボールペンまたは鉛筆で番号を囲むように濃くつけてください。（例 ①.）
- ◆ご記入いただいた調査票は、○月○日（○）までに同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにそのままポストに投函してください。

この調査票についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

串間市役所 総合政策課 企画係

TEL：0987-72-1111（内線333）

FAX：0987-72-6727

はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたご自身のことについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号を選んで1つに○印をつけてください。

(1) あなたの性別	1. 男性 2. 女性
(2) あなたの年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上
(3) あなたの職業 (※主たるもの)	1. 農林水産業 2. 製造業・建設業 3. 卸小売・飲食業 4. その他サービス業等 (公務員を含む) 5. パートタイム・アルバイト 6. 主婦(夫) 7. 無職 8. 学生、その他
(4) あなたの就学先・ 勤務先	1. 市内 2. 市外 3. 就学・勤務していない
(5) 串間市に住んで 何年ですか	1. 5年未満 2. 5年以上 10年未満 3. 10年以上 20年未満 4. 20年以上
(6) あなたの居住地区	1. 福島地区 2. 北方地区 3. 大東地区 4. 本城地区 5. 都井地区 6. 市木地区



まちへの定住意向についておたずねします。

問2 あなたは、これからも串間市に住みたいと思いますか。(1つに○印)

1. 住みたい
2. どちらかといえば住みたい
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば住みたくない
5. 住みたくない(できれば市外へ引越したい)

※問2で「4.」または「5.」に○をつけた方にうかがいます。

問2付問 その主な理由は何ですか。(3つまで○印)

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 1. 自然環境が悪い | 12. 文化・スポーツ環境が不十分 |
| 2. 上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が不十分 | 13. 産業の活力が不十分 |
| 3. 道路・交通の便が悪い | 14. 買物の便が悪い |
| 4. 情報通信網が不十分 | 15. 働く場が不十分 |
| 5. 消防・防災・防犯体制が不十分 | 16. 人情味や地域の連帯感が不十分 |
| 6. 保健・医療環境が不十分 | 17. 行政サービスが不十分 |
| 7. 高齢者福祉が不十分 | 18. 税・公共料金(上下水道料、施設使用料など)の負担が大きい |
| 8. 障がい者支援が不十分 | 19. ふるさとが他にある |
| 9. 子育て支援の助成が不十分 | 20. 大都会で生活したい |
| 10. 子育て環境が不十分 | 21. その他 |
| 11. 教育環境が不十分 | [具体的に:] |



市政に対する現状評価と今後の期待についておたずねします。

問3 市では下記の項目にあげる様々な施策に取り組んでいますが、あなたは、(1)現状についてどの程度満足していますか。また、(2)どの程度重視(力を入れるべき)していますか。それぞれの項目についてあてはまる番号1つに○印をつけてください。

項目		(1)満足度					(2)重要度				
		満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である	重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない
1 人権・教育・文化分野	①人権尊重のまちづくり(人権教育・啓発の推進等)の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	②男女共同参画(男性も女性も等しく社会参画できる環境づくり等)の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③学校教育環境(教育内容の充実、施設の充実等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④青少年の健全育成環境(健全育成体制の充実、自主的活動の促進等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑤生涯学習環境(推進体制の充実、学習機会・場の充実等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑥スポーツ環境(スポーツ団体の育成、施設の充実等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑦文化芸術環境(文化団体の育成、施設の充実等)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑧文化遺産(史跡・伝統芸能等)の保存・活用の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑨国内外との交流活動(国内交流活動・国際交流活動の促進等)の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

項目		評価	(1)満足度					(2)重要度				
			満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	不満である	重視している	やや重視している	どちらかといえば重視しない	あまり重視していない	重視していない	
2 保健・医療・福祉分野	①保健サービス提供体制（健康診査、健康相談の充実、施設の充実等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	②医療体制（地域医療体制の充実、救急医療体制の充実等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③子育て支援体制（保育料・医療費・不妊症治療等の経済的支援、各種相談体制、交流の場の提供等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④障がい者支援体制（福祉サービスの充実、社会参加の促進等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑤高齢者支援体制（福祉・介護サービスの充実、生きがい対策の充実等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑥地域福祉体制（地域における福祉活動の促進、福祉ボランティアの育成等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑦バリアフリー化（段差の解消、だれもが使いやすい施設の整備等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

3 生活環境分野	①防災体制（自主防災組織の育成、情報伝達体制の充実、危険箇所の整備等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	②消防・救急体制（消防・救急の充実、消防団の充実等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③交通安全体制（意識啓発の推進、交通安全施設の充実等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④防犯体制（意識啓発の推進、防犯・パトロール活動の促進等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑤消費者対策（トラブル防止・解消のための啓発・相談の充実等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑥環境保全（公害の防止、自然環境の保全、環境保全活動の促進等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑦新エネルギー（太陽光等）導入の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑧景観（串間市らしい美しい景観づくり等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

項目		評価	(1)満足度					(2)重要度				
			満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満である	重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない
3 生活環境分野	⑨公園・緑地（身近な公園・広場、緑地等）の整備状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑩親水空間（河川）の整備状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑪緑化（植樹、花づくり）の推進状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑫ごみ処理・リサイクル等（収集・処理の充実、リサイクルの促進等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑬し尿処理（適正な収集・処理の推進）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑭生活排水処理（下水道・農業集落排水施設の整備、浄化槽の設置促進等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑮上水道（安全・安心な水の安定供給の推進）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑯墓地・火葬場の整備状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

4 生活基盤・産業分野	①土地利用（秩序ある適正な土地利用への規制・誘導等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	②道路（国道、県道、市道）の整備状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③住宅施策（良質な住宅の建設促進、良好な住宅地の形成促進等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④公共交通機関（バス路線等）の状況		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑤情報環境（インターネット環境等）		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

項目		評価					(1)満足度					(2)重要度				
		満足している	やや満足している	どちらでもない	どちらかといえば不満である	不満である	重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない					
4 生活基盤・産業分野	⑥雇用対策（相談・情報提供の充実、職業訓練機会の拡充等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
	⑦農業振興（担い手の育成、生産性の向上促進、農地の整備等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
	⑧林業振興（森林の保全・活用等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
	⑨水産業振興（水産資源の維持・増大、漁港の整備、経営の安定化等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
	⑩工業振興（既存企業の充実促進、企業の誘致、新産業の開発等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
	⑪商業振興（商店経営の改善促進、商業集積づくりの推進等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					
	⑫観光振興（観光資源の開発・活用、PR活動の充実等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5					

5 市民参画・行財政分野	①NPO、市民活動の育成等の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	②コミュニティ活動（身近な地域における共同活動）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③行財政改革に関する取り組み（組織や事務事業の見直し等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④広域的な連携（周辺の市との連携・協力）によるまちづくりの状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑤広報・広聴の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑥行政情報の提供（情報公開制度の充実等）の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

項目		評価					(1)満足度					(2)重要度				
		満足している	やや満足している	どちらでもない	どちらかといえば不満である	不満である	重視している	やや重視している	どちらともいえない	あまり重視していない	重視していない					
6 その他(男女共同参画について)	①男女共同参画の意識の浸透状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	②男女共同参画に関する教育の推進状況(学校のみならず地域や家庭を含め)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③配偶者暴力等に関する相談体制の状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④地域活動(自治会での活動等)における男女共同参画の促進状況	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5



あなたの日頃の行動などについておたずねします。

問4 あなたの日頃の行動などについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号1つに○印をつけてください。

①あなたは、週1回以上、スポーツ活動をしていますか。

1. している 2. していない

②あなたは、日頃、健康増進のための取り組み（食生活の改善や運動など）をしていますか。

1. している 2. していない

③あなたは、身近な地域での見守り、支え合いなど地域福祉活動に参加していますか。

1. している 2. していない

④あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

⑤あなたは、この1年間に、防火・防災訓練に参加しましたか。

1. した 2. しなかった

⑥あなたは、身近な地域での防犯活動・パトロール活動に参加していますか。

1. している 2. していない

⑦あなたは、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。

1. している 2. していない

⑧あなたは、地元の公園など公共施設の維持管理（草刈りや清掃など）に参加していますか。

1. している 2. していない

⑨あなたは、日頃、市内で買物をしていますか。

1. している 2. していない

障がい者の権利の保障についておたずねします。

問5 平成25年6月に「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が成立しましたが、あなたはこの法律のことを知っていますか。（1つに○印）

- | | |
|--------------------|---------|
| 1. 内容も含めて知っている | 3. 知らない |
| 2. 内容は知らないが聞いた事がある | |

問6 障がいのある人への理解を深めるために何が必要とお考えですか。（○印は、いくつでも）

- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| 1. 各種マスメディアを活用した広報活動の充実 | 4. ボランティア活動を通じた交流 |
| 2. 障がいのある人の各種イベントへの参加・協力の参加・協力 | 5. 市民を対象とした福祉講座の開催 |
| 3. 小・中学校における障がいのある人との交流教育 | 6. その他（ ） |
| | 7. わからない |

企業や民間団体に希望することについておたずねします。

問7 あなたは、障がいのある人のために企業や民間団体が行う活動について、どのような事を希望しますか。（○印は、いくつでも）

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1. 障がいのある人の雇用の促進 | 7. 障がいや障がいのある人への理解を深めるための研修の実施 |
| 2. 障がい者になっても継続して働くことができる体制の整備 | 8. 障がいのある人に配慮した商品の開発 |
| 3. 障がいのある人に配慮した事業所等の改善・整備 | 9. 障がいのある人のスポーツ、文化、レクリエーション活動に対する支援 |
| 4. 職場での精神的な不安を解消する相談体制の整備 | 10. 障がい者団体に対する経済的支援 |
| 5. 職場での事故防止体制の充実 | 11. その他（ ） |
| 6. 障がいのある人を支援するための介護休暇制度やボランティア休暇制度の充実 | 12. わからない |

市が特に力を入れる障がい者施策についておたずねします。

問8 今後、串間市が推進する障がい者施策について、特に力を入れるべきことはどのようなことだと思いますか。（1から30の解答番号の中から5つまで○印）

1. 障がいや障がいのある人への理解を促進する為の啓発活動を進める
2. 人権教育や福祉教育を進め、こころのバリアフリーを進める
3. ホームヘルプサービスやショートステイなど在宅サービスを増やす
4. 移動支援等外出できるよう支援する
5. 社会参加活動を促進する為、様々な日中活動の場を増やす
6. グループホーム等の地域で生活する住まいの場を増やす
7. 補装具、日常生活用具の利用支援を進める
8. 各種手当や助成制度等の経済的な支援を進める
9. 入所施設や病院から地域生活への移行を進める
10. 障がい福祉サービスの質を高め供給体制を増やす
11. 障がいのある人の権利擁護や成年後見制度を円滑に利用できるようにする
12. 重度の障がいのある人への対応を進める
13. 発達障がいや精神保健・精神医療施策を進める
14. 障がいの早期発見に努め、ライフステージに即した支援を行う
15. 医療現場・リハビリテーションを充実する
16. 保健・医療・福祉等の各関係機関の連携を強くする
17. 一生を通じて、きめ細かな支援ができるよう体制を整える
18. 早期療養体制を充実させる
19. 障がいの状況に応じた学習方法や特別支援教育の充実等、学校教育の場での充実を図る
20. スポーツや文化芸術活動を推進する
21. ユニバーサルデザインの推進等、全ての人々が利用しやすい都市環境整備を図る
22. 民間住宅への入居支援等住宅や住環境の整備を進める
23. 災害時の避難・救助体制の充実等防災対策を進める
24. 一般企業等への就労を進める
25. 一般企業等への就労が困難な障がいのある人が利用できる就労継続支援事業などを増やす
26. 障がいの有無にかかわらず情報が取得できるよう情報のバリアフリーを進める
27. 円滑なコミュニケーションができるように、障がいの状況に応じた適切な支援を充実する
28. その他（）
29. 特にない
30. わからない

ICT/IoT(情報通信技術)分野についておたずねします。

問9 串間市に望む行政サービスはどのようなことですか。(〇印はいくつでも)

1. 見守りサービス(失踪時等の位置情報検索)
2. 自治体ポイントによる商店街振興(マイナンバーカードの利活用)
3. 公共施設等のフリーWi-Fi化
4. 住民票等各種証明書のコンビニでの交付サービス
5. 公金等支払いの電子化(クレジットカード決済など)
6. 災害時の情報発信の充実
7. その他()

問10 現在、インターネット(パソコン・スマートフォン等)を利用していますか。
(1つに〇印)

1. 利用している
2. 利用していない

問11 生活費に占める情報関連費用を教えてください。

1. 携帯電話料金 _____台 _____円
2. 固定電話・インターネット料金 _____回線 _____円
3. 有料サービス利用料金(VOD、CS放送、ゲームなど) _____円
4. その他() _____円

問12 テレビ(地上波)を一日のうち、平均してどのくらい視聴していますか。
(1つに〇印)

1. 自宅にいる間は、ほとんどテレビをつけている
2. 1日、1時間程度(朝だけなど)
3. ほとんど見ない
4. その他()

問13 自宅でテレビ(地上波放送)を見ていない間は、情報機器に触れていますか。
(〇印はいくつでも)

1. パソコン
2. スマートデバイス(スマートフォン、タブレット、iPhone、iPadなど)
3. ビデオオンデマンド(dTV、hulu、NETFLIX、Amazonプライムなど)
4. ゲーム機
5. その他()
6. 触れていない

問14 ICT/IoT分野において、串間市が取り組むべき政策等について、ご意見・ご提案などがありましたら、ご自由にご記入ください。

<自由意見>

コミュニティ活動、参画・協働についておたずねします。

問15 あなたの現在のコミュニティ活動(地域活動)・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。(1つに○印)

- | |
|----------------------------|
| 1. 現在参加しており、今後も参加したい |
| 2. 現在参加していないが、今後は参加したい |
| 3. 現在参加しているが、今後は参加するつもりはない |
| 4. 現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない |

育児・介護休暇制度などについておたずねします。

問16 あなたの職場では、育児・介護休暇など休暇を取る際、性別によって差があると思いますか。(1つに○印)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 男性の方が非常に優遇されている | 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている |
| 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている | 5. 女性の方が非常に優遇されている |
| 3. 平等である | 6. どちらともいえない |

スポーツの振興についておたずねします。

問17 あなたは、今後、串間市のスポーツ振興に何が必要だと思いませんか。(1つに○印)

- | | |
|------------|------------------|
| 1. 指導者の充実 | 3. 施設の充実 |
| 2. 推進体制の充実 | 4. 学校における取り組みの充実 |

景観に関する意識についておたずねします。

問18 あなたは、景観やまちなみなどに関心がありますか。(1つに○印)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 大いに関心がある | 4. あまり関心がない |
| 2. 関心がある | 5. 関心がない |
| 3. 多少関心がある | |

問19 串間市で良好な景観づくりに取り組むことは、重要だと思いますか。(1つに○印)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 非常に重要である | 4. あまり重要でない |
| 2. 重要である | 5. 重要でない |
| 3. どちらともいえない | |

問20 景観を損なっているものは何だと思いますか。

(1から17の解答番号の中から3つまで○印)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 周囲と調和しない色や高さ、デザインの建築物や構造物 |
| 2. 眺望を阻害するような建築物や構造物 |
| 3. 空きビル、空き店舗、管理されていない空き家、老朽建物など |
| 4. 電話や電気などの鉄塔、電波塔、携帯電話用アンテナ |
| 5. 空中に架線されている電線類 |
| 6. 殺風景なブロック塀 |
| 7. 土留めやコンクリート構造物 |
| 8. 過度なデザイン・大きさの看板や広告表示 |
| 9. 雑然とした資材置き場や野ざらしの堆積物 |
| 10. まちなかに穴が開いたように点在する空き地や駐車場 |
| 11. 耕作放棄地や手入れされていない山林 |
| 12. 工場やその周辺 |
| 13. 空き缶やゴミなどで汚れた海岸や河川、道路など |
| 14. 路上駐車、路上駐輪、放置自転車など |
| 15. 道路や橋、鉄道などの構造物 |
| 16. 海岸沿いのコンクリート護岸やテトラポット |
| 17. その他 () |

問21 串間市の景観に対する満足度として最もあてはまる番号に○印をつけてください。

項目	評価				
	とても満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	とても不満
①住宅地の景観	1	2	3	4	5
②公共施設の景観	1	2	3	4	5
③駅の周りや商店などの景観	1	2	3	4	5
④工業などの景観	1	2	3	4	5
⑤港や海などの景観	1	2	3	4	5
⑥自然や緑、農業などの景観	1	2	3	4	5
⑦まつり・文化、歴史などの景観	1	2	3	4	5

串間市の景観についておたずねします。

問22 串間市らしい景観形成のために最も重要だと思うものはなんですか。(1つに○印)

1. 福島港などの港や都井岬、砂浜や本城干潟など海や港の景観
2. 串間駅周辺など市街地の景観
3. 新興住宅地など住宅地の景観
4. 農地や幹線道路などが混在する郊外の風景
5. 山や丘陵、河川や赤池溪谷など自然の景観
6. 寺社や古墳など歴史や文化のある風景
7. 旧吉松家住宅周辺などの歴史と賑わいを創出する風景
8. その他 ()

問23 海や港の景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。(2つまで○印)

1. 港や橋などの海が見える場所を守り、つくる
2. 干潟や砂浜などの自然環境を保全する
3. 海や港が引き立つように、周辺の建築物のデザインなどに配慮する
4. 屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する
5. 緑を豊かにする
6. その他 ()

問24 市街地の景観を良くするために重要だと思ふものはなんですか。(2つまで○印)

1. 駅前などの公共空間ににぎわいのある景観を守り、つくる
2. マンションや駐車場が周囲の景観と調和するよう配慮する
3. 商店・商業施設に統一感がでるような店先のデザインに配慮する
4. 屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する
5. 緑を豊かにする
6. その他 ()

問25 住宅地の景観を良くするために重要だと思ふものはなんですか。(2つまで○印)

1. 住宅の玄関先や軒先づくりに統一感がでるよう配慮する
2. 店舗や駐車場が住宅と調和するよう配慮する
3. 住宅の建築物のデザインが周囲の住宅と調和するよう配慮する
4. 屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する
5. 緑を豊かにする
6. その他 ()

問26 郊外の景観を良くするために重要だと思ふものはなんですか。(2つまで○印)

1. 一連となる田園景観やシンボリックな幹線道路を守り、つくる
2. 田園や幹線道路の景観を阻害している要因を改善する
3. 住宅・幹線道路の景観が周囲の田園景観などと調和するよう配慮する
4. 屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する
5. 緑を豊かにする
6. その他 ()

問27 自然の景観を良くするために重要だと思ふものはなんですか。(2つまで○印)

1. 丘陵や河川などの自然景観を保全する
2. 丘陵や河川の地形を活かした眺望を確保する
3. 自然の景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する
4. 屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する
5. 緑を豊かにする
6. その他 ()

問28 歴史や文化のある景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。

(2つまで○印)

1. 市内に点在する歴史や文化のある資源を保全する 2. 歴史や文化のある景観が通りからよく見えるようにする 3. 歴史や文化のある景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 4. 屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 5. 緑を豊かにする 6. その他 ()

問29 旧吉松家住宅周辺の景観を良くするために重要だと思うものはなんですか。

(2つまで○印)

1. 旧吉松家住宅と周辺の歴史資源を保全する 2. 旧吉松家住宅と調和するよう、まちなみと通りのデザインなどに配慮する 3. 電柱や架線など通りの工作物等の移設、埋設 4. 景観が引き立つように、周囲の建築物などのデザインに配慮する 5. 屋外広告物などが景観を阻害しないように配慮する 6. 緑を豊かにする 7. その他 ()

問30 今後の串間市の景観形成の重要度についてあてはまると思う番号に○印をつけてください。

項目	評価				
	重視しない	やや重視しない	どちらでもない	やや重視する	重視する
①重要な建築物や樹木を保全する	1	2	3	4	5
②農地や里山、山林を保全する	1	2	3	4	5
③重要な河川や道路沿いの景観を整える	1	2	3	4	5
④大規模建築物に対して景観を誘導する	1	2	3	4	5
⑤重点地区を定め、建物などの色彩や高さなどをきめ細かく誘導する	1	2	3	4	5
⑥まちなかの緑を増やす	1	2	3	4	5
⑦周囲の景観と調和した公共施設のデザイン	1	2	3	4	5
⑧屋外広告物の表示に関するルールづくり	1	2	3	4	5
⑨市民のまちづくり活動を支援する仕組みづくり	1	2	3	4	5

景観に関する取り組みについておたずねします。

問31 あなたが現在行っている景観に関する取り組みを教えてください。

(○印はいくつでも)

1. 家の周りの緑や花を増やす
2. 自宅の新築・改修時に、周辺の景観への配慮に努める
3. 道路や河川、砂浜の清掃活動を行う
4. 講演会などに積極的に参加し、景観について知る、学ぶ
5. まち歩きや写真などで身近な景観に親しむ
6. 歴史的資源や自然資源などを守る活動を行う
7. 特になし
8. その他 ()

問32 市民が景観づくり活動を行うために必要だと思うものはなんですか。

(○印はいくつでも)。

1. 市民が景観に関する関心を高める機会をつくる
2. 良い景観を選定したり表彰したりする
3. 景観作りに興味がある市民同士が出会う機会をつくる
4. 専門家の派遣やアドバイスを受けられる仕組みをつくる
5. 活動に必要な支援を受けられる仕組みをつくる
6. その他 ()

問33 景観に関する催し物として興味があるものはなんですか。(○印はいくつでも)

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 写真展 | 5. 景観資源めぐりなどまち歩き |
| 2. 絵画展 | 6. ガーデニング教室 |
| 3. セミナー・シンポジウム | 7. 意見交換会 |
| 4. ワークショップ | 8. その他 () |

問34 景観に関する情報として入手しやすいものはなんですか。(1つに○印)

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 広報くしま | 4. 全戸配布チラシ |
| 2. 市役所及び各支所掲示板 | 5. 市のホームページ |
| 3. 回覧板 | 6. その他 () |

特に大切にすべき串間市の景観、風景づくりについておたずねします。

問 35 あなたの好きな景観（風景）、好きな理由についてご自由にご記入ください。

＜自由意見＞

コミュニティバスについておたずねします。

問36 よかバスを利用していますか。（1つに○印）

<input type="checkbox"/> 1. よく利用する <input type="checkbox"/> 2. 時々利用する <input type="checkbox"/> 3. 利用していない	※3 を選択された方は問 38 へ
---	-------------------

問37 よかバスを利用される方におたずねします。

① 利用の主な目的地はどこですか。（○印はいくつでも）

1. 病院 2. 商店、スーパー 3. 学校 4. 職場	5. 公共施設（市役所、支所等） 6. 金融機関（銀行等）、郵便局 7. 温泉施設、スポーツ施設 8. その他（ ）
---------------------------------------	--

② よかバスについて改善してほしい点がありますか。（○印はいくつでも）

1. 運行本数を増やしてほしい （路線名: ） （どのように: ）)
2. 運行時間を改善してほしい （路線名: ） （どのように: ）)
3. 路線を変更（新設）してほしい （ から まで） （変更の場合どのように: ）)
4. 他の交通機関（JR など）との接続を改善してほしい 5. その他（ ）)

問38 よかバスを利用していない方におたずねします。

① 利用していない理由はなんですか。(○印はいくつでも)

1. 自家用車の方が便利だから	
2. 利用したいが近くにバス停がないから(地区名:)	
3. 希望の時間に合わないから	
4. 所要時間がかかりすぎるから	
5. 運行本数が少ないから	
6. その他()	

② 上記の①の質問で回答した内容が改善されたらよかバスを利用しますか。

1. 利用する 具体的な改善案があれば、ご記入ください。 ()
2. どのように改善されても利用しない

問39 今後、高齢により運転ができない又は自動車運転免許を返納した場合、どのような移動手段があるといいと思いますか。ご自由にご記入ください。

<自由意見>

問40 その他、よかバスに対するご意見等ございましたらお聞かせください。

<自由意見>

自由意見についてご記入ください。

問41 最後に、あなたの生活で現在もしくは将来に向けて市の行政に望むことや、まちづくりに関するご意見・ご提案などがありましたら、ご自由にご記入ください。

<自由意見>

